ARCHITECTURE AND SOCIETY・VOL. 53 NO. 7·8 1972・7·8

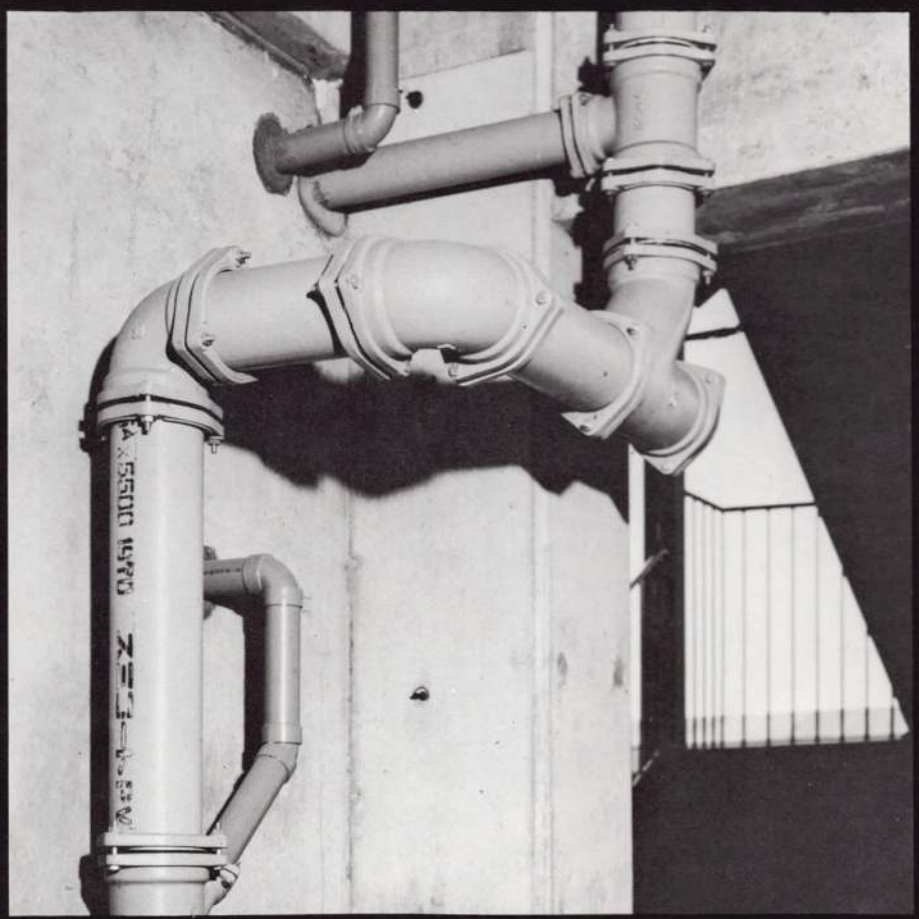
一 般 号

建築と社会

7·8

社団法人 日本建築協会
昭和47年7月25日発行
毎月1回25日発行
昭和24年3月19日第3種郵便物認可

どんな悪条件にも ビクともしないスミコートPVS おかげさまで好評です。



発売以来好評のスミコートＰＶＳ各地で着々と敷設されております。JIS規格の鋼管に塩化ビニールゾルを塗装、だから内外面からの浸食に絶対おかされず、どんな強い圧力や衝撃にもビクともしません。スミコートＰＶＳは、鋼管の利点（頑丈さ）と塩ビゾルの利点（さびない）が、たくみにいかされている一石二鳥のパイプです。もちろん加工性・施工性もすぐれており、経済性も充分に考慮し、低廉価につとめました。需要が増大している都市汚水用の配管、水道用の配管にぜひご利用ください。

●カタログをご請求ください。

住友の塩化ビニールゾル被覆鋼管

スミコートPVS

住友金属

住友金属工業株式会社

大　阪＝大阪市東区北浜５－１５（新住友ビル）　電（203）２２０１

東　京＝東京都千代田区丸の内１－３－２（新住友ビル）　電（282）６１１１

営業所＝福岡・広島・岡山・高松・名古屋・富山・静岡・新潟・宇都宮・仙台・札幌

大淀ボウル

所在地：大阪市大淀区大淀町
建築面積：3,059m²
延面積：6,040m²
構造規模：S　2F（1F駐車場、事務所、食堂他、
2Fボウリング場40レーン）
工期：1971.7～1972.3

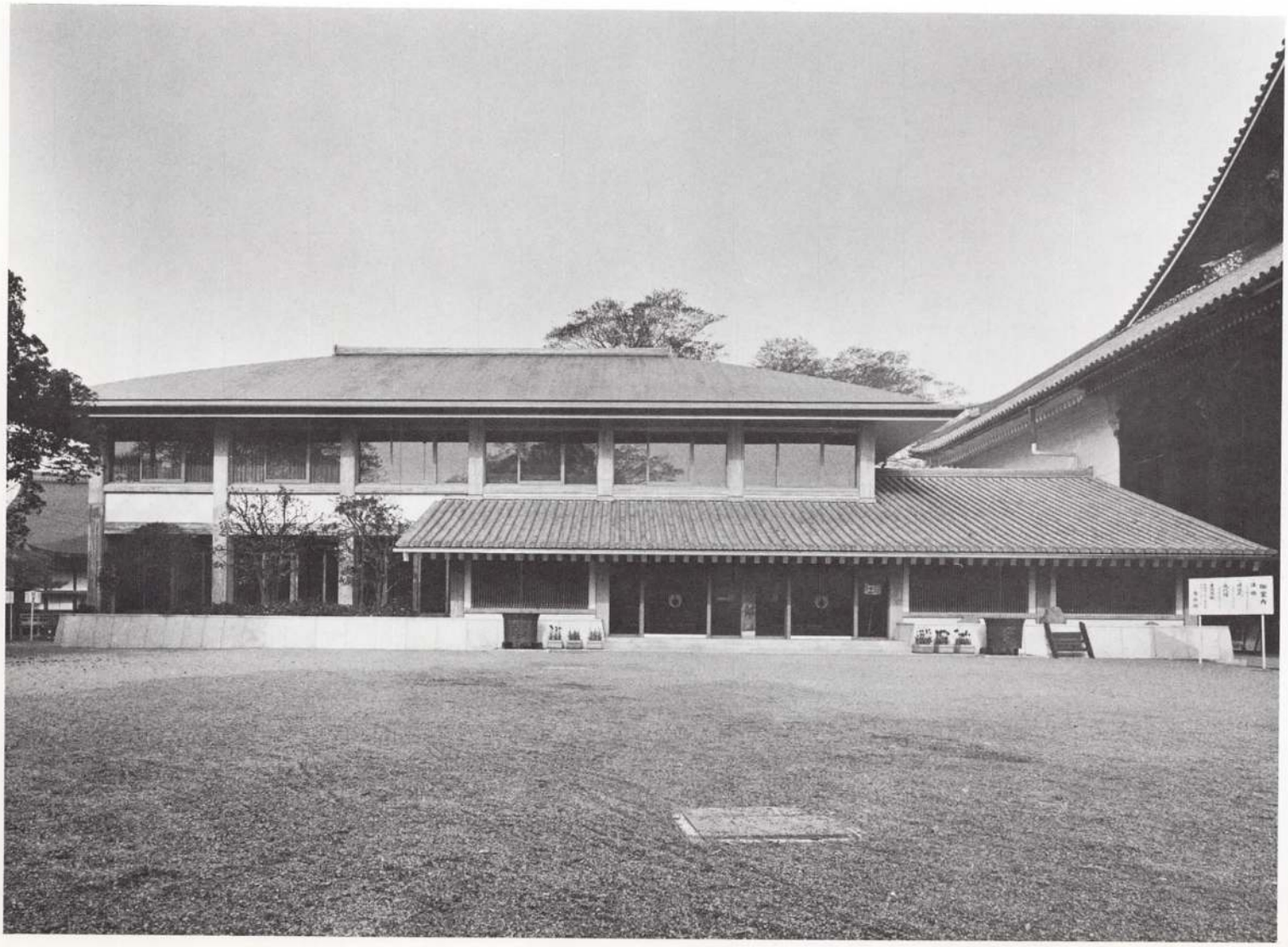
設計施工　青木建設



西本願寺参拝部

設計：鈴建築設計事務所
所在地：京都市下京区堀川通花屋町下ル
建築面積：21,316.97m²
延面積：27,039.24m²
構造規模：ＲＣ　２Ｆ
工期：1971.8～1972.3

施工　西松建設



泉ヶ丘プール

施工　西松建設

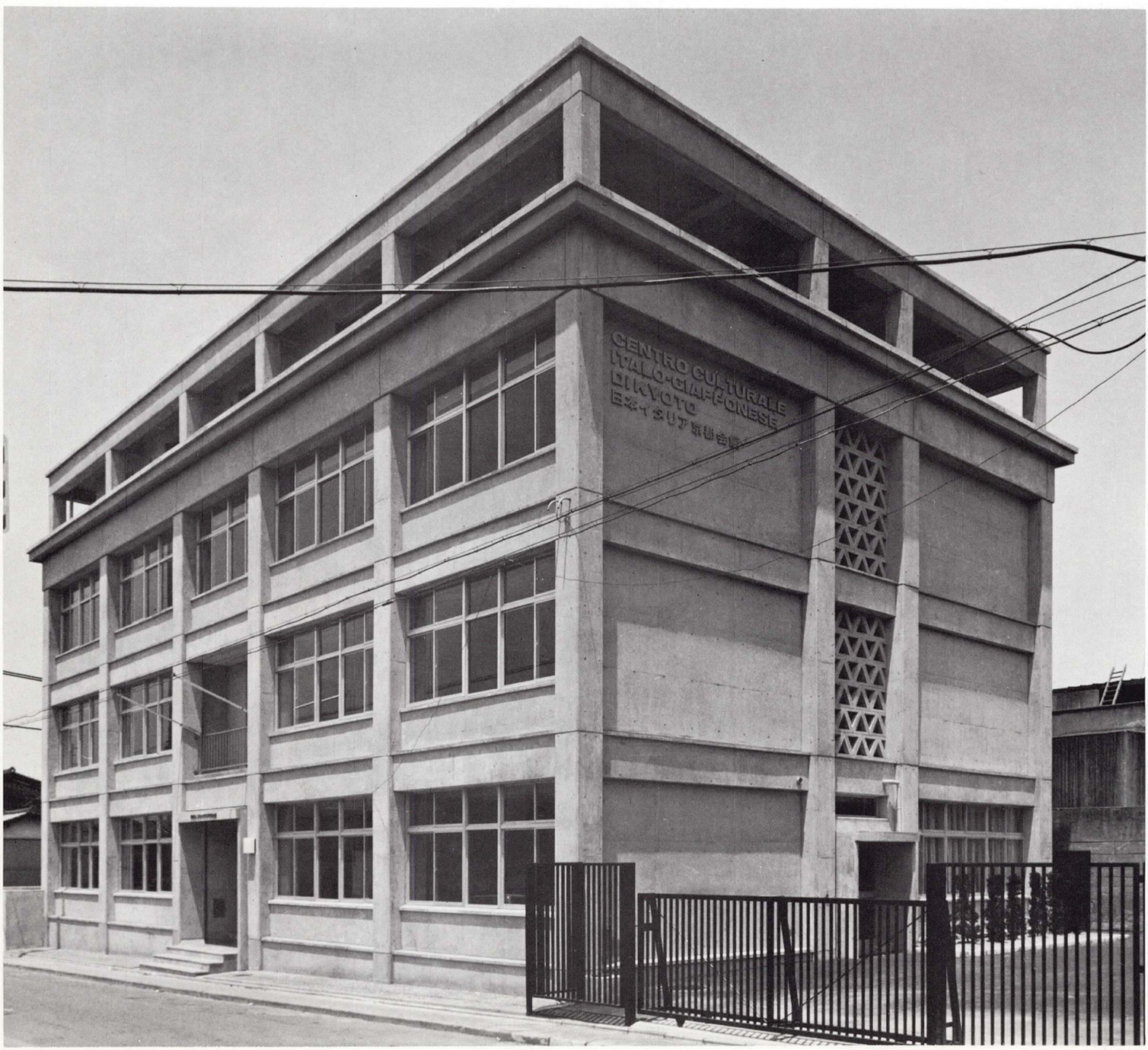
設計：双星社竹腰建築事務所
所在地：堺市泉ヶ丘三原台地内
建築面積：1,796,00m²
延面積：2,339.36m²
構造規模：管理棟ＲＣ　３Ｆ、50m プール、子供プール
　　リバードナツプール(流水式)、機械棟他
工期：1971.3～1972.4



日本イタリア京都会館

設計：大建設計
所在地：京都市左京区吉田牛の町４
建築面積：625.12m²
延面積：1,847.46 m²
構造規模：ＲＣ　Ｂ１、４Ｆ
工期：1971.8～1972.3

施工　鹿島建設



滋賀県農協会館

設計：滋賀県経済連建築設計センター
所在地：大津市京町４－３－５
建築面積：844.13m²
延面積：5,072.42m²
構造規模：ＲＣ　６Ｆ、Ｐ２
工期：1971.2～1972.3

施工　佐藤工業



ヨドコウビル

所在地：大阪市東区本町４－35
建築面積：1,076m²
延面積：13,112m²
構造規模：ＳＲＣ　Ｂ２、11Ｆ、Ｐ２
工期：1970.6～1972.1

設計施工　大成建設



鐘紡<株>中央研究所

所在地：大阪市都島区友渕町１－３－80
建築面積：3,039.7m²
延面積：12,743.44m²
構造規模：ＲＣ　５Ｆ、Ｐ２
工期：1970.11～1972.5

設計施工　竹中工務店



樫山第2芝浦ビル

所在地：東京都港区海岸３－11－６
建築面積：1,577.28m²
延面積：13,062.90m²
構造規模：ＲＣ　８Ｆ、Ｐ２
工期：1971.1～1972.3

設計施工　不二建設



鶴山台高層団地B地区

設計：日本住宅公団大阪支所建築部
所在地：大阪府和泉市太町外
1棟　延面積13,113m²　SRC　11F、P2
2棟　延面積 9,987m²　SRC　11F、P2
施設棟　延面積 737m²　RC　2F
受水槽・ポンプ室・電気室・延面積 228m²　RC 平家
工期：1970.7～1972.3

施工　松村組



公立学校共済組合京都宿泊所

京都堀川会館

設計：村野・森建築事務所
所在地：京都市上京区堀川下長者町下ル３－７
建築面積：8,327m²
延面積：9,656m²
構造規模：ＲＣ(一部ＳＲＣ)Ｂ１、６Ｆ、Ｐ２、附属棟
工期：1970.12～1972.3

施工　三井建設



泉北ヤングタウン— 1

勤労青年共同宿舎

設計　大建設計

設計：大阪府住宅供給公社建設部、大建設計
施工：奥村組、熊谷組
所在地：堺市三原台２－２
建築面積：3,193.49m²
延面積：20,504.68m²
構造規模：ＳＲＣ・ＲＣ　10Ｆ、一部ＲＣ平家建
工期：1970.10～1972.3



農協連北播会館

施工：中村建設
所在地：兵庫県加東郡滝野町字上滝野
建築面積：672m²
延面積：1,446m²
構造規模：ＲＣ　４Ｆ
工期：1971.10～1972.3

設計　東畑建築事務所



◀大石寺本堂建立工事の見学と富士五湖めぐり（第2回）

この会告は前月号に既載いたしました。

昨年は同じ8月に第1回の見学会を催し，工事を担当されている共同企業体作業所のご厚意とご歓待をうけました。今回も同様お許しを得て見学会を催しご多忙中をご面倒を煩わすこととなりました。

さて，正本堂建立工事は着々と進捗し，本年10月12日の竣工を目途に折角仕上工事中で，富士山を背景に世界に誇る偉容が日増しに具現されつつあります。今回第2回の見学会を催し，その後再び富士五湖めぐりを楽しむことにいたしました。時は恰も河口湖，湖上祭が例年のように8月4・5の両日催されますので，河口湖ホテル別館に泊るその夜には遊覧船の照明コンクールがあり，打上げ花火が夜空を焦し，さぞ美しいことと思われます。昨年同様せいぜいご参加されますようお申込を期待いたします。

日　時　8月5日(土)・6日(日)1泊2日（集合→5日(土)10.55）
集合場所　新幹線「静岡駅」南口前・目標会旗
定　員　20名
会　費　7,000円（昼食・宿泊代その他雑費，ただしホテルでいただきます）
申　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚に1名限りとし，氏名・勤務先名および所在地・役職名・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上7月18日(火)までに事業課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，7月20日（木）までにご通知いたします。

行　程

〈第1日〉8月5日（土）
■自由行動……新幹線往復共運賃は各自負担のこと
■ 8.15 新幹線新大阪発こだま 116号→10.53 静岡着（運賃 2,660円）
○11.00 出迎えのマイクロバスに乗車・出発→富士宮市上条　大石寺作業所へ〔電話（05442）8—1293（代）〕
○12.15→14.30　大石寺企業体工事事務所で昼食後，工事見学
○14.30 大石寺出発→白糸の滝→本栖湖→精進湖→風穴
○17.00 河口湖ホテル別館着・宿泊〔電話（05557）2—1151～2〕
○18.00→20.00 会食
〈第2日〉8月6日（日）
○9.00—10.00 河口湖遊覧
○10.00 出発→天上山富士見台→富士急ハイランド（昼食）→山中湖→
○14.30 三島着・解散
■14.55 新幹線三島発こだま147号→18.00 新大阪着（運賃 3,110円）

工事概要

名　称　正本堂建立工事
建立地　静岡県富士宮市上条　日蓮正宗総本山大石寺内
施　主　正本堂建設委員会
設計者　㈱連合設計社　代表　横山公男
　構造担当　青木　繁研究室
　設備担当　㈱桜井設備研究所
監理者　㈱連合設計社
施工者　正本堂建立共同企業体
　大成建設㈱　㈱大　林　組　鹿島建設㈱
　清水建設㈱　㈱竹中工務店　戸田建設㈱
工　期　昭和43年10月12日→昭和47年10月12日
面　積　敷地面積　137,120㎡
　建築面積　39,368㎡
　延床面積　35,155㎡
最高部　妙　壇　79,200m
構　造　RC造・SRC造

特色概要

民衆立の戒壇として近代建築の粋を集める大石寺正本堂は大別して，法庭，円融閣，思逸堂，妙壇の4ブロックに分れる。法庭は建物の前庭に，円融閣は信徒の待機する門に，思逸堂は信徒の整列する所に当り，妙壇はご本尊を安置する須弥壇を備えた信徒の拝礼する本堂である。

◀関屋の上村邸新築工事の見学会

日　時　8月25日（金）13.50（集合）→16.00（解散）
集合場所　近鉄大阪線「関屋」駅前・目標会旗
〔参考〕自由行動（近鉄電車賃，往復200円，各自負担）
　往　13.08 近鉄上六発準急榛原行のりば⑤→13.38 関屋着
　復　16.15 近鉄関屋発準急上六行乗車→16.52 上六着

行　程

13.50→14.00 関屋駅出発，野村不動産分譲地の上村邸着
14.00→15.00 上村邸見学
　（連絡電話・大林組工事事務所 0745—77—7259）
15.00→16.00 上村邸出発，附近の近鉄不動産分譲地 その他の住宅建設状況を視察して，関屋駅着解散

定　員　20名
申　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚に1名限りとし，氏名・勤務先名および所在地・連絡電話番号を記入の上8月12日（土）までに事業課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，ご通知いたします。

建築概要

施工場所　奈良県北葛城郡香芝町関屋上中
設計・施工　㈱大林組　住宅部
敷地面積　429.80㎡（130.015坪）
建築面積　177.89㎡（ 53.811坪）
延床面積　253.31㎡（ 76.620坪）
構造・規模　鉄筋コンクリート造・2階建
軒　高　6.52m
外　装　寒水石粉入色モルタル掻落し仕上
工　期　昭和46年10月1日→昭和47年8月31日

◀第2回若い会員の集い「航空機の製造工程をみる会」

航空機の製造にあたっては，極限の状態でも耐えるように，綿密な設計を基礎として，純度の高い部品・材料の選択，強固な結合・接着技術を必要とし，さらにミクロ値までの正確さを要求されます。こん回の催しは，普段見聞することのない航空機産業の現状にふれ，そこに働く技術者との意見交換と製造現場をみることによって，われわれが指向しつつある建築の工業生産化システムにとっての参考になればと思い企画いたしました。

日　時　7月22日（土）出発：9時→解散：19時30分
集合場所　大阪中之島・中央公会堂西裏，大阪観光バス・目標会旗
行　程　9.00 出発（貸切バス1台）→13.00 川崎重工鵜沼荘（昼食）→14.00～16.30 川崎重工岐阜工場→19.30 大阪駅前解散
会　費　1.000円（貸切バス代の一部・その他）
申　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚に1名限りとし（往）には「航空機の製造工程をみる会」と氏名・勤務先・所在地・電話番号を明記し，(復）には宛名・郵便番号を記入して，7月17日までに事業課へ願います。定員40名を超過した際は抽せんで参加者を決めて参加証をお送りします。

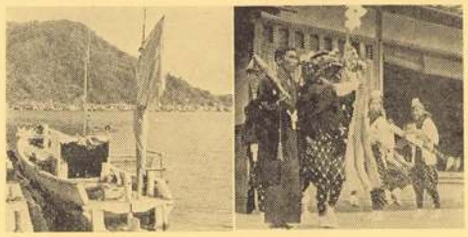
●川崎重工業㈱岐阜工場：（岐阜県各務原市蘇原三柿野町346。電話0583—82—5111番）濃尾平野の北の一角に455.900㎡の広大な敷地を有し，昭和12月に開設された旧川崎空航機工業時代を経て，現在は常に最高水準の技術を要求される航空機メーカーとしての確固たる地位を保っている。大型・小型のヘリコプターをはじめ対潜哨戒機，ジェット練習機，中型ジェット輸送機などを製造・修理している。

◀第3回若い会員の集い「ふるいまちとあたらしいまちシリーズ(4)」—伊根浦：舟屋のある集落・祭を訪ねて—

昨年からの継続事業として，今年度は漁村“伊根浦”を訪ねることになりました。伊根浦は，山陰，若狭湾の西の突端，経ケ岬を少しはずれた，小さな入江で，400年もの昔から，“伊根ぶり”の産地として有名な所です。いわゆる“自然の幸”と密接な関係を保ちながら形成された，集落は，母屋，土蔵，舟屋の三つの要素で構成され，それらは，漁村とは思えない程の繊細な格子，格調高い繰形を施されている。更に，海辺に張り出した，間口2間足らずの舟屋は，共存共栄を範とした京都の町家と同じような，美事な群造形をつくり出している。

われわれが訪れる，8月2日，3日，当地では，氏神八坂神社を中心に，伊根浦の村々の氏神祭が一体になった，年に一度の大祭が催される。今でも，都会に出て行った人，親戚の人が集まって昔ながらのにぎわいを呈するという。2日の宵宮が明けると，耳鼻に集まった神楽舟，御座舟の巡航に始まり，八坂神社の境内では，大刀振り，棒振り，神楽が奉納され，古式豊かな祭りは盛りとなる。

今やわれわれの日常生活から程遠くなった，“ひもろぎ”の世界を体験しに行こうではありませんか。　（若い会員の集い46年度・事業報告P78参照）


伊根浦・祭

日　時　8月2日（水）3日（木）〈1泊2日・バスツアー〉
集合場所　大阪中之島・中央公会堂西裏，大阪観光バス・目標会旗
行　程　2日（水）：8.30出発—池田・亀岡・和知〈休けい〉→舞鶴（昼食）→日本板硝子舞鶴工場見学（14.00～16.00）宮津・天橋立〈休けい〉→奥丹後・伊根町着18.00〈宵宮見学・懇親会・宿泊〉民宿・夕霧荘
3日（木）：9.30〈朝食〉舟屋のある集落と本祭の見学〈昼食〉伊根町13.30出発—前日の経路を途中休けいして17.30頃 大阪駅前解散
会　費　3,000円（宿泊料・昼食・バス代の一部・その他）
申　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚・1名限りで，（往）「舟屋のある集落・祭を訪ねて」・氏名・勤務先・電話番号。（復）宛名・郵便番号を明記して，7月25日迄に事業課へ願います。定員30名を超過した際は，抽せんで参加者を決めて参加証をお送りします。
企画後援：日本板硝子㈱。伊根町教育委員会

◀第9回「よろず相談住宅展」開催

会　期　昭和47年7月6日（木）～11日（火）
（午前10時～午後6時）6．7日
（午前10時～午後7時）8～11日
会　場　阪神百貨店8階催場　約200坪
主　催　社団法人　日本建築協会
後　援　大阪府・大阪市・住宅金融公庫・日本住宅公団
会場内容
(イ) 住宅よろず相談所
第1部　住宅建築の設計・監理・施工・建設費・構造・材料・建築法規・宅地造成，増築・改築・模様替・防災・保全・補修・設備・住まいの工夫などの技術的相談
第2部　府，市，公庫，公団，公社など公企業による住宅の融資，賃貸，分譲，および宅地分譲の広報案内
第3部　住宅に関する民事々件，司法手続，表示登記，権利登記，宅地建物取引，税金，住宅ローンなどに関する相談
(ロ) プレハブおよび分譲住宅会社の相談コーナー
(ハ) 新建材および設備の展示コーナー
(ニ) 住宅に関する資料の展示コーナー
(ホ) モデル・ルーム
(ヘ) あなたにもできる住まいの小修繕（実演）

◀通常総会決議報告

昭和47年6月21日，近畿建築会館において開催されました通常総会で下記の議案がそれぞれ原案のとおり承認決議されましたので，ここに会告申しあげます。

1. 昭和46年度事業報告承認の件（別掲）
1. 昭和46年度決算報告承認の件（別掲）
1. 昭和47年度収支予算承認の件（5月号掲載）　以上

社団法人　日本建築協会　会長　塚本猛次

7・8月号合併号のお知らせとお詫び

今般，諸経費の都合上，まことに申しわけありませんが，会誌の発行を2号分へらし，本年度中に夏と冬の2回合併号をださせていただきます。その第一回として，本号を7月・8月の合併号とさせていただきます。会員の諸氏には，全くのごめいわくをおかけすることになりますが，何卒ご寛恕のほどお願い申しあげます。

社団法人　日本建築協会

◀姫路市文化センター新築工事の見学会

姫路市で有名な手柄山中央公園の一角に市民の高い文化意識と創造性をかん養すべき総合文化センターが誕生することになりました。山頂にある太平洋戦争全国戦災都市空爆死歿者慰霊塔を中心に，市民館，野球場，陸上競技場，プール，水族館，ロックガーデン，展望台などがあり，播磨平野や瀬戸内の眺望が大へんよろしい。会員の皆さんせいぜい都合をつけて参加されますようお申込をお待ちします。

日　時　9月9日（土）13.10（集合）→16.20（解散）

集合場所　国鉄姫路駅前手柄山公園行モノレールのりば・目標会旗

〔参考〕自由行動（運賃各自負担…大阪より国電往復 720円・モノレール往復 200円）

往　11.45 大阪発新快速姫路行→13.02 姫路着
　　13.20 モノレール・姫路駅発→13.25 手柄山公園着

復　16.30 モノレール・手柄山公園発→16.35 姫路駅着
　　16.44 姫路発普通京都行→18.24 大阪駅着

行　程　13.30→14.20 手柄山公園を自由に遊覧
　　14.30→16.20 文化センター新築工事の見学
　　（連絡電話番号 0792—24—8891 大林組手柄山工事々務所）

定　員　30名

申　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚に1名限りとし，氏名・勤務先名および所在地・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上8月26日（土）までに事業課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，ご通知いたします。

建築概要

所在地	姫路市西延末字石之元
建築主	姫路市
設計・監理	株式会社　日建設計
施工	株式会社　大林組
敷地面積	22,407.10㎡
建築面積	3,963.42㎡
延床面積	8,891.96㎡
構造	RC造，一部SRC造
規模	地下1F・地上5F
高さ	GL＋28.95m
外装	コンクリート打放し仕上
工期	昭和45年10月1日→昭和47年8月31日
大ホール	固定　1,566席
小ホール	固定　298席・移動 202席

◀大同生命本社ビル新築工事の見学会
——ビルの中に緑の森林がある——

共催　日本建築協会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部

大同生命本社ビルは創業70周年記念事業の一環として，また吹田市の南吹田市街化計画の第一弾として建設されているもので，完成すると副都心のランドマーク的存在となります。このビルの大きな特徴は，3階まで吹抜けにした"大同プラザ"で平面50m四方，天井高17mの大空間に緑の樹々を植え，森をつくり，自然の森林を思わする新しい環境創造の1ケースといえます。ビルの人々をはじめ来訪の方々にも憩いの場となり，うるおいを与えることでしょう。

都市の緑化運動のさかんな時に見学の価値は十分あると思いますので，ご参加のお申込をお待ちします。

日　時　9月20日（水）15.00（集合）→17.00（解散）

集合場所　大阪市営地下鉄御堂筋線「江坂」下車すぐ東側のビル，ビルの北側を東へ廻り，竹中工務店事務所前・目標会旗
（連絡電話番号 385—2835　竹中工務店作業所）

定　員　60名（本会割当 25名）

申　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚に1名限りとし，氏名・勤務先名および所在地・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上9月7日（木）までに事業課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，ご通知いたします。

建築概要

所在地	吹田市江坂町1丁目
建築主	大同生命保険相互会社
設計・施工	株式会社　竹中工務店
監理	大同生命保険相互会社　新本社建設本部
敷地面積	3,979.97㎡
建築面積	2,581.99㎡
延床面積	31,123.95㎡
構造	SRC及びS造
階数	地下3F・地上15F・塔屋1F
軒高	GL＋64.20m
外装	カーテンウオール　メタル式フェロドール仕上
工期	昭和45年10月15日→昭和47年9月30日
用途	事務室

◀泉北ニュータウン光明池ハウジング・プロジェクト 共同住宅設計競技募集（抜粋）

日　程

登録開始日　S47・9・1（金）
登録締切日　S47・9・20（水）
質疑受付開始日　S47・9・21（木）
質疑受付締切日　S47・10・4（水）
質疑応答書発送日　S47・11・4頃
応募設計図書受付開始日　S48・2・15（木）
応募設計図書受付締切日　S48・2・28（水）
入選発表　S48・5月中旬

目　的

三会は，ハウジング・プロジェクト実施の趣旨にそい，公営・公社・公団・泉北開発センターの4タイプについての優れた住宅と住宅地の建設を行うにあたり，これが実現に至る過程においてひろく優れたアイデアをとり入れるため，この要項を発表し，設計競技によって最善の構想を募集する。

応募条件（抜粋）

●競技の内容

(1) 次のタイプの中高層共同住宅について配置設計を含む建物基本設計並びにこの3ブロックの全体配置計画
　1) 公営住宅　競技1
　2) 公社住宅　競技2
　3) 公団住宅　競技3
(2) 泉北開発センター住宅の配置設計を含む建物基本設計　競技4
(3) 競技は1～4別に行われる。
応募者は，競技1～4を自由に選択し，応募する。また2以上の競技に応募することができる。但し応募は各競技ごとに1案に限る。

●主催者および事務局

(1) 主催者　社団法人　日本建築家協会
　社団法人　日本建築学会
　社団法人　日本建築士会連合会
(2) 事務局　〒541 大阪市東区博労町2―41 中博ビル内　電話（06）262-1861「H．P．共同住宅設計競技事務局」

●協力および後援

(1) 協力　読売新聞社
(2) 後援　(社)日本宅地開発協会・(社)日本住宅協会・(社)日本建築協会

●審　査

(1) 審査会は，下記審査員で構成する
審査員長　市浦　健
審査員（50音順）青樹英次・五百蔵芳明・大倉三郎・鈴木成文・徳永正三・鳥田家弘・西山卯三・宮脇和正
(2) 審査会は，競技1～4ごとに応募設計図書を審査し，その各々の中から入賞作品3点および佳作若干点を選び，入選作品とする。

●賞　金

賞金の総額は，2,000万円とし，競技1～4ごとに各々500万円を，次の通り配分する。
入賞3点　各　150万円
佳作若干点　総額　50万円

●以上，詳細は上記主催者事務局までお問合せ下さい。

青年技術者のみなさまへ

――「建築と社会」昭和47年11月号の「第19回青年技術者特集号」の応募について――

日本建築協会誌「建築と社会」は毎年「青年建築家特集号」もしくは「青年技術者特集号」を企画し，すでに18回にわたって優秀な青年技術者を紹介してきました。今回も，「青年技術者選衡委員会」を設けて，選衡の上掲載することにしております。

その選ぶ分野も，設計だけにかぎらず，都市計画，構造，施工，設備などを含み，それぞれの分野から，優秀な青年技術者を選んで，その不断の研究努力とすぐれた業績を「建築と社会」に掲載して顕彰することにしております。

ついては，下記応募規定を参照の上，ふるって応募されんことを。

応募提出規定

1. 応募される人は満35才までの青年技術者であって，本会会員に限ること。
2. 原則として，本会会員であるすいせん者を通じて応募のこと。すいせん者は被すいせん者（青年技術者）の勤務する組織の上司なり上長であること。すいせん者が学校教官である場合はこの限りでない。また本人が組織の代表者である場合は自せんとする。（すいせん用紙は事務局にありますので，ご請求ください）
3. 応募者は，設計，計画（都市計画など），施工，構造，設備，その他の分野にあって，なしとげたすぐれた実績について，すいせんをうけ，下記の所要の資料を本会に期日までに提出すること。
4. 提出された資料は「青年技術者選衡委員会」にかけて選衡する。
5. 「青年技術者選衡委員会」において選衡されたものは「第19回青年技術者特集」（昭和47年11月号）に掲載するとともに，記念品を贈呈する。
6. **提出資料**
(1) **略　歴**
本人の写真，氏名，生年月日，最終学歴，業歴，作品略歴など
(2) **選衡資料**
（i）**建築設計の場合**
鮮明なる写真，主要平面図，概要，設計要旨，その他必要な資料
（ii）**計画の場合**（都市・地域の計画など）
計画図，計画要旨，その他必要な資料
（iii）**施工，構造，設備の場合**（それぞれの設計計画なども含む）
上に準じた資料
（iv）**その他**（新材料開発，著作などを意味する）
それぞれにふさわしい資料
(3) **青年技術者としてのことば**
青年技術者としての抱負，考え方，信念，建築観等々（400字ていど）。
(4) **すいせんのことば**
原則として，すいせん者によるすいせんのことば（120字ていど）を添付のこと。自せんの場合は不要。
7. **提出期間**　昭和47年8月25日
8. **提出先**　大阪市東区北浜3―37　〒541
日本建築協会「青年技術者選衡委員会」
9. **青年技術者選衡委員会（47年度）**

委員長		彦谷邦一	（彦谷建築設計事務所代表取締役・編集委員長）
委員	（設計部門）	根津耕一郎	（根津建築事務所代表取締役）
〃	〃	坂内幾男	（坂内建築設計事務所所長）
〃	（計画部門）	今西祥郎	（大阪府企業局建設第一課長）
〃	〃	藤田邦昭	（都市問題・経営研究所代表取締役）
〃	（構造部門）	多田英之	（日建設計技師長）
〃	〃	力武利夫	（清水建設設計部長）
〃	（設備部門）	福田鋼一	（桜井建築設備研究所大阪事務所長）
〃	〃	中村猛	（竹中工務店設計部次長）
〃	（施工部門）	堤兼雄	（大林組工務部長）
〃	〃	三好歓之進	（大成建設建築部長）

◀昭和46年度事業報告　自 昭和46年4月1日　至 昭和47年3月31日

1. 総　会

（イ）通常総会

6月25日　於会館集会室
出席者　33名

議事(1)昭和45年度事業報告承認の件
(2)昭和45年度収支決算承認の件
(3)昭和46年度収支予算承認の件

（ロ）通常総会

2月23日　於会館集会室
出席者　11名

議事(1)細則一部改正の件
（会費改定と評議員選出数の変更）
(2)名誉正会員推挙の件
(3)監事1名選挙の件
(4)本部所属評議員32名選挙の件
(5)役員重任承認の件

2. 評　議　員　会

（イ）定時評議員会

6月25日　於会館集会室
出席者　委任状共　94名

議事(1)昭和45年度事業報告承認の件
(2)昭和45年度収支決算承認の件

（ロ）定時評議員会

11月24日　於会館集会室
出席者　委任状共　88名

議事(1)細則一部改正の件（会費改定）
(2)細則一部改正の件(評議員選出数の変更)
(3)昭和47年度評議員選出数決定の件
(4)名誉正会員推挙の件

（ハ）定時評議員会

3月29日　於会館集会室
出席者　委任状共　85名

議事(1)評議員会議長及び副議長互選の件
(2)会長，副会長1名，理事14名選任の件
(3)役員重任承認の件
(4)昭和47年度収支予算承認の件

（ニ）技術部門評議員会　2回

3. 理　事　会

(1)定例理事会	10回
(2)編集理事会	2回
(3)総務・会計合同理事会	1回
(4)会計理事会	1回
(5)理事・評議員有志懇談会	1回

4. 常　設　委　員　会

	委員会	幹事会，小委員会 分科会，打合会等
(1)事業委員会	11回	58回
（建築3団体事業委員長打合会）		10回
(2)編集委員会	12回	46回
	座談会	1回
(3)教育委員会	4回	18回
(4)住宅委員会	9回	14回
(5)出版委員会	2回	29回
(6)法規委員会	2回	
（4会合同法規委員会）		4回
(7)建材委員会	8回	
(8)建築データシート委員会	11回	10回

5. 特　別　委　員　会

	委員会	小委員会
(1)表彰候補者推薦委員会	1回	
(2)会勢委員会	3回	1回

6. 説　明　会

第1回実務に直結した建築工事別説明会

「超早強セメントコンクリートについて」
9月22日　於大阪科学技術センター　150名

第2回実務に直結した建築工事別説明会

「建築鉄骨の現場溶接」
（本会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部　共催）
3月8日　於大阪科学技術センター　174名

7. 講　習　会

第23回建築工事実務講習会

自7月19日　至7月24日（6日間）
於大阪科学技術センター　124名

第24回建築工事実務講習会

自7月26日　至7月31日（6日間）
於日経ホール　143名

建築へのコンピューター利用講習会

11月1日，8日，17日，19日，25日（5日間）
於大阪科学技術センター　159名

建築基礎工法と実例講習会

3月31日　於大阪科学技術センター　236名

8. 講　演　会

21世紀の日本未来像講演会(1)

（本会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部　共催）
7月13日　於朝日生命ホール　302名

都市環境問題講演会

（本会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部　共催）
8月26日　於大阪商工会議所　135名

21世紀の日本未来像講演会(2)

（本会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部　共催）
10月16日　於大阪科学技術センター　125名

9. 関西都市・住宅会議

（建築8団体共催）
テーマ「大阪都市圏における交通問題」
10月29日　於大阪商工会議所　160名

10. 若い会員の集い

ロサンゼルス大地震の教えるもの

「現地調査報告・映画の会」
ゲスト　高橋慶夫氏
5月28日　於大阪科学技術センター　130名

中国の古代美術と名園をみる会

ゲスト　小角　亨氏
9月4日　於住友本家・有芳園西館　54名

宗教建築（修道院・教会）をみる会

ゲスト　村野　漾氏
9月11日　宝塚カトリック教会・西宮トラピスチヌ修道院　55名

ふるいまちあたらしいまちシリーズ(1)

「大和の民家集落を訪ねて」
現地解説者　工学博士　林野　全孝氏
足立富士夫氏
宮沢　智士氏
大和郡山市・橿原市今井町・五条市
10月23日，24日（2日間）　37名

ふるいまちあたらしいまちシリーズ(2)

「住宅団地の歩みを訪ねて」
現地解説者　山地　英雄氏
工学博士　多胡　進氏
千里ニュータウン・逆瀬川団地・高級分譲住宅・御影団地・西宮北口団地
11月13日　38名

ふるいまちあたらしいまちシリーズ(3)

「総括座談会」
ゲスト　山地　英雄氏
工学博士　林野　全孝氏
1月28日　於会館集会室　15名

船をみる会

川崎重工神戸工場見学・神戸港内巡航

3月25日　35名

11. コ　ン　ク　ー　ル

第17回工高生デザインコンクール

設計課題　「住宅団地の集会所」
募　集　9月20日
応募数　13校　66点
審査会　10月27日
入選作　10点（内最優秀作　1点）
表彰式　11月20日

12. 会誌「建築と社会」

4月号＝都市生活とみどり
5月号＝企画と設計のプロセス
6月号＝解体工学
7月号＝都市と港湾
8月号＝転換期のニュータウン
9月号＝軟弱地盤と震災
10月号＝変貌する建築生産
11月号＝第18回青年技術者
12月号＝自然とレジャ空間
1月号＝冬季オリンピックと札幌
2月号＝600号記念号
3月号＝インテリアデザイン

13. 出　　版

建築データシート
建築データシート委員会編
「建築と社会」附録として会員に無料配布
20シート刊行（№35・1月）

建築データシート「バックナンバー」有料配布
1シート（2頁）　20円

建築データシート・合本
（新装幀のファイル4冊に収録）
300部出版
B4判変形（220×295mm）1,134頁
（567シート）
定価　15,000円

建築基礎工法と実例
建築基礎工法と実例編集委員会編
2,500部出版（47年2月刊行）
B5判（182×257mm）特別上質紙
約550頁
定価 4,000円　会員特価 3,600円

14. 見　　学　　会

大阪大学工学部吹田キャンパスの見学会
（本会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部　共催）
4月3日　51名

大阪大学医学部附属病院診療棟他新営工事の見学会
4月7日　61名

タカラのステンレス流し台工場並びに厨房用品展示場の見学会
（本会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部　共催）
4月15日　48名

浜松の赤井物産ホーロー浴槽工場と日本楽器本社工場の見学会
4月23日　16名

春の柳生の里を訪ねる会
4月28日　44名

国宝・重文の拝観とぼたんの観賞・撮影会
「当麻寺と石光寺」
5月1日　20名

東京の新しい超高層建築の見学会
5月8日　34名

飛鳥・藤原宮跡発掘現場その他の見学会
（本会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部　共催）
5月22日　55名

SNSU―草津プロジェクトとクーラー・冷蔵庫の工場見学会
5月24日　24名

タカラの名古屋工場と名古屋城その他見学会
6月5日　24名

大阪ガストレーニングセンターの見学会
6月11日　26名

日本ハウジング堺工場の見学会
6月18日　46名

阪急南茨木ハイタウン（美沢高層住宅）の建設工事の見学会
6月25日　30名

ボウル国際興業新築工事の見学会
（本会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部　共催）
7月2日　104名

大和ハウス工業(株)奈良工場と学園前ネオポリスの見学会
7月10日　24名

大阪府営東大阪広域下水道工事の内川俣処理場水処理施設ブロワー室築造工事の見学会
7月16日　21名

朝日ビール西宮工場の見学会
7月24日　15名

大石寺正本堂建立工事の見学と富士五湖めぐり
8月6日，7日（2日間）　23名

大阪市教育青年センターの見学会
8月13日　11名

大阪紙文具流通センターの見学会
（本会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部　共催）
8月20日　25名

「希望が丘青年の城」をはじめマックスファクター・IBMの両工場新築工事の見学会
9月3日　47名

兵庫県立近代美術館の見学と美術展示品の観賞会
9月10日　6名

大阪東郵便局庁舎新築工事の見学会
9月29日　8名

松下電器産業（株）奈良工場の見学会
10月8日　15名

協和銀行大阪支店事務センター新築工事（第1期）の見学会
（本会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部　共催）
10月15日　61名

千代田建材工業（株）貝塚工場と山陽木材防腐（株）大阪工場見学会
（建材委員会）
10月21日　13名

建仁寺並びに西行庵の茶室見学の会
10月23日　33名

南禅寺の茶室その他見学会
11月6日　33名

PL教団大平和祈念塔と錬成道場の見学会
11月13日　18名

修学院離宮の拝観
11月24日　14名
11月26日　13名

京都競馬場スタンド増築その他工事の見学会
（本会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部　共催）
12月2日　21名

竣工開館後の南OSプラザ並びに竹林会館の見学会
12月16日　34名

大阪で施工中の超高層ビル見学会シリーズ(1)
大阪データ通信局舎（堂島）新築工事の見学会
（本会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部　共催）
1月20日　50名

大阪市清掃局大正プレス工場新築工事の見学会
1月28日　30名

阪急ターミナルビル新築工事の見学会
（本会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部　共催）
2月18日　63名

灘の生一本菊正宗嘉宝蔵の見学会
2月26日　49名
泉北ニュータウンパイロットハウス見学会
（住宅委員会）
3月7日　14名
大阪で施工中の超高層ビル見学会シリーズ(2)
大阪国際ビルディング新築工事の見学会
（本会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部　共催）
3月10日　51名
京阪くずは体育文化センター並びにくずはモール街新築工事の見学会
3月17日　20名
大阪で施工中の超高層ビル見学会シリーズ(3)
大阪ロイヤルホテル新築工事の見学会
（本会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部　共催）
3月24日　49名

15. 午餐会・懇親会

役員・委員の見学と懇親会
日吉神社に参拝，ホテルレークビワ見学後，同ホテルにおいて懇親パーティ開催
4月10日　87名
常設委員会委員長懇談会
5月25日　於北水　10名
東畑前会長感謝の会
5月26日　於綿業クラブ　100余名
会員忘年懇親会
12月16日　於太閤園　390名
建築6団体新年交礼会
1月4日　於大阪コクサイホテル　528名
建築6団体会長昼食会
1月20日　於大阪ガスビル食堂　19名
オール建築人ボウリング大会
2月10日　於ボウル国際興業・ナンバボウリングセンター　94名
創立記念日の集い
「記念講話・映画と祝賀パーティ」
3月30日　於綿業会館新館7階　57名

16. 展覧会

第8回よろず相談住宅展覧会
自　7月15日　至　7月20日（6日間）
於阪神百貨店8階催場
入場人員 38,043人　相談件数 1,084件
新しい建築写真展示窓
展示写真
(1)「京阪京橋駅・京阪ショッピングモール」
(2)「金剛コロニー」
(3)「大阪紙文具流通センター」
(4)「大阪にも超高層ビル時代」
(5)「街を緑に」（第1回）

17. そ　の　他

（イ）他団体との共同活動
建築国際連絡協議会
建築関係団体連絡協議会
建築業務基準委員会
公益法人連絡協議会
「4会連合」協定 工事請負契約々款改正委員会
（ロ）会館借入金の償還
日本建築学会に50万円のほか抽せんによって51万円償還
（ニ）会計監査
4月27日28日及び5月8日の3日間監査法人公認会計士富島一夫氏によって昭和45年度の会計監査を受く
（ホ）業務検査
12月8日建設省小林事務官によって業務検査を受く

18. 本会が入会している団体

大阪商工会議所
関西経済連合会
大阪市街地再開発促進協議会
大阪住宅建設促進協議会
建築行政協会大阪市支部
日本コンクリート会議
建築関係団体連絡会
建築業務基準委員会
公益法人連絡協議会
建築国際連絡協議会
東区納税協会
大阪府社会保険協会

19. 後援または協賛した会

大阪府建築基準法施行条例改正説明会並びに建築法令講習会
主催　大阪府・大阪市
自　4月1日　至　4月6日
於御堂会館ほか
第7回マイホームショウ
主催　住宅新聞社
自　4月7日　至　4月11日
於朝日文化ホール
H形鋼による鋼構造接合部設計講習会
主催　鋼材倶楽部
自　5月21日　至　6月9日
於朝日生命ホールほか
神戸マイホームショウ
主催　住宅新聞社
自　6月10日　至　6月14日
於サンボーホール
映画と新建材説明会
主催　日本建築材料協会
自　6月23日　至　6月29日
於千代田生命ホールほか
山留工事の安全に関する研究発表・講習会
主催　建築業協会
7月16日　於大阪科学技術センター
「都市構成におけるメタル・カーテンウォール技術発展」論文懸賞募集
主催　日本カーテンウォール工業会
提出期限　7月31日
異形鉄筋コンクリート設計法講習会
主催　鋼材倶楽部
自　8月17日　至　8月27日
於大阪科学技術センターほか
第4回建築士のための設備基礎教室
（空調設備コース）
主催　大阪府建築士会
自　9月27日　至　12月1日　於塗料会館
第8回マイホームショウ
主催　住宅新聞社
自　10月22日　至　11月8日
於大阪国際見本市会場
総合設計制度による建築基準法の緩和基準及び融資制度の説明会
主催　日本建築士会連合会
都道府県建築士会
日本建築センター
全国市街地再開発協会
自　11月16日　至　11月30日
於中央公会堂ほか
72年タイル新作展
主催　全国タイル工業会
大阪タイル衛生陶器商工業協同組合
自　1月24日　至　1月29日
於大阪デザインセンター

20. 会　員　動　態

	年間入会	年間退会	年度末現在
正会員	545	551	5,751
団体会員	11	22	649
	(11口)	(28口)	(1,632口)
准会員	272	562	605

◀ 昭和46年度決算報告

一般勘定

貸借対照表

昭和47年3月31日現在

単位円

借方 科目	借方 金額	貸方 科目	貸方 金額
現金	88,696	基本金	609,560
普通預金	954,722	什器償却準備金	214,784
郵便振替	166,357	未払金	12,780,373
有価証券	20,000	前受金	3,131,510
会館勘定	440,000	仮受金	145,003
未収入金	4,655,006	繰越事業収入金	2,392,300
仮払金	30,961	借入金	5,000,000
前払費用	250,305		
什器	877,790		
繰越事業支出金	3,904,892		
在庫図書	520,000		
前期繰越金	3,584,943		
収支勘定	8,779,858		
合計	24,273,530	合計	24,273,530

財産目録

昭和47年3月31日現在

単位円

資産之部		負債之部	
固定資産	877,790		
什器		基金勘定	824,344
流動資産	11,030,939	基本金	609,560
普通預金	954,722	什器償却準備金	214,784
有価証券	20,000	流動負債	23,449,186
郵便振替	166,357	前受金	3,131,510
現金	88,696	仮受金	145,003
会館勘定	440,000	未払金	12,780,373
仮払金	30,961	繰越事業収入金	2,392,300
未収入金	4,655,006	借入金	5,000,000
前払費用	250,305		
繰越事業支出金	3,904,892		
在庫図書	520,000		
前期繰越金	3,584,943		
収支勘定	8,779,858		
合計	24,273,530	合計	24,273,530

近畿建築会館特別勘定

貸借対照表

昭和47年3月31日現在

単位円

借方	勘定科目	貸方
	建築会館基金	6,658,116
16,933,740	建物	
	建物償却準備金	7,816,134
148,620	電話設備費	
1,399,835	什器	
	什器償却準備金	635,874
7,750	現金	
126,880	有価証券	
	一般会計勘定	440,000
	借入金	1,520,000
	未払償還金	785,000
	未払利息	112,500
	前期繰越金	673,934
24,733	収支勘定	
18,641,558	合計	18,641,558

収支内訳表

昭和47年3月31日現在

単位円

収入

費目	決算額	予算額	増△減
第二一般会計繰入金	2,830,000	2,800,000	30,000
貸室料	300,000	300,000	
雑収入	14,760	20,000	△ 5,240
計	3,144,760	3,120,000	24,760

支出

単位円

費目	決算額	予算額	増△減
借入金利子	126,500	132,000	△ 5,500
電気料	149,922	150,000	△ 78
瓦斯代	169,240	156,000	13,240
水道代	15,495	24,000	△ 8,505
借地料	724,228	725,000	△ 772
火災保険料	10,400	11,000	△ 600
公課	175,130	169,000	6,130
修理費	30,105	100,000	△ 69,895
給与	735,860	650,000	85,860
雑費	269,032	240,000	29,032
建物償却金	587,000	587,000	0
什器償却金	176,581	167,000	9,581
計	3,169,493	3,111,000	58,493

差引不足金　24,733
前期繰越剰余金　673,934
差引　649,201……次期繰越剰余金

一　般　勘　定

収　支　内　訳　表

昭和47年3月31日現在

収入の部

単位円

科目	費目	決算額	予算額	増△減
会費収入	正会費	15,223,155	15,900,000	△ 676,845
	団体会費	8,014,750	8,000,000	14,750
	地方会費	819,700	720,000	99,700
	准会費	925,400	1,260,000	△ 334,600
	小計	24,983,005	25,880,000	△ 896,995
事業収入	雑誌収入	19,535,470	18,150,000	1,385,470
	講演講習会収入	2,890,150	3,540,000	△ 649,850
	集会収入	3,096,300	2,350,000	746,300
	約款売上収入	1,573,705	1,800,000	△ 226,295
	住宅相談所収入	5,104,550	4,300,000	804,550
	データシート収入	5,686,570	6,700,000	△ 1,013,430
	雑	2,217,811	870,000	1,347,811
	小計	40,104,556	37,710,000	2,394,556
雑収入		49,419	50,000	△ 581
	収入合計	65,136,980	63,640,000	1,496,980

支出の部

単位円

科目	費目	決算額	予算額	増△減
事業費	雑誌費	27,183,129	22,170,000	5,013,129
	講演講習会費	2,092,868	2,670,000	△ 577,132
	集会費	4,198,652	2,850,000	1,348,652
	調査費	181,530	200,000	△ 18,470
	住宅相談所費	4,275,920	4,000,000	275,920
	データシート出版費	5,280,236	6,150,000	△ 869,764
	雑	4,055,797	2,310,000	1,745,797
	小計	47,268,132	40,350,000	6,918,132
会議費	総会評議員会費	367,253	200,000	167,253
	理事会費	145,895	80,000	65,895
	部会費	0	50,000	△ 50,000
	委員会費	503,818	420,000	83,818
	特別委員会費	36,220	50,000	△ 13,780
	小計	1,053,186	800,000	253,186
支部費	支部交付金	818,535	800,000	18,535
	支部補助金	60,000	120,000	△ 60,000
	小計	878,535	920,000	△ 41,465
事務費	電話料	526,734	480,000	46,734
	通信費	39,260	30,000	9,260
	旅費交通費	570,925	540,000	30,925
	集金費	1,308,387	1,170,000	138,387
	印刷物費	369,533	240,000	129,533
	文房具費	213,955	240,000	△ 26,045
	雑費	181,572	180,000	1,572
	小計	3,210,366	2,880,000	330,366
給与	本給	11,986,320	10,876,000	1,110,320
	家族手当	49,200	60,000	△ 10,800
	役職手当	720,000	624,000	96,000
	超勤手当	114,090	100,000	14,090
	賞与	4,535,019	4,077,000	458,019
	小計	17,404,629	15,737,000	1,667,629
厚生費	健康保険料	442,286	384,000	58,286
	厚生年金保険料	395,292	324,000	71,292
	失業保険料	106,865	96,000	10,865
	労災保険料	34,765	35,000	△ 235
	職員福利費	111,980	180,000	△ 68,020
	小計	1,091,188	1,019,000	72,188
賦課金		105,340	100,000	5,340
会館勘定繰入金		2,830,000	2,800,000	30,000
退職手当積立金		0	1,000,000	△ 1,000,000
什器償却金		75,462	50,000	25,462
予備費		0	1,109,000	△ 1,109,000
	支出合計	73,916,838	66,765,000	7,151,838

差引不足金　8,779,858
前期繰越不足金　3,584,943
計　12,364,801……次期繰越不足金

暑中お見舞申し上げます

昭和47年盛夏　（50音順）

阿部　暢

東洋土建株式会社　取締役社長
大阪市東住吉区田辺東ノ町6丁目33　電話06(692)1331～5
自宅・大阪市東住吉区田辺本町3丁目188　電話06(621)7982

淺沼猪之吉

株式会社　淺沼組　取締役社長
〒543 大阪市天王寺区東高津町8番地の1　電話06(762)0251
〒631 自宅・奈良市字園南1丁目7番15号　電話0742(45)0681

網野　栄

株式会社　研文社　代表取締役
〒530 大阪市北区堂山町66　電話06(361)2091代

青木益次

株式会社　青木建設　取締役社長
大阪市大淀区大淀町南1丁目5番地　電話06(458)5851
自宅・神奈川県逗子市山の根1-3-19
電話0468(71)2882

淺沼誠夫

株式会社　淺沼組　常務取締役
〒543 大阪市天王寺区東高津町8番地の1　電話06(762)0251
〒630-02 自宅・生駒市生駒町東松ケ丘7番30号　電話07437(3)4805

荒木芳邦

株式会社　荒木造園設計事務所　代表取締役
池田市鉢塚2丁目8番21号　電話0727(61)8874代
自宅・池田市鉢塚2丁目9番8号　電話0727(61)8874

会長 青島憲輔
代表取締役 青島邦夫

株式会社　青島設計室
名古屋市中村区米屋町2 埼玉銀行ビル　電話052(582)7171
青島憲輔・名古屋市西区枇杷島通り2-35　電話052(531)1915
青島邦夫・愛知県愛知郡東郷町大字春木字白土1-64　電話052(801)6205

浅野真澄

株式会社　浅野建築設計事務所　代表取締役
大阪市天王寺区城南寺町9の27
電話06(768)0201代・(761)7870
自宅・寝屋川市成田西町4の21　電話0720(31)1750

伊藤喜三郎

株式会社伊藤喜三郎建築研究所　代表取締役社長
〒102 東京都千代田区紀尾井町3番地 文芸春秋ビル　電話03(263)1481代～7
東京都品川区東五反田3-16-55　電話03(441)5437

青盛繁男

青盛建材株式会社　取締役社長
広島市鉄砲町5番16号　電話0822(21)2281
自宅・広島市翠町1507の10　電話0822(51)6730

淺海正雄

淺海電気株式会社　取締役社長
大阪市北区老松町1丁目22　電話06(362)8701～8

伊藤鑛一

株式会社伊藤建築設計事務所　代表取締役
名古屋市中区錦三丁目3番6号(日経ビル)　電話052(951)1110代
自宅・芦屋市山手町69　電話0797(22)2163

青柳不折

株式会社　岡本組　取締役社長
本　社・大阪市南区周防町25番地
電話06(252)8101代
大阪支店・大阪市西成区玉出本通4丁目1番地
電話06(651)7775代
東京支店・東京都渋谷区富ケ谷1丁目35番22号
電話03(460)9621代

東秀侃

株式会社　三国タイル　代表取締役
〒565 本　社・大阪市東淀川区十八条町3丁目7番地
電話068(32)1101代
営業所・吹田市津雲台7丁目20番地
〒565 自宅・吹田市藤白台2丁目28番地　電話068(72)3256

伊藤武彦

株式会社　伊藤組　取締役社長
彦根市安清東町95番地　電話07492(2)3141代
自宅・彦根市本町2丁目1番9号　電話07492(2)0025

赤崎尚信

赤崎建築事務所　所長
大阪市西区立売堀北通1の90 第三富士ビル
電話06(541)7625代
自宅・芦屋市三条町47番30

東秀保

株式会社東建築設計事務所
〒530 大阪市北区天神橋筋3丁目67マチスビル
電話06(358)5598・3497
自宅・大阪府寝屋川市成田東町15—25
電話0720(31)3980

伊藤三郎

大栄電気株式会社大阪支店　常務取締役支店長
大阪市西区京町堀2の35　電話06(443)0631
自宅・豊中市北桜塚3－8－7　電話068(54)7747

浅井貞治

株式会社双星社竹腰建築事務所　代表取締役
〒530 大阪市北区堂島中2丁目37　電話06(341)6671
〒659 自宅・芦屋市東山町213 ローズハイツ芦屋406号　電話0797(31)2339

姉川正男

東光電気工事株式会社大阪支社　取締役大阪支社長
〒541 大阪市東区高麗橋5丁目28番地　電話06(202)0325～9
〒565 自宅・吹田市藤白台4の30の12　電話068(72)3214

伊東正也

株式会社　伊東建築設計事務所　代表取締役
大阪市浪速区幸町通2丁目6番地 清光ビル　電話06(562)4343
自宅・西宮市松生町129番地の2　電話0798(22)3598

暑中お見舞申し上げます

昭和47年盛夏

(50音順)

井手正雄

社団法人　日本建築協会京都支部　支部長
京都市中京区押小路通柳馬場東入橘町645
電話075(211)2857
自宅・京都市中京区麩屋町通二条下 電話075(231)1492

井上達明

株式会社 井上達明建築事務所　代表取締役
〒530 大阪市北区鶴野町51番地 安田ビル　電話06(372)2821 代
〒555 自宅・大阪市西淀川区竹島3丁目7の4
電話06(473)1069

生田重政

日本建設株式会社　取締役社長
〒541 大阪市東区安土町4丁目5番地　電話06(261)7591～6
〒659 自宅・芦屋市朝日ケ丘22番11号　電話0797 (23) 0657

井崎梁次

株式会社　井崎工務店　代表取締役
和歌山市北河岸4丁目1番地　電話0734(24)5195
自宅・和歌山市玉藻丁2丁目5番地
電話0734(22)0382

井上博

株式会社　井上博設計事務所　代表取締役
〒107 東京都港区北青山2丁目5－6　電話03(401)7177代

池田昭

株式会社 池田宮彦設計事務所　代表取締役
〒542 大阪市南区瓦屋町三番丁68 オートセンタービル2階
電話06(761)0360
〒591 自宅・堺市東上ノ芝町2丁321　電話0722(52)7753

井関章

フジタ工業広島支店　取締役広島支店長
〒730 広島市国泰寺町2－3－23　電話0822(41)－4131代

井上滉

株式会社　大建設計　理事・技師長
〒550 大阪市西区京町堀2－75　電話06(441)9351
〒557 自宅・大阪市西成区松原通2－35　電話06(651)9901

石井部

東洋基礎工業株式会社大阪営業所 取締役営業所長
〒550 大阪市西区京町堀1丁目156(中谷ビル)
電話06(441)6678～9
自宅・大阪府豊中市新千里北町3丁目1番地
新千里北町第三団地C40の204　電話068(72)3050

諫早信夫

不動プレハブ株式会社　社長
〒104 東京都中央区銀座4－2－2　弥生ビル
電話03(561)3581
〒157 東京都世田谷区南烏山2－18－4
電話03(300)3705

井上福藏

株式会社 井上組　代表取締役
〒534 大阪市都島区網島町6番25号
電話06(352)4031～4・06(351)1530
自宅・東大阪市東石切町6丁目4番4号　電話0729(81)2526

石川寛三
石川宏

石川建築事務所
大阪市天王寺区茶臼山111　電話06(779)9491～2
自宅・兵庫県宝塚市雲雀丘山手1丁目5番1号　電話0727 (59) 2963

井上淨夫

株式会社　井上淨夫商店　代表取締役
大阪市西区江戸堀1の101 電話06(441)8531～6
自宅・西宮市甲子園三番町9の5　電話0789(41)4661

飯田精次郎

共同設計株式会社　取締役社長
〒530 大阪市北区富田町9　電話 06(364)5836
〒560 自宅・豊中市本町2丁目2－24　電話068 (52) 5775

石田綽男

株式会社　石田建築研究所　代表取締役
〒108 東京都港区高輪4丁目2番6号　電話03(443)9321
〒155 自宅・東京都世田谷区代沢4-31-6　電話03(422)4452

井上正一

名古屋建築設計事務所　所長
〒453 名古屋市中村区椿町4の28 国鉄会館内　電話052(452)1271大代
052(451)2025直通
〒464 自宅・名古屋市千種区下方町4の30　電話052(711)9400

五十嵐昇

(資)三共建築設計事務所 所長
名古屋市中区下前津町126　電話052(321)9591代
自宅・愛知県東海市名和町 名和住宅5－203
電話0560(63)1068

磯道秀夫

太平建設株式会社 代表取締役
〒790 愛媛県松山市味酒町2丁目13番地17　電話0899(21)2023
〒790 自宅・松山市味酒町2丁目13－16　電話0899(21)2023

井上久雄

株式会社 井上久雄建築設計事務所　代表取締役所長
〒550 大阪市西区京町堀1丁目38　千島ビル
電話06(443)7338代
〒565 自宅・吹田市青山台3丁目20－7　電話068(31)3256

生島道春

日積工務株式会社　代表取締役
〒541 大阪市南区大宝寺町東之丁20番地　電話06(251)3195

一宮能和

日泉化学工業株式会社　専務取締役
大阪市西区土佐堀通り1丁目27の2　タケウチビル
電話06(443)2261
自宅・神戸市灘区篠原南町2ノ23　電話078(871)3479

暑中お見舞申し上げます

昭和47年盛夏

（50音順）

市川繁雄

日本管工業株式会社　取締役社長
〒601 京都市南区西九条豊田町20　電話075(681)5101～5
自宅・京都市左京区下鴨芝本町37　電話075(781)0289

岩崎甚太郎

〒666 自宅・兵庫県川西市花屋敷1丁目32の11
電話0727(59)9317

上村一

株式会社　一級建築士事務所京都建築事務所　代表取締役
京都市中京区三条柳馬場東入中之町10　電話075(211)0562
075(231)5681
自宅・西宮市五月ケ丘3番5号　電話0798(34)4333

稲葉重郎

建財設計工務株式会社　取締役社長
大阪市北区芝田町97　電話06(372)5097
自宅・八尾市山本町南5－13　電話0729(22)3587

岩崎久雄

高千穂電機株式会社　取締役社長
〒534 大阪市都島区中野町4丁目8番10
電話06(358)1171代
〒565 自宅・豊中市新千里南町3丁目34－7
電話068(31)5118

上蓑義一

共立建設株式会社大阪支店　取締役支店長
〒540 大阪市東区谷町5丁目30番地　新野村ビル内
電話06(761)0112代

指宿真智雄

株式会社　建築デザイン1級建築士事務所　代表取締役
大阪市東区南本町4-47イトウビル　電話06(252)4905代
自宅・京都市左京区八瀬野瀬町54　電話075(781)6573

岩崎弘

株式会社教育施設研究所大阪事務所　取締役所長
大阪市西区立売堀北通2の27　電話 06(531)0913
大信ビル2階3階　06(541)7301
〒630 自宅・奈良市法蓮立花町1046　電話0742(22)2217

牛場栄一郎

株式会社　牛場建築設計事務所　代表者
〒557 大阪市西成区南吉田町35番地　電話06(661)3636代
〒557 自宅・大阪市西成区南吉田町35番地　電話06(661)3636

今西茂雄

株式会社　今西建築デザインルーム　代表取締役
〒550 大阪市西区北堀江通2丁目47番地　電話06(541)3051～3
〒550 自宅・大阪市西区北堀江通2丁目47番地　電話06(541)3054

岩崎善雄

恒和化学工業株式会社　取締役社長
〒143 東京都大田区大森北5丁目8番11号
電話03(763)0211

内田成之

須賀工業株式会社　相談役
〒550 大阪市西区土佐堀通1丁目14　電話06(441)5171
自宅・神戸市東灘区御影町西平野字天神山61　電話078(851)9357

今西壽雄

株式会社　今西組　取締役社長
〒54 大阪市天王寺区上本町7丁目2番地の1　上六ビル
電話 06(772)1251
〒59 自宅・大阪府高石市羽衣2丁目4番1号　電話0722(61)1179

岩下哲二

相互建設産業株式会社　設計工務部　主任
〒599-02 大阪府泉南郡東鳥取町山中1134　電話0724(72)4081代
自宅・泉南市幡代596－19

内輪勝

株式会社　創構造建築事務所　代表取締役
〒733 広島市十日市町1丁目2－20　電話0822(91)4495
〒730 自宅・広島市中山299の6　電話0822(89)1658

今元康彦

近畿電気工事株式会社　取締役社長
大阪市北区南扇町11番地　電話 06(312)1281
自宅・豊中市北桜塚4丁目5番5号　電話068(52)5887

岩本義心

野村建設工業株式会社　取締役社長
〒541 大阪市東区高麗橋2丁目9番地　電話06(202)4791代

浦野三男

株式会社　浦野設計事務所　取締役社長
名古屋市西区山田町上小田井字中浦1254の5
電話 052 (502) 1991代
自宅・名古屋市西区山田町上小田井字中浦1254の5
電話 052 (502) 4501

岩井市郎

株式会社　建材社大阪支店　常務取締役 大阪支店長
〒530 大阪市北区中之島2丁目　新朝日ビル
電話06(203)3721

上田良治

A建築事務所　代表取締役
大阪市東区谷町5丁目30 新野村ビル　電話06(768)2941
自宅・寝屋川市本町17の18　電話0720(21)0320

江川好巳

株式会社　山下寿郎設計事務所大阪支社　支社長
〒541 大阪市東区北浜5丁目11番地　新立川ビル
電話06(231)4217

暑中お見舞申し上げます

昭和47年盛夏

（50音順）

榎　栄

株式会社　東峰美建
大阪府大東市赤井1丁目3の23　電話0720(72)1850代

大井弘治郎

株式会社　大井建築設計事務所　代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1丁目76　福岡ビル
電話06(444)4521～2
〒562 自宅・箕面市百楽荘4丁目4－11　電話 0727 (21) 4113

大林芳郎

株式会社　大林組　取締役社長
大阪市東区京橋3丁目75番地　電話 06(941)0861
自宅・神戸市東灘区御影町御影字上の山1682の1
電話078 (85) 2501

小川卯一郎

日本電設工業株式会社大阪営業部　取締役部長
〒531 大阪市大淀区豊崎西通1丁目20番9号
電話06(372)3531代
〒662 自宅・西宮市桜町2－23　電話0798(34)3027

取締役会社　**大木昭**
取締役社長　**近藤喜久二**
株式会社　桂建築設計事務所
〒160 東京都新宿区市谷田町3－8　新杵ビル3階
電話03(269)6411

大森久司

近畿電気工事株式会社　取締役会長
大阪市北区南扇町11番地　電話 06(312)1281
自宅・奈良市今辻子町12　電話0742(22)2390

小川正

株式会社　竹中工務店　常務取締役
〒541 大阪市東区本町4の27　電話06(252)1201

大澤幸平

大幸建設株式会社　取締役社長
〒550 大阪市西区西長堀北通1丁目5番地　電話06(538)0881代
〒560 自宅・豊中市玉井町1丁目8番18号　電話068 (52) 3237

大山昭典

セメダイン株式会社大阪支店　支店長
〒542 大阪市南区大宝寺町東之丁41　電話06(251)3555
〒558 自宅・大阪市住吉区長居町東7丁目26
電話06(691)9002

会長　**小川実**
副会長　**牛場栄一郎**
副会長　**玉置彦一**
副会長　**中井隆三**
社団法人　大阪建築設計協会
大阪市西区土佐堀通5丁目58ヤマタマビル電話06(448)3329

大下繁樹

日成建設株式会社　取締役社長
広島市東白島町17の4　電話0822(28)0281

岡崎俊彦

関東電気工事株式会社　関西支店　支社長
〒541 大阪市東区南久宝寺町3丁目4番1番地
電話06(253)0291
自宅・大阪府豊中市曽根東町3－2－1－904
ベルビュー曽根館9～904　電話068(62)3517

小河吉之助

株式会社　小河建築設計事務所　代表取締役所長
〒542 大阪市南区瓦屋町4の8　電話06(763)2301
自宅・枚方市香里ケ丘12の22の37　電話0720(54)0690

大下順三郎

平和建設株式会社　代表取締役社長
〒536 大阪市城東区関目町1丁目40番地　電話06(939)4741代～5
〒535 自宅・大阪市旭区新森5丁目5番1号　電話06(952)1240

岡橋作太郎

株式会社　日建設計　取締役会長

尾亀清四郎

株式会社　三晃空調　会長
〒530 大阪市北区富田町16　電話06(363)1371
〒573 自宅・枚方市岡山手町15の4　電話0720(41)3427

大場広次

株式会社松田平田坂本設計事務所　大阪出張所長
〒530 大阪市北区堂島上3－10　電話06(344)7821
〒167 自宅・東京都杉並区西荻南4-19-13　電話03(333)2621

岡本行善

株式会社　昭和設計事務所　取締役社長
〒550 大阪市西区西長堀北通1丁目8番地　四ツ橋ビル
電話06(532)3421

置塩光

株式会社　置塩建築事務所

大旗正二

協同組合広島県設計技術センター　代表理事
広島市横川新町7番3号　電話0822(91)7245

岡本全男

篤組建設株式会社　取締役社長
大阪市天王寺区東高津町14－5　電話06(768)1515代
自宅・大阪市西成区玉出本通1-37　電話06(661)3317

暑中お見舞申し上げます

昭和47年盛夏

（50音順）

奥田　政雄

奥田設計室建築事務所　所長
守口市桜町16番地　電話06(992)5808
自宅・交野市大字私部3079　電話0720(91)1556

奥野　晴弘

株式会社 和光建築設計事務所　代表取締役
〒556 大阪市浪速区新川3丁目630　電話06(633)0141～3

海上　静一

株式会社 海上静一建築事務所　代表取締役
〒541 大阪市東区博労町2丁目41番地 中博ビル4F
電話06(271)1149・(261)4428～9
〒591 自宅・大阪府堺市日置荘西町13番地2　電話 0722 (85) 2120

梶本　秀尾

八千代電設工業株式会社　取締役社長
〒540 大阪市東区森之宮東之町392　電話06(941)6581代
〒588 自宅・堺市大美野107の4　電話 0722 (37) 2548

嘉納　伝三

三宝電機株式会社　取締役社長
〒530 大阪市北区絹笠町50　堂ビル内　電話06(364)1471

金子　越郎

鉄建建設株式会社　大阪支店　取締役支店長
〒531 大阪市大淀区天神橋筋6の5　天六阪急ビル
電話06(358)0321代
〒665 自宅・宝塚市川面3丁目4－5　電話0797(86)1333

亀井　晃治

一級建築士事務所
株式会社　A・R・I建築事務所　代表取締役社長
大阪市南区谷町7丁目17の1　新谷町第3ビル
電話06(768)1405代～8
自宅・奈良市中町1丁目479　電話0742(43)1226

川口喜代枝

株式会社　篠田川口建築事務所　所長
名古屋市東区富士塚町3丁目2番地　電話052(962)7581代
自宅・名古屋市千種区稲舟通2丁目7番地　電話052(751)2613

川上　慶次郎

株式会社　鴻池組福岡支店　支店長
〒810 福岡市中央区大名1丁目14番45号　電話092(75)7237
〒660 自宅・尼崎市元浜町1～9　電話06(416)8541

川崎　軍一

近畿電気工事株式会社 広島支社　取締役支社長
広島市稲荷町4番1号　住友生命広島ビル
電話0822(62)1471
広島市宇品御幸2丁目2番2号　電話0822（51）7535

川崎　敬三

株式会社近畿建設
〒550 大阪市西区靭本町4丁目103　電話06(532)0081 代
〒556 自宅・大阪市浪速区新川2丁目666　電話06(632)7369

川谷　勇

川谷建築設計事務所　自営
〒606 京都市左京区一乗寺清水町15　電話075(781)1148代
自宅・京都市左京区一乗寺清水町15　電話075(781)1148代

川廷　誠治郎

神鋼建材工業株式会社　取締役社長
〒660 尼崎市西向島町77番地　電話06(411)－1301代

川中　正道

三協アルミニウム工業株式会社大阪支店　取締役大阪支店長
〒550 大阪市西区靱1丁目123番地 近畿富山会館ビル
電話 06(443)9601

河津　喜之助

河津装飾株式会社　社長
大阪市北区堂島上1の24　電話06(341)1351～3
自宅・豊中市服部本通1の10　電話068(62)6865

河井　覚弘
前川　敬蔵

株式会社河井前川建築事務所　代表取締役
大阪市北区牛丸町65 小林商事ビル　電話06(372)8404 代

柄谷吉太郎

株式会社　柄谷工務店　取締役社長
〒660 尼崎市玄番南之町4番地　電話 06(411)1451
〒662 自宅・西宮市甲子園浦風町9の14　電話0798(41)0700

神崎　吾明

株式会社神崎組　取締役社長
〒670 姫路市北條口86の3　電話0792(23)2021代
〒670 自宅・姫路市北條口62　電話0792 (23) 0210

神部　節男

株式会社 間組大阪支店　常務取締役大阪支店長
〒541 大阪市東区横堀2丁目70番地　電話06(203)2821
自宅・豊中市城山町1－115　曽根ロイヤルハイツ
電話068(62)5251

岸本　貞文

生活美術研究所・岸本貞文建築事務所
〒150 東京都渋谷区恵比寿南2-21-4 電話03(719)1771
〒150 自宅・東京都渋谷区恵比寿南2-21-4　電話03(713)6137

木村　謹次

株式会社木村工務所　取締役社長
大阪市南区南炭屋町38　電話06(271)5678
自宅・大阪市東住吉区平野元町7の14
電話06(791)0834

暑中お見舞申し上げます

昭和47年盛夏

（50音順）

清田文永

株式会社梓建築事務所　代表取締役
〒100 東京都千代田区永田町2丁目14番2号
山王グランドビル9階　電話03(580)4411代
自宅・中野区中野5－37－23　電話03(387)1539

桑田正造

桑田硝子株式会社　取締役社長
〒650 神戸市生田区中野通3の5　電話078(732)6811代
〒653 自宅・神戸市長田区五位ノ池町3の3
電話078(621)3807

小杉茂治

シャープ株式会社　機器営業本部　副本部長
〒545 大阪市阿倍野区長池町22番22号　電話 06(621)1221
〒583 自宅・大阪府羽曳野市野々上5丁目6の7　電話0729(54)4488

工藤建夫
工藤哲夫

工藤雅三建築事務所
〒554 大阪市此花区四貫島大通2丁目12　電話 06(461)0043
06(461)4198・06(461)4393
〒554 自宅・大阪市此花区四貫島大通2丁目12　電話 06(461)9293

小泉昇

株式会社新建技術研究所代表取締役
（旧社名　株式会社大建エンジニアーズ）
大阪市西区江戸堀1丁目52番地 堀田ビル 電話06(441)1366
自宅・摂津市正雀本町2－12－29　電話06(381)5559

小中村繁次郎

富士建設機工株式会社　代表取締役
〒601 京都市南区東九条河西町27番地　電話075(691)0791-2
電話075(691)8224

熊澤六朗

平和建設株式会社　常務取締役
〒536 大阪市城東区関目町1丁目40番地
電話06(939)4741代～5
〒564 自宅・吹田市内本町3丁目23番8号　電話06(381)0451

小泉善重

株式会社　栄和設計事務所　取締役社長
〒553 大阪市福島区堂島浜通4丁目14　電話06(452)1651
〒583 自宅・大阪府羽曳野市高鷲7丁目3番11号　電話0729(55)4416

小西岬

株式会社　田中小西建築事務所　取締役社長
〒550 大阪市西区阿波座南通2の60　電話 06(532)4051
〒546 自宅・大阪市東住吉区平野西脇町373の4　電話 06(701)0297

栗林一勇

松尾建設株式会社福岡支店　取締役支店長
福岡市中央区薬院3丁目4番9号　電話092(52)6761

小坂忠勝

株式会社　東海設計　代表取締役
〒460 名古屋市中区栄3-7-1　電話052(261)2651～3
〒467 自宅・名古屋市瑞穂区岳見町4-20-2 電話052(831)4459

小守義人

相互建設産業株式会社設計部　会社役員
〒599-02 大阪府泉南郡東鳥取町山中1134　電話0724(72)4081代
自宅・泉南郡東鳥取町山中1133-1　電話0724(71)2761

栗林一馬

栗林建築士事務所
和歌山市和歌浦鶴立嶋527　電話0734(44)3623

小崎修

株式会社　ミラノ工務店　取締役会長
〒604 京都市中京区夷川通河原町東入鉾田町310
電話075(231)0177
〒606 自宅・京都市左京区下鴨北園町63番地　電話075(781)0676

小林清

株式会社新住宅社　代表取締役
大阪市北区常安町17番地　電話06(444)4677
自宅・大阪市阿倍野区北畠3丁目1番7号　電話06(651)1594

栗山和三

株式会社シエル石油 大阪発売所 部長
大阪市東淀川区西中島町2-76　電話06(303)7131
自宅・西宮市枝川町1-144-304　電話0798(48)9428

小島勝巳

有限会社小島勝巳建築事務所　取締役社長
〒541 大阪市東区南本町4丁目41番地（イヨビル6階）
電話06(252)8088代表
自宅・西宮市五月ケ丘6番35号　電話0798(33)5120

小林三甫朗

小林住宅産業株式会社 社長一級建築士
大阪市東区南久宝寺町5－18　電話06(251)8371

黒川巳喜

黒川建築事務所　所長
名古屋市昭和区鶴舞町2-10-5電話052(882)0281代
自宅・愛知県海部郡蟹江町大字蟹江新田字鹿島119　電話05679(5)2255

児島義矩

株式会社　巴商会　大阪支店　取締役大阪支店長
〒530 大阪市北区堂島上2－38　電話06(344)1441代
宝塚市雲雀ケ丘1-9-8 メゾン花屋敷203号

小林四郎

太陽工藤工事株式会社　社長
大阪市福島区上福島北2丁目1番地
電話06(452)1151代

暑中お見舞申し上げます

昭和47年盛夏

（50音順）

小林　清一郎

大同鋼板株式会社　取締役社長
〒660 尼崎市杭瀬字午新田22番地　電話06(488)1181

雑賀　孝夫

株式会社雑賀建築設計事務所　代表取締役
和歌山市西汀丁1番地　電話0734(31)1371代
自宅・和歌山市小松原通り5丁目1番地　電話0734(23)5888

佐々木　孝治

真柄建設株式会社大阪支店　取締役支店長
大阪市西区京町堀3の12　電話06(443)0641
自宅・京都市東山区山科東野井上町2－48
電話075(581)5713

小林　得志

株式会社　小林得志建築事務所　代表取締役
〒530 大阪市北区堂島北町20番地　電話06（341）5658代
〒662 自宅・西宮市丸橋町6の16　電話 0798 (66) 2394

佐治　誠次

株式会社　吉田建築事務所　取締役社長
〒550 大阪市西区北堀江上通3丁目22番地
電話06(538)2991代
〒662 自宅・西宮市苦楽園1番町36　電話0798(36)2516

坂内　幾男

坂内建築設計事務所　所長
大阪市西淀川区野里東3－13　電話06(472)0631

小松　英二

東海興業 株式会社大阪支店　専務取締役支店長
大阪市北区梅田町27 サンケイビル　電話06(343)0451

佐藤　音松

株式会社　今西組　取締役会長
〒543 大阪市天王寺区上本町7丁目2番地の1　上六ビル内
電話06(772)1251
〒659 自宅・芦屋市六麓荘町97番地　電話0797(22)2226

阪口　重一

阪口建設株式会社　取締役社長
大阪市東区京橋3の68 北浜ビル2号館
電話06(941)8441

小向　正雄

株式会社　小向商会　社長
〒640 和歌山市小松原通3の1　電話0734(24)6141
〒640 自宅・和歌山市大泉寺丁6　電話0734(22)7771

佐藤　四郎

株式会社　大佛　取締役社長
京都市東山区今熊野大佛池田町9の9
電話075(541)3344代
自宅・京都市東山区今熊野池田町8の4
電話075(561)3725

斎藤　博

株式会社　三晃空調　取締役社長
大阪市北区富田町16　電話06(363)1371
自宅・箕面市百楽荘3－4－3　電話0727(21)2341

高武主計

コータケ建築設計事務所　所長
〒550 大阪市西区江戸堀5丁目155(新山越ビル)
電話06(448)0178・2408
〒550 自宅・大阪市西区北堀江御池通り6丁目21
北堀江コーポ706号　電話06(531)2812

佐藤　次夫

株式会社　佐藤武夫設計事務所　代表取締役
〒105 東京都港区新橋4丁目6番15号　DKB新橋ビル6階
電話03(436)3511
〒156 自宅・東京都世田谷区赤堤1-16-13　電話03(420)5810

四方　靖郎

四方設計工務株式会社
1級建築士事務所　代表取締役社長
〒612 京都市伏見区深草関屋敷町32－2　電話075(641)6324
〒612 自宅・京都市伏見区深草関屋敷町32－2
電話075(641)6091

河内　義就

有限会社　河内義就設計事務所　代表取締役
広島市上幟町2番37号　電話0822(28)2271
自宅・広島市上幟町2番37号　電話0822(21)4808

佐野　正一

株式会社　安井建築設計事務所　取締役社長
〒540 大阪市東区島町2丁目7番地　電話06(943)1371代
〒662 自宅・西宮市雲井町4の9　電話0798 (22) 1569

塩路　寅雄

株式会社 塩路建築事務所　代表取締役
大阪市南区塩町通り3の14 芦池ビル
電話06(251)3231・(271)2495

鴻池　藤一

株式会社　鴻池組　社長
〒541 大阪市東区北久宝寺町4丁目27番地　電話 06(252)3100大代
自宅・京都市北区平野鳥居前町86　電話075(461)1526

佐野　春吉

森井電業株式会社大阪支店　専務取締役
〒530 大阪市北区常安町16　電話06(443)8381代
〒661 自宅・尼崎市東園田町3丁目85-11　電話06(491)9402

品川　二三男

株式会社 品川建築事務所　代表取締役所長
福井市順化1丁目1番19号　電話0776(22)6683
自宅・福井市経田町藤島幼稚園南隣
電話0776(23)3552

暑中お見舞申し上げます

昭和47年盛夏

（50音順）

渋谷幸雄

渋谷金属産業株式会社　取締役社長
大阪市南区鍛冶屋町52　電話 06(211)7333
自宅・八尾市二俣252の7　電話0729(22)8644

城口庸平

株式会社　大阪城口研究所　取締役社長
大阪市北区高垣町1番地　電話 06(372)7151代
自宅・神戸市東灘区本山町岡本214の6
電話078(431)1863

錢高輝之

株式会社　錢高組　取締役社長
〒550-91 大阪市西区阿波座上通3丁目2番地　電話06(531)6431大代

島田勢喜

西松建設株式会社 大阪建築支店　取締役支店長
大阪市東区釣鐘町2丁目41番地　電話06(942)1131代
自宅・豊中市永楽荘2－6－28　電話068(53)5379

須賀孝

須賀工業株式会社　取締役社長
〒550 大阪市西区土佐堀通1丁目14　電話06(441)5171
〒662 自宅・西宮市雲井町6番14号 電話0798(33)0269

仙田四郎

株式会社カンダン　取締役社長
（旧 関西煖房工業株式会社）
〒558 大阪市住吉区万代東6丁目3番地
電話06(672)1281大代

島村忠雄

日本建鐵株式会社 大阪支店 支店長
〒530 大阪市北区梅田町47（新阪神ビル9階）
電話06(341)4331

大阪支所長　菅良春
常勤相談役　福村久
（大阪駐在西日本地区担当）
日本住宅パネル工業協同組合大阪支所
〒530 大阪市北区富田町46番地　第2富田町ビル
電話06(313)3321大代
〒532 自宅・菅・大阪市東淀川区山口町1018　電話06(322)2144
〒565 自宅・福村・大阪府吹田市竹見台2丁目2番4号
電話068(31)8971

副島榮八

株式会社高村電機製作所 取締役社長
本社・大阪市北区河内町2丁目28番地
電話06(358)6351代～5
工場・大阪府八尾市佐堂町3丁目3番12号
電話0729（99）0151代

清水愛明

株式会社 清水工業所 代表取締役
大阪市大淀区南浜町3－14　電話06(372)2851代
自宅・兵庫県西宮市南郷町3－12　電話0798(22)1184

菅澤英夫

大成建設株式会社大阪支店　専務取締役支店長
〒541 大阪市東区本町4の27　電話06(262)1131
〒540 自宅・大阪市東区船越町1－30　大成建設関西寮
電話06(941)4743

田口信夫

株式会社　恵美須建設　代表取締役
〒606 京都市左京区浄土寺馬場町151
電話075(761)1151代
自宅・京都市左京区鹿ケ谷法然院町7
電話075(771)3543

庄野勝

不動建設株式会社　代表取締役社長
大阪市東区平野町5丁目30番地　電話06(201)1121
自宅・大阪市住吉区帝塚山西5-18

杉村正三郎

阪急電気工事株式会社　取締役社長
〒532 大阪市東淀川区十三西之町3丁目34番地　電話06(302)0231-5

田賀勉

株式会社 田賀建築設計事務所　取締役社長
〒650 大阪市西区北堀江通5丁目55番地　原田ビル
電話06(531)7193～5
河内長野市千代田台町13-13　電話07215(3)0455

白井周二

清水建設株式会社　代表取締役副社長（大阪駐在）
〒550 大阪市西区土佐堀通2丁目2番地
電話06(443)5431大代表

隅田正美

第一工業株式会社　大阪支店　取締役支店長
〒530 大阪市北区富田町30番地　電話06(364)6661

田谷清三郎

清光商事株式会社　取締役社長
〒550 大阪市西区西道頓堀通3丁目4番地　電話06(541)1661
〒658 自宅・神戸市東灘区魚崎中町4丁目5番10号112　電話078(411)3396

白石登喜男

株式会社　藤木工務店
〒541 大阪市東区両替町1丁目13番地　電話06(942)1461
〒558 自宅・大阪市住吉区墨江中1の68　電話06(671)3792

瀬戸本典治

三建設備工業株式会社大阪支店　取締役支店長
大阪市都島区都島本通4丁目10番30号　電話06(352)1131代
自宅・宝塚市御殿山2丁目19の1　電話0797(86)1437

田中幸三郎

田中建設株式会社　代表取締役
〒543 大阪市天王寺区北河堀町54　電話06(771)2391代
〒545 自宅・大阪市阿倍野区阪南町5-9-24　電話06(622)0494

暑中お見舞申し上げます

昭和47年盛夏

（50音順）

田中政二

大島應用化学工業株式会社　取締役社長
東大阪市新庄114番地　電話06(782)4171代
06(782)6734代
〒536 自宅・大阪市城東区野江東ノ町4-99　電話06(931)3506

竹腰健造

株式会社　双星社竹腰建築事務所　代表取締役
〒530 大阪市北区堂島中2丁目37-3　電話06(341)6671代
〒662 自宅・西宮市松園町7番22号　電話0798(34)2650

丹司徳藏

アサヒ衛陶株式会社　取締役社長
大阪市住吉区上住吉町1　電話06(673)6001
自宅・大阪市住吉区粉浜東之町4丁目30番地

田中照雄

タナカ風呂　代表者
大阪市浪速区元町1丁目747電話06(649)3726代

竹原永一郎

株式会社伊東建築設計事務所　取締役
大阪市浪速区幸町通2丁目6番地　清光ビル
電話06(562)4343代
自宅・豊中市蛍池西町1丁目1－4　電話068(55)0230

知見義夫

株式会社　斎藤省三商店大阪支店　取締役
〒550 大阪市西区土佐堀通1丁目1番地　大同ビル6階
電話06(443)3361代

田渕誠也

株式会社　田渕建築設計事務所　代表取締役
和歌山市下町19番地　電話0734(31)0261～2
自宅・和歌山市下町19番地　電話0734(31)0261～2

立石行男

中央電気工業株式会社取締役社長
〒530 大阪市北区梅ヶ枝町56番地　電話06(312)8881大代
〒664 自宅・伊丹市西野字下の池入江4－69
電話0727(81)6263

地頭政人

小俣シャッター工業株式会社大阪支店　取締役支店長
〒530 大阪市北区若松町30番地　電話06(364)4825・9004・9016
〒661 自宅・尼崎市武庫庄字正ノ上195の3　電話06(421)5228

田村厚

田村商会　代表者
〒650 神戸市生田区京町72(クレセントビル)　電話078(391)0881代
〒659 自宅・芦屋市月若町2番13-302　電話0797(22)4790

谷口尚武

株式会社　大林組　専務取締役
大阪市東区京橋3丁目75番地　電話06(941)0861

千原大五郎

株式会社　大建設計　取締役副社長
〒550 大阪本社・大阪市西区京町堀2－75
電話06（441）9351代
〒105 東京本社・東京都港区新橋1-10-7　大和銀行新橋ビル
電話03（572）4595代
〒251 自宅・神奈川県藤沢市鵠沼松が岡1－15－25
電話0466（23）3124

高須洪一郎

株式会社　朝日工業社　代表取締役社長
〒532 大阪市東淀川区加島町357番地　電話 06(302)2271
〒663 自宅・西宮市甲子園町3番8号　電話0798(41)0494

谷川丈夫

株式会社 西原衛生工業所大阪店　専務取締役

塚本猛次

株式会社　日建設計　取締役社長

高杉善久

株式会社 大成鉄工所　代表取締役
枚方市大字出口383番地　電話0720(31)7001代～8

橘春重

橘建築事務所　所長
大阪府東大阪市御厨16　電話06(781)0937
自宅・奈良県生駒市新旭ケ丘11番34号
電話07437(3)2401

辻本豊

辻本豊設計事務所　所長
和歌山市東長町中の丁12－3　電話0734(24)6346
自宅・和歌山市東長町中の丁12－3　電話0734(24)6347

高橋慶夫

株式会社 大建設計　取締役社長
〒550 大阪市西区京町堀2丁目75　電話06(441)9351

橘泰治

東邦パーライト株式会社　取締役社長
〒540 大阪市東区森之宮西の町594　電話06（941）9243
自宅・堺市若松台3丁26番3号　電話0722(91)2267

恒成一訓

合名会社 つねなりすたじお　代表者
〒541 大阪市東区北浜3丁目40　電話06(231)0141
自宅・豊中市玉井町2－8－20　電話068(41)2659

暑中お見舞申し上げます

昭和47年盛夏

（50音順）

津村　芳仁

オリエンタルメタル製造株式会社　代表取締役
〒660 尼崎市昭和南通り3丁目26番地（松本ビル）
電話06(412)5131

内藤　一真

株式会社竹内建築事務所 代表取締役
大阪市南区長堀橋筋2丁目35の1 日亜ビル 電話06(211)2706代
自宅・大阪市阿倍野区王子町4丁目1番8の303号
電話06（623）7385

中原　茂

株式会社 中原茂建築事務所 代表取締役
大阪市西区靱本町3丁目90番地　岡崎橋ビル
電話06(445)0039

寺田　徳重

大成建設株式会社　取締役
〒541 大阪市東区本町4丁目27　電話06(262)1131
〒562 自宅・大阪府箕面市桜井2丁目4－39
電話0727(21)4641

内藤　正克

株式会社 内藤建築設計事務所　代表取締役所長
〒675-13 兵庫県小野市上本町240小野ビル　電話07946(2)4757代
自宅・兵庫県小野市久保木町1063　電話07946(2)4668

中田　亮吉

株式会社 日本総合建築事務所取締役社長
〒150 東京都渋谷区神南1－12－16　電話03(463)5020代
〒143 自宅・東京都大田区山王1-29-3　電話03(771)2408

傳馬　正明

サン建工株式会社　取締役営業部長
大阪市西区北堀江上通3丁目22番地(久竹ビル)
電話06(532)2881

代表取締役社長 **中井惣一郎**
代表取締役社長 **中井康勝**
株式会社　中井總組
尼崎市常光寺元町1－3　電話06(481)5461代

中村　豊

株式会社 日邦建築企画設計　代表取締役
〒530 大阪市北区梅ヶ枝町114　関西ビル　電話06(362)1767・9697
〒600 自宅・京都市下京区七条通東堀川西入八百屋町12
電話075(371)2755

東畑謙三

株式会社　東畑建築事務所　代表取締役
〒541 大阪市東区伏見町5－19　電話 06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉町縄手下1680　電話 078(851)5043

中川　匠

中川匠建築設計事務所　所長
大阪市北区浪花町38 新興ビル　電話06(371)3651
自宅・宝塚市米谷石田18　電話0797(86)2391

理事長 **中村文夫**
所長 **坂　静雄**
財団法人　日本建築総合試験所
本　所・大阪府吹田市藤白台5の125　電話068(72)0391
大淀分室・大阪市大淀区長柄西通2の35　電話 06(351)7217

時山龍太郎

時山設計事務所　所長
〒530 大阪市北区曽根崎上2丁目21番地 美都ビル　電話06(361)6248
〒532 自宅・大阪市東淀川区三国本町2の127　電話06(393)9557

中川　真佐吉

アポロ印刷株式会社　代表取締役
大阪市東区北新町2丁目7　電話06(942)2951～5

中本　正明

中本電気株式会社　取締役社長
〒536 大阪市城東区野江東之町3－15　電話06(931)7341代
〒573 自宅・枚方市香里丘7丁目3－14
電話枚方局(54)0578・0688

富田光男

丸善冷熱工業株式会社　代表取締役
〒556 大阪市浪速区河原町2丁目1470番地(丸善ビル)
電話06(631)1431代
〒573 自宅・大阪府枚方市三栗1丁目13ノ5　電話0720(56)4451

中川道夫

日研工業株式会社　代表取締役
〒530 大阪市北区大工町50(千代田第一ビル)　電話06(352)3035
自宅・高槻市日吉台2－11－3　電話0726(82)5923

永井賢城

株式会社　久米建築事務所　取締役社長
〒106 東京都港区西麻布1丁目13番11号　電話03(403)0251大代
〒251 自宅・藤沢市鵠沼海岸2丁目8の26　電話0466(36)7706

友田俊夫

友田工業株式会社　代表取締役
〒534 大阪市都島区都島中通3丁目3番6号　電話06(921)0331

中澤誠一郎

株式会社　中澤建築事務所　代表取締役
〒530 大阪市北区富田町38 高橋ビル北5号館
電話06(363)3881
〒570 自宅・守口市滝井元町3の27　電話06(991)1848

永田鼎三

大阪電気暖房株式会社　相談役
〒550 大阪市西区江戸堀1の60　電話06(441)8231
〒560 自宅・豊中市上野東3の2の10　電話068(55)3710

暑中お見舞申し上げます

昭和47年盛夏

（50音順）

長井　誕

理研鋼機株式会社大阪支店　支店長
〒541 大阪市東区南久宝寺町4丁目7（三興ビル5階6階）
電話06(245)0221代
〒665 自宅・宝塚市雲雀丘3丁目13−15　電話0727(59)8910

根津　耕一郎

株式会社根津建築事務所　代表取締役
〒530 大阪市北区梅ヶ枝町81（大阪弁護士ビル）
電話06(364)8301代
〒665 自宅・宝塚市川面6丁目19番10号
電話0797(86)7862

浜口幹三郎

株式会社　淺沼組　専務取締役
〒543 大阪市天王寺区東高津町8の1　電話06（762）0251
〒631 自宅・奈良市二名町3336−7　電話0742(44)3237

長屋　齊

株式会社 朝日建築事務所　代表取締役所長
〒540 大阪市東区内本町橋詰町39番地　電話06(941)3928
〒565 自宅・吹田市青山台3丁目1の19　電話068(31)5781

野網俊雄

西日本規格サッシ株式会社　代表取締役
大阪市浪速区敷津町3の20(建団連会館)
電話06(641)5859・6018

原　正太郎

アスニュー工業株式会社　取締役社長
大阪市東淀川区西中島町1丁目125番地
電話06(301)9081

丹羽武男

株式会社高島屋工作所　専務取締役
〒562 大阪府箕面市粟生新家805番地
電話0727(29)2631大代
〒607 自宅・京都市東山区山科御陵天徳町29番地
電話075(581)0902

野崎謙三

株式会社山下寿郎設計事務所社長
〒104 東京都中央区八丁堀2−7−1　電話03(552)8311

原　精一

甲南建設工業株式会社　代表取締役
〒532 大阪市東淀川区十三西之町4丁目3番地　電話06(302)1551代
〒662 自宅・西宮市名次町12番9号　電話0798(22)1504

西嶋徳太郎

株式会社　大建設計　取締役副社長
〒550 大阪市西区京町堀2−75　電話06（441)9351

能勢善樹

株式会社能勢建築構造研究所　代表取締役
〒550 大阪市西区靭本町2丁目107　新興産ビル
電話06(538)0378〜9

原田重信

原田セメント化工株式会社
大統商事株式会社　代表取締役
泉州生コンクリート工業株式会社
電話06(462)1212代
〒554 大阪市此花区朝日橋通2−13電話06(462)1421代
電話06(462)1471代
〒661 自宅・尼崎市塚口町3丁目41の8　電話06(421)4518

西田太郎

西田工業株式会社大阪支店　取締役副社長本店長
〒531 大阪市大淀区中津本通3丁目5番地　電話06(371)7371
自宅・吹田市佐竹台3丁目8−8　電話068(71)3447

萩正勝

株式会社萩建築設計事務所　代表取締役
〒153 東京都目黒区青葉台2−20−14　電話03(719)1734代

原田守蔵

原田今商事株式会社　代表取締役
〒550 大阪市西区西長堀南通3の8　電話06(541)7455代
第2鶴崎ビル
〒581 大阪府八尾市小坂合町3丁目4の16　電話0729(22)6710

常任顧問 **西田康治**
支店長 **樽田光男**
島藤建設工業株式会社大阪支店
大阪市北区茶屋町31−2　電話06(372)6001代

橋本正二

鹿島建設株式会社大阪支店　常務取締役支店長
大阪市東区瓦町5−71　電話06(203)3381大代

畠中繁

株式会社翼建築設計事務所　代表取締役
大阪市西区靭1丁目130　電話06(441)2288
自宅・京都市右京区花園木辻南町12
電話075(462)2495

西村虎一

株式会社内外寫眞　代表取締役社長
〒530 大阪市北区堂島北町16番地　電話06(343)1727

橋本久清

吉野石膏株式会社 大阪支店　取締役支店長
〒530 大阪市北区堂島浜通1−25(新大ビル)
電話06(344)6691

林唯夫

株式会社昭和設計　取締役専務
〒550 大阪市西区西長堀北通1丁目8番地四ッ橋ビル
電話06(532)3421

暑中お見舞申し上げます

昭和47年盛夏

（50音順）

伴　秀雄

株式会社西原衛生工業所大阪店　取締役会長
〒531 大阪市大淀区中津南通4丁目11番地　電話06(458)3531

福田好雄

社団法人 日本サッシ協会関西支部　関西支部長
〒556 大阪市浪速区敷津町３－20(建団連会館内)
電話06(641)5859・6018

藤岡正一

藤岡設計事務所　所長
〒759-41 長門市仙崎　漁協ビル20号室　電話08372（６）1580
〒759-44 自宅・山口県大津日置村古市　電話08373(7)101

日名命雄

建築コンサルタント事務所 関西　所長
〒541 大阪市東区安土町２の12 トヤマビル
電話06(271)4103
〒560 自宅・豊中市旭ケ丘９番64の１　電話068(56)0200

福中定三郎

社団法人　日本建築協会　常務理事
〒541 大阪市東区北浜３の３７　電話 06(231)9648
自宅・枚方市香里園町２６の６８　電話0720(31)0549

藤木鐵三

株式会社　藤木工務店　取締役社長
大阪市東区両替町１の１３　電話06(942)1461代

平田作太郎

株式会社　平田タイル　社長
大阪市西区阿波座中１の５　電話06(532)1234代
自宅・京都市下京区綾小路通大宮東　電話075(801)1806

福永薫

株式会社 福永建築設計事務所　代表取締役
〒542 大阪市南区順慶町通４の６１　電話06(251)3102
〒542 自宅・大阪市南区順慶町通４の61　電話06(251)5189

藤田邦昭

株式会社 都市問題経営研究所　所長
〒530 大阪市北区太融寺町98－５(阪急東ビル)
電話06(312)3918
〒658 自宅・神戸市東灘区本山町岡本宝蔵　岡本ハウス605
電話078(411)3989

広谷嘉秋

合資会社中建築設計事務所　代表社員
名古屋市中区西瓦町19(石瀬ビル)　電話052(262)4411
自宅・名古屋市千種区月ケ丘2丁目-2-83
電話052(711)8010

福村久

日本住宅パネル工業協同組合大阪支所　理事兼支所長
〒530 大阪市北区富田町46番地(第二富田町ビル)
電話06(313)3321
自宅・吹田市竹見台２丁目２番４号　電話068(31)8971

藤村清一

株式会社　日新建築設計事務所　代表取締役
大阪市北区壺屋町１丁目66番地　電話06(352)6161
自宅・奈良市中山町937番地の37　電話0742(44)0201

福田朝生

株式会社 双星社竹腰建築事務所　代表取締役
〒530 大阪市北区堂島中２丁目37　電話06（341)6671
〒677 自宅・西宮市甲子園砂田町2番8号　電話0798(48)0989

福賴圭藏

株式会社　新興建材工業所　取締役社長
〒550 大阪市西区南堀江通６の３９　電話06(541)5757代
〒558 自宅・大阪市住吉区住吉町242の22　電話06(673)5120

古屋才兵衛

日新工業株式会社大阪支店 取締役支店長
〒533 大阪市東淀川区瑞光通4丁目30番地の2　電話06(329)7737代
〒533 自宅・大阪市東淀川区瑞光通4-30-2　電話06(328)3343

福田鋼一

株式会社桜井建築設備研究所大阪事務所
常務取締役所長
〒550 大阪市西区靭本町１の50（第２富士ビル）
電話06(443)7891

船橋明

高砂熱学工業株式会社 大阪支店　取締役大阪支店長
大阪市北区芝田町55(北阪急ビル)　電話06(372)2511

星廣文

平和建設株式会社　常勤嘱託
〒536 大阪市城東区関目町１の40　電話06(939)4741～５代
〒571 自宅・門真市城垣町７の６　電話0720（81）１３１８

福田博臣

西日本建設業保証株式会社　取締役社長
〒540 大阪市東区上町５番地　電話06(762)5701代
〒631 自宅・奈良市学園大和町1丁目179　電話0742(45)8817

藤井章

株式会社　藤井工業所　取締役社長
大津市本宮２の２の９　電話0775(23)0119代
自宅・京都市左京区松ケ崎泉川町２３
電話075(781)5333

星野健児

日生不動産株式会社　代表取締役社長
〒541 大阪市東区本町４丁目１　電話06(262)2841代

暑中お見舞申し上げます

昭和47年盛夏　（50音順）

堀田雅邦

新日本空調株式会社 大阪支店　支店長
〒530 大阪市北区堂島浜通り1丁目25番地の1(新大ビル)
電話06(344)6031代
自宅・尼崎市七松町2－13－4　電話06（417）3613

松丸哲也

豊國建設株式会社　代表取締役社長
〒530 大阪市北区天満橋筋4－30　電話06(353)1001代
〒663 自宅・西宮市甲子園口北町20－21　電話0798(67)2787

三上富三

株式会社 汎美建築設計事務所　代表取締役
京都市中京区御池通堺町西入御所八幡町225
電話075(231)4638・6472
自宅・京都市中京区御池通堺町西入御所八幡町225
電話075(231)4638・6472

布袋國雄

東西建築サービス株式会社　取締役社長
〒541 大阪市東区横堀2丁目48番地　電話06(202)3626

松村雄吉

株式会社 松村組　代表取締役会長
大阪市北区空心町1の70　電話06(353)1131

三木亮

株式会社 三木組　代表取締役
〒532 東淀川区元今里南通3の13　電話06(302)1451 代

取締役会長 **本田史郎**
取締役社長 **鈴木利定**
本田工業株式会社
大阪市北区芝田町65　電話06(372)0371代

松村雄二

株式会社 松村組　代表取締役社長
大阪市北区空心町1の70　電話06(353)1131

三好幸男

第一建設工業株式会社　取締役社長
大阪市東区今橋1～2　電話06(203)2931
〒541 箕面市桜ケ丘3-11-31

前野慶太郎

株式会社 あめりか屋　取締役社長
〒530 大阪市北区常安町17　電話06(444)1501
〒659 自宅・芦屋市翠ケ丘町4番18号　電話0797(22)2005

松本栄治

株式会社新日本技術コンサルタント　取締役社長
〒542 大阪市南区長堀橋筋1丁目3番　電話06(271)1251大代
（丸善石油ビル内）
自宅・西宮市平木町8番27号　電話0798(66)0032

三輪泰司

株式会社 地域計画・建築研究所　代表取締役所長
〒606 京都市左京区下鴨上川原町69
（市電植物園電停前）　電話075(711)2161
自宅・京都市伏見区桃山南大島町95の45
電話075(601)3962

前原明治

株式会社前原設計事務所　代表取締役
〒700 岡山市富田町2丁目7－4　電話0862(24)1400
〒700 自宅・岡山市富田町2丁目7－4　電話0862(23)5340

松本六郎

松本金物株式会社　取締役社長
〒543-9 大阪市天王寺区上綿屋町6　電話06(779)1581大代

水野喜一郎

水野建設株式会社　取締役社長
本社・京都市下京区西七条市部町77番地　電話075(312)0431代

松岡晃一郎

アイエム換気工業株式会社　代表取締役
〒556 大阪市浪速区芦原町1183　電話06(561)3901
自宅・堺市車之町東2丁2番9号　電話0722(38)2582

丸田操

株式会社 マルタ建築事務所　代表取締役
東京都千代田区神田須田町1－24(西場ビル)
電話03（254）1956
自宅・埼玉県浦和市岸町7丁目10番10号
電話0488(22)9405

南長吉

斎久工業株式会社　大阪支店　代表取締役
大阪市北区常安町11番地　電話06(443)5041

代表取締役会長 **松田昌平**
代表取締役所長 **松田順吉**
株式会社　松田設計事務所
〒812 福岡市博多区綱場町2番1号　明治屋ビル
電話092(27)7441代表

丸山信

株式会社　丸山建築事務所　代表取締役
〒107 東京都港区北青山3丁目5番25号　電話03(401)2287・6703
〒107 自宅・東京都港区南青山3の11の1　電話03(401)3328

宮飼克二

社団法人　日本建築協会兵庫支部　支部長
神戸市生田区下山手通5丁目23　兵庫建設会館内
電話078(35)2800
自宅・明石市人丸町2の47　電話078(911)2298

暑中お見舞申し上げます

昭和47年盛夏

（50音順）

宮後　健

株式会社　宮後建築事務所　代表取締役
〒543 大阪市天王寺区上汐町6の35　電話06(772)0165代
〒546 自宅・大阪市東住吉区山坂町1丁目5番地
電話06(622)5130

宮武　伊三郎

大阪建設業協会　事務局長
〒541 大阪市東区京橋3－70　電話06(941)3651

村石　秋吉

浪速合板株式会社　取締役社長
〒556 大阪市浪速区幸町3丁目2番地の1　電話06(561)2201代
〒659 自宅・芦屋市岩園町10番16の401号
電話0797(31)2643

村川　一雄

株式会社バンデックス・ジャパン関西営業所　代表取締役
信越化学工業グループ
〒530 大阪市北区伊勢町19-2 高橋ビル北2号館
電話06(312)5765～7

村田　よ志子

明研化学工業株式会社　代表取締役
〒673 明石市藤江中谷町888番地　電話078(913)3456代
自宅・神戸市垂水区塩屋町西の田164
電話078(751)4186

村田　隆次

安藤建設株式会社　大阪支店　取締役大阪支店長
〒553 大阪市福島区上福島北通1丁目17番地の1
電話06(453)2190

村本　豊嗣

村本建設株式会社　代表取締役社長
奈良県北葛城郡広陵町大字安部547　電話0745(55)1151

室谷　山水

室谷商事株式会社　取締役社長
〒650 神戸市生田区北長狭通4丁目1　英和ビル
電話078(331)0881
〒650 自宅・神戸市生田区山本通4丁目108の37
電話078(221)5050

森　三郎

日刊建設通信関西支社　常務取締役
支社長
大阪市西区京町堀1の68　電話06(444)4451代

盛　道雄

株式会社盛　工　務　店　代表取締役
〒531 大阪市北区南森町47番地(成興ビル)
電話06(364)1581代
〒665 自宅・宝塚市清荒神4丁目14－18
電話0797(86)2431

矢橋　亮吉

株式会社　矢橋大理石商店　代表取締役
大垣市赤坂町273　電話0584(71)1211

八十島　健二

株式会社　竹中工務店　常務取締役
〒541 大阪市東区本町4丁目27　電話06(252)1201
〒662 自宅・西宮市甲子園2番町5の30　電話0798(41)0598

大和　正信

株式会社　大和建築事務所　取締役社長
〒550 大阪市西区京町堀2丁目173　電話06(441)0741代
〒546 自宅・大阪市東住吉区平野野堂町367
電話06(709)3928

安田　誠一

安田株式会社　会長
大阪市南区末吉橋通1丁目17　電話06(251)7091代

藪本　芳一

藪本建築士事務所
和歌山市東長町10丁目13　電話0734(22)9930
自宅・和歌山市東長町10丁目13　電話0734(22)9930

藪本　弦三

株式会社　笹川組　取締役社長
〒520 大津市打出浜13番15号　電話0775(23)2314代表
〒520 大津市中央4丁目2－6　電話0775(22)6498

山内　栄一

近庄化学株式会社　代表取締役
〒604 京都市中京区四条大宮西入る壬生川通角
電話075(821)2111代
〒600 自宅・京都市下京区黒門通高辻上る今大黒町206
電話075(801)6828

山口　吾郎

不二建設株式会社　取締役社長
〒550 大阪市西区阿波座上通4丁目8番地　電話06(541)5534代
〒665 自宅・宝塚市雲雀丘1丁目13番25号　電話0727(59)2018

山崎　敏明

辰巳興業株式会社　取締役社長
〒650 神戸市生田区栄町2丁目21　電話078(321)0655代
〒662 自宅・西宮市五月ケ丘5の7　電話0798(26)2763

山下　密男

合同特許建材工業株式会社　代表取締役
〒546 大阪市東住吉区駒川町3の54　電話06(702)7814代
〒546 自宅・大阪市東住吉区田辺東之町3の193　電話06(621)9086

暑中お見舞申し上げます

昭和47年盛夏

（50音順）

山田新治郎

株式会社　山田建築事務所　代表取締役

〒530 大阪市北区万才町43　浪速ビル　電話06(312)0937代

〒564 自宅・摂津市千里丘5丁目9番21号　電話06(388)0119

湯浅武夫

湯浅建築設計事務所　所長

大阪市東区南久太郎町3丁目32　電話06(245)0701～2

堺事務所・堺市浅香山町3丁10の3　電話0722(32)8714

和田眞一

株式会社 東　和　組　代表取締役

〒530 大阪市北区梅ケ枝町175　電話06(363)4051

〒659 自宅・芦屋市公光町3番8　電話0797(22)3282

山田恒治

株式会社 山田工務店　取締役社長

〒651 神戸市葺合区八雲通1丁目4番地 電話078(221)1013代

電話078(231)5601代

〒652 神戸市兵庫区山田町大池29　電話078(581)2055

吉村幾蔵

株式会社　間　組　専務取締役関西駐在

〒541 大阪市東区横堀2丁目70番地　電話06(203)2821

自宅・東京都北区西ケ丘1-2-13　電話03(900)0601

渡辺勇

株式会社 間組広島支店　支店次長

〒730 広島市大手町5丁目3番18号(共立ビル)

電話0822(44)1241代

〒465 自宅・名古屋市千種区神丘町2の48の3

電話052(701)4203

山中茂一

栄興建築株式会社　取締役社長

〒531 大阪市大淀区中津浜通2－66　電話06(371)5056～7

電話06(372)2026～8

〒546 自宅・大阪市東住吉区西鷹合町3丁目1番地

電話06(691)8771

吉田信武

株式会社　吉田建築事務所　取締役会長

〒550 大阪市西区北堀江上通3丁目22番地

電話06(538)2991代

〒574 自宅・大阪市住道1丁目7－5 電話0720(72)0406

渡辺忠

東洋シャッター株式会社　代表取締役会長

〒540 大阪市東区谷町5丁目30番地 新野村ビル

電話06(762)5861代

〒560 自宅・豊中市緑丘3丁目21番8号　電話068(56)0988

常務取締関西駐在

山田豊

常務取締役支店長

高木政夫

大日本土木株式会社　大阪支店

吉田廣助

株式会社　ナ　ニ　ワ　代表取締役

大阪市生野区巽大池町132　電話06(757)1101代

自宅・大阪市天王寺区鳥ケ辻町61　電話06(771)9123

渡辺正雄

株式会社 大都リッチランド　代表取締役

大阪市北区南扇町5番の1　電話06(313)2921代

山本博三

朝陽電気株式会社　代表取締役

〒530 大阪市北区中之島3の3　朝日ビル内

電話06(385)1361

〒565 自宅・吹田市藤白台4丁目23番8号 電話068(72)9087

米田良男

株式会社米田工務店　代表取締役社長

大阪市天王寺区逢阪上ノ町7番地　電話06(771)7771

自宅・大阪市天王寺区逢阪上ノ町7番地

電話06(771)0155

渡辺紋左衛門

渡辺建築設計事務所　所長

〒510 四日市市中部11－9　電話0593(53)5505代

〒512 自宅・四日市市東富田町13－8　電話0593(65)2523

追補

山本良勝

佐藤工業株式会社大阪支店　常務取締役大阪支店長

大阪市東区北浜1－25　電話06(203)7221

自宅・豊中市末広町1丁目6－27　電話07633(2)2763

若林繁吉

二葉屋装備工業株式会社　社長

〒531 大阪市大淀区本庄川崎町2丁目6番地

電話06(371)3321～3・3630

〒605 自宅・京都市東山区清水2丁目232番地

泉沢哲史

株式会社 泉沢建築設計事務所　代表取締役

大阪市北区真砂町48-1(オオシマビル)

電話06(364)9071

山本禎弥

山本窯業化工株式会社　代表取締役

大阪府摂津市東別府1-3-6 電話06(381)9131

自宅・吹田市南409の7　電話06(381)5171

鷲尾健三

明石工業高等専門学校長

〒674 明石市魚住町西岡　電話07894(6)0375

日本建築協会法規委員会

法令コーナー

質疑などの投稿をお待ちしております。

消防法施行令の一部改正について

すでに実施されてきております防炎規制について，防炎防火対象物の追加指定ならびに防炎物品の追加を主な内容として、消火設備、警報設備に関する基準の一部強化の改正(47．1．21付政令第５号）が行なわれましたので、その概要について説明させていただきます。（条文は紙面の都合もありますので省略させていただきます）

第一　防炎規制に関すること

1．防炎防火対象物の拡大

現在指定されている防炎規制の対象となる防火対象物（防炎防火対象物という）に，新たにトルコ浴場，サウナ浴場等の特殊浴場が加えられました。すなわち，従来防炎防火対象物は消防法第８条の三（以下，法という）ならびに消防法施行令第４条の三（以下，令という）で指定され，高層建築物（高さが31メートルをこえる建築物），地下街のほか，令別表第一(一)項(興行場等)，(二)項(キャバレー，遊技場等)，(三)項(料理屋，飲食店等)，(四)項(百貨店，マーケット，物品販売店舗等)，(五)項イ（旅館，ホテル等)，(六)項（病院，診療所，その他各種施設，幼稚園等)，(七)項ロ（映画，テレビスタジオ）の防火対象物と，工事中の建築物，その他の工作物（消防法施行規則第４条の三で指定）となっておりましたが，今回の改正で，これらのもののほかに，(九)項イ（公衆浴場のうち，トルコ浴場サウナ浴場その他これらに類するもの）の防火対象物が加えられました。（令第４条の三第一項の一部改正）

2．防炎規制物品の拡大

防炎性能を有しなければならない物品は法第８条の三および令第４条の三で指定されておりますが，これらのものに新たに物品を追加して改正が行なわれ，防炎規制物品はカーテン，布製のブラインド，暗幕，展示用合板または繊維板（ただし，植物繊維を主原料としたものに限る），どん帳，その他舞台において使用する幕および舞台において使用する大道具用の合板または繊維板並びに工事用シートということになり，このうちアンダーラインの物品が新たに加えられたものです。（令第４条の三第３項の一部改正）

3．防炎性能基準の整備

この改正に伴ない防炎性能基準も整備されました。すなわち，防炎性能のおのおのについての基準は令第４条の三第４項並びに規則第４条の三第２，第３，第４項で定められておりますが，これらのうち，令第４条の三第４項の物品の残炎時間(着炎後バーナをとり去ってから炎を上げて燃える状態が止むまでの経過時間）５秒を10秒に，物品の残じん時間（着炎後バーナをとり去ってから炎を上げずに燃える状態が止むまでの経過時間）20秒を30秒に，物品の炭化面積(残炎時間または残じん時間内において炭化する面積）40平方センチメートルを50平方センチメートルに改められたほか，物品の炭化長（残炎時間または残じん時間内において炭化する長さ）の最大値は20センチメートルとするの規定が加えられました。もちろんこれに関しての規則の方の改正も近く行なわれることになります。

第二　消火設備に関すること

消火設備とは，水その他の消火剤を使用して消火を行なう機械器具または設備であって，その種類は令第７条第２項に掲げられてありますように，消火器および簡易消火用具（水バケツ，水槽，乾燥砂），屋内消火栓，スプリンクラー，水噴霧，泡，不燃性ガス，蒸発性液体，粉末，屋外消火栓，動力消防ポンプの各設備でありますが，今回の改正で，これらのうち簡易消火用具に膨張ひる石または膨張真珠岩が加えられました。これらはアルキルアルミニウム，金属ナトリウム，金属カリウム等の火災に使用する消火剤であることはご承知のことと思います。

1．スプリンクラー設備

令第12条はスプリンクラー設備を設置しなければならない防火対象物とスプリンクラー設備の設置についての技術基準を定めていますが，今回の改正で，新たにラック式倉庫についてもスプリンクラーを設置しなければならないこととなりました。すなわち，最近，各地に建設されるラック式倉庫については，かねがね何らかの消火設備が必要であるといわれていたもので，一応スプリンクラー設備を設置させるものとされたもので，その対象は令別表第一(十四)項(倉庫)に掲げる防火対象物のうち，天井の高さが10メートルをこえ，かつ延べ面積が 700平方メートル以上のラック式倉庫（棚またはこれに類するものを設け，昇降機により収納物の搬送を行なう装置を備えた倉庫をいう）の場合は，スプリンクラー設備を必要とするというものであります。なお，このほかスプリンクラーヘッドのとりつけ基準等，一部の改正が行なわれておりますが省略いたします。（令第12条第１項および第２項の一部改正）

第三　警報設備に関すること

警報設備とは，火災の発生を報知する機械器具または設備であって，この種類は令第７条第３項に掲げられておりますように，自動火災報知設備，漏電火災警報器（従来は電気火災警報器といっておりましたが，今回改称されました），消防機関へ通報する火災報知設備，警鐘，携帯用拡声器，手動式サイレンの警報器具と非常ベル，自動式サイレン，放送設備の警報設備であります。

1．自動火災報知設備

自動火災報知設備（俗に感知器といっております）を設置しなければならない防火対象物は，令第21条第１項各号に列記されているものでありますが，さきの防炎防火対象物に加えられましたトルコ，サウナの特殊浴場については延べ面積が200平方メートル以上となる場合は，自動火災報知設備を設置しなければならないものとされました。（令第21条第１項第１号の二の追加）

2．非常警報設備

非常警報器具および非常警報設備は，それぞれの防火対象物における収容人員に上って区分され設置するよう令第24条第１項，第２項において規制されておりますが，今回の改正でトルコ浴場，サウナ浴場等の特殊浴場(九)項イが新たに加えられ，(五)項イ(旅館，ホテル，宿泊所)，(六)項イ(病院，診療所，助産所)とともに，これらの対象物にあっては収容人員が20人以上で非常警報設備を設けなければならないとされました。

第四　消火活動上必要な施設に関すること

消火活動上必要な施設とは，高層，大規模な防火対象物または特殊用途に供する対象物およびその部分における消防隊の消火活動を容易にするための施設として設置してもらうものであって，令第７条第６項に排煙設備，連結送水管および非常コンセントとあります。このたびの改正でこれに連結散水設備が加えられました。すなわち，令第28条の二の規定が新設され，連結散水設備（送水口と配管と散水ヘッドから構成されていて，水源および加圧送水装置をもたないもの）は，令別表第一に掲げる防火対象物で地階の床面積の合計が 700平方メートル以上のものに設置するものとされましたので，それぞれ防火対象物で地階の部分の床面積の合計が700平方メートル以上となりますと，その地階の各部分には散水ヘッドを設置しなければならないことになります。なお，散水ヘッドの型式，性能，とりつけの基準等は近く省令（規則）で示されることになります。

第五　令別表第一に関すること

令別表第一というのは，各防火対象物をそれぞれの用途ごとに分類して，一の防火対象物を( )項対象物と呼称して，消防法令の適用の対象としています。ちなみに劇場等は令別表第一(一)項イの防火対象物であって，さきの消防用設備等の設置については，各消防用設備に関する基準の各条各項に示す基準によって設置しなければならないということとしております。今回の改正では(四)項対象物は，百貨店，マーケットでありますが，これに「その他の物品販売業を営む店舗又は展示場」が加えられました。これらのものは従来(五)項対象物として，とり扱われておりましたが，(四)項ということになりますと，いちだんと規制の内容がきびしくなるわけであります。また，(七)項対象物のなかには，「高等専門学校，その他これらに類するもの」が加えられました。その他これらに類するものとしては，例えば消防学校，警察学校，○○料理専門学校といったものが含まれることになります。(九)項対象物は現在，公衆浴場ということになっておりますが，これを(九)項イとして，公衆浴場のうち，トルコ浴場，サウナ浴場，その他これらに類するものと，(九)項ロをイに掲げる特殊浴場以外の公衆浴場その他これらに類するものというように区分して指定されました。

第六　令別表第四に関すること

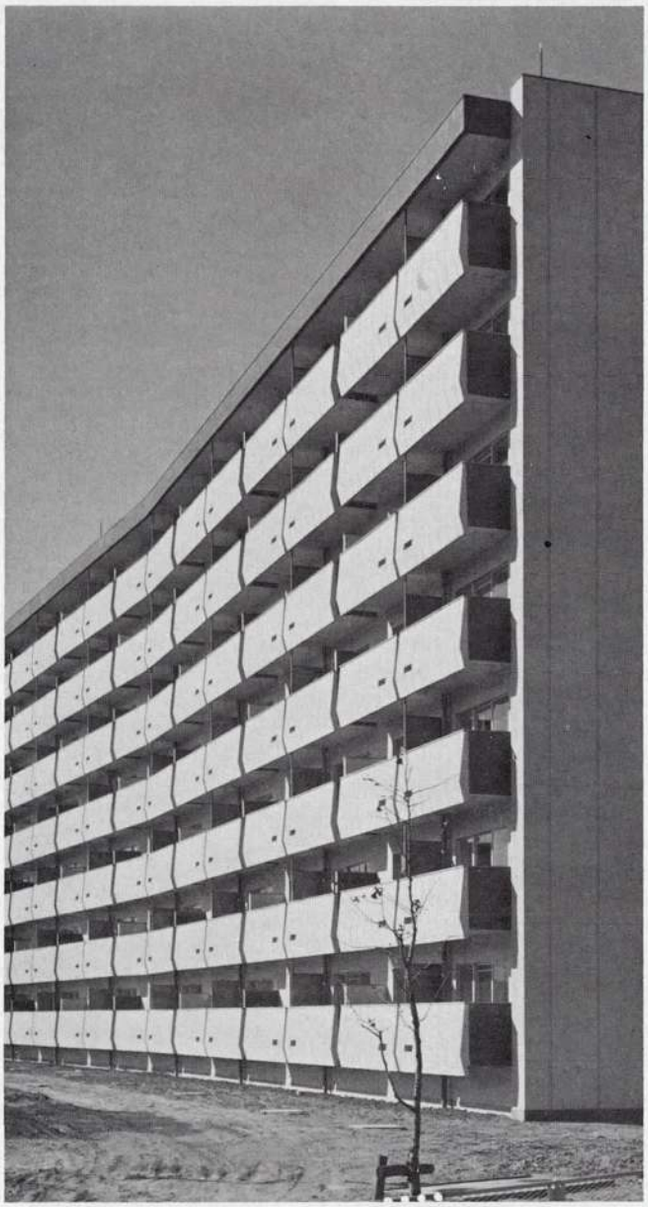
令別表第四は消火器具と対象物の区別表であります。つまり，それぞれの消火器具の適応防火対象物を表としてまとめたものであります。（表の登載は省略いたします）

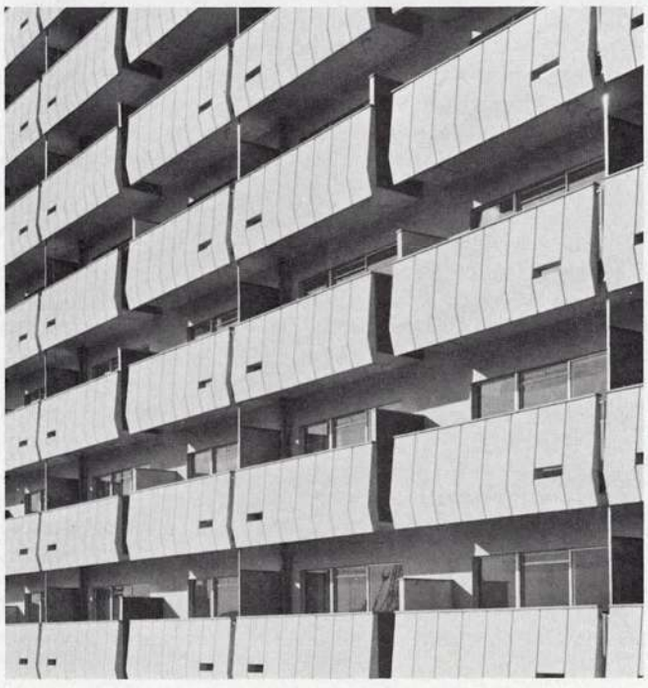
第七　施行期日等

以上の改正政令は原則として昭和48年１月１日から施行されることになっておりますが，第一に関する改正事項については昭和50年１月１日から，第二(前文に記述したものを除く)，第三，第四，第五に関する改正事項は昭和48年１月１日から施行されることになっており，その他の事項については現に施行（１月21日付）されております。なお，近く省令（施行規則）の関係事項についても改正が行なわれますので，また稿をあらためて説明することにいたします。

（大阪市消防局　防災設備課　　田中隆夫）

セラスキン
セラコート
セラカット
セラタイル





山本窯業化工株式会社

本社・工場／大阪府摂津市東別府１－３－６　☎(06) 381－9131－5
東京営業所／東京都千代田区麹町３－６(藤井第２ビル)　☎(03) 265－8888－9
名古屋営業所／名古屋市中区栄３－２３－１４(山市ビル)　☎(052)262－6774－5
大阪営業所／大阪市東区唐物町４丁目55(本町永和ビル)　☎(06) 251－6781代表
福岡営業所／福岡市博多駅前４－３－１４(菅原ビル)　☎(092) 43－６９４０
広島営業所／広島市中広町２－２０－９(みのるビル)　☎(0822)91－６２００
仙台出張所／仙台市上杉２－４－４６(森林会館ビル)　☎(0222)22－１２５９

読者の頁

Homo・times

畑中幸雄

私の会う人、私が見る人、私と話す人、彼等は多忙である。彼等に限らず、現代人とは忙しいものであるらしい。一体何をしているのか知らないが、とにかく「忙しい忙しい。」と言っている。

「お忙しいですか？」現代人の挨拶なのである。

さてこのお忙しい現代、人間の生活と時間との結びつきについて考えてみた。

時間によって人間が動かされている。又は時間によって人間が動いている。つまり人間は時間によって行動する。

私事ばかりで誠に申し訳ない。

私は、いつもP.M11時40分前後に風呂屋に行く。——オンボロアパートに居ると風呂もないのである——そして、下足箱は35番脱衣棚は25番を使っている。

先日、いつもより少々早く、P.M７時30分に風呂に行ったのである。無意識のうち、35番の下足箱に手を出した。……が、世の中は私を中心にして回っていない。35番はだれかが使用中なのである。やむを得ず他の下足箱を利用した。そして脱衣室へ入る。又もや25番は先客が在るのである。やはり他の脱衣棚を利用した。

その明日、昨日と殆んど同じ時間に風呂へ行った。すると又、35番と25番は先客が在った。

その35番と25番の棚は、約P.M11時40分以後ならば、無意識のままに私の物となっているのである。それは１日の御得意様として何人かのほぼ決まったメンバーがあるのである。それは時間帯によって区別されている。時間による人と物との出会い。

こういう事は、風呂屋の下足箱以外にも日常茶飯である。時間によっ人と人との出会としては、11時40分に行くと殆んど同じ顔ぶれなのである。昔の事であるが、毎朝同じ時刻に、同じバス停留所で会う女性が居た。少女趣味の純愛小説の舞台を思い浮かべればよい。その後……。テレビのメロドラマの場合は、昨日も、今日も、明日も、同時刻に同じ曲がり角で顔を会わせ、こう言うのであろう。「あっ、又お会いしましたねえ……」——何を言っているんだい。わざとそう仕組んでいるのに。これは時間の上に成立する〝人と人との出会い〟である。

ごく当り前の事であるが、一般に職業人は日昼は仕事場に居る。

A氏の場合を例にすれば、彼のP.M３時30分は——１日をサイクルとした場合、１週間をサイクルとするならば、月曜日の３時30分——仕事をしている。

Who→A氏は

When→３時30分に

Where→事務所で

Why→仕事だから

HOW→ホルダーを持って

What→設計図を書いている。

この様に、残りの4W1Hは解かるのである。

1972年、このような型の人間は、案外多いのではないだろうか。そして又、今後現未来——1972年＋10^1年——までは増え続けるのではないかと思う。

この様な人間、彼等の事を、私は**ホモ・タイムス**と名付けた。日常生活の単位である身近な時間——１日又は１週間という生活のサイクル——を意識して、行動する人間の事である。ホモ・タイムスの出現理由は、社会機構の変化により、時間の価値感の変化増大である。ごく最近迄、我々人間は物質を第一の物として生きていた。ところが、物質以外の物の価値として時間を見い出したのである。

現在から、約50年も前には、こういう生活は考えてなかったであろう。桜の咲く頃を春と呼び、梅雨の時期に田植をし、猛暑の盛は西瓜を食らい、実る稲穂を刈り入れて、霜そして雪、身動きのできぬ冬が来る。それは、四季一年を基とする上に成り立つ期間生活であった。そして、それは時間を意識する必要のない生活でもあった。

時間としては、１日、１週間の単位は生活のサイクルとして非常に計算しやすい。１ケ月１年という単位は身近に感じにくい。

今日のホモ・タイムスと彼の相違は、時間の意識の有無である。

Homo・times＝時間人間。時間への意識・支配欲が有り、物の形と同じように時間によって表現する事のできる人間。

時間への意識が進み支配したいという事は、例えば、現在の１日の約半分づつの昼夜の比率を変え、昼のみ、夜のみの時を造り出すのである。西の山に太陽が沈めば夜である。その時は行動は不可である。しかし行動する事が可能な状況を造れば、それは昼と何等条件は変わらないのではなかろうか。自然の与える夜よりは、はるかに有意義である。ホモ・タイムスは、地下街、工場、興業場等では、すでに活動を開始している。

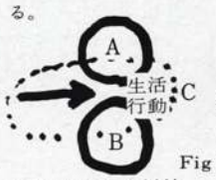


Fig 1
ホモ・タイムス以外

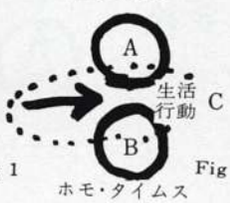


Fig 2
ホモ・タイムス

Fig 1で、各A、B、Cとは、物と物の間の生活、家具と家具の間の生活、天井と床の間の生活、日本列島の中での生活等と置き換えられる。Fig 2の各A、B、Cとは、時刻と時刻の間の生活、朝から夜までの生活、1972年の生活、３時30分から５時30分迄の行動等と置き換えられる。Objective は同じであってもplace で表現又は行動するかTimeで表現、又は行動するかの異りである。そして又、一般にＴＰＯのうち１個が解かれば、残る物も解かるはずである。

こういう事を考え始めた動機であるが、〝住宅とは何であるのか〟と疑問を持ち始めたからである。

〝住宅は住む為の機械〟－Le Corbusier－だそうである。

現在の役割のみでなく、更にその耐用年数、そしてその時の社会状況を考えねばならぬ。

物であって、その殻の中で生活の全てが行われていた昔に対し、現代は住宅以外の所での生活が場所、時間共に増えつつある。極端な場合、洋服タンスのある所、住所不定でない為の現住所という程度のものになりつつある。結局何でもなくなってくる。物質という住宅、寝具、衣類の中で生活する事から個人・都市の共同体、都市の構成者として、更に時間の中で生活するようになるのではないか、と思う。

もしかすると欲深き動物人間は、１時間、１日、１週間単位で、時間を百貨店等で販売するようになるかも。多忙な人間、現在を脱出したい人間、お中元、結婚祝として購入するのかも……。

未来版浦島太郎は、その日から満足する住空間を発見するだろうか。

レジャー用カプセルハウス

このたび日光化成㈱では、レジャー用カプセルハウス〝ヤドカリ〟をＧＫインダストリアルデザイン研究所と共同して完成。

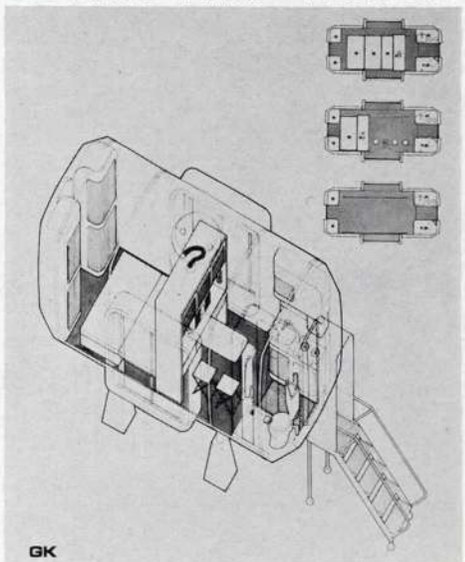
今般開催されるグランドリビングショーに展示されることになった。

ヤドカリ

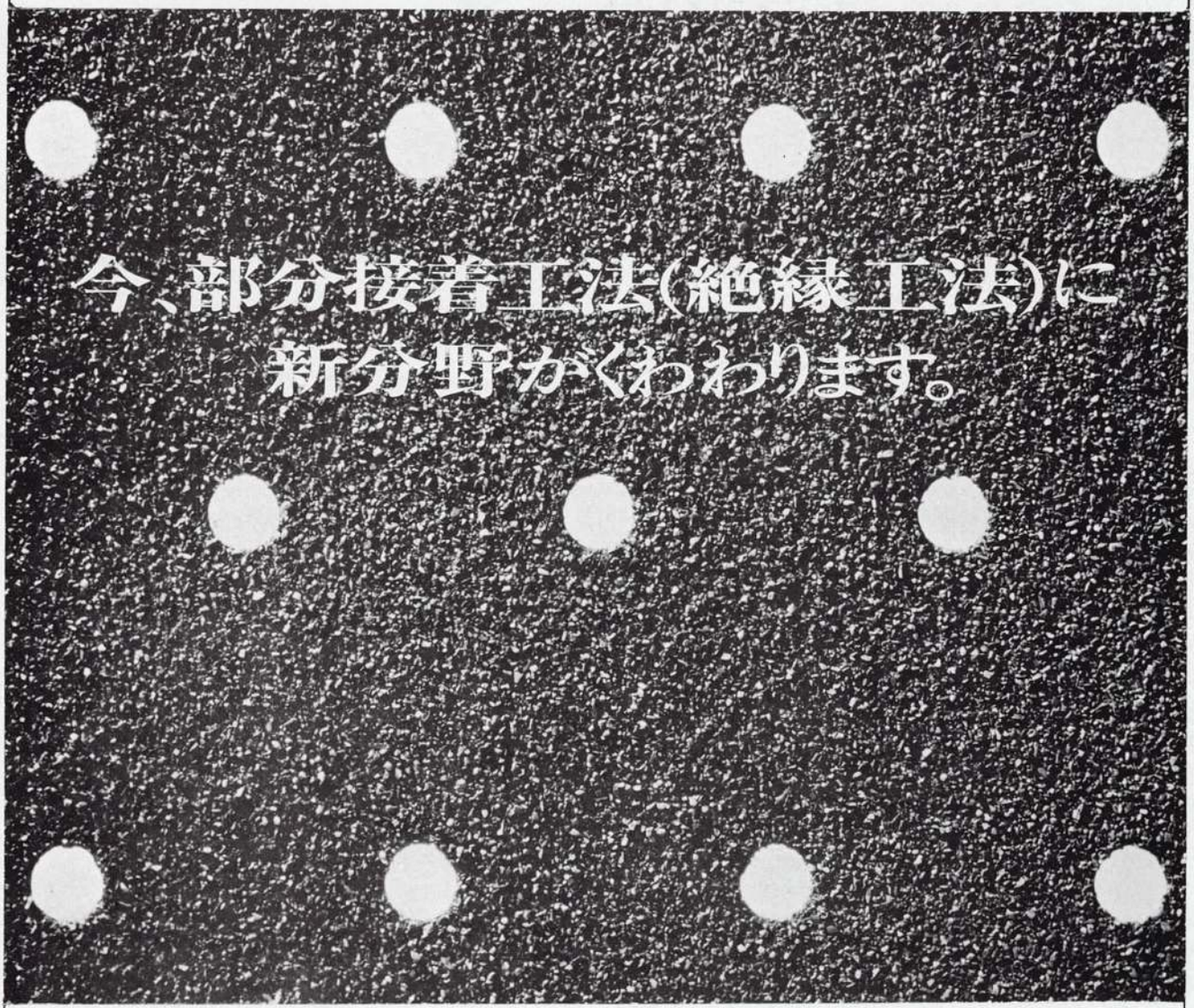
構造　本体はスチールフレームによる鉄骨構造

外装　F.R.P（強化プラスチック）仕上げ
スチールフレームユニットにより結合

規模　巾2,500　高さ2,500　長さ6,000
容積約38m³、面積約16m²、重量約3.5ton



防水革命をすすめる「新防水仕様」誕生！



画期的な
ふくれ防止システムを採用した
新露出防水工法が完成！

このたび完成した「新防水仕様」で最も画期的な点は強力アスロン（強力ギルソイド2層分以上の防水効果をもつメンブレン防水の高級プレハブ材）の開発、およびフリースポット・フリースキャップによる新露出アスファルト防水工法の採用です。
特に、露出アスファルト防水の分野では無機質基材を用いた穴あきルーフィング“フリースポット”を開発、この分野での部分接着工法を可能にしました。
それによって、長年またれていた防水層の「ふくれ」が防止できるようになり、さらに下地からのクラックによる防水層の影響も防ぐことができます。
革命的なこの新防水仕様に関するお問合せは資料請求券をそえて下記までお申し込みください。くわしい資料をお送りいたします。

田島ルーフィング株式会社
本　　社　東京都足立区小台1－3－11　電話(03)912－1131代
神田営業所　東京都千代田区岩本町3－11－13　電話(03)862－8531代

田島応用化工株式会社
東京営業所　東京都千代田区岩本町3－11－13　電話(03)866－6101代
大阪営業所　大阪市西区京町堀1－74　電話(06)441－5951代

東日本アスファルト事業協同組合
東京都千代田区岩本町3・11・13　電話(03)866-6101(代)

西日本アスファルト事業協同組合
大阪事務所　大阪市西区京町堀1・74　電話(06)441-5951代
名古屋事務所　名古屋市西区西菊井町2・12　電話(052)571－6361
広島事務所　広島市鉄砲町5番の16号　電話(0822)21－0266
福岡事務所　福岡市奈良屋町1・18　電話(092) 28－4012

資料請求券
建築と社会

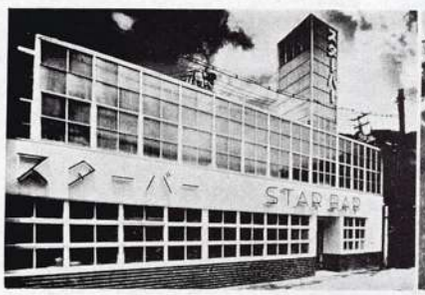
恩師上野伊三郎先生の死を悼む

星　廣文



上野伊三郎
〈京都インターナショナル・デザイン研究所長〉





スターバー（1930年作品）



岡野　邸（1933年作品）

インターナショナル建築運動に興味をもって京都の先生の事務所に入ったのが昭和3年、先生がタウトと群馬県工芸指導所長として就任されるまでの8年間、まさに不況のどんぞこできびしい弾圧とたたかいながらの事務所経営は異状なほどの苦しみであった。万事が物質主義の今の事務所経営からみたら今昔の感にたえない。

先生はまことに心のきれいな又身辺は実に清廉潔白、心の師としていまも尊敬している。

小生も60才の坂を越した今、これからほんとの人間としての交友をもちたいと願っていたやさき先き立たれたのがくやまれてならない。今は奥さんリッチ先生の許へたのしく旅びだっていることであろう。

先生はタウトの後を追って高崎の工芸指導所長となられてから建築の仕事よりは工芸の世界に大きく転身された。それは勿論リッチ先生の助言もさることながら、ウイーン工房（ウエナーウエルクシテッテ）でリッチ夫人と共にヨセフホフマン教授に受けた強い感化が芽ばえである。

先生は大正11年早大建築学科を出られドイツ、オーストリアに留学、1926年リッチ夫人と帰国、京都でインターナショナル建築会を創立、京都でのヘルフリッチュ、成瀬無極先生等との交友、ブルーノタウト教授と日本美再発見の旅、群馬県工芸指導所長としての宮庁サラリーマン生活、第二次世界大戦には軍嘱として満州に転戦、戦後インターナショナル建築会の再建ならず摂南工専（現大阪工大）教授、京都美大工芸科主任教授と、時の流れに流されて死の直前まで京都インターナショナルデザイン学院長として、現大学制度を修正した内容で日本のデザイン教育を国際レベル以上に引き上げようと80才と思われぬ闘志をもやしておられた矢さきおしまれてならない。

今年4月ある雑誌記者に同行してお宅に伺った時にこんなことを言われた。

譜の「山姥」に「山めぐり」と言ふ言葉が繰り返されて居るが人生は「山めぐり」の連続である。先聖古墳のことばは受けとる方の人生体験に比例してしかわからない。大体わかったころに人は死んでゆく。

自然科学は大学院卒業のころには先人研究の結果は理解出来るので、進歩の上積が可能である。科学は進んでも戦争のやまないのはこのゆえだと思ふ。これが最后の言葉となった。ご冥福を祈る次第である。

上野伊三郎氏死去　昭和47年5月23日

レーニン賞受賞者決まる

このたび1972年度レーニン賞の受賞者が決定した。建築部門では、ボリス・メゼンシェフをはじめとするレーニンの生地ウリヤノフスクのレーニン記念建造関係者のグループが受賞した。

（写真右：レーニン記念センター）

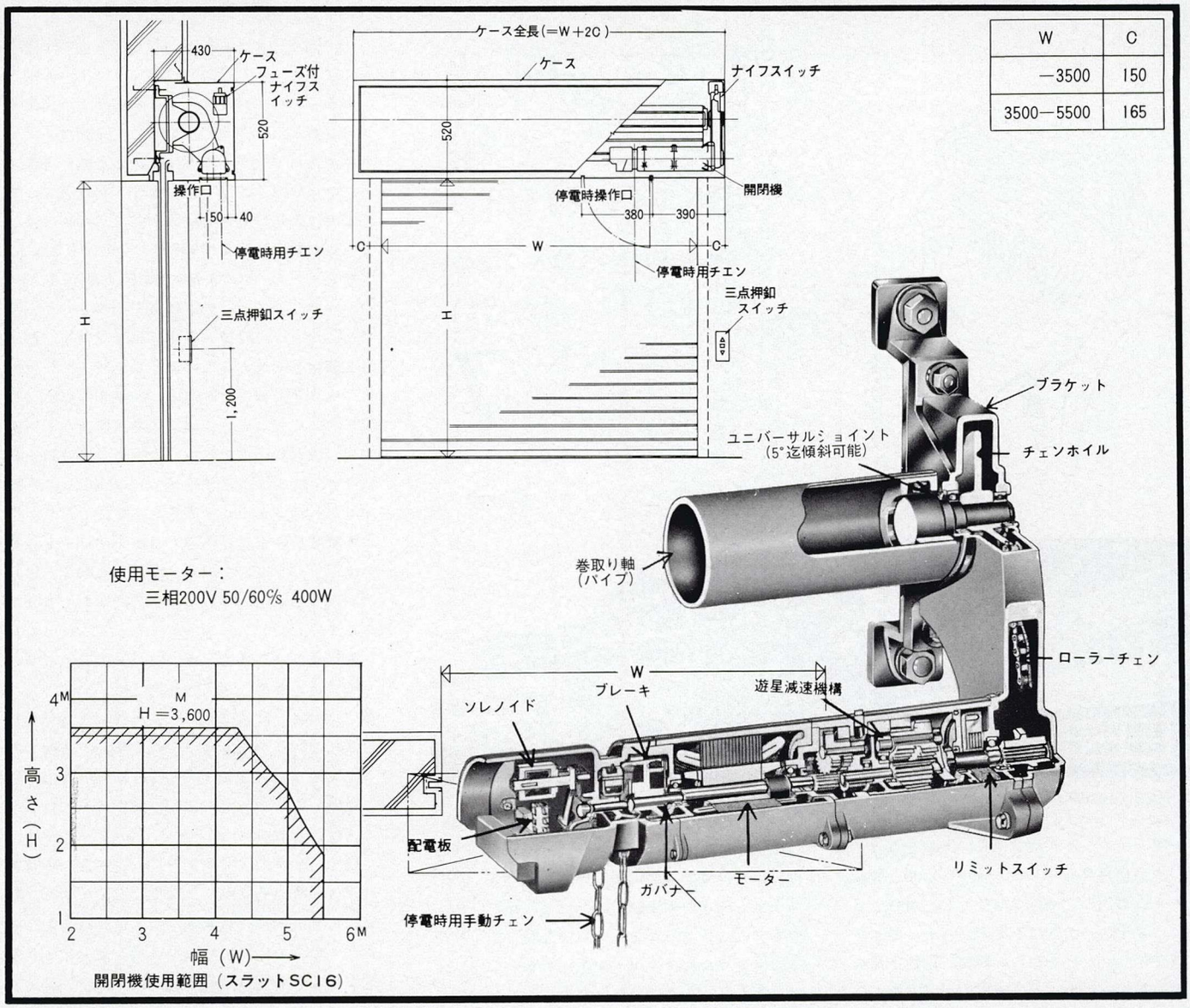


「建築主事資格検定考査」に関する依頼について

大阪府においては、48年度を目標に「法令建築事務所登録制度（仮称）」を発足させるよう計画しているが、その計画を推進するため「建築主事資格検定考査」に合格した、くわしい法令知識を有する建築士の輩出を期待している。

詳しいことは、府の建築指導課へお問い合わせ下さい。

日本のシャッター界をリードする画期的新製品!!



W	C
—3500	150
3500—5500	165

開閉機使用範囲(スラットSC16)

L型 電動開閉機

出願中　特許　リミットスイッチ　ガバナー機構　手動機構　実用新案　巻取り軸との連結機構およびL型機構　チエン収納箱

L型電動開閉機は、日本シャッター技術研究所において、長年にわたり、国立大学精密機械工学部諸教授の指導をあおぎつつ、当社技術陣が総力をあげて研究開発し、遂に従来の開閉機の概念を破って完成した画期的な新製品です。

この開閉機には独創に満ちた新機構が数多く取り入れられており(特許3件、実用新案2件を出願中)、減速機、モーター、ブレーキ機構、停電時用手動装置はもとより、リミットスイッチ、配電板に至るまで、すべてを一つの円筒内にコンパクトに納めてあります。

従って、建築設計上の納りが非常に簡単で、しかも、取付やその後の保守点検等も楽にできるよう考案されております。

これらの点から見て、従来の製品に比べ総ゆる点に秀れており、シャッター開閉機の決定版といえるでしょう。

●特長●

1. 開閉機を設ける場所の心配がいりません。
2. 凸部のない真直なシャッターケース。
3. 袖壁は不用です。
4. 減速機構はすべて完全密閉式です。
5. 小型で耐久力に富む減速機構。
6. 給油の必要がありません。
7. エンドレス強力ローラーチエンの内造。
8. リミット・スイッチを完全に内造。
9. 手動操作をひとつにしました。
10. ヒューズ装置の取付けが可能。
11. 一斉・両面・遠隔操作いづれも可能です。

株式会社 日本シャッター製作所

東京工場　川崎市新丸子東3丁目1159番地　電話(代)中原(41)6325
大阪工場　大阪市東淀川区田川通6丁目38番地　電話(代)(301)3656
九州工場　福岡県粕屋郡粕屋町仲原釜屋2727番地　電話(代)(65) 6131
名古屋工場　名古屋市中川区北江町2丁目12番地　電話(代)(361)7441

営業所　仙台　静岡　高松　北九州
東部　北陸　広島　鹿児島
城西　神戸　大分
横浜　岡山　宮崎

建築と社会 ニュース

ニュース原稿をお送りください。

建築家の職能の確立に関する要望書と家協会大会宣言

㈳日本建築家協会では、昭和47年5月8日付けで、表記要望書を衆、参議院建設委員会委員及び各党建設関係委員会委員あて送付されたので下記にその全文を掲載。また5月12日の日本建築家協会緊急臨時大会における大会宣言もあわせて掲載します。

建築家の職能の確立に関する要望書

―田中私案に対する意見―

社団法人　日本建築家協会
会長　市浦　健

ここにわれわれ建築家の職業の確立に関し、至急ご理解を賜りたい事態が生じつゝありますので、ご繁忙中を顧りみず、とりあえず文書をもって御願い申し上げる次第であります。

建築家とは

そもそも「建築家」という職業は、建築主の信頼にもとづく委託をうけて、建築の設計及び工事監理を担当する自由かつ独立の職業であり、諸外国においてもかかる利他的・非営利的職業である弁護士・医師に次いで自由職業の主柱をなすものとして認められております。その設計に当っては関連技術を駆使して建築物の効用的価値をたかめると共に、社会的には安全性を確保することをはかるだけでなく、常に人間環境の向上を意図して業務を行って居るものであります。

更に工事に当っては、施工業者の選定、工事の契約について建築主に協力すると共に、建築主の代理者として工事の監理に当り、その出来栄えを見届ける役目をもっております。

更に現代においては、建築物が集団として都市環境を構成する上で多くの問題をもつようになり、都市計画に多数の建築家が参画するようになったこともご承知の通りであります。

現行「建築士法」の不備

これらの点より勘案しますと、われわれの職業を法的に規定している現行の「建築士法」は甚だ不備なものであるといわざるを得ません。まずその制定以来20年以上を経ており、今日の事態に適応しなくなっておりますことは、各方面で指摘されております。

更にその技術的基準が諸外国のそれにくらべて可成り低く定められて居り、1級および2級建築士を合せて30万以上の者が登録されて居りながら、大部分の者は実際にその業務を行っていないのが実状であります。しかもその国家試験の内容は単に「建築基準法」に基く技術的能力の判定にとどまり、建築家として最も重要である経験の内容、職業に関する識見等は全く問われておりません。

またこの法律では、設計監理を業とするものは別に「建築士事務所」として登録を行うことになっていますが、かくのごとき二重登録を求めていることは、他の自由業には見られない変態的制度であり、しかもその事務所の開設は建築士に限られておらず、単なる経営者として誰でもこれに当ることができるようになっております。

このことは、この制度発足以来、設計監理の分野に次第に営業的様相を蔓延せしめ、その本来自由にして独立な職業であることを不純ならしめており、その結果、建築主に対する責任の点で多くの問題を生じております。

また建築業の中に併設されている設計組織も、登録上ではわれわれの組織と全く区別されないことは、われわれ専業者とこれら兼業者との間に、その対建築主との関係において全くその立場を異にし、その責任の所在において本質的に異なるものがあるにもかかわらず、建築主にとってはこの区別が明らかにされていないのであります。

外国では建設業の設計業務の兼営は例外的に行われているにすぎません。われわれは日本における現実を強いて否定しようとはしないものの、建築主がその区別を知った上で設計担当者の選定ができるようにすることが、建築主の利益を守るゆえんであり、またわれわれの職業が正しく評価されるための基盤であると信じます。

わが日本建築家協会も同様の理念にもとづく建築家の団体として、約1,100名の会員を擁して国際的にも日本の建築家を代表すると共に、厳正な入会詮衡を行ない、倫理規定によって職業人としての行動を自制しながら、建築文化の向上に微力をつくしております。

本会の提唱する「建築設計監理業務法案」の骨子

以上の見地に立って、われわれはかねて「建築設計監理業務法案」を立案して、それを広く建築界に説明し、賛同を得るべく努力して参りました。その骨子は次の如き内容のものであり、そのねらいは上述の如き現行士法の諸問題点を改善しつゝ、われわれの職業を確立してわれわれの使命を果すことにより社会に貢献できる基盤をうちたてようとするものであります。

1. 設計管理を専業とするものは、建設業等を兼業できない。
2. 設計監理業務組織の主宰者は建築家に限る。
3. 同上の主宰者の資格は充分な能力、経験を有する者に限る。（凡そ技術士に要求される程度）
4. 業務を行う組織に中間法人（監査法人の如き）として協同組織(パートナー・シップ)を認め、営利に密着するのを防ぐ。

田中私案に反対する本会の根拠

今回われわれのこの提案とは別に、田中一氏（参議院議員）より私案(「建築設計監理業法案」)が提示されました。

しかしその骨子は業務規制を多少強化するにとどまり、単独法とはいえ現行士法の部分的手直しにすぎないといえます。すなわち本質的には建築主が兼業専業の区別を認識してその選択が適格になし得るような措置が充分講じられておらず、また業務組織に関しては依然として建築家に非ざる開設者を認めることによりその業態が営業として定着する危険をはらんでおり、何等事態の改善に資するところが見られません。

すなわち、このような立法はわれわれの提案とは全く発想の原点を異にするものであり、われわれの念願とするような立法の障害となることを深く憂うるものであり、われわれとしては、ここに会をあげてその実現に反対せざるを得ません。

昨今、わが国社会のあらゆる領域において商業主義的傾向が次第に顕著となりつゝあり、建築産業界においてもその例外でないとき、建築家の業務のもつ公益性が強く求められております。利益追求の原則が社会の大きな部分を支配しているとき、そこから人間の文化を守っていくために各分野で職能の確立が求められているのはそのためであり、さもない限り、人間社会における公益性が喪失するという危機を招く結果となるのであります。

本会が提唱する「建築設計管理業務法案」はまさにそのような危機を回避するために必要な法的規制であると確信するものであります。

何卒賢明なる貴下のご理解を得ると共に、われわれの意のあるところをお汲み下さって、ご教示、ご支援賜りますよう要請申し上げる次第でございます。　以　上

大会宣言

このたび参議院議員田中一氏によって提案された「建築設計監理業法案」（いわゆる田中私案）に対して、われわれは強く反対する。

この私案は、建築家の業務が、自由と独立の立場に立って保持すべき公益性を無視して、ただ単にそれを営利業として法的に定着させ、建築家の職能を永久に歪曲せしめようとするものであり、同私案がもし立法化されるようなことがあれば、われわれがこれまで主張しつづけてきた建築家の真の職能法としての「建築設計監理業務法案」の実現を更に困難にするばかりでなく、わが国における建築文化の健全な発展を阻害することとなる。

われわれは、ここに、同私案に対して絶対反対の意志を表明すると共に、われわれの初志を貫徹すべく、あらゆる努力を重ねていく決意をもつことを宣言する。

昭和47年5月12日

社団法人　日本建築家協会緊急臨時大会



成果多きカーテンウォール一〇年



住友商事ビル



大阪銀行本店

■カーテンウォールの主な納入実績

イケマンビル	（昭和38年）
大阪証券会館	（昭和40年）
京都産業会館	（昭和40年）
大松ビル	（昭和41年）
麻布ビル	（昭和42年）
大阪駅前市街地ビル	（昭和45年）
住友商事ビル	（昭和45年）
竹平加入電報電話局	（昭和45年）
大阪銀行本店	（昭和45年）
尼崎信用金庫	（昭和46年）

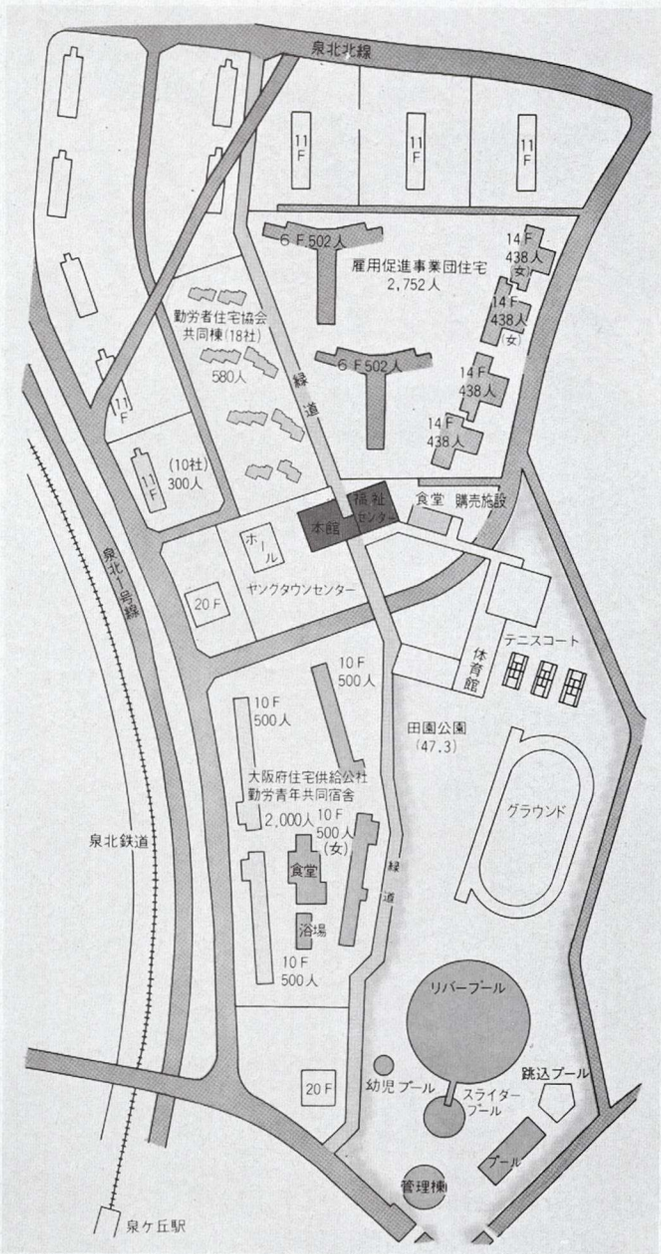
※住友商事ビル、大阪銀行本店のアチーブメントを本社技術部までご請求ください。

ダイケンサッシ株式会社

本社　堺市松屋町1－6
〒590　TEL（0722）38－1141（大代表）
東京支社　東京都千代田区岩本町1－11－2（三泉ビル）
〒101　TEL（03）861－9421（大代表）
大阪支社　大阪市東区南本町5－14（南本町ビル）
〒541　TEL（06）252－1881（大代表）

泉北ヤングタウン

パイロットプラン



位置　堺市泉北ニュータウン泉ケ丘地区三原台2丁
面積　16ヘクタール
施設　単身者住宅　約10,000人
　　センター施設　本館、泉北勤労福祉センター、公益的施設

▽府立勤労青少年会館・泉北勤労福祉センター

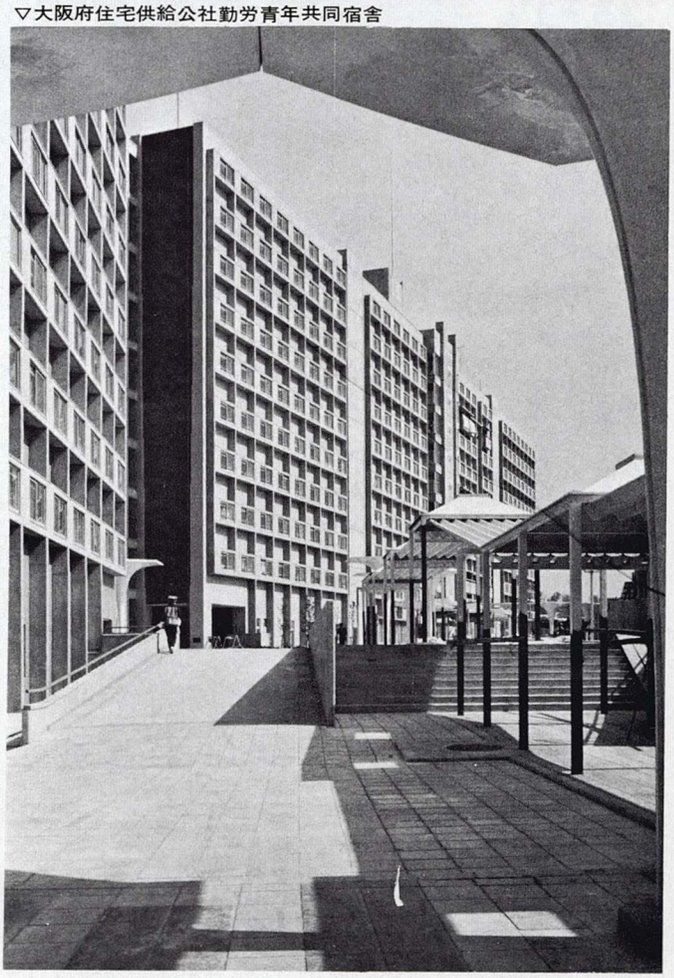




△勤労者住宅協会共同棟　▽プール



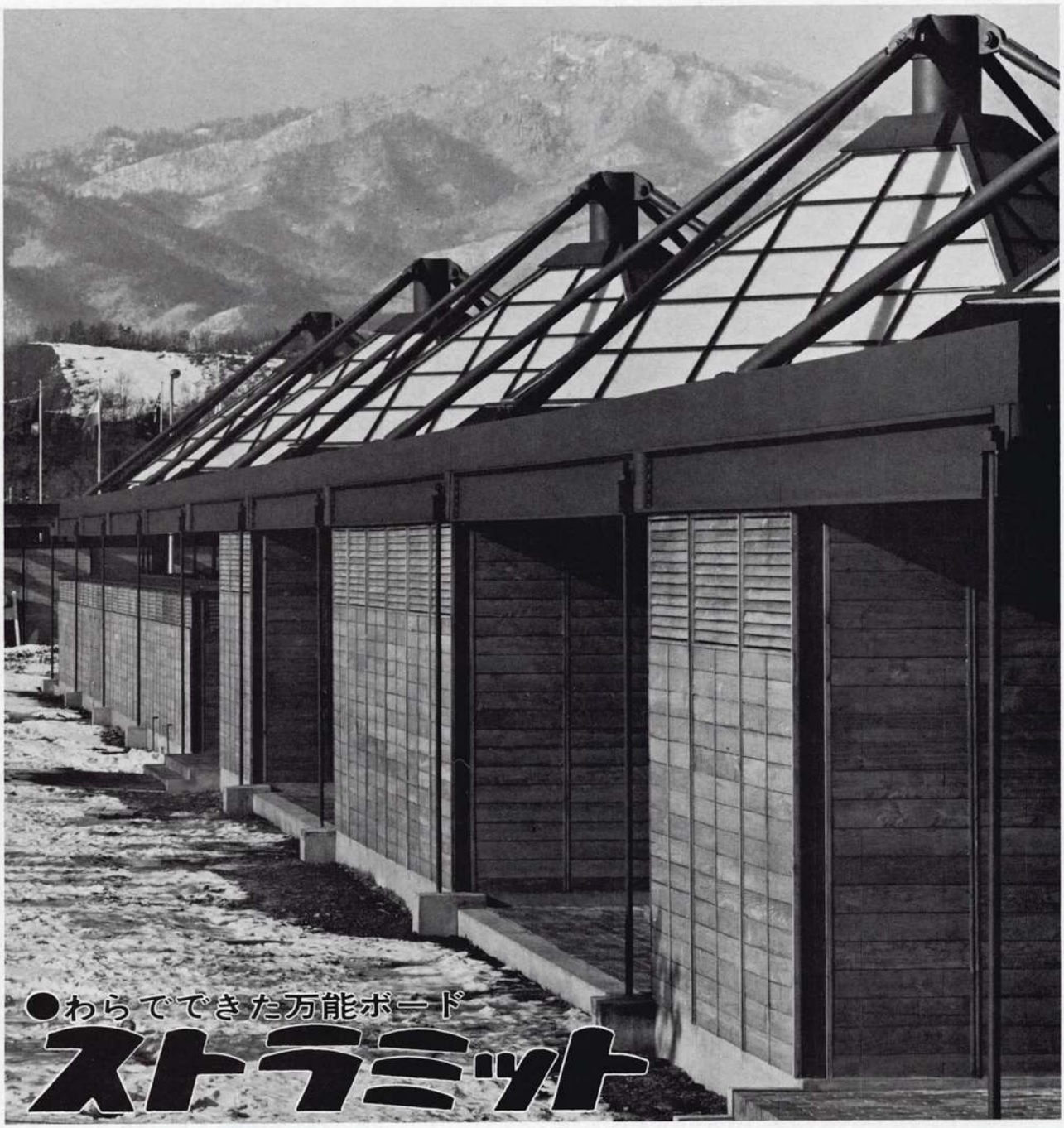
▽大阪府住宅供給公社勤労青年共同宿舎



札幌オリンピック村に〈ストラミット〉の
優れた断熱性をかわれ採用された。

世界の若人に感謝された！

●その断熱性・安全性・またソフトなタッチ



●わらでできた万能ボード

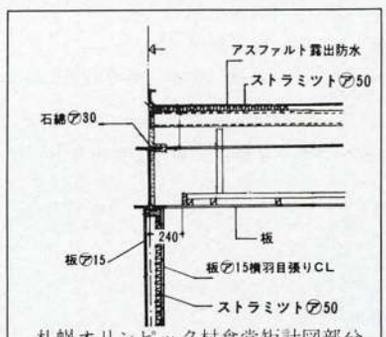
ストラミット

ストラミットにはわらのもつ暖たかくやわらかい独得の材質感があります。間仕切や内壁・床下地に使用すれば、安定したソフトな感触がえられます。

■断熱性に優れています…ストラミットは、木材羽目板（杉板7mm）の6倍、土壁（60mm）の2.5倍、コンクリート（100mm）の場合は約10倍もすぐれた断熱性能があります。極寒や酷暑をさえぎり室内の冷暖房効果を驚くほど高めます。

■騒音・雑音を防止できます…ストラミットは遮音性にすぐれ、平均遮音率は32dBを示しています。これは4mm合板の10枚分に相当し、隣室や外界からの騒音を効果的に防ぎます。

■万一、火災が起きても安全です…特有の防火性能があり、万一燃えても、わらの表面が炭化するだけで内部への火が通りません。しかも恐ろしい有毒ガスの発生がなく、火災に対しても極めて安全です。表面に不燃材料、準不燃材料を使用すると防火建材としていっそうの効果を発揮します。



札幌オリンピック村食堂矩計図部分

発売元

久保田建材工業株式会社

本社・東京支店	東京都中央区日本橋室町3－3	TEL(279)2111	〒103
大阪支店	大阪市西区靭本町1－77	TEL(448)7121	〒550
札幌営業所	札幌市中央区北三条西3－1－44	TEL(281)2481	〒060
仙台営業所	仙台市本町2－15－11	TEL(25)8151	〒980
名古屋営業所	名古屋市中村区米屋町2－67	TEL(563)1511	〒450
広島営業所	広島市基町5－44	TEL(28)4835	〒730
福岡営業所	福岡市中央区天神1－10－17	TEL(78)5181	〒810

製造元（久保田鉄工系列会社）

関東ストラミット工業株式会社

茨城県稲敷郡新利根村大字中山　TEL　柴崎 029737－172(代)

製品紹介●屋根材・コロニアル・竪羽目・不燃サイデイング、壁材・カラーベスト／シングル・カラーシート、カラートップ、パーマトン(近日発売)・フレキシブルボード・KCパネル

“テクニカル・シリーズ”をお送りします。

クボタコロニアル等を使った優れたデザインの建築例を取材し、クボタカラーベスト・テクニカルシリーズを発行しています。□A4判　カラー〈プラン・エレベーション・ディテールを掲載〉□ご希望のかたは本社BA係まで　■ストラミットの資料をお送りします。ご請求は本社BA係まで。

久保田建材

データ通信と建築

SERIES: 8



DEMOSを利用して

小菅　与三一

□DEMOSの導入

東京に自社の大型計算機システムが存在するのに、DEMOSを導入したのは、あくまでも大型システムの補助的な意味と、大型システムには不適当な中小プログラムの開発と利用を目的としたのである。この補助的というのは、INPUT-DATAのCHECK、DATAの内部発生、OUT－PUT－DATAの組合せ、編集等を考えていた。

現在、大阪と東京の両設計部(建築)にDEMOSの端末機 200C型を設置し、設計部を中心として利用しているが、自社の大型計算機と同一の建物での東京の立場と、I／OのDATAを郵送で利用しなければならなかった大阪の立場とでは、DEMOSの利用内容は当然異っており、以下大阪における利用について話を進める。

郵送による計算機利用はTATが40時間余り、しかも天候、事故による航空便のおくれなどの場合は、それさえも保証されないので、少なくともDATA ERRORでの再計算だけは絶対に避けようとも考えたのではあるが、そういった補助的な役目には少少疑問があった。それは以下の理由による。

- ○電送速度（入力速度）がおそい。通常のCARD－READERの約1／50と云う速度では多量の入力は不適当である。出力はCENTER－OUTの手段があるので問題はない。
- ○紙TAPEでのDATAの修正は不便であり、自社のシステムとでは変換作業が加わる。

少々の不便は、何とか工夫すれば解析もできるが、入力速度は決定的となる。使用できる主記憶装置の容量は320kchであり、自社の大型プログラムには充分であるので、補助ではなく、完全な肩代りをさせようとも考えたが、入力速度はやはり大問題である。これも、入力書式を全く新しく工夫し、DATA量を極力軽減したとしても、さらに次の三要素が考えられる。

- ○利用者 FILE にプログラムを格納すると、その容量の相当大きい部分を一つのプログラムで占有してしまい、他の利用のための余地が少なくなる。
- ○使用頻度がそんなに大きくないので、即時にACCESSするFILEは必要がないし、COST高である。だからと云って、紙TAPEで保存し、利用ごとに端末機からREADするには時間的に無理である。
- ○FILEはすべてSEQUENCIALであり、RANDOMではない。自社の大型プロはすべてRANDOM FILEであるので、その変換は勿論、新規開発にも手間がかかる。

以上、自社開始プログラムの利用を主として考え、DEMOSでの大型プログラムには悲観的であったが、実際には公社開発の大型LIBRARYとして、FRAP、DYNAが発表され、大部分が肩代りできる見通しがついた。

□利用状況

一括処理のような多量のDATAはKEY－BOAD より直接入力するのは止め、あらかじめ紙TAPEを作成することを原則にし、一般の利用者にはDATA SHEET 作成の手間のみですむようにと考え、専任のKEY－PUNCHERをおいた。プログラム作りも同様とした。

昨年6月のサービス開始と共に、当初は中型プログラムの作成と、FRAP、DYNAの利用とが半々であったのが、しだいに開発されたプログラムと共に、プログラムの利用が大半を占めるようになった。自社システムからDEMOSへの切換えは完全におこなわれ、以来、月により変動はあるが、設計部内では幅広い利用がある。公社開発のプログラムではFRAPが根強い利用率を持っておるが、これは大規模は勿論、中小規模の骨組の応力解析にも適用できるからである。小規模の骨組に対しては、手計算と同じ位の手間がかかるが、設計変更時の再計算は断然有利となる。また変形計算と応力の組合せは、設計者にとっては本当にありがたい。またボーリング・ブームの影響も見のがせない。ボーリング場も単層から重層となり、大スパン構造が好んで採用されるようになったので、強度よりも変形の要因が大きくなり、FRAPによる精密な変形計算が重宝がられるようになった。DEMOSの小プログラムに対してはあまり利用がない。これは端末機の設置場所にも一因があろう。現在設計室とは別階に、遮音壁に囲まれておいてある。発生する騒音のために、別室をもうける必要があり、距離をへだてなければならなかった。他の一因としてはプログラム式電卓があげられる。操作が簡単で、 24 時間使用可能で、使用料を考えずに気楽に利用できるのは強敵である。さらに考えられるのは、200C 型端末機自身のことである。この機種はDEMOS専用に作られたものではないため、他の機種と比べて操作が少し面倒であり、誤操作しやすい構造となっているようである。

□OSについて

FORTRANは JIS の最高水準7000に準処し、自社のセンターと同一機種のため、抵抗は全くなかった。SYSTEM－SUBROUTINEも種々用意され、便利にできている。ERROR、WARNINGの時の各種の診断MESSAGEがカタカナであるのは、やはり親しみやすい。全く驚いたのは予約語が存在することであり、FORTRANの経験しかない我々にとっては、全く予想外であった。これは、COMMANDが一般のDATAより優先するなめではあるが、その使用を明確に分離しないのが原因であり、PRもなされていなかった。

紙TAPEの欠点を補い、逆に非常にDEMOSの真価を発揮したのは、 EDITOR である。これは COMPILEされたプログラムを編集するのではなく、SOURCE－PROGRAMや一般のI／O DATAなどのBCD形式のFILE を対象としたものである。 SEQUENCIAL－FILEをRANDOM 並に扱うため、原則としてRECORDごとに行番号を付け、または行番号なしでも処理できるようにと、先頭文字等によるRE－CORDの呼出しと、RECORD単位でも、文字単位でも、追加、削除、交換などの修正がEDITORで容易におこえる。同じような内容であれば多数のRECORDの修正を一つのSUB-COMMANDで指示できるのは、プログラム作成の能率を高める。一括処理のINPUT－DATAに対しては、当初は対象外であったが、現在はこれにも適用され、紙TAPEの欠点を補ってあまりある。

□FRAP, DYNA

一括処理用のLIBRARYのFRAPとDYNAはTSS用のプログラムとしてI/O DATA量の減少に努力わ払われており、内容も非常に立派なものである。FRAPではINPUT－DATAの前処理として、断面寸法からの断面性能の自動計算、豊富な荷重種類、UNITの自動分割は利用者の手間を省いてくれる。計算は立体と平面、トラスとラーメンでは、おのおのその最小自由度でおこなわれるため、きわめて能率がよい。部材ごとにまとめて出力される応力およびその組合せは、最小、最大応力が見つけやすく、断面計算にはつごうがよい。また建築骨組解析プログラムでは、剛域、ブレース、パネルが考りょされており、一般ビル建築に適しており、DYNAへの剛性MATRIXの受渡しも自動的になされる。出力される固有周期、刺激関数は、SPECTRUMによるMODAL－ANALYSISを容易にした。

DYNAでは幅広く、しかも現実的な解析対象と、利用者の撰択に委ねられた多くの手法と、多くのDATA形式は現在は勿論、長い年月の利用にも耐え、生命力のあるプログラムとなろう。FRAP、DYNAは多くのPROGRAMMER達によって作成されたのであろうか、入力書式になると、その不統一、または相互のDATAの重複などが惜まれる。プログラムの解説書を精読しない利用者は、想像でDATAを記入し、 ERROR をやらかす。ERAPでは、DATA量の減少のために、個別DATAの入力書式のほかにまとめて入力するための書式も用意されているが、これは節点および部材に関してのみであり、荷重に関してはない。現在入力されているDATAを見ていると、荷重が大部分を占め、同じような数例がくり返して続いている。

□今後への期待

サービスが開始されて一年を経過した6月中旬に、DEMOSシステムの拡充と改善がおこなわれた。私達USERの意見が取入れられたことは本当に喜ばしいことで、今後とも“USERは王様”をモットーとして、気持よく使用でき、より便利で、より効率よいシステムに育てていただきたい。

（こすが　よそいち 株式会社　大林組本店建築本部設計部）

すぐれた居住性を創造する

軽量気泡コンクリート

シポレックス

SIPOREX



軽量

比重0.5

コンクリート¼の重量

断熱

コンクリートの10倍の断熱性

耐火

法定耐火材料

高知相互銀行松山北支店
愛媛県松山市
設計　平建築設計事務所
施工　清水建設㈱
使用個所　カベ

◆シポレックスは工場、住宅から超高層ビルまであらゆる建物の屋根・床・壁・間仕切・耐火被覆に使用されますが次の建物には特に最適です。

1　工期短縮を要するすべての建物
2　空調を要する工場・倉庫事務所住宅等
3　鉄骨大張間の工場・体育館等
4　軽量化を要する高層建築物・軟弱地盤の建物
5　鉄骨耐火構造の建物

シポレックス販売株式会社

本社・東京支店　東京都千代田区神田司町２－６（平沼ビル）
電話　東　京　（256）代　表　３　４　５　１
大　阪　支　店　大阪市西区立売堀北通１－90（第三富士ビル）
電話　大　阪　（538）代　表　０　５　２　１
名古屋支店　名古屋市中村区広小路西通３－２（大商ビル）
電話　名古屋　（581）代　表　７　４　２　１

□ 写真と概要をどしどしお送りください。
凡例：a．所在地　b．建築面積　c．延面積　d．構造規模　e．工　期



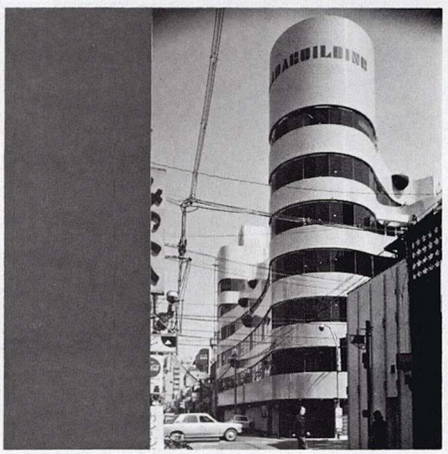
775. 平和ボウル土山

設計：KK 松村組設計部
施工：KK 松　村　組
a．兵庫県加古郡稲美町六分一字山中池
b．4,878.00㎡
c．5,111.09㎡
d．ST造一部RC造、2階建、60レーン
e．昭和46年11月～昭和47年3月



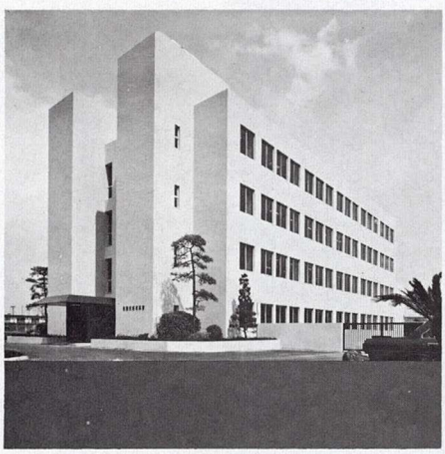
776. 東京電力㈱渋谷支社，北渋谷変電所

設計：東電設計KK
施工：KK 小田急建設
KK 東急建設共同企業体
a．東京都渋谷区北谷町10－2
b．1,310.99㎡
c．9,193.21㎡
d．SRC造、5F（支社）P2
B4（変電所）
e．昭和44年12月～昭和47年3月



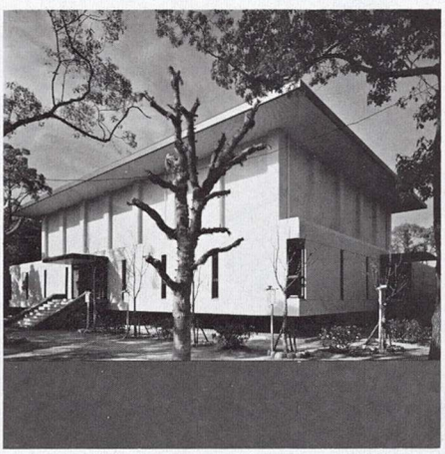
777. 山田第2ビル

設計：今西建築デザインルーム
施工：KK 間組大阪支店
a．大阪市南区傘屋町13
b．409.09㎡
c．3,108　㎡
d．SRC造、6F、B1、P2
e．昭和46年6月～昭和47年5月



778. 姫路東西税務署

設計：近畿地方建設局
施工：安藤建設KK大阪支店
a．姫路市北條中道の250番地
b．844.20㎡
c．2,776.28㎡
d．RC造、S造、4F、2F
e．昭和46年9月～昭和47年3月



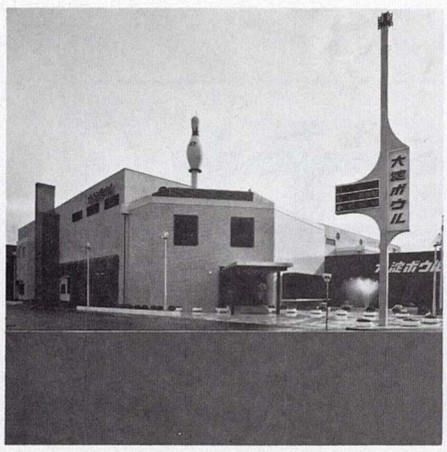
779. 湊川神社能楽殿

設計：鹿島建設KK建築設計本部
施工：鹿島建設KK大阪支店
a．神戸市生田区元町通3の453
b．821.166㎡
c．987.60 ㎡
d．RC造一部S造、1F、B1
e．昭和46年6月～昭和47年5月



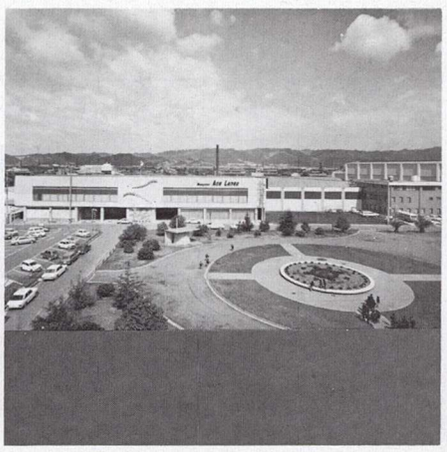
780. 福岡センタービル

設計：KK 竹中工務店
施工：KK 竹中工務店
a．福岡市博多区博多駅前2-2-1
b．1,509.97㎡
c．29,203　㎡
d．SRC造、F14、B3
e．昭和44年5月～昭和47年3月



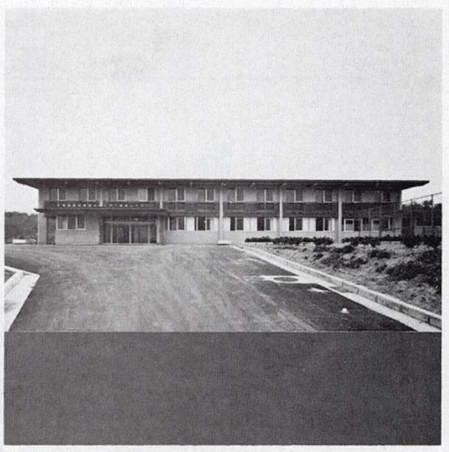
781. 大淀ボウル

設計：KK 青木建設
施工：KK 青木建設
a．大阪市大淀区大淀町中1丁目1の5
b．3,075㎡
c．6,055㎡
d．S造、2F
e．昭和46年7月～昭和47年3月



782. ワカヤマエースレーン

設計：安藤建設KK大阪支店
一級建築事務所
施工：安藤建設KK大阪支店
a．和歌山市中ノ島195番地
b．6,204㎡
c．8,165㎡
d．S造、1F及RC造、3F
e．昭和46年6月～昭和47年3月



783. 淡路勤労者福祉センター

設計：兵庫県営繕課
施工：KK 浅　沼　組
a．兵庫県津名郡津名町志筑
b．1,195㎡
c．（本館）2,275 ㎡
d．（本館）RC造、2F、
（プール）25m×8コース
e．昭和46年4月～昭和47年3月

画龍点睛



〔松山〕を置く。
すると
Void(空虚な人間)の内に何かが生まれる。
人間的な、暖かい心情といったようなものが……



家具一筋70年

松山

大阪堀江/心斎橋/東京



■本店／大阪堀江立花通り四ツ橋筋角
☎大阪（06)531－6451(代表)



クラスメート

85

〔日本大学専門部工科(現日本大学工学部)
昭和16年12月卒業〕

左より　(敬称略)

岩崎　弘　岩崎建築設計事務所
教育施設研究所大阪事務所長

箸本誠治　KK三笠商会取締役

大坊　弘　西松建設KK 大阪建築支店
営業部長

松島忠雄　KK 大林組名古屋支店
設計部次長

長尾　昇　大阪地区開発KK 建築部長

昭和47年6月14日　新阪急ホテル前にて

ニコライ堂の鐘の音を聞き，〝昭煥の日出る国こそ吾が祖国　其の名をばになひてそびゆ我が母校，伸びゆく日本の力はここに，地を開き行くもの若きエンヂニア〟と歌った同窓のすべては国家に貢献するとの大義名分の下に〈建築〉に情熱を燃やすいとまもなく，戦争に巻込まれていった同窓が今日ここに30年ぶりに会った関西のオールメンバーである。

敗戦後のあの異常な時の流れに棹さしここにたどりついた。この間にクラスメートも20数名がこの世から去った。この紙面をかりて彼らの冥福をお祈りしたい。

それでもこう集ってみるとやはり昔の同志，思い出はそこはかと甦る。まるで昨日のように気も晴々身も温まる。毛もうすく白いものも多くなっている。貴禄かなにか知らないがエラクなったような恰好だ。

長尾昇　Gentleという単語のもつ意味をすべて兼ね備えているような人である。「紳士の中の紳士」ではキザに聞えるしGentlemanには「貴人の侍僕」という意味もあるから強いてGentleなお方と申しあげておきましょう。今は関西電力(株)建設部付で大阪地区開発KK に出向している。昔の秀才今日も脈々たるもの感ず　Simpleな人のひがみだろうか。

松島忠雄　誠実勤直の人，学業スポーツともにバツグンのでき。天下の大林組の設計部次長（名古屋）とやら。うってつけの職場であろう彼の将来に期待しよう。ゴルフハンディ17これまた称賛に値する。なんでもできるお人である。

大坊弘　北陸の産。建築家と他の職業は一つのコンビネーションを形作る　建設業者にはより高度な経営意識が必要である。そんな営業にうってつけの人柄である。話術と行動は〝ケース バイ ケース〟彼の心こそ純真そのものである。多くの人に愛されるゆえんでもある。

箸本誠治　地味派のハンサムと評したい。固い鉄も赤くなる赤くなれば軟くもなる。絵を画き音楽に陶酔した彼が職業の選択は自由であると身をもって体験し，現在は紡績機械三笠商会の重役さんである。かく申す男**岩崎弘**は卒業後東京芸大に学びフリーアーテストの希望も敗戦と同時に軌道からはづれ10年余宮仕もしたが性にあわず，今は設計事務所の主におさまっている。　（岩崎記）

人間尊重時代の
インテリアづくりに…

新光クロスのユニシリーズ

ユニテックス
ユニウォール
ユニロン

ハウジングの先端をゆく感覚と技術で業界をリードする新光クロス。その高級壁装材—総合見本帖ユニシリーズ。
'72年'73年のための新作を取りそろえていよいよ登場！
激動する'70年代を生きぬくための仕事の場、憩いの場をずばり、インテリアする業務用から家庭用まで、あらゆるフィーリングと目的にかなった素材と色柄を豊富にコレクトしています。

SHINKOS
WALL COVERING

新光クロス
株式会社

本社／〒550 大阪市西区北堀江御池通り3-18 ☎06(538)7321大代表
支店／〒103 東京都中央区日本橋人形町3—4 ☎03(661)0271～5
出張所／〒730 広島市外安芸町下温品 2 5 4 ☎0822(89) 1248～50

建築の眼

□ポルノ建築

ビバルディやバッハのレコードが若い人によく売れているそうだ。そんなことに驚いては古い。バロックジャズというものがあることを私は最近まで知らなかった。若い人なら，反発しそうな，あの貴族的な，饒舌なものが――，と思ったからである。だが，確かに爛熟の中の退廃，不安定の中の耽美，の一面は現世そのものであるかも知れない。

そう悟ると，現代の建築やインテリヤデザインに，バロック的様式が花咲き始めたこともわかる気がする。その意味では，温泉マーク建築こそ，最も現代を象徴する新しい創造的様式といえるのかも知れない。断っておくが，私はその建築物の利用者ではないが，その貧欲な創作意欲には，唯々感銘している一人である。ルイ王朝風の回転ベッドとか，何とかミラーに至ってはいうべき言葉もなく，古今東西の様式を一堂に混和させている様は，さすがアニマル国民だと思うのである。

様式の定着の過程は，多分こういうものだろうとは思うものの，バロック文化のもつ情熱や力動感とは全く異質なポルノ建築が林立してゆくのは，やりきれない気持がするのである。（N）

□「個人」の荒廃化を歎げく

腹をたてるということは，大人げないことだといわれている。腹をたてないようになっては，おしまいだ。それは老化した証拠であるともいわれる。ここでは，後者を是として，少々腹を立ててみる。生活環境の荒廃が歎げかれているが，私は集団の圧力による個人の荒廃化現象を歎きたい。いや現に腹にすえかねている。どうして，人が腹を立てないのか不思議でならない。マスコミによる大衆操作というのであろうか，啓蒙やらおしきせやらの充満，ありとあらゆる職場やら地域社会における組織の論理や集団の論理の強制。これらはすべて誰疑うことのない正義の装いをつけてのさばり散らしている。そこには，個人の尊厳にとってもっとも基礎的な条件である「個人の自由」が，こともなげにひねりつぶされてしまう。基本的人権とか人間の尊厳とか，ぎょうぎょうしくいわれるけれど，それらは単数形ではなく，すべて複数形としての人間を問題にしており個人としてのそれらは最初から歯牙にかけられていない。このことを反映してか，フィジカルな都市の領域においても，点の計画から線の計画へ，さらに面の計画への論理が正当性を獲得してゆき，また個の建築が設計理念として有義性を失い，群の建築がそれにとって代って幅をきかすこととなる。これは手ばなしで是とすべきかどうか真剣に考えるべきだと思う。個の論理と群の論理は，それぞれ独立の論理としてあり，個は群に従属するものとして位置づけられてよい理由はみじんもない。同様にコミュニティーとプライバシーはいづれか一方に折れ合うものとしてあるのではなく，双方対等にその権利を主張すべきものとしてある。わかりきった話だと思うのであるが，何と集団の論理ののさばり散らすことか。私は個の論理をベースとしないいかなる言動も信用しないことにしている。それはファッショの臭いがするからである。オセッカイ野郎め。（O）

□冷房の季節

最近の建物で，冷房設備のないものがあるのは官庁の建物ぐらいになってしまったが，これらにもようやく予算が認められ，一，二年前から順次整備されてきた。

とくに本年度からは，まとまった予算がつき，中規模の独立庁舎が対象として整備が進められている。

道路の整備と，車のものすごい増加による騒音対策が第一の理由になっている。周辺の騒音程度により毎年数ヵ所づつ実施してゆくのであるから，全部の建物にできるのはまだまだ先のことである。

ところでわが家のまわりも，時期的にクーラーを取りつける所が増えてきた。このあたりはまだ大気の汚染もそれ程ひどくなく，割合静かであるが，より快適な環境を求めるわけである。四季の気温に順応してきた生理的機能が，今では夏季には外気より5°ばかり低い温度を要求するのである。

自然の破壊が進み，すべての生理機能が低下する一方の現在の都市環境の中で働くものにとって，せめて家にある時ぐらいは，自然の状態のまま過ごせるようにしたいものだが，今の規格型の団地の住宅では無理かも知れない。職場にいく方が涼しいということになりかねない。暑い日は本ものの「木かげ」でひるねといきたいものである。（K）

□建築現場の合理化

昔の建築現場では工程に追いまくられて休日も無く，毎日残業々々で家庭を顧みるいとまもなくただただ励んできたのではないかと思います。労務者も「土方殺すには刃物はいらぬ。……云々」という言葉がありましたように働ける時にはできるだけ働き，また残業もできるだけしなければ食べていけなかったのでしょう。いわれるままに喜んで残業も徹夜もしてくれたものでした。それを良いことにして「1日は24時間だ。徹夜すれば3日分の仕事ができるはずだ。」など，止むを得ずそんな無茶苦茶の工程を組んでなんとか工事を消化することもありました。

ところが最近では建設労務者も賃金は逐次上昇し，労務者自身も人並みの生活ができるようになってまいりますと休日にはきちっと休み，定時にはさっさと帰ります。現場でいくら突貫工事だといっても，それには乗ってきません。しかしこのような状態でも工期はかえって早い。また交通事情，公害問題等工事上の制約は益々多い。にもかかわらず現場ではむしろ昔より悠々とこなしているように見え大変結構なことだと思います。建築工事の合理化はなかなか目に見えて進歩はしていないようでも，一つ一つの小さな進歩の集積が今日の状態を可能にしたのかと思うと不断の研究，努力の重要性をあらためて痛感いたします。（N）

能勢善樹
能勢建築構造研究所所長

大久保昌一
大阪大学工学部環境工学

楠部年彦
近畿地建営繕部監督室室長補佐

庭屋浩二
大林組本店建築部長

7月号より12月号まで上記4氏で担当



建築用仕上げ材料

マルチタイル
multitile

つやのある表面と深い立体が生みだすゴージャスなふんい気
高級意匠壁を演出するシームレスタイルです――――
＜牧場・高原・山脈・富士＞四種のデザインを用意しました。

関西ペイント

建築と社会

1972
Vol.53

一　般　号（合併号）7,8

表紙デザイン：表紙デザイン小委員会 & 島村　昇

The Architectural Association of Japan

会　　告　大石寺本堂建立工事の見学と富士五湖めぐり（第２回）。関屋の上村邸新築工事の見学会。第２回若い会員の集い『航空機の製造工程をみる会』。第３回若い会員の集い「ふるいまちとあたらしいまちシリーズ(4)」―伊根浦：舟屋のある集落・祭を訪ねて。―第９回よろず相談住宅展開催。通常総会決議報告。姫路市文化センター新築工事の見学会。大同生命本社ビル新築工事の見学会―ビルの中に緑の森林がある―。泉北ニュータウン光明池ハウジング・プロジェクト共同住宅設計競技募集。青年技術者のみなさまへ。昭和46年度事業報告・決算報告。……13

法令コーナー 59.　消防法施行令の一部改正について（田中隆夫）……35

読　者　の　頁　Homo times（畑中幸雄）。レジャー用カプセルハウス。恩師上野伊三郎氏の死を悼む（星廣文）。レーニン賞受賞者決まる。「建築主事検定考査」に関する依頼について。……37

建築と社会ニュース　建築家の職能の確立に関する要望書と家協会大会宣言。泉北ヤングタウン。……41

データ通信と建築 8.　「DEMOS」を利用して……小菅与三一……45

スケッチブック　最近竣工した新建築９点（№775～783）……47

クラスメート 85.　日本大学　昭和16年卒……49
（岩崎弘・大坊弘・長尾昇・松島忠雄・箸本誠治）

建　築　の　眼　ポルノ建築（能勢善樹）　「個人」の荒廃化を歎げく（大久保昌一）……51
冷房の季節（楠部年彦）　建築現場の合理化　（庭屋　浩二）

海　外　写　真　アラブの建築と生活 1. メソポタミアの民家……写真と文・大蔵　勝…55

作　品　作　風　八尾市立桂中学校……設計：都市科学研究所……56
施工：太田・鴻池共同企業体

（投稿）　未来をきりひらく学校づくり……川内　俊彦…68
高松古墳とタルクイニア彩色壁画古墳……本多　正道…71
大阪市の新用途地域制について……上田　隆夫…72

技術の頁 119.　施工部門　タイバックアンカー工法……横田　弘臣・林　敬次郎…76

若い会員の集い　昭和46年度事業報告・第１回若い会員の集い「伝統工芸をみる会」……78

シンポジウム 1.　国際シンポジウム―世界の工業化住宅と開発商品に関するシンポジウム……82

月　報　日本建築協会月間の動き（昭和47年５月分）……83

都市の開発的保存 8.　LONDON―セントポール寺院境内の再開発……田端　修…85

編集人　松井昭光
印刷　昭和47年7月20日
発行　昭和47年7月25日
発行人　福中定三郎
発行所　(社)日本建築協会
大阪市東区北浜3―37
電 大阪 231―9648
振替口座 大阪 39975
印刷者　網野栄
印刷所　(株)研文社
大阪市北区堂山町66
電 大阪 361―2091
売価　1部 400円・送料共

昭和47年度編集委員会

編集委員長　渡辺忠　大蔵勝　加藤照男
彦谷邦一　編集委員　池田恵次　鈴木俊世
編集理事　安田丑作　森埜和枝　松尾純
北垣智造　日下正基　安永幹二　松原徹雄
白井周二　竹嶋祥夫　矢野邦昭　中谷麻差男
今元康彦　片方信也　宮坂一也　上野登統
山田勝成　森本信明　口羽竜二　事業委員より
小西岬　三輪嘉男　江藤暢英　大橋一雄
堀内三郎　加藤満　小林満　窪田祐
谷口尚武　岩口勝　佐伯晃　田村真二
岩下久哉　中山富久　村田光平　三品哲夫
井上滉　永谷二郎　竹山清明　佐々木純一
尾亀清四郎　谷淳之介　増淵昌利

◀次号特集予告：都市住環境へのアプローチ
1 住環境とは何か
2 住環境を乱すもの
3 望ましい住環境をつくるために
3－1 居住水準・計画・手法
3－2 行財政制度
3－3 住民運動・住民参加
4 計画紹介
◀次々号特集予告：都市防災

KENTIKU TO SYAKAI

Cover design: N. Simamura

(Architecture and Society)
A Journal of "The Architectural Association of Japan"
No. 7,8 Vol 53, July,August 1972

Editor: *Akimitu Matui*
Publisher: *Teisaburo Hukunaka*
Published by
The Architectural Association of Japan.
37, 3-tyome, kitahama, Higasi-ku, Osaka, Japan.
Price: *single copy price ¥ 400*

CONTENTS

Column for Laws & Ordinances about Architecture ····· by *T. Tanaka* ····· 35

Column for Readers ····· 37

News for Architecture and Society ····· 41

Data Communication and Architecture ····· by *Y.Kosuga* ····· 45

Column of New Buildings ····· 47

Class-mates ····· 49

Essayes("Kentiku no Me") ····· by *Y.Nose, S.Okubo, T.kusube & K.Niwaya* ····· 51

Photograph: Architecture and Life in Arab ····· by *M.Okura* ····· 55

WORKS OF NEW ARCHITECTURE ASSESSED

Yao Municipal Katura Junior High School ····· Design: *INSTITUTE of GENERAL ARTS and URBAN SCIENCE* Construction: *Joint Venture by Konoike-Gumi Co., LTD. & Ota-Gumi Co., LTD.* ····· 56

On the Mural Painting of Tarquinia Ancient Tomb in Italy ····· by *M.Honda* ····· 71

On the New Use Zoning of Osaka City ····· by *T.Ueda* ····· 72

COLUMN OF ENGINEERING

119. Execution of Tie Back Anchor ····· by *H.Yokota & K.Hayasi* ····· 76

Report on group of Young Membership ····· 78

BULLETIN ····· 13,83

CONSERVATION OF HISTORICAL ENVIRONMENT IN DEVELOPPING URBAN SPACE 8 — LONDON ····· by *O.Tabata* ····· 85

日本建築協会図書案内

お申し込みは日本建築協会へ。〒 541 大阪市東区北浜3—37 TEL 06—231—9648・9649・9640・5936

既刊

■ 設備技術者のための 建 築 の 知 識
■B5判 9P活字一段横組400頁（折込図面50枚）
■定価 2,300円 会員特価 2,000円 送料 250円
■発刊 44年9月

■ 鉄骨のデザイン ■実例と考え方
■B5判 8P活字一段横組 400頁（設計図面 88枚）
■定価 2,500円 会員特価 2,200円 送料 250円
■発刊 45年2月

■ 建 築 の 風 力 係 数
執筆者 工学博士 石崎澄雄（京都大学教授）
■A5判 9P活字一段横組 100頁
■定価 350円 会員特価 300円 送料 85円
■発刊 42年10月

近刊

■ 建物および設備の保全
■編集：清水寿栄次

最新刊

■ 建築基礎工法と実例
■B5判（182×257mm）9ポイント活字一段横組 約550頁，本文 特別上質紙，表紙 特クロース上製，特製函入
■定価 4,000円 会員特価 3,600円 送料 250円
■発刊 昭和47年2月末
■編集 委員長 山肩邦男，幹事 宮川達郎・山口安男・多々見市蔵
・3月号に記載の定価を上記の通り訂正いたします。

海外写真

アラブの建築と生活

写真と文　大蔵勝



メソポタミアの民家

バグダードの西南 350㎞のチグリス河とユウラテス河に狭まれた湿原地に接するナシリアという町の郊外で撮した民家である。

このナシリアの東側一帯の広大な湿原地はチグリス、ユウラテス両河の増水期には、海のような泥沼となる。沼一帯に葦が叢生し、その葦を加工し建築材料として使用されている。柱や梁は葦の茎を束ばねて造り、屋根や壁は葦のアンペラで葺き表面に泥土を塗って造るのである。この集落からわずかの所に、ウルの聖塔(新シュメール時代)があり、その聖塔の周辺の土中から、何層もの住居址が発堀され、大洪水伝説を裏づける厚さ3米の沈澱層の下(地表面下15米) から、葦で造られた家屋が発見されている。このＢＣ3500年頃の葦造り住居と、約5500年後の現在の住居との様式的違いについては比較する資料がないので実証することが出来ないが、素材が全く同じであることから、現在の様式とほとんど同じではないかと思われる。

ただ現在の家屋はイスラム教の影響で、数棟の建物と、庭をとりまくように、葦の塀がめぐらされた家族単位の閉鎖的空間を構成している。婦女子はほとんど外に出ないし、顔を見せない。それは回教の教律に依るものである。その他数々の非合理的風習から逸脱しない限り、アラブ世界はとり残されるであろう



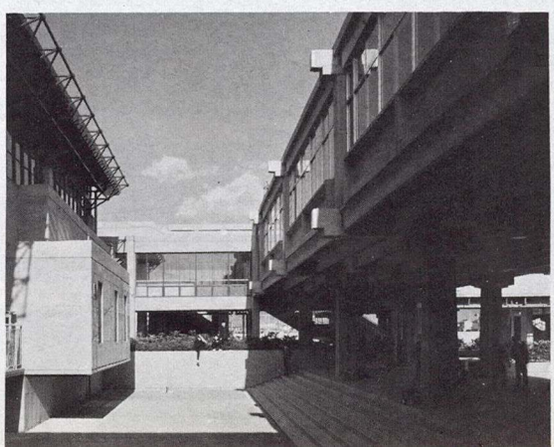
ピロティ　Photo: K. Higashide

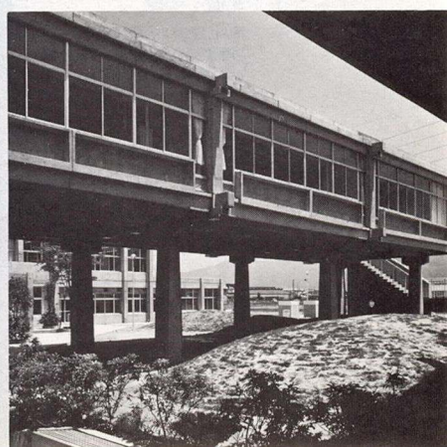
八尾市立 桂中学校

設計　都市科学研究所　　施工　太田・鴻池共同企業体

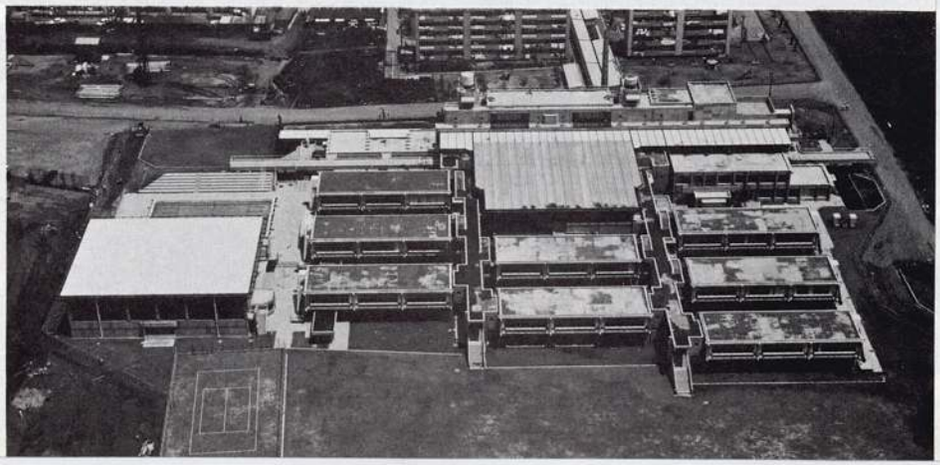








上：北面・玄関
右：南上空より全景
（航空写真提供：彰国社
撮影：和 木 通）





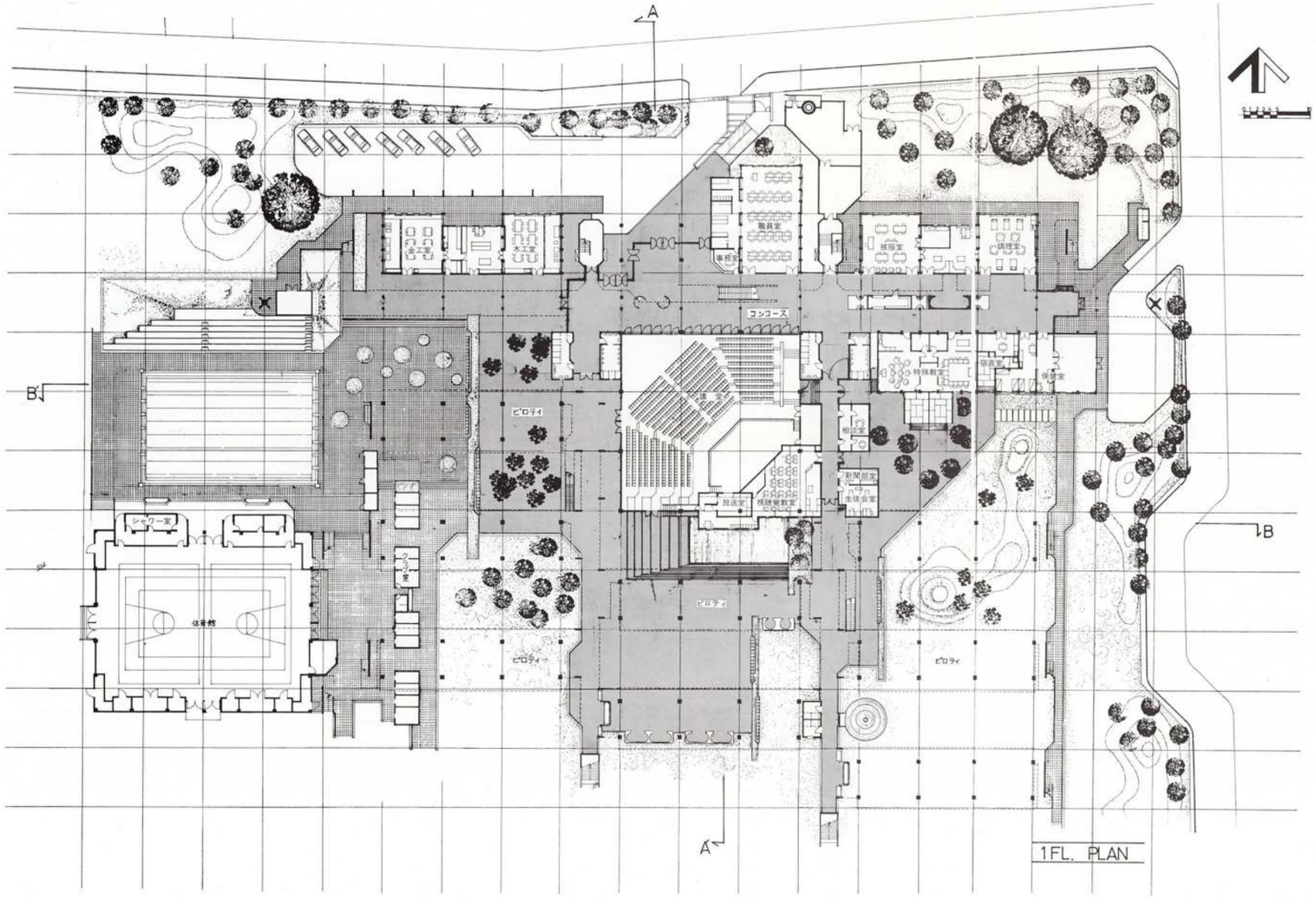


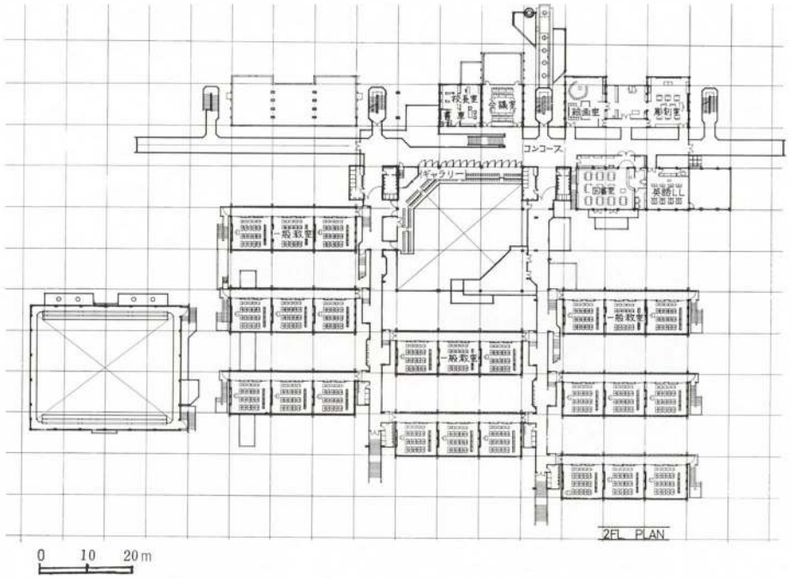


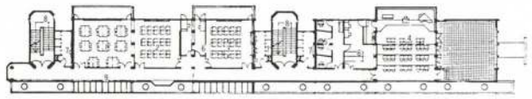


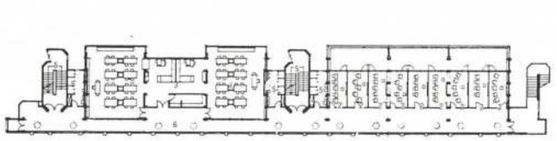
八尾市立
桂中学校

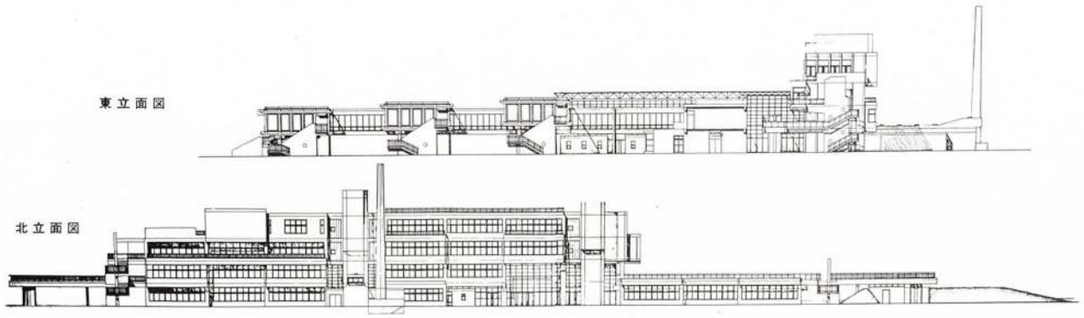
● 施工	太田・鴻池共同企業体	太田組	松原市更池町87 TEL 0723—31—0156	鴻池組	大阪市東区北久宝寺町4—27 TEL 06—252—3100	● 空調給排水衛生	日本熱学工業	大阪市北区万才町50 TEL 06—312—8671	● 電気	六興電気	大阪市北区滝川町31 TEL 06—352—5781
● 特別教室棟・体育館屋根 鉄骨〈鋼管立体トラス〉	片山鉄工所	大阪市大正区南恩加島町1 TEL 06—552—1231	● 体育館屋根折版	大同鋼板	尼崎市杭瀬午新田 TEL 06—488—1181	● セメント	大阪セメント	大阪市北区堂島浜通1—57 TEL 06—345—1231	● 一般教室棟 プレキャスト造	ピーエスコンクリート	大阪市北区絹笠町50 TEL 06—363—2221
● 天井〈ジプトーン〉	吉野石膏	大阪市北区堂島浜通1—25 TEL 06—344—6691	● 床	川口ゴム工業	大阪市南区北炭屋町33 TEL 06—271—4358	● 家具	西尾家具工芸社	大阪市浪速区難波町8 TEL 06—632—3461	● 造作	阿倍野近鉄百貨店装工部	大阪市阿倍野筋1—1 TEL 06—621—1231
● 視聴覚機器 教育機器	内田洋行	大阪市東区本町1—11 TEL 06—262—2631	● 英語L.L機器 照明器具	松下電器産業	門真市門真1006 TEL 06—908—1121	● 舞台装置	山電	大阪市西淀川区花川南町210 TEL 06—472—3268	● 体育器具	勢能体育用品	大阪市西淀川区佃2—154 TEL 06—473—9100



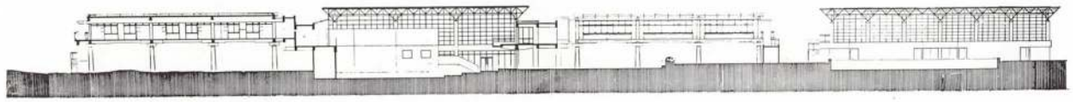












八尾市立桂中学校

設計　都市科学研究所
　　建築　中島龍彦　渋谷　昭　外村嗣夫
　　泉原邦雄　成原公子　松井　洋
　　構造　Structure Design Group (S. D. G)
　　相原俊弘　今川憲英　渡辺邦夫　高橋　正
　　設備　総合設備研究所　坂口茂之　浜崎守弘

監理　八尾市建築課
　　都市科学研究所　外村嗣夫　渋谷　昭
施工　太田・鴻池共同企業体
位置　大阪府八尾市桂町3丁目47
工期　1971年7月～1972年5月
敷地面積　29.371 m²
建築面積　7,233.53 m²

床面積　校舎・棟　1階 3,208.91 m²
　　2階 4,192.58 m²
　　3階 771.96 m²
　　4階 566.23 m²
　　塔屋 56.62 m²
　　計 8,766.30 m²
　　ピロティーその他 2,951.37 m²

　　体育館棟　1階 927.10 m²
　　2階 248.37 m²（ギャラリー）
　　計 1,175.47 m²

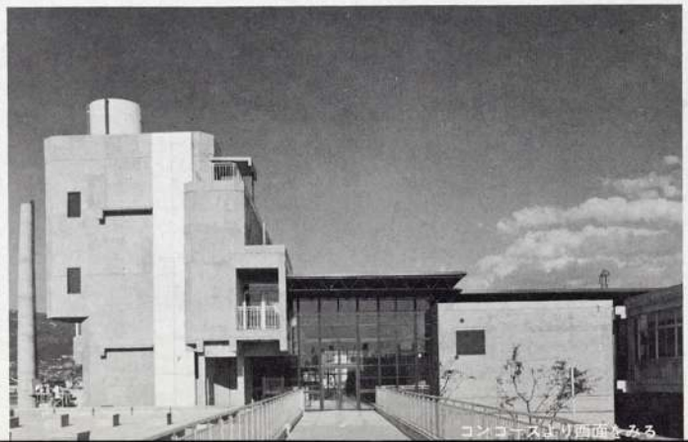
構造　一般教室棟　プレキャスト造及基礎1階独立柱RC造
　　特別教室棟　RC造、屋根一部鉄骨（パイプトラス）
　　体育館棟　RC造、屋根鉄骨（パイプトラス）造、折版葺き



玄関より1階受付・事務室および2階光天井をみる



東側コンコースより



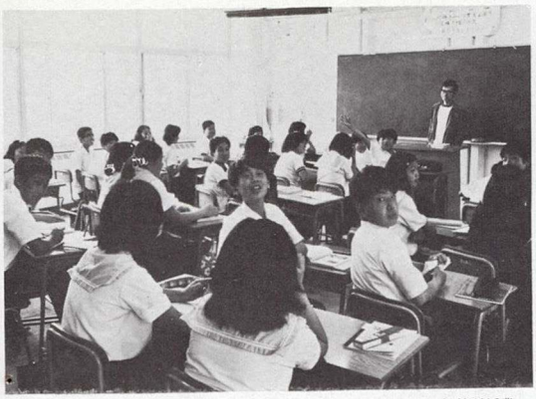
コンコースより西南をみる



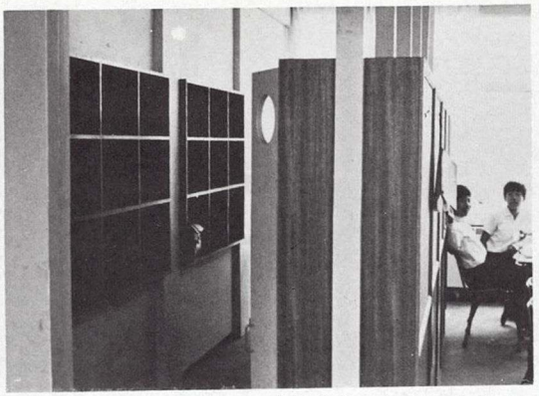
一般教室棟下より



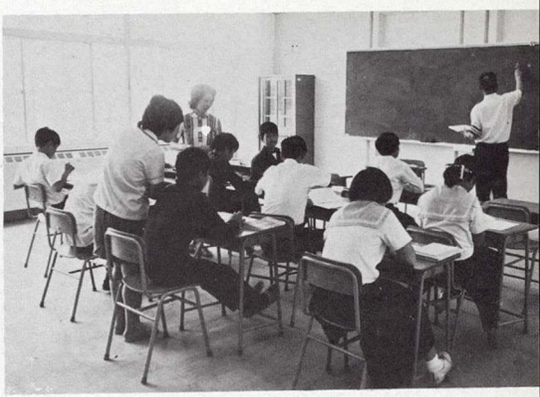
二階大廊下中央より一般教室棟への廊下をみる



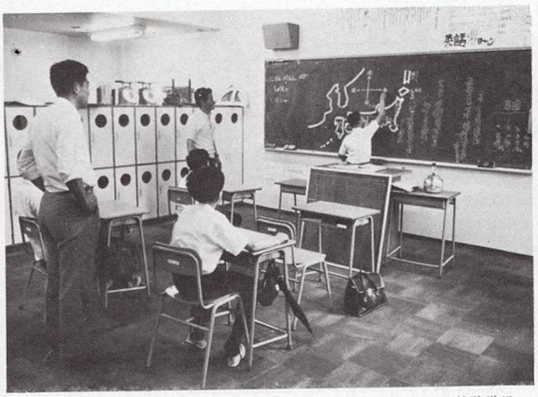
一般教科授業



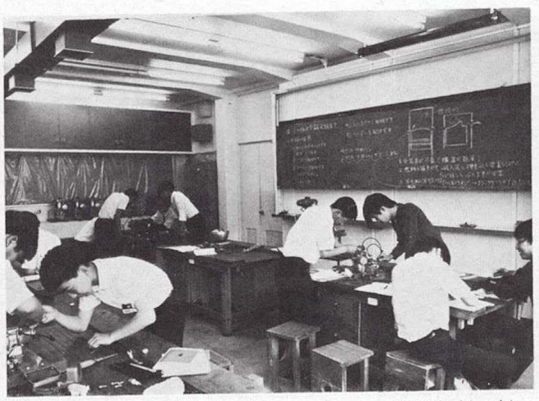
一般教室後部にあるロッカースペース



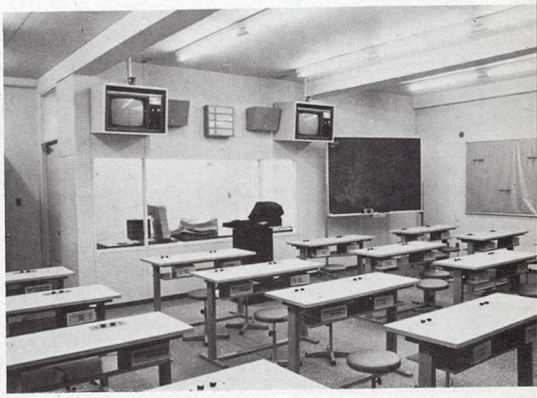
促進授業



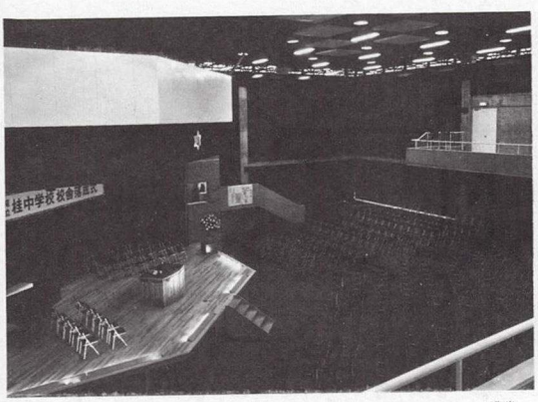
特殊学級



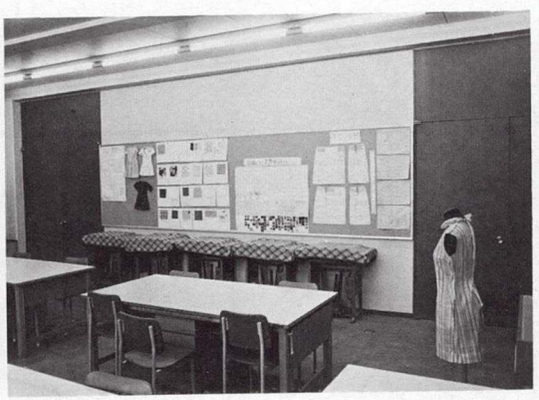
技術教室（木工室）



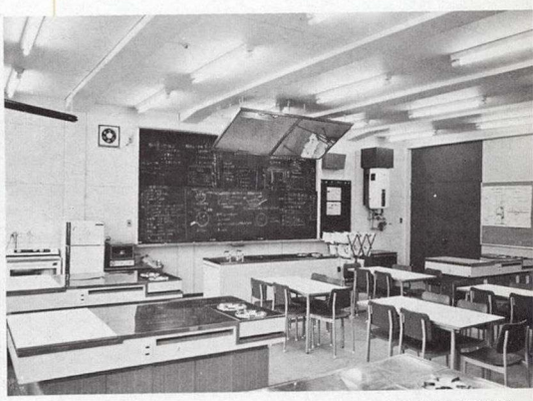
英語L.L



講堂



家庭教室（被服室）



家庭教室（調理室）



保健室



体育館



バレーボールコート



一般教室棟廊下にある洗面スペース



二階大廊下



職員室

桂中学校の建築

中島龍彦

かつてジェーン・ジェコブスはスラムについての著述の中で、子供の遊びについて注目すべきことをいった。子供達にとって、遊んでいるということは色んな意味で自己体験を増大し、人格を形成する上で非常に重要な意味を持つこと。そして、また遊ぶ子を持つ親にとって、その子供が安全な状態で遊びに没頭できるということ、そしてその遊びをかいま見て適切な指導ができ得るということ。そういった親と子の相互の関係が非常に大切である、といった内容のことであった。そして、岡潔氏の指摘の如く、幼少時代の情趣に満ちた教育、遊びが人格形成上に重大な意味を持っていることなど、ようやく、現在の教育のあり方に若干なりとも反省改革の色が出始めて来た。全面的には賛成しないまでも、このことは先の中教審の答申にも伺い知ることができ得る。

一方、大都市周辺部における住宅化は至るところ、ところかまわず急ピッチで進行している。その中にあって、ただですら無味乾燥した住宅にあって、小学校、中学校といった教育施設たるや如何なものであろうか、いたづらに無意味なオープンスペースとコンクリートの箱、またその内容たるや、将来に向って描かれた一直線に沿って、唯々、つめこみと強要のみにあけくれる教育、果して吾国の将来を担うべき人間がどのような形で育っていくのやら、その不安たるや……そらおそろしさを感じているのは僕だけであろうか。

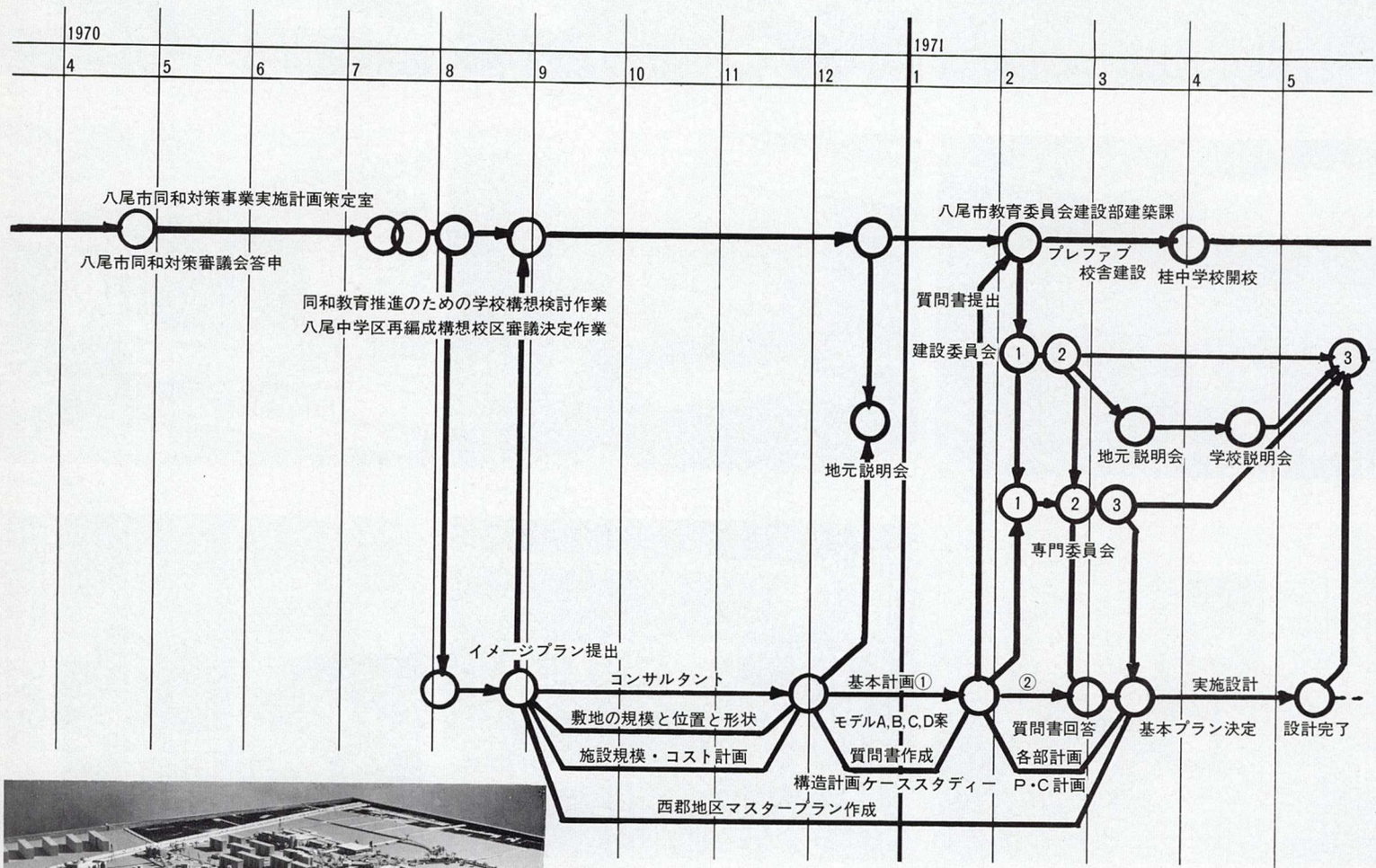
〈地区教育環境の極として〉

こういった教育に対するある種の不安、又現実の教育環境に対する不満は、僕達にとって教育機関の再検討を強いる事となった。今回みる中学校は地区再開発の一環としてその実現が確定している以上、地区、住民との関係を無視し得ない。現在のまちはその中に、実に沢山の補助教育機関を学校以外に有している。一例をあげれば、そろばん塾、習字塾といったたぐいのものから英語学校、生花学級といったたぐいまでである。僕達はこれらの社会的教育機関と街の関係を更に有機的に結び付けることこそ重要であり、そういったものの関係の極として学校を考えることが、とりもなおさず、現在欠落している真の意味の教育に対してアプローチすることとなる。

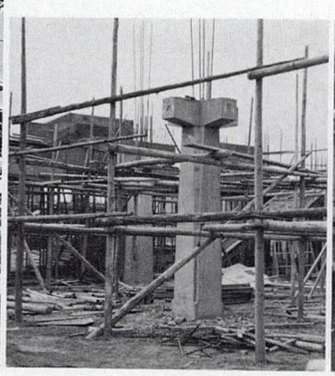
〈親と子の交歓の場として〉

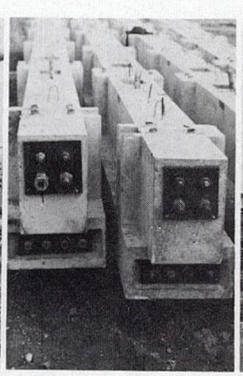
只、幼稚園から大学へ引かれた一直線上のある点としての中学校というよりはむしろ、人格形成上重要な時期にある青少年を、自我覚醒、独立をうながす様な内容と環境をより重要視すべき事だと考える。

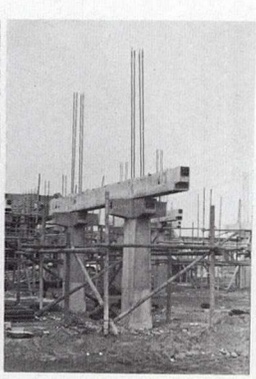
そしてまた、このことは単に学校教育にのみ課せられるべき問題ではなく、親と子、子と先生、子と社会の関係においてとらえられるべきであり、学校環境としてそのような関係を成立させ得る「場」を提供すること、











すなわち、親、子、先生を中心にした一つの小社会を現出せしめることこそ、中学建築において真摯に考えられるべきことである。従って、唯単に就学時間帯における空間の利用のみならず、終日こういった意味での利用を可能ならしめる管理と運営のシステムを開発して行かねばならない。かゝる意味でオープンキャンパスがリアリティを持つものであり地区、住民の為の教育空間となり得るものである。

空間各論

渋　谷　昭

〈コンコース〉

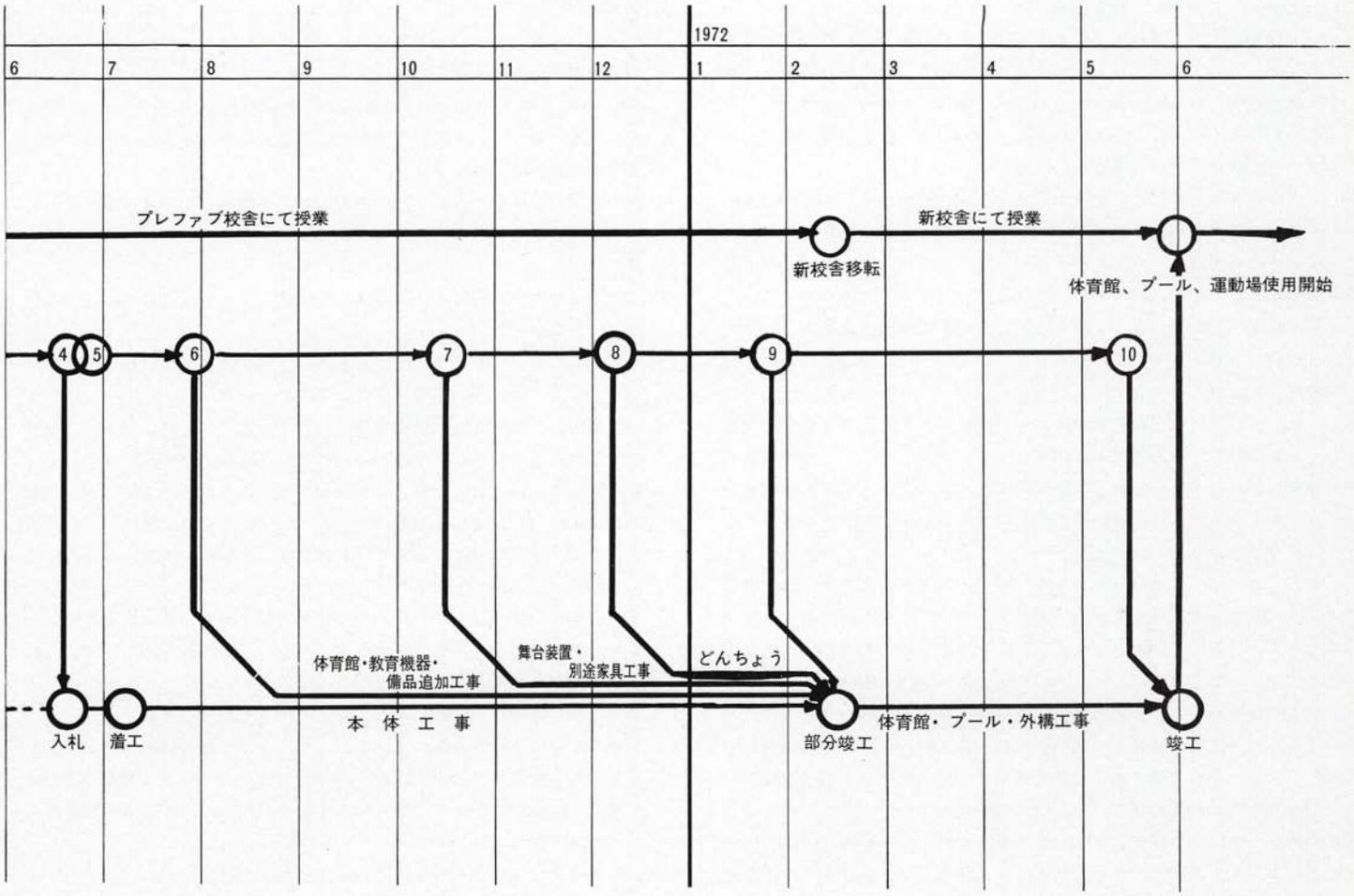
西郡地区と北山本地区を結ぶ巾９ｍの東西軸は、学校と社会、地域と地域を結ぶ、学校の中でも比較的、社会的色彩の強いメインストリートである。生徒、職員、外来、サービスのアプローチゾーンとしてのみでなく一般に開放可能な講堂、技術、調理、図書、ＬＬ教室はこのコンコースに面している。コンコースの上を走るデッキは、北側に階段シャフト、南に２本のフィンガー通路をのばし、全体の動線とエネルギーのシステムを決定づけている。空間の質としては、打放しコンクリートのマスのすきまをパイプの立体トラスとマイクロウールをサンドイッチした複合ガラスパネル(900×1,800)でおおうことにより光、音、熱を40%透過率の障子のようなやわらかい光で満し、この建物のクラックとしての空間の強調をはかる。

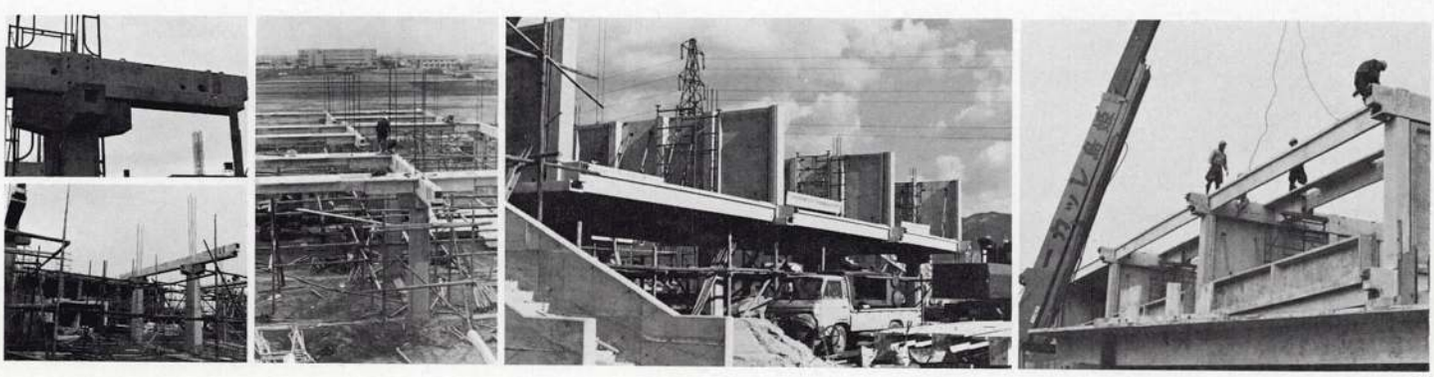
〈ピロティー〉

コンコースのポジティブなシステムに対してピロティーはネガティブなシステムである。公園や団地の空地等、地域全体のオープンスペースとにつながりをもたせて通路や、子供の遊び場としてのネットワークだけでなく地域の身近かな学校として生徒に意識させる。又このピロティー空間の最も重要な意義は、積極的に部落差別を根絶していく強じんな人間をつくるために連帯意識を高め、自主的な活動を活発にさせることにある。サポートするスペシャルユニットを北側にスキップさせていくことにより冬期の日照も十分得られ、陽の当る明るいピロティーをつくることとなる。講堂はピロティーの真ん中をガラスの間仕切とカーペットの段床と装置をつけた空間とみる。

〈スペシャルユニット〉

フィンガー通路とスペシャルユニットとは、旅客機ＤＣ８の翼とジェットエンジンユニットとの関係にあるといった方がわかりやすい。すなわち、各々が独立した機能と形態をもちながら相互依存の関係にある。スペシャルユニットは学校のホームルームとしての最も利用の高い先生と生徒の本拠地であり、空間の中核である。１クラス30名の３室を９ｍ600 ×27ｍのユニットでＰＣ部材で構成し、将来の教育指導に対処できるフレキシブルな空間である。ＰＣ材の使用は工期短縮、質の向上の一般的な理由よりも学校建築の教育空間部材としての方向を見いだすことにある。





未来をきりひらく学校づくり

——差別からの解放をめざす桂中学校建設のプロセス——

八尾市教育委員会同和教育室長 川内俊彦

今日、解放令発布、101年目。水平社結成以来50年を迎えたわけだが、日本の教育のあゆみもまた100年の歴史を数えるにいたった。「むらに不学の戸なく、家に不学の民なからしめん」（明治5年8月学制発布）の学制発布は、全国6000の部落にとっては、どのようなものであったか。まさに「部落に不学の戸みちあふれ、家に不学の子弟はみちあふれる」の差別実態であり、まさに部落解放の教育の歴史は、教育の機会均等とは無縁の〈教育の機会と権利〉からの**しめだしときりすて**の差別教育の歴史にはじまったといっても過言ではない。

部落大衆とその子弟は、市民的権利・自由の一切について差別・抑圧されたと同じく〈教育をうける権利〉についてもまたきわめてきびしい差別と無権利、迫害と受難の歴史をおしつけられたといわねばならない。もちろん、このような、きびしい差別のなかにあっても教育の権利、教育の機会均等をひろく実現する道を求めて部落の先覚者が血のにじむ努力とたたかいをつづけ、自主的な部落子弟のための学校建設に努力した事実も忘れさることはできない。

このような苦しい斗いは、戦後といえども例外ではない。戦後の部落解放の教育は「今日も机にあの子がいない」という「教育差別」の現実からそのあゆみをはじめたものであった。そしてこの八尾における桂中学校の母胎となった旧八尾中学校の場合も「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の子ども達のうばわれた教育権回復の斗いからその同和教育の一頁をくりひろげていったわけである。「同和教育や、部落解放教育などは必要でない。ねた子をおこすな、さわらぬ神にたたりなし……」という反同和教育のぶあつい壁と「もういまさら部落差別はない。西郡はもう解放された。何をいまさらさわぎたてる。同和教育や部落解放教育などというやつは偏向教育だ」などというつきあげが杖とも柱ともたよる地元、地域のなかからでてくるという状態すらあったことは否定できない。

しかし、その部落の現状はというと、低湿地、下水不備の為、雨が降ると汚水が溢れ、悪臭の中に汚物がぶかぶか浮いているという劣悪な住環境であり、四畳半一間に6・7人もが同居するといった典型的な生活破壊の様相を呈していた。そうした中での出産、育児の困難さから乳幼児の死亡率が極めて高く、終戦後から昭和30年までの平均寿命が32.5才という驚くべき状態であり、児童の特に耳・鼻・喉の疾患率は600数名中500人余りという実態であった。それがひいては勉強ぎらい、学校ぎらいとなり必然的に学力低下につながる悪循環をくりかえすことになったのである。今日、公害を全世界的な課題として、命と健康の破壊から守るためようやく真険にとりくみ初めたが、部落というのはまさに社会矛盾の縮図として、命と健康の保障されない場として、すでに幾世代にもわたってその苦汗を飲まされてきたといえよう。

そのような状況のなかで、昭和28年はじめて「部落解放教育」の旗じるしは、この八尾の地の八尾中学校にうちたてられた。排他的、立身出世主義の教育がまかり通り、「受験教育」にあけくれる旧八尾中学校の体制のなかで西郡地区の数多くの長欠・不就学生がきりすてにされ、困難な中でかろうじて中学に就学した生徒達も「差別と疎外」の中でさまざまな苦難にたえねばならなかった。しかしながら、いつまでも差別支配がゆるされるはずもない。一部少数ではあるが自覚した教師と生徒集団の学校民主化へのとりくみのなかで、一歩一歩、同和教育・部落解放教育のとりではきずきあげられていった。いまそのおもだった動きとあゆみをふりかえってみる。

昭和29年、西郡地区生徒を組織した全く自主的な〈部落の歴史学習会〉ー〈地区学習会〉が組織され生徒達はいきいきと学んだ。

昭和32年、文化祭はじめ教育の機会における全員参加要求を軸にした差別管理制度に対する抗議活動が激化、学校民主化は大きく前進し、校内部落問題研究会の体制もようやく生れた。

昭和34年、長欠・不就学生を放置したままでの「精勤賞・皆勤賞」は差別であるとして廃止にふみきり、部落解放の教育内容をおきざりにした立身出世、差別支配のパスポートとしての「優等賞」「学業賞」廃止を実現した。

この頃より部落産業である花緒産業の衰退はいちじるしく、その生活基盤は困難をきわめるにいたった。

昭和35年、近鉄八尾駅前における右翼系暴力団と称する井上会による「西郡差別暴力事件」がひきおこされ、差別暴力糾弾・差別行政糾弾の戦列が強力に組織展開された。

大小無数の結集会のなかで住民の意識は、差別にめざめ、人間としての侵すべからざる権利を自覚し、解放への炎をもえたぎらせたものであった。

このことは、西郡地区の子ども達、生徒達にも大きな影響をあたえないではおかなかった。

「差別とは断呼として斗うこと」を子ども達は解放同盟に組織された斗うお父さん、お母さんの姿から学びとっていった。

昭和36年、いわゆる「八尾中問題」のエネルギーは、実に部落解放運動の斗いの中で育くまれたものといわねばならない。

しかしながら残念なことに、この子ども達のエネルギーを正しくうけとめ、発展せしめる「解放教育の主体」は、まだまだ未成熟であり、この生徒の動きは、あたかも単なる「非行集団」の学校破壊であるかのごとくに印象づけられてしまった。

さまざまな困難のなかで、いわゆる非行問題状況と、伸ばしきらないままの低学力をどう高めきるかのとりくみが八尾中教師集団に課せられた二つの大きな課題として自覚されー解放教育ーの観点にたった懸命の努力ととりくみが重ねられて今日におよんできたわけである。

しかしながら「分裂支配の道具としてつくりだされた差別」のとりことなり、部落解放を自からの課題・国民的課題として自覚し認識しえない一部市民のなかの、とりわけ八尾中校区の一部父母・市民は、八尾中からの越境、脱出をはかった。

同和教育反対の動きもあった。八尾中解体、部落の子どもだけの西郡中学校をつくれという差別的策動もあった。

昭和40年にいたっては、部落の子とは別に山本中学校をつくれという市民運動に名をかりた差別署名運動もあった。

それにつづいて萱振地区からも萱振地区だけの中学校をつくれという表面上の、大義名分のよそおいに名をかりた、その実、差別切り離しを意味する差別署名が策動された。私たちは、適正規模学校ーとくに30名学級ーを基礎にすえた適正規模学校の計画をねりつゝあったわけであって、いたずらに生徒数の大を誇ろうとするものでもそれを維持しつゞけようとすることもさらさらないし、過大学校の教育的マイナス面を知らないわけではなかったのである。

しかしながら、表面上、さまざまな口実を構えながらも、その実、歪ん

だ差別的教育要求としての学校分割をたくらむ差別署名運動に屈して、新しい学校づくりを行なうことにはなんとしても納得できるわけがない。昭和45年――身勝手な差別的教育要求はゆるされない、部落問題についてより一層正しい自覚と認識をとよびかけた「啓蒙文書」を一斉に配布、啓蒙活動に一だんと努力しとりくんだ。そして数年にわたるはげしい試煉のなかで、同対審答申の特別措置法を活用して飛躍的に発展した部落解放運動、とりわけ部落解放同盟大阪府連、ならびに地元西郡支部の力強い指導とはげましをうけながら「八尾市における部落解放総合計画策定」の一環として、差別にうちかつ解放教育を充実、前進させるための学校建設構想」がねりあげられていった。

45年5月、八尾中校区再編成構想をにつめ新しい校区審議決定の作業に入った。45年秋、旧八尾中校区内、桂小、北山本小をもって桂中学校。用和小、長池小をもって八尾中学校。山本小・東山本小をもって上之島中学校と決定。

46年1月18日、仮称第3八尾中学校建設委員会設置案、西郡支部より提起。

それをうけて46年2月、仮称第3八尾中学校建設委員会発足のはこびとなった。建設委員会は、解同西郡支部、16名。八尾市議会、12名。八尾市教職員組合、2名。八尾中学校、16名。桂小学校、10名。北山本小学校、11名。八尾市行政当局関係者、13名。

46年2月9日、八尾市教育研究会は、桂中学校の施設、設備についての専門委員会に全面的に参加。

そしてついに、46年4月1日、桂中学校開設にふみきった。とはいうものの、校舎はすべて、オール・プレハブというきわめて困難な、さまざまな悪条件にたえねばならなかった。

しかしながら、新しい学校づくり、解放教育の拠点、桂中学校を創造していくのだという輝やかしい展望をもつなかで、教師集団も、生徒集団も、そして父母集団、地区住民も一致協力して、よくこの苦難をのりこえていって下さったわけである。

この間、直接、間接、同盟西郡支部、同促協、地元の物心両面のなみなみならぬ御尽力があったことは決して忘れることはできない。

このような状況の中で、いよいよ桂中、盛土作業がはじめられた。

そして「46年7月13日」一設計監理都市科学研究所、太田・鴻池共同企業体による建築工事施行。

7月18日、くい打ち開始、桂中学校の建設のつち音は高らかに初夏の河内野の空にひびきわたり、工事は急ピッチで進行していった。

昭和47年2月初旬、待望の第一期本館工事が無事完成した。「プレハブ教室」で暑さ寒さにたえつづけた第3学年生徒に、卒業までの短期間ではあるが、新校舎でのよろこびを体得してもらうべく、2月17日、生徒、先生による新校舎への移転作業を行った。

2月21日、新校舎での授業を開始。

3月7日、校内でのささやかではあるが移転式を行なった。

以後、ひきつゞき、体育館・プール等附属の工事を継続し、そして6月1日、ようやく、その全ぼうの完成をみたのである。

桂中学校は日本の中学校建築の今日的レベルから見れば、確かに理念といい、金をかけたことといい、群を抜いて立派なものである。

この立派さに対して一つの批判が起る。

「部落の中の中学校だけにあんなに金をかけるのは逆差別やないか」。

ここに現象面にとらわれた分断的な考えにもとづく非難の声があがる。

いわゆる逆差別が生じてくる理由に二つの側面があるように考えられる。その一つは、まさしく部落に対する差別観念そのものであり、今一つは、部落の実態についての無知からくるものであるといえよう。

「部落は低位で貧しく劣れる存在である」とする固定的な差別観念、「下には下がある」とする分裂支配のしずめ石が、斗いと運動の中で一定の成果をかちとり、その向上を実現しようとするとき、部落外市民がそれを相対的に自からの位置の低下と感じとり、ゆがめられたひずんだ観念にとらわれるようになってしまう。これがいわゆる「逆差別」意識の生じてくる側面の一つである。しかし、ことの本質は歴然としている。教育、就職、結婚などの生活の機会均等をさまざまの形で奪われ続けている差別の実体、その長い重苦しい歴史的な時間のたい積が、例えば、児童、生徒の学力に端的に現われざるをえない。

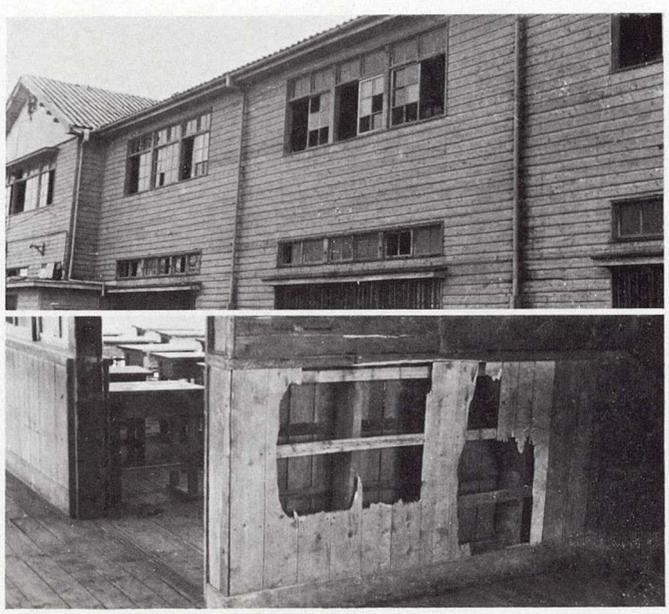
差別は後続世代を貫徹する。親の受けた差別はもろに子供がひっかぶる。生れた瞬間、いや胎内からはじまった差別の犠牲者は、家庭環境の経済的、文化的貧困の中で、中学生になる。

学力差を少しでも縮め向上させていくためには、今の一般的な中学校建築レベルの施設では、とても間に合わないことはその実体をみれば明らかである。

昭和44年に大阪府同対審が答申した基本姿勢の意義がここにある。

即ち『同和行政の目標水準が一般的な生活水準を保障する程度の段階に決定されるべきでない。一般的な生活水準程度への補償的な底上げであっては、同和地区の持つ社会的体質の伝統的な脆弱性によって、結果においては、平均的な一般地区との間にふたたび社会的格差が再生産されることが予想される。したがって、府の同和対策においては、この点を十分考慮して、同和行政目標を現状において、可能なかぎりの高水準におくとともに、同和行政の推進を中心として一般スラムなどの底辺地区への行政水準を高めていく方向で努力することが要望される』

なおまた地区住民のための解放センターなど、社会教育施設が完備するまでは、桂中学校教育施設は、地域住民の利用に供せられるべきであろう。



昭和36年八尾中問題当時の校舎破壊の一コマ



改良以前の桂地区住居の一コマ（写真提供：植田隆哉氏）

桂中学みてある記

現状に慣れ批判精神がマヒしていくとき，人はいつか固定観念にとらわれる。そいう自分に気づき，はっとするという経験は誰しももつであろう。桂中学をとりあげたきっかけも案外，日頃の中学建築に対するこのへんのひっかかりがあったからかもしれない。

どこへ行ってもあのモルタルの箱を積み重ねたパタンの繰返し——中学建築とは単調で画一的な空間なのだとおもってゼンゼンおかしくない現状。だから「今さら中学校の紹介？」「中学にどうしてこんなぜいたくを」という声がきかれたのも不思議ではない。やはりその程度には中学建築に対するある種の観念化が進行しているということであろうか。

その意味で桂中学が形式・規模とも既成のパタンを打破しえた背景には設計者の姿勢とともに，地元住民の力が大きく作用した。このへんのいきさつについては，すでにのべられたが，桂中学建設のきっかけが生徒自身によるものであったことは見逃せない。即ち，昭和36年に八尾中問題がおこった。八尾中生徒による校舎破壊。それはうつ屈した不満と矛盾の爆発であった。八尾市の川内同和教育室長によると八尾中では大学斗争より10年早く中学生による中学教育批判があったということである。この事件が直接の契機となり八尾市議会は昭和39年に「同和教育を推進する決議」を行なった。以来10年の紆余曲折を経て今日の三校分離，その一校としての桂中学誕生にいたった。

桂中学を訪れての第一印象は，中学校舎というよりどこか短大の学園に来たといった感じのほうが近い。従来の中学建築の空間概念を越えたユニークさ，それはそのままピロティに象徴されているようにおもわれる。そのピロティから運動場へ出ると東，南二方は田畑に続いていて運動場が一層広々としてみえる。西風にのってスモッグが押しよせてこない日は生駒の山並が目の前にある。

土曜日の放課後，あざやかな青と赤のユニホームが走りまわる。サッカー部と女子ソフトボール部がクラブ練習中だ。ピロティでは生徒達が三々五々ベンチに腰かけて話に興じている。桂中見学にきた地方の先生・父兄が熱心に校長や同和主担の案内に聞きいっている。

部落にまつわる先入観をもってここへ来た人は，生徒達のあけっぴろげな快活さにまず驚かされるだろう。

今の桂中２．３年生は旧八尾中のすし詰学級，2,000人近い生徒にとっては猫の額ほどの運動場，そして昨年１年間のプレハブ仮校舎を体験している。

彼ら生徒の目にこの新校舎はどう映っているだろうか。別の日，自習時間でソフトボールをするのだという２年生の１人にきいてみた。その生徒は「なんぼ校舎が立派でも中味が空っぽやったらあかん」といった。ソフトボールがはじまると２．３人のボスがすべてを牛耳る。「次はおまえが打て」「おまえは守れ」ルールがないからゲームにならない。先程の中味云々の意味の一端を垣間見たおもいがした。

次に同和主担のＩ先生に感想を語ってもらった。

——まずこの１．２ケ月，旧八尾中時代からみると生徒が落着いてきたという感じがする。たとえば旧八尾中では窓ガラスが破れるのは日常茶飯事であったのが，ここでは皆無に近い。それには現場教師の日常活動を通じて，この校舎は自分達の父母の努力で建てられたものだという自覚が生徒各人に芽ばえてきたということが考えられる。それからクラブ活動の活発化がある。桂中は大阪で２番目という生徒数の少なさから(1クラス30人，全校生徒580人)，クラブに入っても能力をとわず正選手か補欠になれるので積極的に参加するようになる。活動を通して「やればできるんだ」という自信のきざしが生徒達のなかにみえはじめたようだ。

校舎の使い方・管理という面について

——これは正直従来の校舎に慣れてきたせいもあって，なかなか大へんだ。鍵が多いこと，職員室から運動場が見えないこと，新しい設備が多いことなど。私自身，はじめは職員室の位置や鉄製の扉などに抵抗を感じたが，３ケ月たった現在，そのへんは逆にこのほうがよいのかもしれないとおもうようになってきている。問題のひとつは，生徒を預っているという公教育意識が先にきて，事故がおきてはとか器物破損があってはというような管理的発想と，一方で生活構成者である生徒と先生，事務員，校務員が教える者，教えられる者というレベルを越えてもっと一体となって，この建築空間を主体的に活用し新しい場を生みだしていかねばといういわば，解放教育意識とが教師自身の中でひとつの矛盾としてせめぎあっているということがある。新しい空間に慣れ使い勝手を覚え，自分達のものとして例えば生徒達の自主運営によるフォークダンスや歌の集いが日常生活の中の自然な姿としてピロティなどでもたれるようになっていけばとおもっている。

家庭環境と学校生活の落差といったものは

——たしかに学校が立派になった分だけ家の空間が貧しくみえるということはあるだろう。英語ＬＬや視聴覚教室,その他実験室などどれも最新の設備を誇っているが家に帰れば６畳一間に５人も６人も住んでいるという場合がある。それから家に帰っても両親が共働きで誰もいない。また勉強を教えてもらいたいとおもっても親が教育の機会均等を奪われてきたために読み書きすら充分でないということもある。教育は学校・家庭・地区が一体となってすすまなければならないわけで親の識字学級もさかんになっている。また家庭訪問にしても教師の授業時間は１人１週20時間で他の中学の25時間より少なくなっているが，親が夜間でないといないことなどもあって先生方の労働負担は大へんなものになっている。せめて16時間位にならないと現状では生徒との緊密な理解を通じての教育にはもう一歩というところがある。

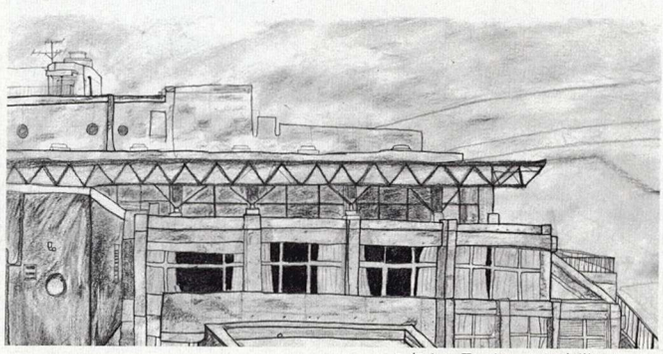
学校・地区一体という方向については，学校だけでなく市の運営による桂地区中学生友の会があり，そこで活動するＩさんにきいてみた。

——中学生友の会ではスポーツサークル（卓球・剣道）や学習会（学校の補充学習と部落問題学習）に取り組んでいる。毎週月曜日と木曜日がスポーツ活動，火曜日と金曜日が学習会である。場所は桂青年の家，隣保館卓球室，桂中体育館などを使い毎日６時から７時半まで２．30人が集まってくる。その他，夏の臨海学舎，キャンプ，ハイキング，クリスマス大会，スケート大会などの行事を取り組んでいる。これらの活動を通じて子ども達が部落に住んでいるという自分達の社会的な立場を認識し，個々バラバラではなく集団として自主的に行動し，部落差別と取り組める集団に成長していくことが，子ども会の指導者や桂中学校に課せられた課題であろうと考えている。

以上，限られた時間のなかでごく一部を見聞したにすぎないというおもいとともに今後，圧迫された教育環境におかれてきた部落の子ども達が，人間のもっている可能性をどうのばしていくか，教育の機会均等ということは校舎を建て教師をふやすという条件だけではそれの保障にはならず，まさにあの生徒のふともらした「中味が空っぽやったらあかん」問題なのだとおもう。

建築を通じて教育との社会との関わりをいうとき，建築技術レベルでは捉えきれぬ教育の原点ともいえるものが，この桂中には集約されてあるようにおもう。

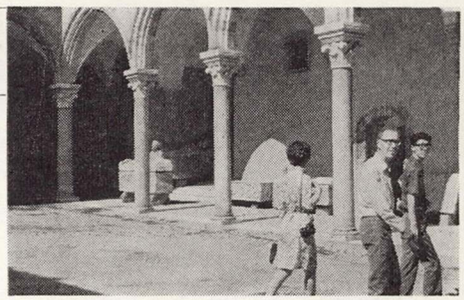
建築に関わる者が，このへんをどう受けとめていくかその質を問われるなかで桂中学はそのケースワークとしての意味を提出しているといえよう。この新しい建築空間をどう生かしていくか　　（投稿文責：東出）



３年生Ｋ君の描いた桂中学スケッチ

高松古墳とタルクイニア彩色壁画古墳

本多正道



古墳出土の棺類をならべてあるタルクイニア博物館中庭

高松古墳が華々しく登場したのを見るにつけ，まず連想されるのがイタリアのタルクイニア古墳群である。タルクイニアのネクロポリスについては，日本の二，三の書物にも出ており，簡単な案内書にさえ，名前が載っているほど有名なものであるから，実物をご覧になった読者も多いと思うが，一言でいって，ちょっと比較にならないほど，あらゆる点でスケールがちがうけれども，強いて比較してみると，

1. 時代：高松古墳がＡＤ500年頃のものであろうといわれているのに対し，タルクイニア古墳群はＢＣ500年～ＢＣ300年頃にわたっていると推定されているから，高松古墳よりも約1000年古い。しかも彩色壁画は驚くほど鮮明で破損も少ないものが多い。

2. 数量：高松古墳に類したものがまだ発見される可能性はあるということであるが，万一発見されるとしても，おそらく数個でろう。これに対し，タルクイニア古墳群はルネサンス時代から現在までの間に70個以上が発見されており，今後も発見される可能性があるということである。探査方法も，電波や震動によって位置を知り，ボーリングをして，電灯付の潜望鏡のようなものを突込んでしらべる方法が考案され，つぎつぎと発見されておるとのことである。

オリーブと麦畑のなだらかな丘の上にある多数の古墳は，要するに古代タルクイニア・エトルスクの墓地区であり，死後の都市である。数量において比較にならぬのも当然であろう。イタリアにはエトルリア彩色壁画古墳がほかにも相当あり，とくにキウジ，オルヴィエート，ヴルチなどに有名な立派なものがあるが，数量においてはタルクイニアが抜群である。

3. 大きさ：高松古墳の内部が，報告されているような大きさで，高さも人が立って歩くこともできない低さであるのに対し，タルクイニア古墳は家族の墓所で，棺も数個置くようになっているために，30人ぐらいの人が一時にはいることができる。天井も最高部（ゆるい舟底型のものが多い）で2.5メートル以上あると思われ，凝灰岩窟の広間のようなものである。そして壁画のある前室付のものも多く，４室に分れているものさえある。

高松古墳は，当時ぜいたくが禁じられていて，墳墓の大きさなども制限があったということであるから，小規模であるのもそういう事情によるものかもしれないが，とにかく大きさがちがう。

4. 壁画，天井画：ただ一個の壁画古墳と数十個の実例とを比較することは，そもそも無理かもしれないが，高松古墳壁画が支那―高句麗の忠実な伝承であり，日本的な要素が稀薄であるのに対し，タルクイニアの壁画は当時のエトルスクの実生活に即した実に多種多様な題材をきわめて自由に描写し，当時の生活，すなわち風俗，衣食，宗教などを描き出している。種々の人物の起居，振舞のほか，食物，食器具から舞具，楽器などに至るまでの生活百般の器具類のほか，草木，鳥獣，死後の世界，室内装飾，景色，幾何学模様など，実に多種多様である。また天井は木造建物に擬して，梁，垂木などを描いたものが多く，舟底天井風のものも多い。また単に市松模様や円を描いたものもある。

さらに大きな相違は，ほとんどの壁画に文字があることである。文字は当時の先進国であり，交通，貿易も盛んであったギリシャの文字またはこれに類似した文字が使用されているので，われわれから考えると，解読は容易であろうと思えるのだが，古代エジプトの象形文字や楔形文字までも解読されているのに，ギリシャ文字を用いたエトルリア語が今なお完全に解読されるに至っていないのは，ちょっと不思議である。もちろんお膝元のイタリア考古学者など懸命に研究しているのだが，まだ一部しか解読されていないとのことである。それにしても，とにかくそこに文字が書き込まれてあり，なかには墓の主の名前の判明しているものもあるのだから，研究，解明の非常に有力な足がかりがあるわけである。これに反して，高松古墳は古代といっても，ほとんど中世に近いものであり，仏教も文字も渡来後であるにもかかわらず，すばらしい古代美術の発見という以上のことは何もいえないという，考古学研究にも，手がかりのはなはだ困難なものではなかろうか。

注：タルクイニア古墳の壁画の特色ある画材によって現在つけられている墓の名称をみても，その画材の豊富さが想像できるであろう。（例：官吏の墓，牡牛の墓，鳥占師の墓，オリンピア競技の墓，狩りと漁の墓，雌獅子の墓，二頭立て戦車の墓，船の墓，トリクリーニオ(横臥食事)の墓，棺寝台の墓，楯の墓，バルトッチーニの墓，カルダレーリの墓，テイフォンの墓）

5. 副葬品：高松古墳からも，銅鏡と刀の金具など二，三のものが発見されているが，おそらく他にもっと多くの副葬品があって，盗掘によって失われたかもしれない。エトルリアの古墳も盗掘されたものは非常に多いにちがいないが，それにもかかわらず，今日，イタリア中北部の大小無数の考古博物館や寺院などには，無数といってもよいほどの石および陶器の棺や骨壷，各種の陶器，銅器，金銀象牙製品，若干の鉄器などがある。とくにエトルスク古墳から発見されたギリシャ伝来の壷類が大変な数と質であり，しかも２千数百年墓室に安置されていたために，できたての品物かと疑われるほど真新しく，完全であるが，タルクイニアもその例に漏れない。エトルスク自身の非常に高度な工芸品などももちろん多く，その文化の程度，生活の様式を知ることができる。

6. 参観：高松古墳はなにぶんにも発見されて日が浅いのと非常に小さいこともあり，また大変な貴重品扱いであるので，近い将来にわれわれ門外漢が見学できる可能性はまずないと思われる。タルクイニアの古墳群も，入口に戸を設けて施錠してあるので，勝手に見ることはできないが，村の博物館の事務所で頼めば，管理人が数十個の鍵をジャラジャラいわせながら，見物希望の古墳に行って開けて，なかを見せてくれる。内部は電灯も設けてある。ローマから70キロ位の近距離にあるので，ローマから観光バスが出ていて，途中のチェルベテリーのエトルスク古墳群と両方を日帰りで見物できる。ただしこれは，時間の関係もあり，各３～４個所しか見ることはできないが，それでもこの２つのエトルスク古墳，しかも全く対称的で，近距離にありながら全くちがった２つの古墳群を見ることができる。

タルクイニアは地中海岸から２キロくらいはいった丘上にあり，中世の面影の濃い丘上村落の中央にある中世の城館（ヴィテレスキー宮殿）が博物館になっていて，石棺その他の多くの出土品を見ることができるし，古墳の彩色壁画をはがして，カンバスに移す作業も見ることができる。リド・デイ・タルクイニアはすばらしい海水浴場である。今後ローマで数日を過ごされる機会のある方に，ぜひ見物をおすすめしたい。紀元前後に絶滅してしまったまぼろしの民族エトルスクの生き生きとした生活の跡が，まるで昨日のことのような新鮮さで，眼前に展開されるのを，感動なくして見ることができない。

（筆者・㈱石本建築設計事務所大阪支所長）

大阪市の新用途地域制について

上田隆夫

1. はじめに

今さらご説明するまでもなく，都市問題の激化とともに，都市地域における土地利用の合理化を図り，都市の計画的整備を進める必要性から，大正８年以来，約50年にわたりわが国都市計画を進めてきた旧都市計画法に代って，昭和43年に装を新たにした新都市計画法が制定され，これと姉妹法である建築基準法が昭和45年６月に改正され，新しい用途地域制が採用されることとなった。この用途地域制は，大正９年市街地建築物法が施行されて以来，わが国の土地利用規制として大きな役割をはたしてきたのであるが，法定都市計画の４本柱（市街化区域，市街化調整区域，地域地区，都市施設，市街地開発事業）のひとつとして法的地位が高められたことと，今日のダイナミックに動く都市に対応する必要性と最近の公害問題をはじめとする住環境保全の立場を明確にするために改正されたものであり，今後の法定都市計画の基礎となる重要な計画である。このため，大阪市においても早くからこの検討を進めてきたところであるが，その一次案の決定をみたのでここにご紹介することとする。

2. 新用途地域制のねらい

新しい用途地域制の内容については，本誌をはじめとしてすでに多くの紹介がなされているが，今一度そのねらいを述べることとする。

(1) 用途地域の細分化と制限の強化

用途地域が４基本地域から８基本地域に細分化され（**表－１**），用途制限については，住環境を保護するという立場から住居系の用途制限が従来にくらべ強化されている。

(2) 容積制の全面採用

これまでは，建築物の高さが，住居地域内では20m，それ以外の地域では31m（道路幅員による高さの限度は別に定められていた）と一律に高さの限度が定められ，建ぺい率との組合せにより間接的に容積率がきまる仕組みであったが，今回の改正により，地区の特性に応じて，人口の集中や交通の発生源となる建物の容積率（敷地面積に対する延床面積の割合）の限度を定めることとなった。これは，都市計画の精度を高め，土地利用計画と公共施設計画との対応が容易になるよう密度規制を強化したものであり，マクロ的には都市のなかの機能配置と一体となってその空間（建築物の量，容積）配置計画を定めるもので，建築物の量と都市施設のバランス，良好な地区空間を保証しようとするものである。

(3) 日照等の保護

住宅地内の日照，通風等を保護するため，住居専用地域内では，**図－１**のように高さの限度や北側斜線が強化された。

なお，新しい形態規制の概要は**表－２**のとおりである。

表－１ 地域・地区の新旧対照

旧地域・地区	新地域・地区
基本地域―住居地域	基本地域―第１種住居専用地域
基本地域―商業地域	基本地域―第２種住居専用地域
基本地域―準工業地域	基本地域―住居地域
基本地域―工業地域	基本地域―近隣商業地域
	基本地域―商業地域
	基本地域―準工業地域
	基本地域―工業地域
専用地区―住居専用地区	基本地域―工業専用地域
専用地区―工業専用地区	
空地地区	廃止
容積地区	
特別用途地区―特別工業地区	特別用途地区―特別工業地区
特別用途地区―文教地区	特別用途地区―文教地区
特別用途地区―小売店舗地区	特別用途地区―小売店舗地区
特別用途地区―事務所地区	特別用途地区―事務所地区
特別用途地区―厚生地区	特別用途地区―厚生地区
特別用途地区―娯楽地区	特別用途地区―娯楽地区
特別用途地区―観光地区	特別用途地区―観光地区
	特別用途地区―特別業務地区
高度地区	現行通り
高度利用地区	
特定街区	
防火地域	
準防火地域	
美観地区	
風致地区	
臨港地区	

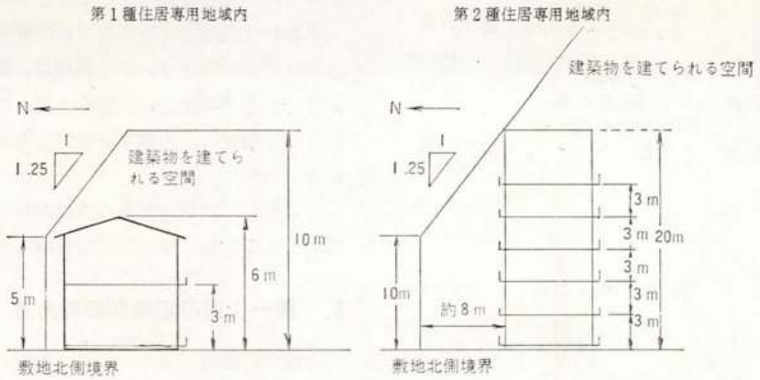
3. 新用途地域決定の基本的な考え方

新用途地域の指定については，都市計画法第13条にその基本的な基準が示されているが，建設省においては，つぎのような考え方を示している。（昭和45年５月10日）

(1) 現行の制度より新制度に切り替える際には，局地的，部分的な切り替えにとどまらず，都市計画区域ごとに一斉に行なうものとすること。この場合，敷地規模，建築物，地価，公共施設等の現況および見とおしならびに建築基準法の執行状況等を勘案して抜本的な再検討を行なうことを原則とすること。

(2) 再検討を行なうにあたっては，市街地環境の向上の要請が高まりつつある現状にかんがみ，改正建築基準法によって細分化された用途地域を十分に活用するものとし，第一種住居専用地域，第二種住居専用地域および工業専用地域の拡大を図るほか，特別用途地区，高度地区の活用など良好な市街地環境の形成を図るものとすること。

(3) 新制度による地域地区に関する都市計画の決定に当っては，市街化区域および市街化調整区域の整備開発保全の方針に基づいて行ない，かつ，実態調査等によって市街化の現況と動向を正しく把握し，合理的かつ適切な規制内容と



図—1　住居専用地域内の形態制限

表—2　新形態規制の概要

制限項目＼新用途地域	第1種住居専用地域	第2種住居専用地域	住居地域	近隣商業地域	商業地域	準工業地域	工業地域	工業専用地域
容積率(%)	※ 50 60 80 100 150 200	※ 200 300 400		※ 200 300 400	※ 400 500 600 700 800 900 1,000	※ 200 300 400	※ 200 300 400	
建ぺい率(%)	※ 30・40 50・60	60		80		60	60	
斜線制限 前面道路斜線(勾配)	1.25/1			1.5/1		1.5/1	1.5/1	
斜線制限 隣地斜線(立ち上り+勾配)	20M+1.25/1			31M+2.5/1		31M+2.5/1	31M+2.5/1	
斜線制限 北側斜線(立ち上り+勾配)	5M+1.25/1	10M+1.25/1	—	—		—	—	
高さの限度	10M	—	—	—		—	—	
敷地境界線からの壁面後退	1M ※ 1.5M	—	—	—		—	—	

(注) ※を付した制限はこれらのうちから地区の特性に応じて都市計画で定めるものを示す。

なるようにするとともに，原則として公聴会を開催して地域住民の意見を反映させるものとすること。

4. 大阪市における新用途地域の基本方針

大阪市においては，今回の新用途地域の決定にあたっては，先の建設省の基本方針，府の指定基準等を考慮し，つぎの基本方針に従って作業を進めている。

新用途地域決定の基本方針

昭和44年6月，新都市計画法が施行され，大阪府下では，昭和45年6月20日に「市街化区域，市街化調整区域」の区域区分が決定され，以後10年における都市計画の基本となる「整備，開発，保全の方針」が定められた。さらに，この基本方針に基づく土地利用計画を実現する上で重要な役割をはたす建築基準法が昭和45年6月に改正された。これには用途地域の細分化及び容積制限の全面採用等とくに都市計画を進めて行くうえでの重要な事項が盛り込まれている。

従って本市においても，「良好な生活環境」「西日本の経済中枢」の都市づくりへの足がかりとして，新用途地域制を積極的に活用するため，次の基本方針に基づいて新用途地域の決定（容積率の決定を含む）を行なうほか，あわせて防火地域，準防火地域等についても変更しようとするものである。

(1)　基本方針

1　目　的

用途地域は，将来のあるべき土地利用の姿を実現するための一手段として建築物の用途，容積，形態を定め地域の性格を明らかにするとともに，良好な都市環境の保全および育成に努め，以って都市の健全な発展をはかることを目的とする。

2　基本となる計画

用途地域は，本市総合計画基本構想及び市街化区域，市街化調整区域の整備，開発，保全の方針（以下土地利用構想という）を基本として定めるものとする。

3　計画の目標となる年次

用途地域は，おおむね今後10年間に行なうべき都市整備の目標を考慮して定めるものとし，原則として5年ごとに行なう基礎調査にもとづいて再検討を行なうものとする。

4　用途地域決定の基本となる考え方

用途地域は，自然条件，土地利用の現況および動向，都市整備状況並びに市街地の整備に関する具体的な事業計画を勘案するとともに，公害，災害の防止にも十分配慮して，種別ごとの配置及び規模を定め決定するものとする。

（4—1）住居系地域の決定方針

住居系の用途地域は，住宅地の環境保全を図るため，第二種住居専用地域を基本として定めるものとする。

なお，職住の近接，土地の高度利用等をはかるため，本市においては第一種住居専用地域は，原則として決定しないものとする。

（4—2）商業系地域の決定方針

商業系の用途地域は，商業，業務施設の集積度及び都市施設の整備状況並びに周辺住宅地の環境保護等との関連を勘案して定めるものとする。

（4—3）工業系地域の決定方針

工業系の用途地域は，工業地しての生産活動及び周辺住宅地へ及ぼす公害の影響等を勘案して定めるものとする。

5　容積率制限の基本となる考え方

容積率制限は，将来必要と考えられる建築物の床面積，都市施設の整備状況及び環境保全を勘案して，良好な都市空間の形成に資するよう定めるものとする。

6　その他の地域地区

（6—1）特別用途地区

特別用途地区は，用途地域内における特定の土地利用の増進を図り，良好な環境の市街地を形成せしめることを目的とするもので，本市では，広域幹線道路の結節点周辺及び沿道並びに鉄道貨物駅周辺にあって流通業務施設または沿道サービス施設の立地を図る必要がある地区に特別業務地区を定めるものとする。

なお，特別工業地区等の特別用途地区についても，将来指定の方向で検討するものとする。

（6—2）防火地域，準防火地域

用途地域と整合をはかるとともに，都市防災の観点からその拡大をはかるものとする。この場合少くとも商業系の地域は，防火地域若しくは準防火地域とする。

7　地域境界の定め方

用途地域の境界は，原則として河川，道路，鉄軌道等明確な地形，地物とし，止むを得ない場合に限り，道路の境界等からの一定距離をもって定める。

(2)　各地区の性格

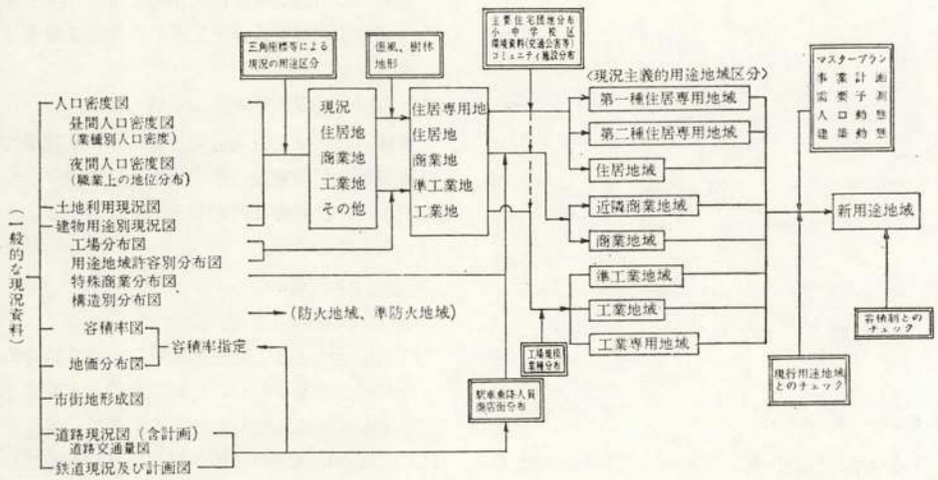
表—3 参照。

5. 大阪市の第一次案について

前述の基本方針に基づき，図—2 に示す手順

表—3　各地域の性格

地域名	指定の対象となる主たる区域	指定容積率の基本的な考え方	建ぺい率
第2種住居専用地域	①中高層住宅地および中層，低層の住宅地 ②住宅以外の用途の混在度が低く，住環境の良好な地区 ③土地利用構想から中高層住宅地区として開発すべき地区	200%を原則とし，とくに高度利用を図る地区を300%とする	60%
住居地域	①主として住宅地の環境を保全する区域で，住宅以外の用途の混在度がやや高い地区 ②土地利用構想から一般住宅とすべき地区		
近隣商業地域	①周辺の住宅地に対する日用品の販売を主とする地区中心的商店街 ②住宅地の中で計画的に配置するショッピングセンター	300%を原則とする	80%
商業地域	①都心部の商業中心地 ②副都心的な商業中心地 ③広域幹線道路の結節点，主要鉄道駅周辺	400%を原則とし，都心，副都心地区は600・800・1000%を配置する	
準工業地域	①軽工業地で住宅，商店等が混在している地区 ②流通関連施設等が立地している地区 ③都市性の軽工業として残すべき地区	200%を原則とする	60%
工業地域	①将来とも都市性工業地として残すべき地区 ②工業地区で許容される工場が集積している地区		
工業専用地域	①工業団地，埋立地等用地として計画的に開発された区域で住宅の立地を排除する地区 ②工場等制限法の除外区域		



図—2　用途地域の計画手順日本都市計画学会「新用途地域制に関する調査研究報告書」による。

表—4　新用途地域第1次案の概要

●用途地域面積表

	現行		第1次案		増△減	マスタープラン	
第2種住居専用地域	— ha	%	約 3,000ha	15.2%	— ha	2,126ha	10.5%
住居地域	8,256	41.9	約 6,330	31.9	—	8,591	42.3
小計	8,256	41.9	約 9,330	47.1	1,074	10,767	52.8
近隣商業地域	—	—	約 100	0.5	—	—	—
商業地域	2,648	13.4	約 2,900	14.7	—	—	—
小計	2,648	13.4	約 3,000	15.2	352	3,064	15.1
準工業地域	4,090	20.7	約 4,000	20.2	△ 90	—	—
工業地域	4,736	24.0	約 2,700	14.0	△1,336		
工業専用地域	—	—	約 700	3.5			
小計	8,826	44.7	約 7,400	37.7	△1,426	6,509	32.1
合計	19,730	100.0	約 19,730	100 0	—	20,290	100.0

に従って作成した第一次案は，現行の用途地域と本市の1990年を目標とする総合計画基本構想に示された土地利用計画のほぼ中間的な位置をねらったものであり，その面積は，**表—4**のとおりである。今後この案をもとにして，各界の意見等を調整のうえ原案を決定したいと考えている。

なお現行の容積地区内の容積率については，原則として変更しない方針で作成した。

6.　第一次案の容積制の考え方

容積率の指定にあたっては，道路，鉄道の交通施設容量（昭和60年）と建築延床面積との関係を最短路配分法（ミニマムカット法）を用いて大阪市のネットワークに流れる最大交通量を求め，この最大交通量を許容する各区の就業人口，自動車交通量を求め，これに見合う各区の建築延床面積を推定し，人口推計からみた延床面積およびトレンドからの延床面積と比較検討し，さらにこの各区の延床面積と容積率指定の延床面積とのチェックを行ない容積率図の第一次案を作成した。各床面積の比較は**表—5**のとおりである。

このときの交通施設容量は，道路については現在計画されている全計画道路（約416km 現在約53%完成）と阪神高速道路の第2リング計画が完成されたものとした容量であり，鉄道については都市交通審議会大阪圏部会が昨年11月に発表した路線（市内165km現在約65km）が完成されたものとした容量で，今日大阪市で考えられる最大交通施設量といえる。したがってこの容量に見合う延床面積が約13,000haであるということは，これ以上の建築床となったとき，別途の交通施設を考える必要がある。なお，この検討時に用いた人口は，常住300万人，就業330万人とした。これは鉄道容量からいえば，常住人口を少なくとることにより通勤交通は多くなり，就業人口を多くとったことは，自動車発生量が多いということであり，いずれも交通施設から

●容積率制限面積表

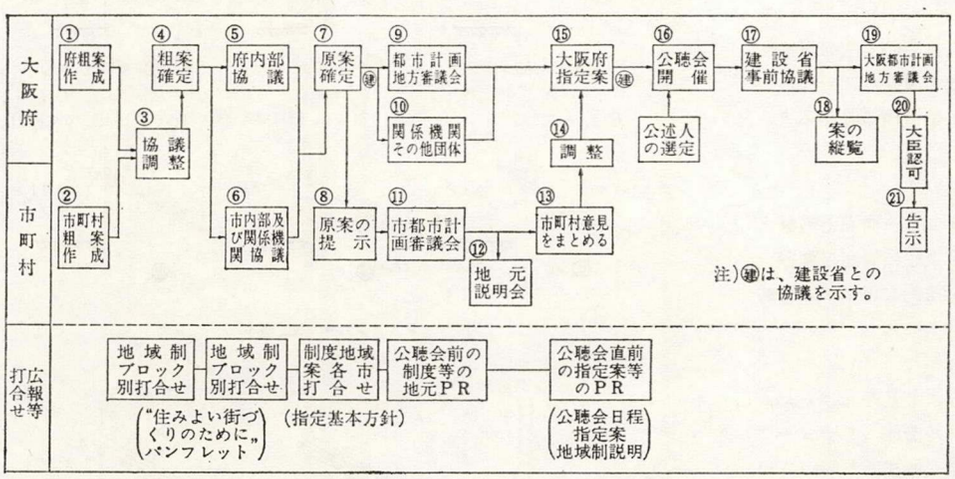
容積率	現行	改正	
1000%	125ha	約 125ha	0.6%
800	363	約 450	2.2
600	587	約 1,100	5.5
500	53	約 53	0.3
400	574	約 2,000	10.0
300	263	約 4,000	20.4
200	69	約12,002	61 0
合計	2,034	約19,730	100.0

注）マスタープラン（大阪市総合計画基本構想1990年）
南港の全域を含み，内水面526ha新淀川，大和川 1194ha は除外してある。

表—5　各種床面積の比較（S60）　　単位　ha

	S40年	S44年	人口配分計画からみた床面積	トレンドによる床面積	道路網からの許容床面積	鉄道網からの許容床面積	容積制による		マスタープラン
							許容床面積	指定床面積	床面積（S65）
北区	456	538	950	905	930	960	1,040	1,570	956
都島区	233	257	330	330	360	340	510	770	361
福島区	236	259	430	345	410	430	510	770	382
此花区	248	276	310	320	340	290	520	780	443
東区	463	564	920	905	910	920	1,170	1,750	1,088
西区	275	326	520	530	510	540	740	1,120	590
港区	197	296	390	410	350	370	600	900	536
大正区	276	299	360	365	370	350	540	820	388
天王寺区	207	265	390	395	400	400	490	730	307
南区	296	332	490	470	550	490	660	980	380
浪速区	235	259	340	325	370	400	490	740	389
大淀区	166	186	300	275	290	310	380	570	331
西淀川区	310	334	400	480	470	380	580	870	425
東淀川区	615	688	1 400	1,070	1,280	1,310	1,560	2,330	1,849
東成区	286	314	410	370	450	430	700	1,050	268
生野区	438	491	640	670	740	660	1,120	1,680	488
旭区	248	259	350	375	370	360	590	880	372
城東区	489	569	990	1,010	840	1,000	1,360	2,000	938
阿倍野区	335	371	490	460	500	490	740	1,120	475
住吉区	516	590	930	945	960	1,210	1,510	2,270	1,599
東住吉区	560	629	1,140	1,020	1,020	1,180	1,660	2,480	1,478
西成区	380	388	520	545	510	500	840	1,270	411
計	7,465	8,490	13,000	12,520	12,940	13,320	18,310	27,450	14,452

出）容積制による許容床面積とは，前面道路による制限や斜線制限，用途により指定された容積率を必要としない建築物などがあり，実際に建ちうる延床面積の限界である。



図—3　指定のスケジュール

のチェックとしては安全側である。（本市のマスタープランでは，昭和65年，常住人口 350万人，就業人口315万人である。）

7. 指定の時期

建築基準法は，すでに昭和46年1月1日に施行されているが，新用途地域については，法施行後3年以内，すなわち48年末までに切り替えることが法律上決定されている。しかし，都市における生活環境の改善の緊急性から，中小都市については1年以内，大都市においては2年以内に指定するこが目標におかれている。すでに，高知，千歳などの中小都市が決定し，大都市の名古屋市でも47年4月に公聴会が開催され，夏頃には決定される予定であり，大阪市としても大阪府下一本として，遅くとも本年末までに決定されるよう，図—3に示す大阪府のスケジュールに従って作業を急いでいる。（4月末現在，府下各市とも④〜⑥の段階である。）

なお，この地域制は，決定告示と同時に施行され，従来のように猶予期間がないので，今後のニュースなどにご注意下さい。

8. おわりに

この新しい用途地域制が，大阪市という土壌になじみ，成長するためには，市民の皆さんのご理解とご協力が必要なことというまでもありませんが，とくに建築関係に従事される方々のご援助にまつところが大といえます。今後，新聞，テレビ，ラジオ，市政だより，パンフレットなどによってPRを行なう予定ですから，よりよい街づくりのための用途地域制となりますよう，時に応じて，ご助言とご理解を本誌面をかりてお願いいたします。

なお新用途地域についてのパンフレットも用意しておりますから，社内の研修会などにご入用の節は申し出て下さい。

（筆者・大阪市総合計画局都市計画課地域係長）

タイバックアンカー工法

横田弘臣
林　敬次郎

仮設山留のタイバックアンカーは，従来の切バリ支保工方式に対して，作業空間を広くし全面的機械化掘削を可能とするため，省力化と工期の短縮という大きなメリットをもつ。また簡単に引抜き試験により安全性がチェックできる。

このため新しい土留工法として，1965年頃よりめざましい進歩を遂げて，多くの施工実績が積みかさねられつつある。

1. アンカーの採用される条件

一般的に山留工を計画する場合，種々の立地条件を検討し，もっとも適した工法を選ぶ必要がある。アンカー工が有利な場合としては，

1) 掘削内部の作業スペースを広く用いたい場合
2) 掘削面積が広く，切バリの仮設が不経済になる場合
3) 敷地の形状が不整形で，切バリ工法では土圧の方向および受圧面積が各個所で異なる場合（アンカー工法でその場所の土圧に応じた力を対応させられる）
4) 工期の短縮をはかる場合

などがあげられる。

逆にアンカー工が不向きな場合としては，

1) 地盤が軟かくアンカー長が長くなり不経済となる
2) 地下埋設物および隣接敷地の関係からアンカーを打設できない場合

などがあげられるが，1)については工期の短縮，作業スペースが広く安全作業ができるという金額に換算できないメリットも考慮し検討する必要がある。2)については工事完成後の鋼材引抜き法の開発も進められている。

2. アンカーの種類

タイバックアンカーには多くの種類があるが，これらの工法の概略について説明する。基本的にはアンカーとしてもっとも重要な部分は，力を地盤に伝達する部分とその機構であって，この定着機構の差からアンカーを分類すると２種に大別される。

1) 周面定着型アンカー

アンカー全体がおおむね一様の断面からなり，アンカー周面と地盤との間の摩擦定着によって力を地盤に伝達する。このように周面の摩擦定着力が生命であるから，これを増加させることが工法的なポイントである。

(a) P.S. アンカー

この工法は地盤中にボーリングまたは打ち込みにより孔をあけ，ゴムチューブとモルタル注入パイプを挿入する。モルタルを注入しチューブと孔壁との間を完全に充てんする。モルタルの凝結が始まった時点でチューブ内に水圧を加えて横方向にチューブを膨張させ，モルタルを孔壁に押しつけ，さらに地盤に圧力を加えて地盤とモルタル間の付着力を増大させる。モルタルの硬化後チューブのなかの水を抜いてチューブを引抜く。つぎにＰＣ鋼線を挿入し，セメントペーストを填充してできあがりとなる。

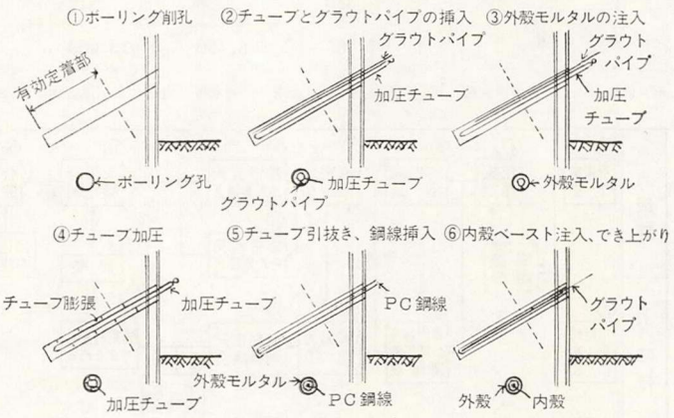
この工法のポイントは，削孔，モルタル注入，加圧である。削孔はほとんどボーリングマシンで行なわれており，アンカーボーリングの特長は，

i) ボーリング孔径が100～200mmと比較的大きい。
ii) 崩壊防止用として通常用いられるベントナイト泥水は，地盤とモルタルの付着を悪くするため使用できない。
iii) 孔壁をゆるめないよう極力注意しなければならない。
iv) 水平から45°の傾斜ボーリングが多い。
v) なるべく速い掘進速度が要求される。

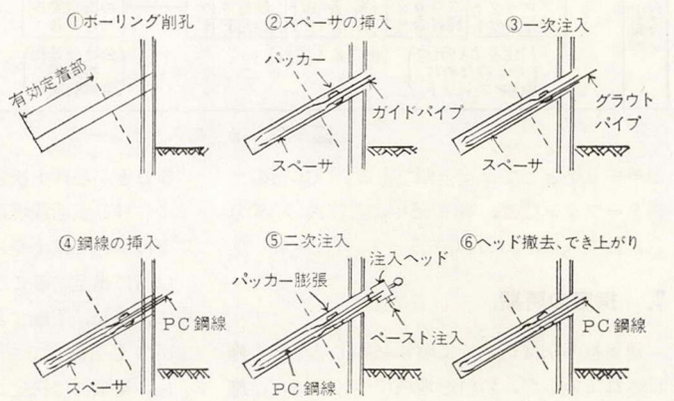
これらの条件に対して，オールケーシング専用の削孔機により施工されているが，まだ改良の余地が大きい。とくに削孔速度がアンカー施工の工期を支配する最大の要素であるので，高性能のボーリングマシンの開発が必要とされている。モルタルは分離が少なく流動性に富むグラウティングモルタルでなければならない。加圧は地盤破壊強度を超えない範囲で有効に加圧することが重要である。加圧はゴムチューブの膨張により行なうが，このチューブは P.S. アンカー用として開発されたもので，縦方向の伸びが非常に小さく横方向への膨張量が大きくて均一であるなどの特性をもっている。

このP.S.アンカーはもっとも実績が多く，確実性があるとされており，山留以外に構造物，橋脚などの転倒安定，擁壁の支持など，永久構造物のアンカーとして広く施工されている。

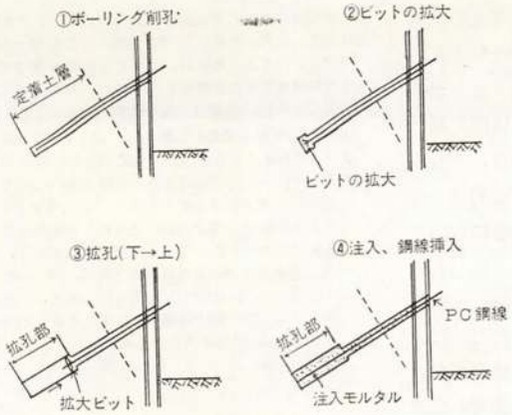
この工法の欠点としては，作業工程が繁雑であること，被圧水のある場合モルタルの流失などによりモルタル壁が形成されない場合があることがあげられる。（図－1）



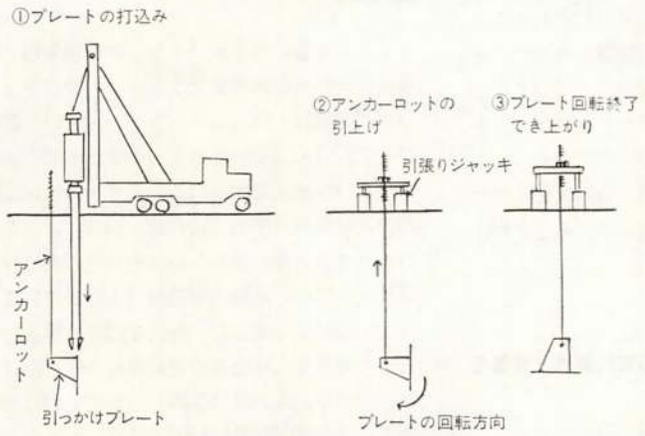
図－1　ＰＳアンカーの施工順序



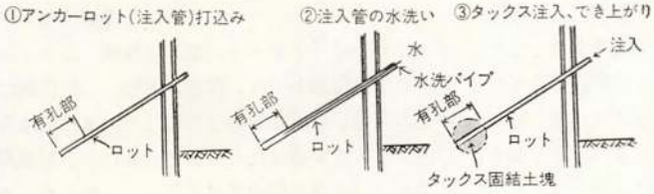
図－2　グラウトアンカーの施工順序



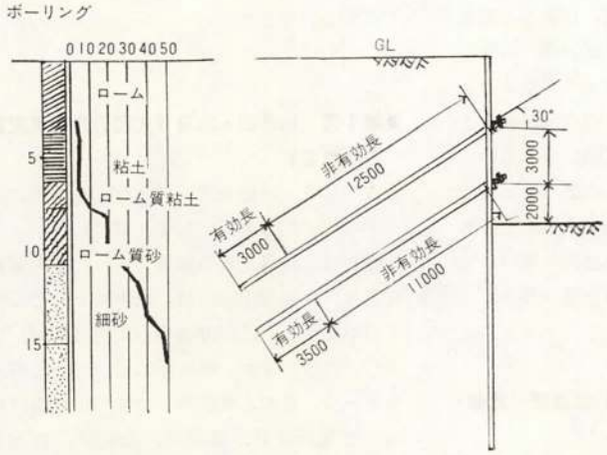
図—3　拡孔型アンカーの施工順序



図—4　プレートアンカーの施工順序



図—5　タックスアンカーの施工順序



アンカー口径　135mm
定着土質——細砂
設計荷重　上段——P＝22 t
　　下段——P＝29 t
m当たり定着力（許容）　$Ta=\pi dl\tau\times\frac{1}{Fs}$
　　上段—＝3.14×13.5×100×3.5×½＝7.4 t/m
　　下段—＝3.14×13.5×100×4.0×½＝8.5 t/m
使用鋼線　上段——PCケーブル（S.E.E.E.ケーブルF02）使用
　　下段——　〃　（　〃　〃　F13）　〃
定　着　ナット型（S.E.E.E.ナット使用）

図—6　施工例（東京永田町付近の土留アンカー）

（b）グラウトアンカー

P S.アンカー同様ボーリングまたは打込みにより孔をあける。パッカーを装着したガイドパイプとスペーサを孔内に挿入する。スペーサは状況により使用しないこともある。つぎにガイドパイプ内にグラウトホースを挿入し，先端部から順次モルタル注入する。PC鋼線を挿入し，ガイドパイプの上部に密閉したケースの注入ヘッドを取付け，グラウトポンプと接続してセメントペーストを加圧注入する。パッカーにより孔壁とのすき間をふさぐので注入による加圧は地盤にも伝達される。モルタルの硬化後注入ヘッドを除去し完了となる。

この工法のポイントはP.S.アンカー同様，削孔，注入，加圧である。モルタルを孔底から注入し，孔内に存在する水を排除して，この水が注入されたグラウトと同程度のものになってからパッカーを作動させ加圧する。この加圧はP.S.アンカーと比較して機能的に有効に作用しない場合もあるようだ。しかし水の多いところではP.S.アンカーよりもいい結果が出ている。（図—2）

2）局部定着型アンカー

アンカー全体が一様な断面でなく，部分的に拡大または突出した部分があり，その前面の土の支持力を利用する。この種のアンカーには多数があるが，山留アンカーとしての実績は少ない。このうち比較的実績のある3種類のみ取り上げる。

（a）拡孔型アンカー

まずアンカー孔を全長削孔する。底部においてウィングビットを油圧により押し広げる。拡大したビットにより，底部より上部に向かって所定長さだけ拡孔する。つぎに孔内に引張鋼材を挿入し，グラウトパイプによって全長にモルタル注入し完了となる。

崩壊性地盤では，拡孔部の形状維持が困難なため，固結粘土または土丹の場合に使用される。耐力の計算方法が確立されていないため，現場での引張り試験により耐力を決定する必要がある。（図—3）

（b）プレートアンカー

先端に特殊な引っかけ用プレートを装着したアンカーロットを所定深度まで地盤中に打込む。この際プレートを直接打撃し，ロットはこれにひきずられる形で地盤中にはいる。打設完了後引張用ジャッキをロットに取付け，アンカーロットを引張る。ロットの引抜きに伴なって先端のプレートは徐々に回転し，90°回転した位置で最大の引張抵抗を生じる。緩い地盤で耐力が小さい場合には，アンカーの打込みが容易で施工速度が速く経済的である。（図—4）

（c）タックスアンカー

アンカーロットを地盤中に打込む。ロットの内部を水洗いし，内部につまった土砂などを取り除く。つぎにロットに注入ポンプを接続し，所定量だけのタックスを注入して，ロットの先端に固結土塊を作る。このタックスは加水反応性の薬液で，地盤中の水と反応膨張し強力なゲルを形成する。

作業工程は簡単で1本の施工速度は速い。対象土質は砂または砂礫であることが必要で，粘性土にはむかない。注入パイプをそのままアンカー引張材とする関係から，引抜き荷重として10 t 程度しか期待できない。このような条件の場合，他のアンカーよりも施工が容易で，工費的にもかなり安くなる。（図—5）

3. むすび

対象としている土質は均一なものではなく，施工技術の点からも耐力にムラがあるのが現状である。土留アンカーの失敗は大事故につながる可能性が多いので，耐力チェックを全施工本数にわたって行なうのが望ましい。最近の施工例を図—6に示す。

（よこた　ひろおみ　三信建設工業㈱技術部長，はやし　けいじろう　同技術部主任）

若い会員の集い

46年度・事業報告

「若い会員の集い」は47年を迎え，10人の新委員を加えて事業企画の提案と検討を進めている。この集いが設けられて以来本年で満15年ということであり，溌剌意気盛んである。「古い伝統を引継いで生き永らえているもの，あるいは今やこの時代の中で滅びてゆこうとしているものと，現代から未来へつながる新しいものを対象に，交互に見聞を広め，体験し，あるいは，体験者との対話をもち，その比較の中で，人々が建築や住居あるいは地域社会にいかに対応し，意識をもっているかを探り，日常のなれあいを拒否して，現実を直視し，その批判の中から，人間あるいは人間社会の幸福の追求において，明日への方向づけを求めてゆきたい」。これは昨年度の冒頭に，この集いの46年度の主題としてうたったものであるが，今年度もこの延長年度として回を重ねることになっている。ここに新年度のスタートに先立って，過ぐる年の回顧と反省をもって年次報告にかえる次第である。

●第1回　5月28日『ロサンゼルス大地震が教えるもの』

（ゲスト　高橋慶夫氏　参加　130名
大阪科学技術センター）

1971年2月9日ロサンゼルス市郊外に発生したサン・フェルナンド地震は，近代建築・橋梁などに多大の被害を与え，同様の不安を持つわが国の人々を慄然とさせた。

現地視察から帰られた高橋氏に講演をお願いして，われわれ技術者として参考となる事項をお聴きした。その概要を記すと次のごとくであった。設計震力の違い，つなぎ梁不在の一例，エキスパンションジョイントの扱い，柱断面の太鋼使用と帯筋の細さとその間隔などが問題点として指摘された。また一方スパイラル筋を細かく入れた柱材が壊滅的被害を免がれていることからも，従来から言われているごとく建物に粘りを持たせることの必要性が痛感された。

更に，大被害を受けた建物が花崗岩を主体としたサン・ガブリエル山脈と，堆積層からなるサン・フェルナンド盆地の境に集中していたことに留意し，設計者はその建物の地質上の立地条件を，敷地単位のミクロな調査のみならず，地域的なマクロな観点が必要であること。従って，建築的に不適当な地域への建設は極力避けることをオーナーに進言すべきであり，それ以上に建設の必要性がある時には，構造的に十分な配慮をし，それに伴う経済上の問題についても合意を得るべきである。

当日アメリカの超高層建築の経緯を，高橋氏自身で編集されたフィルムで紹介いただいた。その中でアメリカの構造に対する取組み方が，わが国と異なり壁主体の構造から鉄骨造の発達につれて柱梁による構造へと変化を示したが，基本的には壁主体の考え方が支配的で，ベアリングウォールを用いたものが多い。これに対してわが国では，昔からの木造建築の土壌に欧米から近代的な柱梁の思想を受け入れた。こうした考え方の違いからきたと思われる被害が，今回のサン・フェルナンド地震の中にもみられるとのことであった。時宜を得た企画であったためもあり多数の来聴をみて成功裡に催しを終えた。

●第2回　9月4日『中国の古代美術と庭園をみる会』

（ゲスト　小角亨氏　参加　54名）

京都東山山麓にある住友本家を訪ね，同家に収蔵されている中国古代（殷・周時代）の青銅器と同家の名園を鑑賞した。東山を借景とした園遊式庭園は，外の騒々しさと対照的に静かで小鳥のさえずりさえも聞え，池には立派な鯉がゆうゆうと泳ぎ，木々の緑は残暑の日差しをあびて一層映えていた。次いで収蔵庫「有芳園西館」（設計・日建設計）を見学したが，当館は前記の通り青銅器ばかりを収蔵した博物館として昭和45年に新築されたもので，青銅器の変質を防ぐため無窓とし，スキップ状の四つの展示室よりなっている。館内に入ると外界からの音は一切聞えず静寂そのものでその内部に展示された種々の銅器を見ていると日頃の騒々しい生活からはなれて全く別世界に在るような気持になり，多忙な日々の一時をこのような所で中国の古美術を見学できるのは若い会員の集いの独自な企画として成功したともと思った。

●第3回　9月11日『宗教建築（修道院・教会）をみる会』

（ゲスト　村野漾氏　参加　55名）

宝塚カトリック教会と西宮トラピスチヌ修道院（いづれも村野森建築事務所の作品）を訪れ半日を過した。修道院では中庭の回廊で修道女の方々を交えて対話の機会をもつことができ，また一日の労働を終えて聖堂に集い，神々に今日一日の感謝の念をもってささげられる歌ミサの中に，一同もまた感慨にひたり，得難い体験をした。ここに参加者よりの印象記を紹介する。

宝塚南口の住宅街の狭い道路を歩いているときは，屋根の延長として天へ向かった塔の先端が付近の家々の屋根ごしに見えるだけであったのが，いきなり視界が開けて白い壁と軽快な曲線をもった軒が見えて，ここが宝塚カトリック教会の門前であった。外観はかなり印象的なものであり，軒先まで回った白い壁の量感も心地よく，壁のすきまから入って行くような入口もおもしろい。内部の設計も外観と呼応して巧みであるけれど，ただ垂直方向の空間のひろがりにもう少しもの足りなく思われるところもある。次に見学した西宮トラピスチヌ修道院は，自然の緑に包まれた立地条件と，この建物の特殊な用途をうまく生かして設計されており，中庭の構成や，各建物の配置は附近の樹木と共に，何か中世的ロマンのようなものを匂わせている。雨といの処理，礼拝室の窓などのデテールには，現代建築のもっているある種の非情さをカバーするための苦心がうかがえた。　（井本隆一）

ふるいまちとあたらしいまちシリーズを終えて

「古いまち，新らしいまち」の体験を通じて素直にそれらの価値を受けとめ，人間にとっての生活環境は如何にあるべきか……という問に対して，いくばくかの考え方をまとめてみよう……という意図で始ったこのシリーズは，(1)大和の民家集落見学会（10月23，24日），(2)千里ニュータウン他の新らしい住宅地見学会（11月13日）を経て，(3)総括座談会（1月28日）をもって一応終了しました。連続3回の行事ということでできるだけ会員の連続参加を呼びかけたわけですが，4カ月に3回という忙しい行事計画で，企画の意図は十分に果せなかったものの，それぞれ面白いメンバー構成で五条市藤井館におけるフリートーキング，千里開発センターにおける「千里・その都市と構成」のフィルム，総括座談会では，保存，開発，地域住民などの問題が活発に論議されました。それらは今後，ますます活発化するであろう，都市環境再構成への貴重な問題提起を含んでいると思います。参加できなかった会員の方々への広報を兼ねて担当委員なりに，3回シリーズの概要を以下にまとめました。

●第4回　10月23・24日『大和の古い民家集落を訪ねて』

（ゲスト　林野全孝氏，足達富士男氏，宮沢智士氏　参加　37名）

維新後，没落士族の副業であった金魚養殖で有名な，大和郡山市では，城下町としての町割その中に残る，江戸期後半の民家（町家）を見学したわけですが，軒に手の届きそうな町家のスケール，また，大都市ではすでに見掛けなくなった風呂桶屋，提灯屋，染物屋，などが屋号もそのまま残っていて，スーパー，電機店，などの新らしい店と一緒になって息づいている点，非常に懐しい気持とともに，何でも揃うまち……を感じさせてくれます。しかし，ここもまた，古きよき時代は終り，城下町としての大事な遺構である街路，堀を潰して道路を拡幅するか，このまま低迷した田舎町を続けるか……という大問題が住民につきつけられている現状で，大きな都市化の波が打ち寄せているようで

す。

次に奈良盆地の景観論争は最近とみにマスコミで取り上げられてきましたが，中和から南和にかけての宅地化，内陸工場化は目ざましいものがあります。奈良盆地を南下する幾筋もの河川の中に，のびやかに展開される現在と過去の調和したなごやかな景観は，ここ数年でその静かなたたずまいを喪失するでしょう。同行頂いたゲストの足立先生のお話では，せめて瓦の色だけでも統一した住宅建築にするとか，宅地化に軸として古代の条里を尊重すればもっと秩序ある土地利用が可能なのに……ということでした。

16世紀半葉に本願寺の寺内町として建設され，数多くの富豪を集めた今井町は，戦国時代から，近世にかけての歴史を知る上でこの上ない遺構と言われています。私達は，ライトバン一台が通れる程度の細い露路を縫って辿りついた称念寺の広間で，称念寺住職・今井町を保存する会事務局長，今井博道氏，ゲストの林野先生からその歴史的意義を伺ったわけです。現在今井町約800戸の内八割が往時の建物そのままであること，自治都市の名残りをとどめる町割り，民家とは思えない今西邸（八ツ棟造り）の偉容のもつ，自治都市における社会組織的，建築的意味，本家，分家の仕方に見られる当時の相続関係。……全てに深い歴史の重みを背負った町内です。町内を見学した参加者は，その骨太の格子組，構え，緑のない町並に圧倒されて，無気味な感じを抱いた人が多かったようです。写真でみる端正な美しさ以上に，現代人をはねつけるような強い造形がそんな気持にさせるのでしょう。途中，今井在住の青年と思われますが，"保存はもういいぞ……"と言っていたのが思い出されます。ここにも現住者と文化財保護の冷たい葛藤があるのです。

徳川幕府の直轄領であった歴史的背景のもとに数多くの立派な民家が存在する五条市では，栗山邸（吉野川の両岸に自然発生的にでき上った町並の中で）を始めとする江戸期の民家並びに"天誅組の変"の時，臨時政府の根拠地にされた桜井寺（最近，隣接道路拡幅時，村野森建築事務所設計により再建された）を訪れました。そのほとんどの民家がよく保存され，現代の生活をうまく包み込んでいる感じです。特に栗山邸の小屋組は，外観からは想像できない位堂々たるもので，内部の造作・調度も大事にされ磨き込まれたクド，クドに乗る大ガマの蓋ひとつを見ても素晴らしい工芸品に接する思いがしました。一度に往時の繁栄を失って，廃墟のごとくなってしまったと言われる今井町に較べて，永い歴史を経て常に時流に即応しながら主役を務めてきた五条の民家はわれわれにとって非常に身近な肌ざわりの庶民生活の博物館と言えるのではないでしょうか。

●第5回　11月13日『住宅団地の歩みを訪ねて』
（ゲスト　山地英雄氏，多胡進氏　参加 38名）

千里ニュータウンではまず，千里開発センターで「千里ニュータウン・その都市と構成」という題の映画を観て，ニュータウン計画上の骨子の説明を聞いた後，大阪府の山地課長の案内で，各種住宅供給主体によって建設された住宅地区，宅地分譲地区，緑道，公共施設，公益施設…とマスタープランの色分けに添って見て巡ったわけです。全体土地利用計画の中でうたわれている道路率%，緑地率%の現実の姿，生活空間の組織づけのプリンシプルとも言うべき近隣住区理論と実際，ダイナミックに架け渡された歩道橋による徹底した歩車分離の実態，どれも既成都市内ではまだまだ当分はなしえない計画的開発の賜物ばかりです。更に共同住宅の配置計画上の実例も，千里にはほとんどのプロトタイプが存在すると言われます。初期公営住宅における大囲み配置（隣棟間100～150m），公団住宅に見られる平行配置とペデウエイ，囲み配置（隣棟間50～60m），日本で初めてのオール高層住宅配置計画……4時間日照確保の原則の中で，さまざまに配置された共同住宅とそれによって意味づけられる外部空間の構成は，入居して毎日日常生活を送る居住者と，ビジターとしてのわれわれとではその意識対称は大きく異ることでしょう。少くとも，従来の日本における住宅のイメージとは相当かけ離れた生活様式が展開され始めている……という実感の中に，共同化，豊かなオープンスペース，合理的生活……と言われる呼び声を額面通りに受けとれない，巨大なスケールへの不安感が残ります。一般市街地に較べて緑地率の非常に高いニュータウンに，そこここに展がる緑は，京都の市街地，五条の町並で存在する緑とその性格が非常に異って感じられます。前者は生活の中に定着した緑として，後者は，清潔ではあるが，今一つ生活臭のない整列した緑としての感触です。これはニュータウンにおける緑地の一例ですが，まだまだ10年そこそこの歴史しかない千里では，全てにそのような計画に設計して施工された，その一方通行で終っていることの物足りなさ，味気なさが支配していると言えましょう。今から，どのように変って行くか，そして，計画者と，住民の丹精な営みの成果としてのニュータウンの風景が現出することを期待したいものです。

次に阪急電鉄が開発した逆瀬川高台住宅地（昭和34・5年当時の庶民住宅用の分譲宅地）を見学しました。10年が経過してもまだ周辺を徐々に開発している息の長さにまず感心するとともに，初期に植えられた街路樹の桜が大木となり，桜のトンネルをつくっているのに驚かされました。ここでは各人が何や彼やと門口へ，庭へと，生活の一部を放り出している有様が窺がわれ，各人各様にしつらえた生活環境の集合体が，道路というグリッド軸の中で存分に羽根を伸ばし合っている感じがします。ほんの部分的に設けられたチビッ子広場のような公園はたくさんの踏跡でうずまり，千里ニュータウン以上に緑地としての機能を果しているかに見えます。逆瀬川附近では，公団の小規模開発の秀作と言われる逆瀬川団地を見学し，更に見事に手入れされたゴルフ場の緑を縫って紅葉の中を六甲ドライブウエイを通って，自然を満喫し，表六甲からこれまた公団の小規模開発の御影団地を見たわけです。この団地は，六甲斜面特有の赤松林の中にそっと人間様が住める程度の造成を施した，徹底した原況保存開発でした。ここなら，虫も鳥も共存できるすみかになりうる……と感じたものです。同じアパート形式の中高層住宅を駒として，開発を行っても，開発当初の自然への配慮の軽重がこうも大きな差異となって数年後に現われてくる……ということの貴重な実例と言えましょう。帰路関西での団地のはしりと言われている西宮北口団地を見て解散しました。

●第6回　47年1月28日『総括座談会』
（ゲスト　山地英雄氏，林野全孝氏　参加17名）

前文にも述べたごとく連続の参加者が少なかった関係で，林野先生のヨーロッパのスライドをとっかかりに，前2回の見学会のテーマに焦点を合わせた訳ですが，やはり，保存と開発が論点となり，その根底にある都市化現象と現代都市生活，計画に係るわれわれ建築技術者の役割へと話題は拡がりました。司会のまとめ不足で，結論は確ではありませんが，要旨を以下にまとめます。

・保存の意義について（それを明確にする必要がある）

(1) 学問分野としてその保存が有意義なのか

(2) 一般人からみて，日常的感覚の中では，古いものの意義はそんなに明確になってない現実があるのではないか。

(3) 古いもの即，大切なものなのだ……という単純な論理，意識が日本人には余りに欠けている。

(4) 今現実に保存の対象となる地域，地区に住んで生業を営んでいる人の生活はどうなるのか。

(5) そこにある価値を大切にしつつ，現実の都市活動に対応できるかたちで計画をすべきであり，それが本当のこれからの計画だ。

(6) その他に存在した生活実態の変化とともに，変質した空間が現代人にとっての意味がある。

(7) 大規模の面的保存にしろ，小さな単体保存にしろ本来的には，国家的に行うべきである。即ち採算性の上には成り立たない。

(8) 古いものが何故大事か……ということについて，現時点での有用性で判断するのではなく，もっと広く未来展望をもって把握できる個人たるべく，日本人は意識革命が必要であ

る。

(9) 古いものは滅びるんだから，そのままおいとけばよい。廃墟は廃墟で現代人に重大な意味をもつ，ことさらに取り上げてギャーギャー言うから結果として素晴らしい廃墟が俗物化する。

・何故ニュータウンは現代人にとって住みづらいのか

(1) 一般に，開発にかかわる保存（自然，文化，慣習……）の問題がおろそかにされてしまっている。

(2) 技術者の限界……1)建築技術者はオールマイティにならねばならない。2)あくまでも進行中の作業の中でできるだけのものをつくるのが技術者の使命であり，それは即ち限界でもある。

(3) ニュータウンは，小数のワンマンによってつくられるのが現実である。

(4) 現在の住宅開発事業は余りに急ぎ足で進みすぎる。即ち余ての事業が非常に短期的な経済完結性を持ちすぎる。

(5) 都市づくり……というものは，総合的・包括的なものである。もっと広い専門領域の協力をあおぐべきである。各専門家が力ある発言をする場を与えるべきである。

以上のような意見が出た訳ですが，皆さまは如何にお考えですか，次年度の若い会員の集いの事業企画にも，生活環境についてのプログラムは引き続き盛り込んで行きたいと思います。

以上の報告にもみられるように，この３回は年度テーマを推進していくため企画されたメインイヴント であった。参加者は 各種の 分野から，また遠い地方よりの参加者を得て問題の提起のきっか けには なったと思う。これを省みて，このような企画を更に発展させてゆきたいと考えている。

●第７回　３月25日『船をみる会』

（参加　35名）

花曇りと思われた空も西に進むにつれ怪しくなり，春の昼下りを船上でとの希望も裏切って遂に雨となった。川崎重工神戸工場の造船所内は工場側の好意による作業者と保護帽を着用しての見学となった。電算機を導入しての設計図の作製，これを鋼板に照射して型取り，この線上を自動的にカットしてゆく切断機，そして，ブロック建造と，世界に誇る日本造船技術の現況に興味が募り降雨も気にならない程であった。

16万ｔ級のタンカーも，ブロック建造までに３カ月，船台に乗って３カ月と計６カ月で進水するというスピードに感心させられたが，当日艤装中の予定で船内見学するフェリーがもう船主に引渡されていて見ることができなかった。幸いにも近々進水予定の16万ｔ級のタンカーを見学することができた。後楽園球場に相当する広さを持つという船底に入り，その広大さとこの巨大な船体のいわゆる縁の下が，旧来然と木組で支持されていることを奇異に感じたが，説明を聞くにつれその必然性を知り，その構造・形式に合理性を感じた。進水の一昼夜前から船の平衡を計測しつつ楔状の台木を組込んだ木組のボルトを横断方向に一列づつはずしてゆき，最終的には砂袋を挟み込んだ木組だけで巨大な船体を保持する。そして，その瞬間砂袋を切り裂き，中央に線状に用意されたグリス塗りの滑動面に接して滑り下されるとのこと。万一滑り出さないと大変なので，推進プレスが用意されているとか，また，技術者はその船が20年～30年の耐用を持つものとして，進水時には関係者は神経を使い，一つ間違えば船体を真二つにしてしまうこともあると聞き，細部にわたる心使いに厳しさを感じた。見学を終って川崎重工敷地内の埠頭より川崎重所属の船で港内を一巡して，第４突堤に停泊中のイギリス東洋航路の客船キャッシー号を神戸税関係員の案内で見学した。完備した諸施設と悠然と寛いでいる外国人の姿に船旅にさそわれる思いがした。春雨にけぶる神戸港と船に別れをつげて川崎重工提供のタクシーに分乗して解散の赴についた。

『オール建築人ボウリング大会』は，若い会員の集い小委員会が企画・実施を担当し，日本建築協会主催で，スポーツを通じて会員相互の懇親を図る目的で開催されました。

●２月10日『オール建築人ボウリング大会』

（参加　94名　於国際興業ナンバボウリングセンター）

建築に関係のある人達が，もっと相互理解と親睦の機会を持とうという主旨でボウリング大会を開催しました。当日は18才から58才までの多数の方々が各職域から参加されました。貸切った会場中央で，北垣実行委員長のあいさつ，南幹事の競技規程の説明があり，東畑名誉会長，北垣委員長の初球式も終って，ホイッスルを合図に競技開始。独特なフォームからボールがピンを倒すと，そこかしこから歓声・拍手・嘆息と・ピンをセットする音に包まれた会場のふんいきに魅せられたかのように競技は進んで予定時刻前に終りました。得点集計も無事に終り，

表彰式は，竹腰・東畑名誉会長杯，塚本会長杯を中心に数多くの賞品が花を添える中で，北垣委員長がそれぞれの入賞者に全員拍手のうちに手渡しました。閉会は柳副委員長がおこない無事大会を終りました。紙面の関係もありますので主な入賞者のみを記載いたしました。

ハイシリーズ賞〈34才以上〉（竹腰名誉会長杯）
　１位　池田俊夫
　２位　辻本　弘
　３位　高島三郎

（東畑名誉会長杯）〈26才～33才〉
　１位　深村孝幸
　２位　佃　安弘
　３位　横山芳治

（塚本会長杯）〈25才以下〉
　１位　中島丈雄
　２位　福村　務
　３位　木本由美子

ハイゲーム賞
　横山芳治（214点）

ターキ・最多ストライク・小波・ＢＢ・72位・55位・特別・キッチリ・最多ガター各賞。

執筆者：柳真也／奥尾富一／佐々木純一／西村良平／中田雅資／森下元之／宮後浩





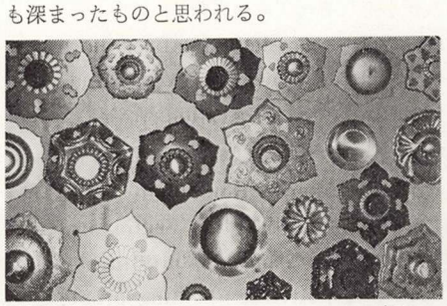
快晴に恵まれて，しかも仕事からの解放感も手伝ってか，名神からの見なれた眺めもまたいつもとは違った新鮮さで目にしみる。かなり長い幹事の説明中にもバスは山科をすぎ京都東インターを出て，京都外環状線沿いにしばらく走った所からかなり狭い街路に入る。附近の人の迷惑げな顔を気にしつつ駐車場に用意してもらった工場前でバスを降り，更に狭い小路を入った所が「京からかみ」の丸二商店の工房である。

機械化の波と戦災による版木の焼失などにより同業者が次々と廃業していった現在，丸二商店は日本唯一のからかみ業者である由。納入先の7割程が茶室関係であり，いささか値がはることもあって，あまりわれわれの目には日常的ではないしろものである。用意してもらってあったのは版木の陳列・具引・もみ紙・版押しの実演である。紙は越前の手漉和紙であり伸縮力が強く安物の襖には使えないとのこと。版木はほうの木でできているが最古のものは200年前のものであり500枚程保存されている内の大半が江戸時代のものである。この中には桂離宮や御所などの有名な版が多数含まれている。当然虫喰い，欠損などが見られるが，これがまた風雅な味になるとのこと，本物の強みである。最終的なデザインは紙と版木と色の組合せで決定されるのであるが，この組合せのバリエーションはまさに無限である。完成品及びその工程をつぶさに見るにつけても，派手な原色などはほとんど使われず地味で落着いた気品あるから紙を仕上げるのに注がれたセンスの蓄積はまさに伝統の遺産とも言うべきであろう。具引・もみ紙・版押しの実演は一見単調且つ単純に見えるが，なかなか難かしいらしく見学者の間から賞讃の声や質問が次々と飛び出し，1時間半程の予定時間は熱っぽい雰囲気の内にすぎた。



山科をあとにして昼食のため大徳寺に向う。境内の一画にある大慈院の泉仙大徳寺店で鉄鉢料理と称する精進料理を，庭を見つつ料理が賞味できるあたり心憎くもあり，また一面最近の社寺の商才にもあきれるばかりである。見学先の紹介その他で尽力を願ったＫＩＳ（京都インテリア産業協会）の出迎えをここで受け，会長の川島春雄氏から京都の工芸デザイン界の一端の状況を拝聴しつつも，つい箸先は日頃家庭では食べられぬ珍味の方へ走りがちであったが，なかなかに量的にも食べごたえのある料理であるので広く会員諸氏に推奨しておきたい。

ややせわしげな昼食ではあったが，静かな境内を出て再びバスで街中に入る。次は錺（カザリ）金物の森本家である。幹事の不手際でジュータン敷の広間に全員土足のまま上りこむというはなはだ不作法な一幕から始ったのであるが，金工だけに午前中の丸二商店とはうって変って活気のある工房である。まずは先代森本安之助氏存命中の記録映画で錺金物の製作工程の概要を予備知識として仕入れた後，工房と作品展示場とも言うべき森本家とを見学する。破風金物，金隠し，襖引手，柱根巻金物，階段散金具等々金色に輝やき日本建築の華麗さの立役者とも言うべき精巧な工芸品が，耳の奥底までガンガンと響くたがねの音と共にできていく様は感激そのものであり，同じく創造への道を歩むわれわれにとっては，その素材に対する理解の深さ，技術の洗練度，精巧さなどにある種の啓示を感じざるをえない。当代森本安之助氏は汗をかくと白いワイシャツの上に銅錆色がつくというこの一事をもってしても，道一筋の恐ろしさを感じるものである。工房では，またもや会員諸氏の熱心な質問攻めに合って若い職人達は，しばしば仕事の中断という羽目になったのであるが，それぞれに納得のいくまで同じような質問にも怒りもせず応答してもらい一層理解も深まったものと思われる。



森本氏による古来の手法そのままの金鍍金（めっき）の実演はさながら一流の手品を見るようなあざやかさである。前述の銅錆色の汗が出るという手で，銅板に水銀をぬり金箔を押し，この過程を数回くり返した後炭火であぶりながら水銀を蒸発させ，水で冷やし，稲束でこすり最後に金属片でこすると，その下から目を射るように金色が輝やきでるのを見るのは，長らく忘れていた子供の頃の純粋な感激がもどってきたような気がする程である。工房の斜め向いにある森本家では，客間用の二間続きの和室に所狭しと，小物類の錺金物の展示がしてあり，現在では技術的に製作不能と言われる程の逸品を堪能するまで拝見した。特に森本家の仏壇の透金物の精巧さは筆舌に尽しがたいものである。

未だ心残りながらも予定時間に追われて森本家を辞し，幾分西に回った陽を背に受けながら徒歩で本日最後の見学先，木工の江南商店へ向う。昨年竣工したという新社屋はどこから見ても伝統工芸の匂いを感じさせないものであり，これは和田氏の説明によれば，伝統工芸とはいうものの合理化・機械化できる部分は極力これを推進して労働環境などを含めて，新しい時代に合った形態へと脱皮していこうという意欲の表われであるという。ここは工芸指物部門・美術織物部門（主として真田紐）及びクラフトインテリア部門の三部門で活躍しておられる由。しかしわれわれにとって最も興味深いのは何といっても，工芸指物部門である。和田氏の説明を聞くにつけても，日本人に一番なじみの深い素材，すなわち木材に対して払われてきた努力には頭のたれる感を禁じえない。木の生えている現地へ行って材の選別をする話，10年〜20年かけて天日乾燥・あく抜きをする話，したがって自分が生れた頃に伐採された木を現在加工している話，全工程の80%が素材の管理についやされ，残り20%が加工技術によるということ。箱類などの最後の仕上には送り先の土地の温湿度などを考慮して蓋の遊び寸法を調整する話，とくさ・むくの葉など有機質材でやすりを作り磨く話，手垢がつかづしかも墨書きができるように「花いばた」の蠟でつや出しをする話……，これらの話を聞いていると古来より日本人がいかに自然と関わり合ってきたか，自然・技術・生活・機能性などを全て網羅した哲学が展開していくような気がするのである。一つの何の変哲もない真田紐で結ばれた桐箱にこめられている技術と思想の体系は，一台の自動車を完成さすに要する技術の系と匹敵する程のものであった。日本人に一番なじみの深い素材，すなわち木材に対して払われてきた努力には敬服せざるをえない。改めてわれわれのなさねばならぬことの再発見に思いをはせつつ帰途についた人も多かったことであろう。



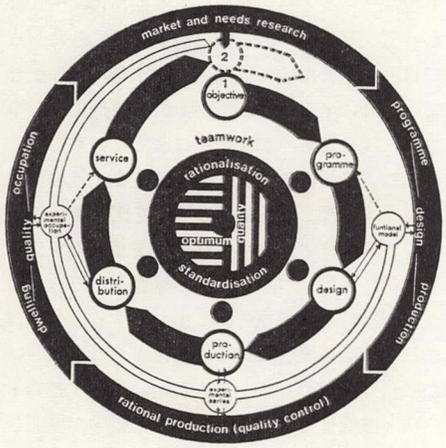
ただ趣味的に見るだけでもかなり充実した内容の見学会であっただけに見学者全員にかなり疲労の色が見えたが，それ相当の収穫があったものと期待しつつ，また次回の「伝統工芸を見る会」に多数参加していただきますようお願いします。

（高木富夫）

・日　時　4月22日（土）・参加者　41名
・行　程　9.10 発大阪中央公会堂裏貸切バス→10.20〜11.40 丸二商店見学→12.30〜13.30 泉仙大徳寺店（大慈院内）昼食→13.50〜15.30 森本錺金具製作所見学→15.45〜17.30 江南見学→18.50 大阪駅裏解散

住宅産業に関する2つのシンポジウム　その1

国際シンポジウム—世界の工業化住宅と開発商品に関するシンポジウム



The Development cycle by J.van Ettinger Jr





工業化住宅をめぐる標記国際シンポジウムが，去る1972年5月11日から13日までの3日間にわたって，東京の農協ビル国際会議場で開催された。主催者は，国際産業企画協会と東京国際見本市協会で，後援として，通産省・建設省・日経新聞社，協賛団体として，日本建築協会・日本住宅設備システム協会・プレハブ建築協会・建材試験センター・日本住宅協会・日本高層住宅協会が名を連ねていた。

講師として，アメリカより工業化住宅の世界的権威であるＭＩＴのディーツ教授（Albert G.H. Dietz），同じくモービルホームを中心とするユニット化・システム化の権威ＭＩＴのバーンハルツ教授（Arthur D. Bernhardt），オランダより建築センター国際教育部長のエチンガー氏（John van Ettinger）を迎え，日本より，並木信義（通産省住宅産業室長），池辺陽（東大教授），三沢千代治（ミサワホーム取締役社長），金子勇次郎（建設省住宅局建築生産企画室長），内田祥哉（東大教授），東方洋雄（東方ユニット研究所長），小原二郎（千葉大学教授）の各氏が参加して行なわれたものである。

「住宅産業の未来像」として，通産省の立場からその展望を並木氏が，つづいて，「住ユニットとは何か」について池辺陽氏，「コストダウンの実際」について三沢千代治氏がそれぞれ報告したあと，「A General Strategy for Iudustialization」と題して，バンハード教授がスピークされて，第一日目は終った。

第二日目は「住宅の工業的生産」と題して金子勇次郎氏が，「ＧＵＰ計画」について内田祥哉氏がそれぞれ話されたあと，午後より，ディーツ教授による「Industrialized Building for Housing:General Survey of European and United States Systems」と，バーンハルツ教授による第一日目の続きとして「Lessons from the Mobile Home Industry Experience for the Building Sector at Large : Industrialization of building as an economic-political planning problem」の講演がスライドを併用して行なわれた。

第三日目は，「スペースカプセルの工業化の方向」と題して東方洋雄氏が，「住宅設備と人間工学」と題して小原二郎氏が午前中に話をして，午後はエチンガー部長による「Housing on a National Scale—A Study of Problems and Methods」の講演が図表などのスライドをまじえて行なわれた。そのあと，講師全員参加による「パネルディスカッション」が開催され，三日間にわたる「工業化住宅」をめぐる国際シンポジウムを終えた。

その間，このシンポジウムと併行して，東京晴海会場において，「第2回東京国際グッドリビングショー」が，「マイホームと住宅産業展」と銘うって5月4日～5月14日にわたって催されており，パネルディスカッションでも，この「リビングショー」のことが話題になった。聴講者は各住宅市場にのりだしているディベロッパー，不動産会社，建設会社，部材・設備メーカー，プレハブメーカーなど，いろいろな企業から，約100名以上のメンバーが参加した。

以上が，このシンポジウムのあらましであるが，そのなかでとくに印象に残った諸点の一部を，簡単に以下に記してみる。

第一点は，アメリカにおける「モービルホーム産業」の進展とその推進力としてのマネジメントの積極的評価である。

バーンハルツ教授によれば，アメリカではモービルホームが急速にのびており，年間60万戸～70万戸に達し，建設産業の一角というより，ひとつのモービルホーム産業をつくりだしているといわれる。その在来の伝統的工法による住宅（マニファクチュアによる住宅も含めて）に比べて30%も安くつくりだし，全米にのびているが，その大きな要因は，需要・供給，開発など総合的にとらえるマネジメントが第一義的要因である。生産様式などは第二義的であるという。したがって，モービルホーム業界は，政治的にもいろいろ運動をやり，全米に適用される統一的な法律をつくることに成功して，それぞれの州が決めている工業化住宅を規制する法律にしばられないものになった。そして，今や，全米で利潤率の高い産業になったという。スカイラインコーポレーションはその ひと つの例で，運輸産業などをまきこんだ。このようにサポートする産業の導入とその再組織をはかったという。また，戦略目標としてよくデザインされた流通機構を使ったことである。全米でディラーの数は1万あるが，何百というディラーと関係をもって，市場調査をし，需要・供給などをのばしていったということである。このマネジメントの役割とモービルハウスは工業化住宅とちがった範疇にはいる産業だといった点とが印象に残った。

第二点は，住宅の質と コスト との 関係 である。

エチンガー氏がいったように，Quality=Use-Value マイナス Sacrifices という式で，最適レベルは，最良の質を，使用価置と個人の犠牲との差が最大のところにある点に求めるべきだという意見である。

この考えによれば，個人の犠牲（支出）が少なくても，使用価値が低く，その差が少ないものは，最適レベルの住宅といえない。逆に，使用価値が非常に高くても，個人の犠牲が高く，その 差が少 ないものも 大金持用の 住宅であって，最適レベルのものでない，ということである。

そのほか，アメリカのオペレーション・ブレークスルーと日本のパイロットハウスの類似と相違など，興味あるディスカッションもあったし，また，内田教授の「ＧＵＰ計画」も面白かったことを付言しておきたい。　(M)

日本建築協会

月間の動き

昭和47年5月分

理　事　会

17日　4時～5時半　於会館集会室
出席者　塚本会長ほか13理事　浦辺監事
議事(1)昭和46年度事業報告承認の件
(2)昭和46年度収支決算報告承認の件
(3)定時評議員会開催の件
(4)通常総会開催の件
(5)よろず相談住宅展開催の件
(6)建設大臣表彰候補者推せんの件
(7)在庫図書販売の件
(8)入退会者承認の件
(9)報告事項

会計理事会
11日　1時半～2時半　於会館3階会議室
出席者　山田主幹ほか2名
議事　昭和46年度収支決算について

事　業　委　員　会

見学会小委員会
2日　6時～7時　於会館3階会議室
出席者　松久保委員
議事(1)4月に実施した見学会の報告
(2)5月～7月の見学会企画について
(3)8月以降の見学会企画について
(4)そのほか

広報小委員会
8日　6時～7時半　於会館3階会議室
出席者　三品副委員長　小泉，木地幹事ほか8名
議事(1)本年度第2回（6月～7月）展示写真の実施企画について
(2)本年度の説明会実施企画について
(3)会員の余技展実施企画について
(4)本年度の新事業企画について
(5)そのほか

若い会員の集い小委員会
9日　6時～8時　於会館集会室
出席者　岩永，奥尾，西村幹事ほか9名
議事(1)本年度事業企画と担当委員について
(2)小委員会の運営について
(3)そのほか

委　員　会
11日　6時～7時半　於会館集会室
出席者　北垣委員長，堤，三品副委員長ほか3名
議事(1)各小委員会の事業報告
(2)5月～8月の事業企画について
(3)本年度の新事業企画について
(4)女子会員の増加と役員，委員としての事業参加について
(5)そのほか

女性会員との懇談会
16日　5時半～7時半　於会館集会室
出席者　女性会員三谷ほか3名，西村・岩永幹事
議事(1)事業企画の意見・希望について
(2)女性会員の委員会委員としての参加について

若い会員の集い小委員会分科会
18日　6時～8時　於会館集会室
出席者　中田委員ほか4名
議事　民家集落を訪ねての企画について

航空機工場見学会企画現地打合せ会
22日　10時～6時　於川重岐阜工場
出席者　川重・岡，委員・北岡，事務局山田

編　集　委　員　会

編集常任幹事会
8日　3時～4時　於会館集会室
出席者　彦谷委員長ほか2名
議事(1)海外写真・建築の眼の新執筆者について
(2)9月号以降の特集テーマの選定について
(3)特別シリーズものの提案について

委　員　会
8日　4時～7時半　於会館集会室
出席者　彦谷委員長　北垣，井上，渡辺，今元（代理）理事ほか16名
議事(1)昭和47年度編集委員の件
(2)6月号＝量産住宅の設備特集経過報告
(3)7月号＝作品特集（仮称）報告
(4)7月号の建築の眼・海外写真の新執筆者
(5)8月号＝都市住環境へのアプローチ特集経過報告
(6)9月号以降の特集テーマ
(7)特別シリーズもの
(8)そのほか

作品作風小委員会
8日　6時～9時　於会館集会室
出席者　彦谷委員長ほか6名
議事　7月号作品選定

8月号編集共同討議
9日　6時～9時半　於会館集会室
出席者　松原幹事ほか
議事　8月号原稿作成

7月号作品作風検討委員会
17日　6時半～9時半　於会館集会室
出席者　中山主査ほか8名
議事　桂中学校掲載方法について検討

技術の頁小委員会
19日　正午～2時　於会館集会室
出席者　小林委員ほか2名
議事(1)技術の頁小委員会主査の選出
(2)8月号以降の技術の頁の企画について

8月号編集共同討議
25日　6時～9時半　於会館集会室
出席者　松原幹事ほか5名
議事　8月号原稿作成

都市防災特集編集幹事会
26日　6時～9時半　於会館集会室
出席者　三品特別主査ほか3名
議事　9月号「都市防災」特集企画について

8月号編集共同討議
30日　6時～9時半　於会館集会室
出席者　松原幹事ほか4名
議事　8月号原稿作成

住　宅　委　員　会

委　員　会
10日　5時半～7時半　於会館集会室
出席者　小西委員長ほか16名
議事　第9回「よろず相談住宅展」の諸準備について

住宅展小委員会
23日　正午～2時　於会館集会室
出席者　坂倉副委員長ほか6名
議事　第9回「よろず相談住宅展」の諸準備について

建築データシート委員会

企画分科会
10日　正午～2時　於会館3階会議室
出席者　井上委員長，伊藤幹事ほか2名
議事(1)分科会の作業方針・内容について
(2)今後の運営について
(3)そのほか

委　員　会
17日　6時～8時　於会館集会室
出者席　井上・真塚正副委員長ほか12名
議事(1)建築データシート発送費用について
(2)外部工事「造園」の内「樹木」のデータシートについて
(3)組織表について
(4)企画分科会よりの提案について
(5)編集分科会の作業内容と運営について
(6)No.38（10月発行）No.39（48年1月発行）の発行シートについて
(7)そのほか

Cグループ打合会
22日　5時半～7時半　於会館集会室
出席者　岡田委員ほか3名
議事(1)未発行シートについて
(2)新規発行（No.38）シートについて

Dグループ打合会
24日　5時半～8時　於会館集会室
出席者　正法院委員ほか2名
議事(1)新しい企画「防火耐火工事」のデータシートについて
(2)未発行シートについて

原稿執筆説明会

30日　2時～3時　於会館集会室

出席者　初田製作所ほか5社，岡田委員ほか2名

議事　No.38発行シートの内「防火・排煙・消火器具」「水処理設備」についての原稿執筆の説明会

教育委員会

講習会小委員会

12日　正午～2時　於会館3階会議室

出席者　岩下副委員長，佐々木幹事ほか2名

議事(1)建築工事実務講習会の企画について

(2)建築基礎工法と実例講習会（地方都市）の企画について

(3)建築の風力係数講習会の企画について

(4)設備技術者対象「建築の知識」講習会の企画について

(5)そのほか

企画小委員会

18日　正午～2時　於会館集会室

出席者　山地副委員長，上田幹事ほか4名

議事(1)都市災害問題シンポジゥム企画について

(2)環境保存問題シンポジゥム企画について

(3)建築工業生産問題シンポジゥム企画について

工高生教育小委会

20日　1時半～3時　於会館集会室

出席者　植田委員ほか1名

議事(1)本年度（第18回）工高生デザインコンクールの募集規定について

(2)現場実習指導要領の作成について

(3)そのほか

コンピューター小委員会

23日　正午～2時　於会館3階会議室

出席者　臼井副委員長，加藤幹事ほか2名

議事　建築構造設計プログラム・ライブラリ講習会の企画について

建築工事実務講習会打合会

26日　正午～2時　於会館集会室

出席者　西山講師ほか6名，岩下副委員長

議事(1)受講対象者・定員について

(2)会期・会場について

(3)講義科目・講師・講義時間について

(4)テキストについて

(5)そのほか

工高生教育小委員会

31日　1時半～3時半　於会館集会室

出席者　斉藤副委員長，上野幹事ほか3名

議事(1)工高生デザインコンクールの募集規定について

(2)夏期現場実習指導要領について

(3)そのほか

法規委員会

（4会合同）

15日　2時～5時半　於関電会館

出席者　福田委員長，白石博三氏，岩間啓次郎氏ほか40名

議事(1)大阪市における新用途地域制について

(2)「建築基準法・同施行令改正に対する問題点」について

建材委員会

委員会

29日　3時～5時　於会館集会室

出席者　堀内，山田正副委員長ほか12名

議事(1)正副委員長の選任

(2)繊維壁材，湿式建材のまとめについて

(3)次回検討議題について

会勢委員会

建築クラブ小委員会

25日　正午～1時半　於会館集会室

出席者　小林委員長　尾亀，小川副委員長ほか2名

議事(1)朝食会の実施について

(2)運営委員の選任について

(3)そのほか

見学会

長谷寺の参拝とぼたんの観賞・撮影会

6日　2時～4時半

参加者　20名（当日混雑のため自由行動に変更した）

永富邸見学会

20日　1時10分～5時

参加者　30名

千島市街地住宅建設工事の見学会

（本会・大阪府建築土会・日本建築学会近畿支部共催）

26日　3時～5時半

企画設計　大阪市

日本住宅公団大阪支所計画部

株式会社 双星社竹腰建築事務所

工事監督　日本住宅公団大阪支所工事監督部

株式会社 双星社竹腰建築事務所

株式会社 桜井建築設備研究所

施工　1期　株式会社　大林組

2期　大成建設株式会社

3期　清水建設株式会社

参加者　40名

3会事業委員長打合会

24日　正午～1時半　於日本建築学会近畿支部

出席者　7名

6月以降の共催事業について打合わせ

建築業務基準委員会

10日　1時半～4時半　於日本建築学会

出席者　谷委員長ほか15名

議事(1)建築設計監理業法案要綱の各会の意見について

(2)建築士処分基準案について

(3)そのほか

5月の入会者（敬称省略）

〔団体会員　1社〕

㈱三和地質

〔個人会員　35名〕

青野皓一	川勝昭一	西本一夫
井坂雅美	川口典夫	早岡一裕
石原清行	川瀬幸一	藤井英克
市原哲比古	河村広美	藤田金二
稲毛政信	北山　俊	藤本一裕
植岡邦生	阪口久大	増田孝夫
大西重幸	阪倉嘉一	丸川成平
岡村利法	桜井　忍	森埜和枝
岡本宏行	高山利和	山本雅英
加茂　渡	道野徳次	米田正恒
柿谷宏文	中野博文	脇坂　稔
勝山俊雄	西野広明	

〔准会員　9名〕（氏名省略）

■建築と社会　広告料金

スペース／寸法(mm)／掲載頁	1頁（2色）	カラー1頁
	タテ265×ヨコ190	
表紙2	85,000	230,000
表紙3	75,000	220,000
表紙4	110,000	250,000

スペース／寸法(mm)／掲載頁	1頁	カラー1頁
	タテ265×ヨコ190	
前付最初頁	60,000	200,000
前付各頁	50,000	180,000
前付記事対向	55,000	190,000
後付各頁	40,000	——

●日本建築協会事務局

常務理事
事務局長：福中定三郎（06—231—9648代）

●事業課　06—9640・5936
山田　唯美・三木ちゑ子
芥川美智子・中平　昌三

●庶務課　06—231—9648・9649
吉田　悦二・上田セキ子
末宗ミツエ・小石原千代乃
佐々木千年世・以倉久美子

●会計課　06—231—9648・9649
佐藤　寛・坂東三喜子
杉谷　和子・江口美智子

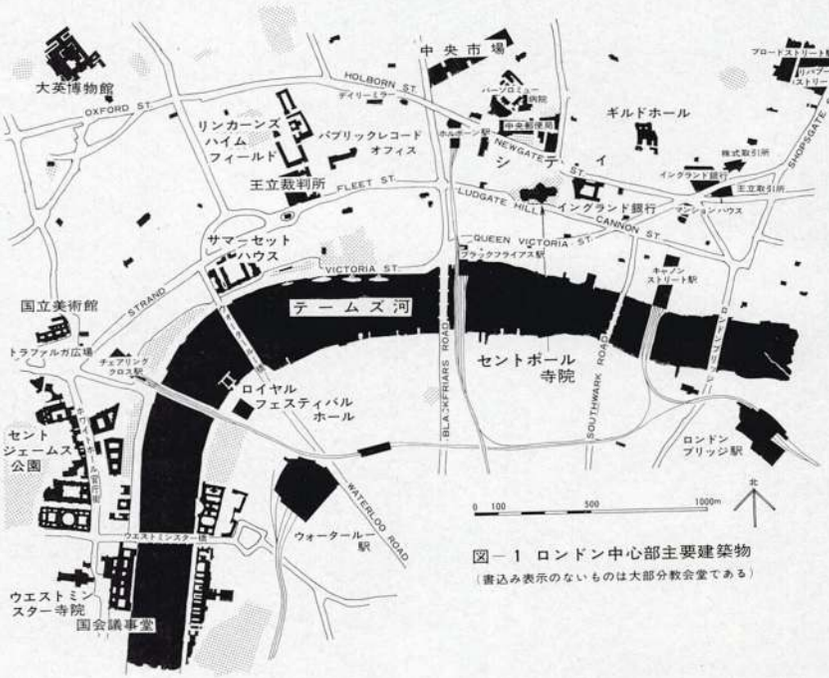
●編集課　06—231—9648・9649・9640
松井　昭光・吉崎　裕子
朽木　克己・梅村　繁人

企画・営業：東出　清彦・吉田　晃
鹿内　武三・黒田　顕真

LONDON —— セントポール寺院境内の再開発

共同研究 都市の開発的保存 8

田端 修



図－1 ロンドン中心部主要建築物
（書込み表示のないものは大部分教会堂である）

ロンドンの町を歩いていると，古い街並みのなかから突然モダンな高層ビルがあらわれたり，新建築と古めかしいテラス住宅（3～4階建の連戸住宅）とがむかい合って街路を構成していたりして面白い。新旧の建築物が一見奇妙なコントラストを示しながら，混在し合っているというこの「現代性」はヨーロッパの古い都市では，あまり見られない光景であるといえよう。ロンドンは都市がつねに変わっていくものだということを，納得させてくれるような活気をもっている。

このロンドンに，ひときわ高いドームをいただくセントポール寺院がある。セントポール寺院は1666年の大火の後，クリストファー・レンによって再建された壮大なバロック大会堂であるが，1956年その境内の再開発計画が樹立され着々とその建設が進んでいる。ところで，その再開発計画もまたこの由緒ある寺院に接して，モダンデザインを対置させるという方法を採っているという点で，ロンドンの変貌と軌を一にするものである。

本稿はセントポール寺院境内の再開発計画を検討しながら，ロンドンにおける都市景観形式についてのイギリス人の思考法，あるいはロンドンの活気の淵源は何かといったことに思いを馳せてみようというものである。



図－2 1666年のロンドン大火の模様 （資料3より）

第二次大戦による破壊

第二次大戦中，ロンドンはたびたびの空襲を受け，多くの被害をこうむった。空襲は1940年から1944年まで続いたが，この結果シティ（ロンドンの金融街中心地で，セントポール寺院もこの一画にある）の建築敷地の460エーカー（約250ha）のうち約164エーカー（約88ha）が被災した（資料1による）ほか，セントラルロンドンのオフィスビル床面積800haのうち，約⅙にあたる90数ヘクタールが破壊された（資料2による）という。

とくに1940年12月29日の空襲はすさまじく，雨のように爆弾が市中に落とされ，1666年のロンドン大火もかくばかりと想像させるものであったらしい（図－2）。

セントポール寺院も内陣の後背障が被災し，さらに，北側のトランセット（袖廊）に落ちて扉や床をも壊した。とはいえ，寺院はその姿を厳然とそびえ立たせたままに戦争は終った。戦争直後のシティの航空写真（図－3）によれば，その様子がよくわかる。

アーキテクチュラル・レビュー誌は戦時の1941年7月号で「破壊と再建」特集を早くも組んでいる。その序文のなかで「われわれがこうむっている災厄は戦前の時代が終ったということのシンボルとして受けとめねばなるまい。…… 失なわれた価値ある建物は，混乱錯綜した都心部の再建へのイケニエとして祭壇にさしだされたのである。」と余裕のある態度を示している（図－4，5）。

たしかに，セントポール寺院は残り，周辺の混乱した建築物がクリアーされた状態はこれにあてはまるといえよう。

「セントポール寺院近辺への爆撃による破壊は，新しい境内のデザインを可能にした」（資料4）といわれるのももっともである。

計画案の作成まで

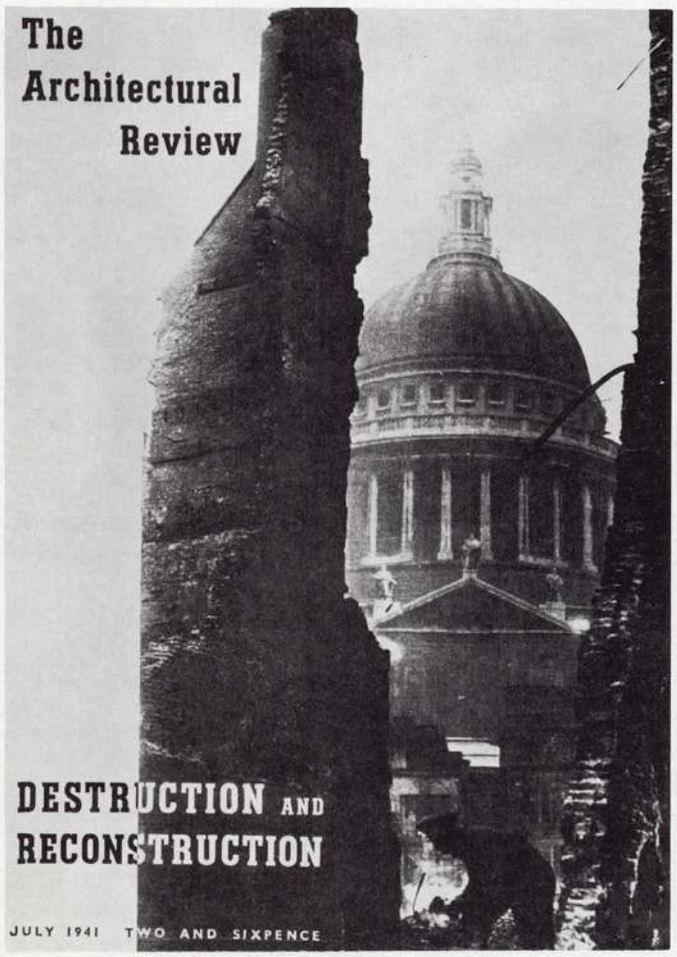
すでに1947年Charles Holden博士は，ロンドン再建計画の一部として，寺院周辺の建築計画に関する助言報告を行なっている。これは寺院周辺の錯綜した街路の整理と同じく近辺の建築に対する高度制限を内容とするものであったが，実効的な権限を与えられぬままにすぎていったらしい。

1955年，ロンドン市区行政機関は再びこのセントポール寺院周辺の計画樹立を意図し，顧問団（Advisory Committee）の指導のもとに，William Holfordに計画案作成を依頼した。

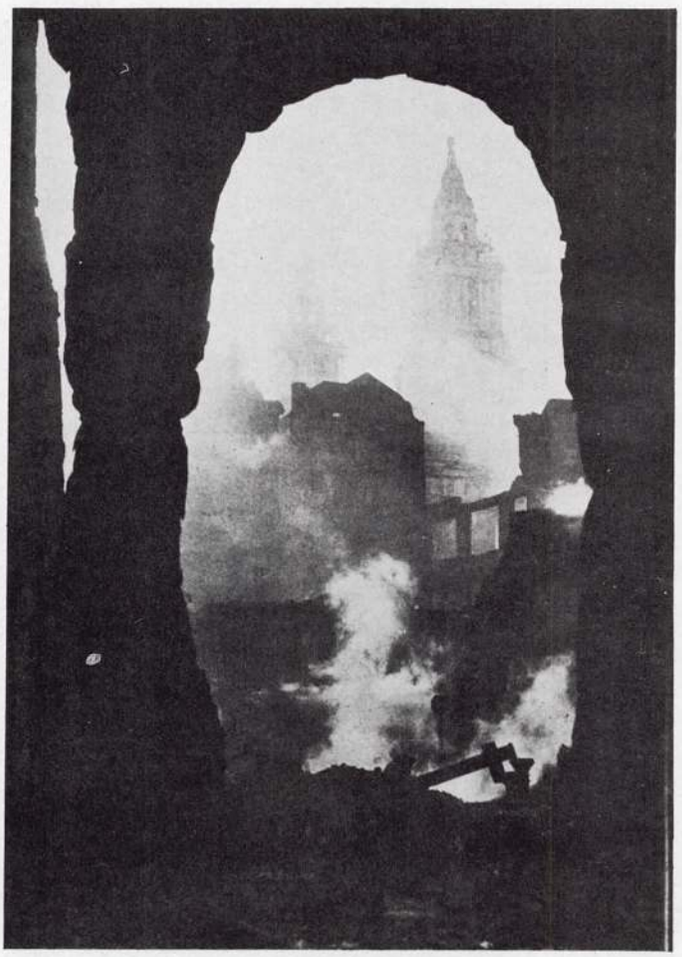
この当時，寺院周辺には戦後の復興が着々と進み，これを放置すれば戦



図－3　戦争直後のシティの航空写真　（資料1より）



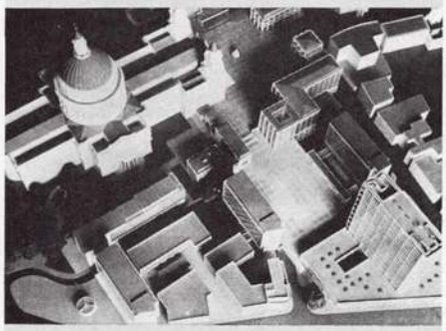
図－4　A.R.誌1941年7月「破壊と再建」特集号の表紙は破壊をまぬがれたセントポール寺院のドームを近辺の廃屋と対称させてとらえている。



図－5　セントポール寺院の北側には爆撃でこのような荒れはてた岩窟ができた。そこからみた寺院の西塔　（資料3より）



図－6　セントポール寺院の西正面　（資料6より）



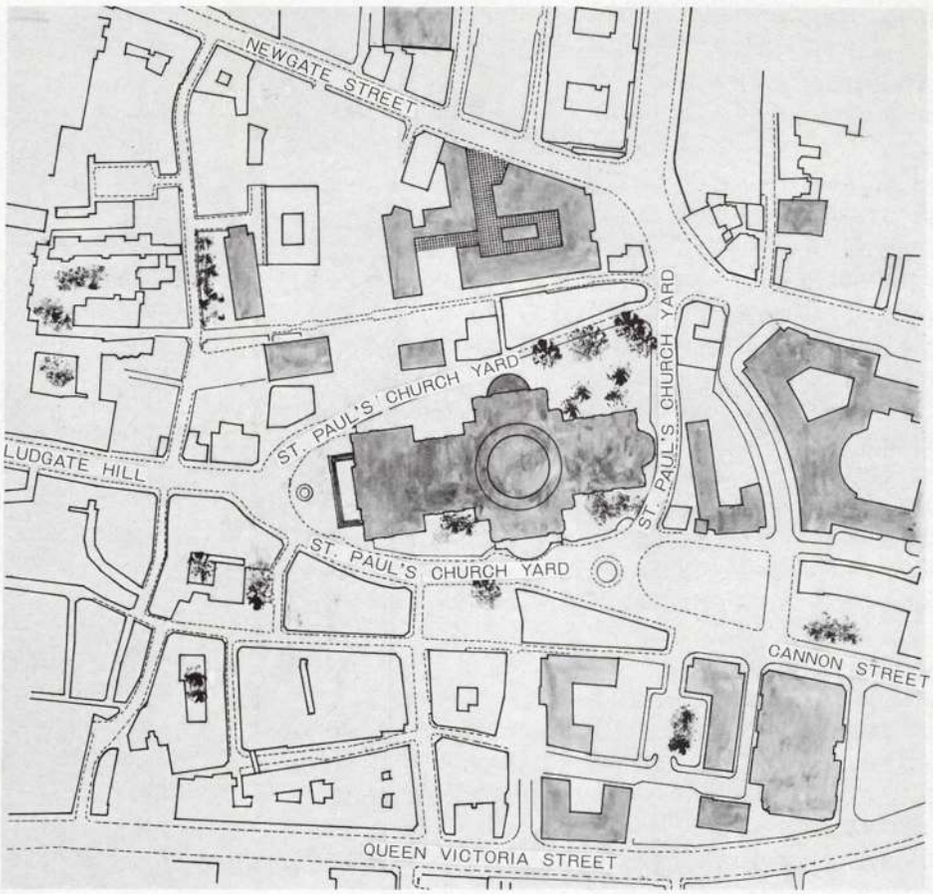
図－9　再開発計画の模様－北側地区を見る
（資料4より）



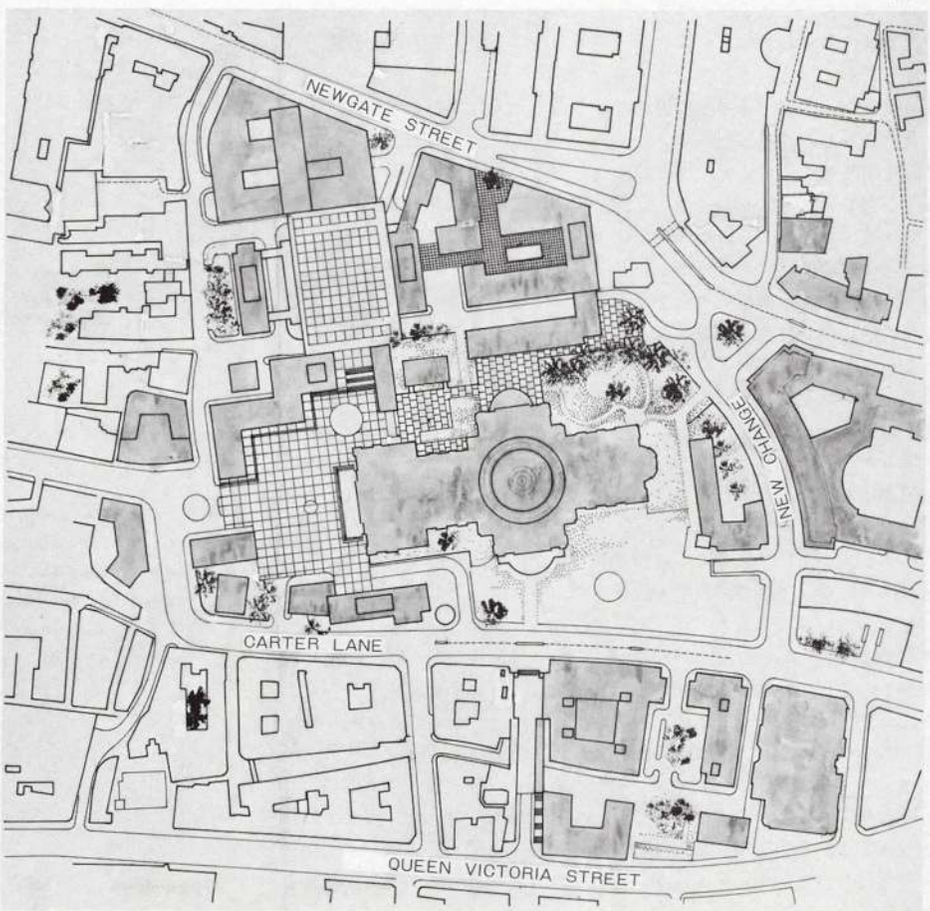
図－10　再開発計画の模型－南東より見る
（資料4より）



図－11　再開発計画の模型－正面広場を見る
（資料4より）



図－7　再開発の第一段階
うすずみの建物は保存物件，マスターデザインによる計画物件を示す。太枠白地は現況の建物を示す。



図－8　再開発の最終段階

前あるいはそれ以下の混乱した市街地形成が行なわれると考えられたのである。寺院周辺地域が，大寺院にふさわしい背景を獲得するために，計画案は急遽作成されることになった。

ロンドン子にとってセントポール寺院は，ふっと目をあげれば視界のなかにはいってくるロンドンのシンボルであった。一般の建物が寺院の第一蛇腹（約60フィート）よりも高くなることがほとんどなかった時代には，この寺院の壮大なドーム（約370フィート）は抜きんでて偉容を示していた（図－6）。

けれども高層建築が所々方々に設けられ，ドームが視界から消え去ろうとするとき，これをそのままにはしておけない。

セントポール寺院には統一された計画が一定のふさわしい道具立，環境をもたらすことになるというのは衆目の一致するところであった。けれどもその具体的方法については，きわめて多くの意見が述べられた。伝統的な人々は，バロック型の左右対称の敷地計画を採用せよと迫ったし，周辺建物をすべてレンガにあるいは石によって仕上げることを提案した。また戦争の被災の状況をそのままの形で保存しようという人もいた。逆に周囲を全部クリアランスして新しく出発しようという案もあった。

セントポール境内および周辺はロンドンのシンボル的な地区であるだけに多くの人が，さまざまの想いをこめて口をはさむのは当然のことであった。

W. Holfordの計画

W. Holfordの計画案はつぎの4項目を主目的としたものである。

1）寺院近辺の土地区画を整理し，現存する建物の除去および建設されることになろう建物の形態・機能等についてマスターデザインを提示する。これによってセントポール寺院および境内に新しい魅力を加えるような環境をつくり出すこと

2）境内および周辺での歩行者と乗物のための交通システムを改善すること

3）大戦により失なわれた公共建物，事務所，商店，倉庫などのフロアースペースをもとに戻すこと

4）開発のプログラムを作成すること

このうち第3項は，Holfordの計画を現実的なものとした大きな特徴である。さきにみたような多くのアイデアが無視していたものは，この地区が世界の金融中心のひとつ，シティに属し，活発な商業活動を展開しているところだ，ということであった。

彼の案はセントポール寺院の環境だけでなく，大商業中心の地区改造をも含み込むものであった。

計画を概略的に述べると，つぎのようである。境内に新しく3つの大きなオープンスペースをつくる。北側に四角形のPaternoster広場，寺院正面にアプローチするLudgate Hillから視覚的につながる正面（西）広場――これは角ばったコーナーをもっているが，入り組んだ形をしている――そして寺院南西側の大きな不整形の芝生の広場である。これらにより境内地は歩行者に開放されることになるほか，近辺からの寺院の見え方が以前にくらべ大変ヴァラエティに富むこととなる。また，寺院正面からゆったりした階段によって連絡しているペーブメントされたテラス(Paternoster広場)は，これに面する建物の2階に設けられるペデストリアンギャラリィにつながり，そのギャラリィはいくつかの建物の内部を同様にくぐりぬけ，北界の道路Newgate St.をも安全に横断しうるようになっている。ペデストリアンシステムが縦横に走っているのである。このテラスの下には，また，2層の駐車場があり，上階は既存の道路と同レベルになっていて，新しく設置される各オフィスビルの駐車スペースとなっているのである。

建築群構成については，おのおのの建物の高さおよび形態の設定に工夫がこらされている。寺院に向き合う建物は，寺院の軒高以下におさえられたオフィスブロックによって形づくられる。さらに北側のNewgate St.に接する部分には20階建の板状棟が南北軸上に位置し，この東にはオフィスつきのショッピングエリアがある。これは主として近辺にあった既存商店を収容するものである。一見乱雑に配されたかに見える各建物ではあるが，報告書には各建物ごとにその位置的条件，機能，規模，形態等について納得のいく説明が述べられており，慎重な検討の結果であることがわかる。

その内容は興味深いところであるが，おのおののブロックについてはここでは省略し，彼がその前段に述べているデザインポリシーについてその概要を示しておきたい。

とはいっても，シティはたえず発展変貌し，そのなかで入り組んだ街路構成とまわりにひしめく建物のため，セントポール寺院の全体の姿をとらえる場所はいまや残されていない。なおかつ寺院の平面型は東西軸に対称ではあるが，その背景となる建築群はどこから見ても対称にはつくられていないのである。ここにローマのサンピエトロ寺院やワシントンの議事堂の正面のようなバロック的デザインをつくり出すことは，ほとんど無理であるし，この地区の条件にふさわしいともいえない。

セントポール寺院をその近辺から見ようとするときは，背の低い建物群の頭からその一部が見えたり，建物のすき間からドームや塔の一部がとらえられるということでよいというわけである。彼はここにバロック的な固定的ヴィスタをつくるよりは，境内やその近辺を動きまわる人々に多様な視点をつくり出すことを課題の解決法としている。

また，高層建築の増加により寺院のシルエットさえ見えなくなるという事態に対しては，敷地いっぱいに許容高さまで建てあげるのでなく，ときには限度をこえる高さでも許可して，異なる高さで，種々の輪郭というポリシーを提案している。こうすれば背の高い間からでも，向こうのシルエットが浮かびあがる。テームズ川の向こう岸からでもセントポール寺院のシルエットをとらえることができようというのである。

以上のようなポリシーにたてばシティにおける活発な建設活動による床面積の増加をも受け入れつつ，セントポール寺院にふさわしい周辺環境をつくり出しうるわけだ。これがさきに示した境内の再開発計画のデザインの原理なのである。

おわりに

都市は当然変化していくもの，建築物もまたしかりという認識が根底にあって，このセントポール寺院周辺地区の計画は成功に導かれつつあるといえる。すでに計画は実施に移されているのである。

セントポール寺院の見え方は時系列的に変化してきたのであり，現代の英知を集めればここに新しい景観をつくり出すこともできるのだという確信が，彼の報告書には流れている。

われわれは西欧の都市の完成されたかのごときすがた，固定してどうにも変化し得ないような閉塞的状況をついつい誇張しがちであるが，たしかに彼らにとって，そういった世界で古いものを新しいものにおきかえるのは容易なことではないだろう。

セントポール寺院のケースは，たまたま周辺の多くの建物が破壊されたという条件にあったわけだ。こういった契機をとらまえて新しいものとは何かが真剣に考察され，そこで提示された理念が都市一般へもひろまっていくといった文脈は，文頭にのべた現代ロンドンのダイナミズムと一連のものではないかと考える。

そう考えると，アーキテクチュラル・レビュー誌がはやばやと「破壊と再建」特集を組んだ底流がわかってくるようだ。彼らはいついかなるときでも執ように都市や建築の将来を見はるかそうとしている。その執念には学ぶべきことどもが多そうである。

資料1「The Lost Treasures of London」（William Kent, 1947）
資料2「The South East Study」（HMSO, 1964）
資料3「The Architectural Review, July 1941」
資料4「Town Design」（Frederik Gibberd, 1959）
資料5「St. Paul寺院の境内に関するLondon市区行政機関への報告書」
（William Holford著，1956年3月京都市企画主幹室海外翻訳資料）
資料6「An Outline of European Architecture」（Nikolaus Pevsner, 1963）

（たばたおさむ　生活空間学研究会会員）

LONDON

暑中お見舞申し上げます　昭和47年盛夏

設計事務所有志

一級建築士事務所
株式会社 **A.R.I 建築事務所**

代表取締役　亀井晃治

事務所　大阪市南区谷町7丁目12番地の1■新谷町第3ビル2F■TEL（代表）大阪(06)768－1405
アトリエ　東大阪市上石切町2丁目14－35　電話　07437(3)6137

RIA建築綜合研究所大阪支店

所長　山口文象
支店長　山家啓助

大阪・大阪市北区太融寺町33　大阪合同ビル 406　電話 312－9154
東京・270－5861　名古屋・262－3941

青田設計事務所

所長　青田豊吉

姫路市坂田町54（姫路建設会館内）　電話　代表 0792（22）7126
〒 670　直通 0792（24）9012

株式会社 赤松菅野建築設計事務所

代表取締役　赤松修

大阪市北区梅ヶ枝町123（瑞穂ビル）　電話（364）5651
東京・横浜・大宮・富士ノ宮

株式会社 浅野建築設計事務所

代表取締役　浅野真澄

本　社　〒543　大阪市天王寺区城南寺町9-27 カトウビル　TEL06（768）0201番(代)
TEL06（768）1870番
高津分室　〒543　大阪市天王寺区東高津町13-11 八竹ビル　TEL06（768）0226番
奈良分室　〒639-02　奈良県北葛城郡香芝町下田256番地　TEL0745（77）7805番

株式会社 東建築設計事務所

代表取締役　東　秀保

大阪市北区天神橋筋3-67　マチスビル　電話 (358)5598・3497

株式会社 荒木造園設計事務所

代表取締役　荒．木　芳邦

大阪府池田市鉢塚2丁目8番21号　電話 0727 (61) 8874 (代表)

株式会社 井上達明建築事務所

代表取締役　井上達明

〒530　大阪市北区鶴野町51番地（安田ビル）　電話 06(372)2821

株式会社 井上久雄建築設計事務所

代表取締役　井上久雄

〒550　大阪市西区京町堀1丁目38　千島ビル　電話大阪 06 (443) 7338㈹7325

株式会社伊東建築設計事務所

代表取締役　伊東正也
取締役　竹原永一郎

大阪市浪速区幸町通り2－6　清光ビル　電話(562) 4343～4

株式会社 池田宮彦設計事務所

代表取締役　池田昭

大阪市南区瓦屋町3番町68番地　電話06(761)0360・06(762)0396・06(762)5551

石川建築事務所

石川寛三
石川宏

大阪市天王寺区茶臼山町111　電話 06(779)9491～2
東京都豊島区駒込1－11－9　電話 03(946)5431～2

株式会社 泉設計事務所

代表取締役　長谷川元耶
代表取締役　宮川達郎

大阪市南区横堀7－4（新田ビル）電話 251－7691(代)

株式会社 泉沢建築設計事務所

代表取締役　泉沢哲史

大阪市北区真砂町48－1　オオシマビル　電話 06(364)9071～2

株式会社 今西建築デザインルーム

代表取締役　今西茂雄

大阪市西区北堀江通2－47　TEL 541－3051～3

株式会社 入江三宅設計事務所

代表取締役　三宅晋

東京都港区芝西久保桜川町28（第10森ビル）電話 501－0286(代)
大阪市東区本町1－24（ニューホンマチビル）電話 271－0257

株式会社 浦辺建築事務所

代表取締役　浦辺鎮太郎

大阪市北区梅田八番地・新阪急ビル　電話 大阪(341)1727・1680
東京都千代田区平河町2－7 塩崎ビル　電話　東京 03(263)9756(代)

株式会社 栄和設計事務所

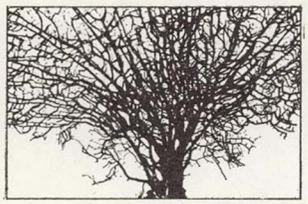
取締役社長　小泉善重

本　　社　大阪市福島区堂島浜通4丁目14　TEL大阪（452）1651～3

株式会社 海上静一建築事務所

代表取締役　海上静一

本　　社　大阪市東区博労町2－41(中博ビル)　電話大阪06(261)4428～9
三重分室　三重県津市船頭町2044　電話 津 0592(28)9627



環境事業計画研究所（旧エダ造園・地域計画研究所）

Institute of Environmental Programming and Planning

代表取締役　吉村元男

大阪研究所/大阪市東区内淡路町2-16　恵口ビル4 F06－942－4577
京都研究所/京都市中京区蛸薬師堺町上ル みよいビル2 F075-221-1017
大阪研究所所長：東 集成　　京都研究所所長：村田 邦雄
大山雄三・青木保次郎・芝原幸夫・古田恭一・葦澤拓実・服部 保

コータケ建築設計事務所

所長　高武主計

大阪市西区江戸堀5－155(新山越ビル)　TEL 06(448)0178・2408

株式会社 小林得志建築事務所

代表取締役　小林得志

大阪市北区堂島北町20　藤田ビル内　電話(341) 5658（代）

有限会社 河内義就設計事務所

代表取締役　河内義就

広島市上幟町2番37号　電話（0822）28－2271

株式会社 桜井建築設備研究所大阪事務所

常務取締役所長　福田鋼

大阪市西区靱本町1－50(第2富士ビル)　電話06 (443)7891(代)
本社・東京都千代田区麹町4－2－7(大森ビル)　電話03 (265)7826(代)
東京事務所　名古屋事務所
九州支所・岐阜支所・北陸支所・神奈川支所・東北支所・北海道支所

株式会社 三座建築事務所

代表取締役　徳永恒夫
専務取締役　吉岡凡夫

本社　大阪市北区中之島4－33 (06)443－0051
支社　福岡市中央区鳥飼1－3－49

株式会社 篠田川口建築事務所
株式会社 協同設備事務所

代表取締役社長　川口喜代枝

名古屋市東区富士塚町3－2
TEL 962－7581(代)
TEL 971－2255(代)

株式会社 昭和設計

設計・監理

代表取締役社長　岡本行善
代表取締役専務　林唯夫

大阪事務所　大阪市西区西長堀北通1-8 四ツ橋ビル　TEL代表 532－3421
神戸事務所　神戸市葺合区八幡通5－6　久徳ビル　TEL078－251－0651

高木建築デザイン スタジオ

所長　高木茂雄

大阪市南区心斉橋筋一丁目一の二　心一ビル　電話 大阪(06)252・8355
356

株式会社 田中小西建築事務所

取締役社長　小西岬

本社　大阪市西区阿波座南通2－60　電話 (532) 4051大代表
東京事務所　東京都千代田区神田鍛冶町3ノ3(大木ビル内)　電話 (256)　9301代表
名古屋事務所　名古屋市中区丸の内1の8番39号(三信ビル内)　電話 (211)　4035
大津事務所　大津市梅林1丁目4番15号(滋賀県教育会館内)　電話 (22) 5373～4番

株式会社 大建設計

取締役社長　高橋慶夫
取締役副社長　西嶋徳太郎
取締役副社長　千原大五郎

本社　大阪市西区京町堀2丁目75番地　大阪(441)9351(代)
大阪本社　大阪市西区京町堀2丁目75番地　大阪(441)9351(代)
東京本社　東京都港区新橋1丁目10番7号(大和銀行新橋ビル)　東京(572)4595(代)
名古屋事務所　名古屋市中区栄4丁目6番15号名古屋日産生命館ビル　名古屋(261)8531(代)
九州事務所　北九州市小倉区魚町4丁目3番8号(九源ビル)　小倉(52)4285(代)
分室　水島・大分

株式会社 竹内建築事務所

代表取締役　内藤一真
代表取締役　林茂

大阪市南区長堀橋筋2丁目35の1(日亜ビル)　電話(211)2706～8番

株式会社 地域計画・建築研究所

所長　三輪泰司

本社事務所　京都市左京区下鴨上川原町69番地　植物園電停前　TEL 075(711)2161(代)
東京事務所　東京都港区芝西久保明舟町14番地　博友ビル　TEL 03(591)0682

株式会社 翼建築設計事務所

代表取締役　畠中繁

本社・大阪事務所　大阪市西区靱1-130(布亀ビル)　TEL06-441-2288・9595
京都事務所　京都市下京区五条通室町東入(木村ビル)　TEL075-361-8622

東西建築サービス株式会社

取締役社長　布袋國雄

本社　大阪市東区横堀2－48 〒541　電話 06(202)3626
事務所所在地　東京・名古屋

株式会社 東畑建築事務所

代表取締役　東畑謙三

本社
大阪事務所　大阪市東区伏見町5丁目19　電話　大阪(06)202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2(永田町ビル)　電話　東京(03)581-1251
名古屋事務所　名古屋市中村区堀内町2(堀内ビル)　電話名古屋(052)571-8471
北九州支所・大分支所

名古屋建築設計事務所

所長　井上正一

名古屋市中村区椿町4－28(国鉄会館ビル)〒453　電話052(452)1271(大代)
052(451)2025（直）

株式会社　内藤建築事務所

代表取締役社長　内藤資忠

本　社　京都市左京区田中大堰町189番地　電話 075（781）6195代
事務所・出張所　青森・仙台・東京・松本・静岡・名古屋・京都
滋賀・奈良・大阪・四国・福岡・大分

株式会社　日建設計

取締役社長　塚本猛次

大阪市東区横堀2丁目38番地　電話203－2361（大代表）

株式会社　根津建築事務所

代表取締役　根津耕一郎

本　　社　大阪市北区梅ヶ枝町81(大阪弁護士ビル)　電話(06)364－8301(代表)
東京事務所　東京都港区赤坂8丁目11番21号　電話(03) 408－8477
(乃木坂マンション603号)

株式会社　彦谷建築設計事務所

代表取締役　彦谷邦一

大阪市東区高麗橋3－39(柳湖堂ビル)　電話 231－2810・7634

株式会社　福永建築設計事務所

代表取締役　福永薫
専務取締役　福永健一

大阪市南区順慶町通4ノ61　電話 (06) 251－3102・5189

株式会社 宮後建築事務所

代表取締役　宮　後　　健

本　社　大阪市天王寺区上汐町6－35　電話 772－0165(代表)
分　室　大阪椎寺町・大阪横堀・大阪本町・茨木

村野・森建築事務所

村　野　藤　吾
森　　忠　一

大阪市阿倍野区阿倍野筋2－3－8　電話 (624) 0926 代表
研究所　大阪市南区心斎橋筋1－43　電話 (253) 0875 代表
東京事務所　東京都中央区日本橋茅場町2－3　電話 (661) 7158

株式会社 安井建築設計事務所

代表取締役社長　佐　野　正　一

本　　社　大阪市東区島町2丁目7番地　電話06(943)1371(大代)
大阪事務所　大阪市東区島町2丁目7番地　電話06(943)1371(大代)
東京事務所　東京都千代田区平河町1丁目3番地　電話03 (261) 5101(代)
名古屋事務所　名古屋市中区錦3丁目24番(日本生命ビル)　電話052(961) 1861(代)
神戸事務所　神戸市生田区三宮町2丁目18番地(阪神相互ビル)　電話078 (321)1533(代)
九州事務所　福岡市渡辺通3丁目6番地 (福岡フコク生命館)　電話092 (75) 3568

株式会社 U.A.(ユー エー)建築事務所

代表取締役　上　田　良　治
専務取締役　浅　井　潤　一

大阪市東区谷町5－30(新野村ビル)　電話 768－2941～2

株式会社 洋建築事務所

代表取締役　設　楽　貞　三

大阪市北区松ヶ枝町88(大徳ビル)　電話 358－6372(代)

株式会社 吉田建築事務所

取締役会長　吉　田　信　武
取締役社長　佐　治　誠　次

大阪市西区北堀江上通3－22(久竹ビル)　電話 (538) 2991 代表

暑中お見舞申し上げます 昭和47年盛夏

建設業者有志



株式会社 **青木建設**

（旧ブルドーザー工事株式会社）

取締役社長 青木益次

本　社 大阪市大淀区大淀町南1の5 TEL 06(458)5851
東京本社 東京都渋谷区渋谷2－17－3 TEL 03(407)8511
大阪支店 大阪市大淀区大淀町南1の5 TEL 06(458)5851



株式会社 **淺沼組**

取締役社長 淺沼猪之吉

本　社
本　店・大阪市天王寺区東高津町8番地の1 電話 代表 (762) 0251
支　店・東京・名古屋・札幌・仙台・福岡・広島
営業所・秋田・岩手・水戸・千葉・立川・横浜・新潟・北陸・静岡・岐阜・長野
三重・奈良・京都・郡山・和歌山・神戸・岡山・高松・徳島・高知・熊本



株式会社 **新工務所**（アタラシ）

取締役社長 新昭一

本　店・大阪市北区曽根崎中一丁目四三 電話 代表 大阪 (313) 1331番
支　店・東京都千代田区猿楽町二丁目一番十四号 電話 代表 東京 (291) 3741番
営業所・名古屋市中区大須四丁目一番七一号（時計ビル） 電話 名古屋 (262) 1725番
神戸市灘区倉石通一丁目二 電話 神戸 (87) 6119番



株式会社 **あめりか屋**

取締役社長 前野慶太郎

本　社 大阪市北区常安町17番地 電話 代表 (444) 1501番



安藤建設株式会社大阪支店

取締役大阪支店長 村田隆次

大阪市福島区上福島北通1－17－1 電話 代表 453－2190
本　社・東京都中央区八重州四丁目七番地 電話 大代表 (272) 7411
支　店・名古屋・仙台・静岡・九州・広島
営業所・千葉・横浜・水戸・盛岡・新潟・神戸・沼津・札幌・宇都宮・北九州・熊本

株式会社 井上組

取締役社長　井上福蔵

本社　大阪市都島区網島町6番25号　大阪(351)0530　(352)4031～4
出張所　神戸市生田区加納町三丁目二番地　電話　神戸(33)1780

株式会社 今西組

取締役社長　今西壽雄

本社　大阪市天王寺区上本町七丁目二番地ノ一　電話06(772)1251
支店　東京都新宿区内藤町一番地　電話03(354)0581～5
営業所　神戸市生田区下山手通四丁目四番地ノ一　電話078(331)6060
埼玉県所沢市大字中富字北見元秋津分990番地　電話0429(22)0180

株式会社 大林組

取締役社長　大林芳郎

東京本社・東京都千代田区神田司町2丁目3の1　電話　大代表(292)1111番
本　店・大阪市東区京橋3丁目75番地　電話　大代表(941)0861番
支　店・札幌・仙台・横浜・名古屋・神戸・岡山・広島・高松・福岡

株式会社 奥村組

社長　奥村俊夫

大阪市阿倍野区松崎町1の2の3　電話　大阪(621)1101(大代表)
支　店　札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・高松・北九州・福岡

鹿島建設株式会社

会長　鹿島守之助

取締役社長　渥美健夫　常務取締役大阪支店長　橋本正二

本　社　東京都港区元赤坂1－2－7　電話東京(404)3311(大代)
大阪支店　大阪市東区瓦町五の七一(瓦町ビル)　電話大阪(203)3381

株式会社 神崎組大阪支店

取締役支店長　本田稔

大阪市北区曽根崎新地1丁目21　電話(341)7371(代表)
本店・姫路市北条口86－3　電話　姫路(23)2021(代表)

株式会社 近畿建設

代表取締役　川崎敬三

本　社　大阪市西区靱本町4の103　電話大阪06 (532)0081(代)
滋賀支社　滋賀県栗太郡栗東町岡193の1　電話　07755 (2)1361～2

株式会社 熊谷組大阪支店

専務取締役支店長　泉　治郎一

大阪市都島区片町2丁目10番5号　電話 (352) 1151番(大代表)
本　社　東京都新宿区筑土八幡町二二番地　電話 (260) 2111番 (大代表)
支　店　札幌・仙台・北関東・東京土木・東京建築・横浜・名古屋・広島・四国・福岡・那覇

株式会社 小坂井組

取締役社長　小坂井正夫

本　社　大阪市北区太融寺町五六番地　電話 代表 (311) 9331
営業所　京都市
出張所　東大阪市・和歌山市・堺市

株式会社 鴻池組

取締役社長　鴻池藤一

本　店　大阪市東区北久宝寺町4－27　電話 代表 (252) 3100
支　店　東京・名古屋・広島・福岡・鹿児島・松江・仙台・高松・横浜・札幌・神戸・京都

甲南建設工業株式会社

代表取締役　原　精一

大阪市東淀川区十三西之町4丁目3　電話(06)302－1551代表
尼崎市東富松字道水766の1番地　電話(06)427－9631代表
神戸市葺合区八幡通5丁目6番地(松井ビル)　電話(078)22－6293
堺市宿屋町東3丁1番19号　電話(0722)2－5423
東京都千代田区神田須田町1-18(共同ビル)　電話(03)253－4455代表

佐藤工業株式会社

取締役社長 佐藤欣治・常務取締役大阪支店長 山本良勝

本　社・東京都中央区日本橋本町4－8　電話　東京 (662) 2331 (大代)
大阪支店・大阪市東区北浜1－25　電話　大阪 (203) 7221 (代表)
支　店・東京・名古屋・富山・札幌・福岡・仙台・広島

三和建設株式会社

代表取締役　竹　下　文　武

本　　社　大阪市東淀川区加島町４３１　TEL　　(301) ６６３６代
東京支店　東京都港区西新橋２丁目19番１号　TEL東　京 (436)１２７１代
京都営業所　京都市右京区西大路五条上ル　TEL京　都 (311)８８９７
東京工場　川口市仁志町１～２４１　TEL川　口 (52) ４１００
高槻工作所　高槻市芝生町５の２　TEL高　槻 (74) ０３８１

島藤建設工業株式会社大阪支店

常任顧問
関西駐在　西　田　康　治

支店長　樽　田　光　男

本　社　東京都港区赤坂８丁目５番34号　電話　東京 (403) １５１１
支　店　大阪市北区茶屋町３１番地の２　電話　大阪 (372) ６００１代表

清水建設株式会社

社長　野　地　紀　一

本社東京都中央区宝町二ノ一

支　店　大阪・名古屋・広島・高松・福岡・金沢・仙台・札幌

住友建設株式會社

常務取締役大阪支店長　小　山　武

大阪支店　大阪市東区北浜５丁目２２番地(新住友ビル2号館)電話 (202) 代表7421番
本　店　東京都新宿区荒木町13番地　電話 (353) 代表5111番

株式会社 錢高組

取締役社長　錢　高　輝　之

本　店　大阪市西区阿波座上通３丁目２番地　電話 大阪 (531) 6431番(大代表)
支　店　札幌・仙台・東京・名古屋・広島・福岡
営業所　青森・秋田・盛岡・前橋・新潟・千葉・横浜・静岡・津・京都
神戸・岡山・高松・松山・松江・北九州・熊本・長崎・大分

大末建設株式会社

取締役社長　山　本　末　男

本　　社　大阪市南区大和町１番地　電話 (213) 大代 ０５５５
鉄構部　大阪府南河内郡美原町菅生８１０－１　電話 (0723) 61－５８８１
東京支店　東京都千代田区神田駿河台２の９　電話 (294) 大代 ４３１１
名古屋支店　名古屋市中区錦1丁目2番11号(岩田ビル)　電話 (211) 代 ５４２１
広島支店　広島市富士見町11番４号(間ビル)　電話 ４４－０２１０
九州支店　福岡市中央区天神3丁目3番11号(新梅居ビル)　電話 ７６－５３３１
沖縄支店　那覇市松山1丁目13番地の7(八重洲ビル)　電話 ６８－０４７０
仙台支店　仙台市国分町３丁目４番20号(浦和ビル)　電話 (0222) 61－2411(代)
営業所　千葉・横浜・立川・京都・滋賀・神戸・奈良・和歌山・岡山・鹿児島



大成建設株式会社

取締役社長　南　幸治
常務取締役　北村善治
取締役支店長　氷室紳三郎

本　社　東京都中央区銀座2丁目5番11号　TEL東京(567)1511大代表
大阪支店　大阪市東区本町4丁目27番地　TEL大阪(262)1131大代表
支　店　東京・名古屋・横浜・福岡・高松・新潟・仙台・札幌



大日本土木株式会社大阪支店

関西駐在常務取締役　山田　豊
常務取締役支店長　高木政夫

530 大阪市北区堂島北町9　電話 06(341) 代表5931
東京本社　162 東京都新宿区市ヶ谷田町2丁目35　電話 03(268) 5511
本　店　500 岐阜市六条1483番地5　電話 0582 (72) 3141
支　店　東京・名古屋・九州
営業所　神戸・京都・奈良・滋賀・和歌山・上六・岡山・広島・宮崎
熊本・静岡・長野・中津川・三重・横浜・多摩・千葉・仙台



株式会社竹中工務店

取締役社長　竹中錬一

本　店　大阪市東区本町4丁目27　電話 大阪 (252) 1201番(大代表)
営業所　札幌・仙台・東京・横浜・千葉・静岡・名古屋・富山
京都・神戸・岡山・広島・高松・福岡・北九州



鉄建建設株式会社大阪支店

常務取締役支店長　勝田頼春

大阪市大淀区天神橋筋六丁目五番地(天六阪急ビル)　電話 (358) 0321(代表)
本社・東京都千代田区三崎町二丁目五番三号　電話東京 (262) 3411(代表)



東洋興業株式會社大阪支店

取締役社長　中西小一　　専務取締役大阪支店長　小松英二

本　社　東京都千代田区丸の内3−4−2 日石ビル　電話 東京 (212) 3261
大阪支店　大阪市北区梅田町27 サンケイビル　電話 大阪 (343) 0451
支　店　東京・名古屋・仙台・札幌



戸田建設株式会社大阪支店

常務取締役支店長　加納秀雄

大阪市東区本町3丁目27の1 (センバ・セントラルビル)
電話(252) 6311(大代表)
本社・東京都中央区京橋1丁目3番地
支店　名古屋・札幌・仙台・関東・横浜・広島・福岡

飛島建設株式會社大阪支店

常務取締役支店長　水　脇　準

大阪市東区島町2丁目28番地　電話　大阪(942)2481(代表)
本　社　東京都千代田区九段南2丁目3番28号
電話　東京(263)3151(大代表)

明日をささえる

西松建設

大阪建築支店　大阪市東区釣鐘町2丁目41番地
取締役支店長　島田勢喜
本　社　東京都港区芝西久保桜川町13番地

日東建設株式会社

取締役会長　長久保俊夫
取締役社長　石澤六郎
取締役支店長　本澤平八郎

本社　102 東京都千代田区平河町1丁目4番地9　電話東京　03(265)(大代表) 4281番
支店　530 大阪市北区末広町12番地(新末広ビル)　電話大阪　06(351)代 0623 番

日本建設株式会社

社　長　生田重政

本　社　大阪市東区安土町4－5　TEL (261) 7591－6
支　店　東京・名古屋・福岡・広島・仙台・札幌・四国

野村建設工業株式会社

取締役社長　岩本義心

本　社　大阪市東区高麗橋二丁目九番地　電話(202) 代表4791
東京支店　東京都千代田区大手町二丁目一番一号　電話(241) 代表4171

株式会社 間組大阪支店

専務取締役　吉村幾蔵
常務取締役 支店長　神部節男
大阪市東区横堀町二丁目七〇番地　電話 (203) 代表 2821

本　店・東京都港区北青山2丁目5番8号　電話 (405)1111番(大代表)
支　店・東京・大阪・名古屋・福岡・仙台・北陸・札幌・広島・高松・海外工事局

阪神土木工業株式会社

取締役社長　藤原正一

本社	大阪市北区梅田町93番地	電話（341）5445㈹
神戸支店	神戸市東灘区御影本町2－18－1	電話078(851)5362
西宮営業所	西宮市甲子園高汐町2－29	電話0798(41)4908
尼崎営業所	尼崎市昭和南通3－26　尼崎松本ビル内	電話（412）1866
和歌山営業所	和歌山市3番丁	電話0734(36)0231
岡山営業所	岡山市鹿田町1丁目4番9号	電話0862(24)6689
出張所	芦屋・京都・川西・寝屋川	

飛騨建設株式会社

代表取締役　清涼信泰

本社　大阪市北区富田町38番地　電話（06）363－1741代表

未来をひらく フジタ工業

常務取締役大阪支店長　古賀文之介

大阪市北区堂島中2丁目38番地　電話（345）代表7671
本社・東京都渋谷区千駄ヶ谷4－6－15
支店・東京・札幌・横浜・名古屋・大阪・広島
九州・仙台・リマ・カラカス・サンパウロ

不二建設株式会社

取締役社長　山口吾郎

本社　大阪市西区阿波座上通4丁目8　〒550 電話 大阪（06）541－5534代表・9301代表
支店　東京都新宿区西新宿4丁目5番2号　〒160 電話 東京（03）377－5171代表
名古屋市中区千代田4丁目11番17号　〒460 電話名古屋（052）321－8481代表
出張所　大垣・京都・神戸・広畑・博多・大分

不動建設株式会社

取締役社長　庄野勝

大阪本社　大阪市東区平野町5丁目30番地　電話 大阪（201）1121
東京本社　東京都中央区銀座4丁目2番16号　電話 東京（567）1751
支店　北海道・仙台・千葉・横浜・名古屋・神戸・広島・九州・大分
営業所　岡山・福岡・長崎・山口・水戸・姫路・高崎

株式会社 藤木工務店

取締役社長　藤木鐵三

本社
大阪本店・大阪市東区両替町一丁目一三・電話 大阪 06(942) 1461(代)
支店・東京都新宿区三栄町二三番地・電話 東京 03(357) 1611(代)
倉敷市鶴形一丁目十ノ三二・電話 倉敷0864(22) 3330(代)
高松市丸ノ内十一番地ノ十三　電話 高松0878(51) 7272(代)
京都市右京区西院寿町13・電話 京都 075(311)4131(代)
出張所・京都・名古屋・津・静岡・岡山・新居浜・徳島・福岡・熊本

真柄建設株式会社大阪支店

取締役
支店長　佐々木孝治

大阪支店　大阪市西区京町堀3丁目12番地　電話 大阪 (06) 443−0641(代表)
東京本社　東京都千代田区麹町5丁目1番地　電話 東京 (03) 263−1211(代表)
支店・営業所　東京・名古屋・金沢・富山・福井・京都・大津・神戸・新潟

前田建設工業株式会社大阪支店

常務取締役支店長　島田光富

支店　大阪市東区石町2丁目7番地　電話大阪(942) 1301 (代表)
本社　東京都千代田区富士見2丁目10番地の26号　電話東京(265)5551番(代表)

株式会社 松村組

取締役社長　松村雄二

本　社・大阪市北区空心町一丁目七〇番地　電話 大代表 大阪(353)1131
支　店・東　京・名　古　屋・札　幌・仙　台・広　島・福　岡

三井建設株式会社 大阪支店

常務取締役
支店長　竹内慶久

大阪支店　大阪市北区中之島3－7(三井ビル2号館)　電話大阪 (443) 代表1321
本　社　東京都中央区日本橋室町二ノ一(三井ビル)　電話東京 (270) 大代表8651
支　店　東京土木・東京建築・札幌・仙台・横浜・名古屋・広島・福岡

株式会社 村上工務店

取締役社長　村上秀二

本　社　大阪市大淀区豊崎東通り3丁目16番地の16　TEL (372)2924
営業所　東京・神戸

村本建設株式会社

代表取締役社長　村本豊嗣

本　社　奈良県北葛城郡広陵町安部547　電話　大和高田　(55) 1151(代表)
大阪支店　大阪市天王寺区上本町9丁目49　電話　大　阪　(779)1571(代表)
東京支店　電話 東京 (265)5851(代)
名古屋支店　電話 名古屋 (241)1511(代)
福岡支店　電話 福岡 (74)0119

望月建設株式会社

取締役社長　望月小太郎

本　　社　大阪市北区堂島上1丁目18　電話大阪(344) 8651(代表)
工 作 所　豊中市小曽根4丁目900　電話 (332) 4831～2
豊中倉庫　豊中市島江1丁目1番7号　電話 (333) 7430

株式会社 森組

取締役社長　森　幸治

本　社　大阪市東区横堀2丁目14番地　電話 (231) 8283～7番
(支店) 東京・名古屋・奈良　(営業所) 和歌山・尼崎・神戸・岡山

株式会社 森本組

代表取締役社長　森本光男

本　社　大阪市天王寺区夕陽ヶ丘町三番地の18　電話大阪06(779)1451(代)
支　店　東京・名古屋・広島
営業所　松江・神戸・高松・奈良・和歌山・新潟・横浜

株式会社 盛工務店

代表取締役　盛道雄

本　社・大阪市北区南森町47(成興ビル)　電話 (364) 1581(代)
営業所・神戸・福岡・西宮

矢島建設株式会社

取締役社長　矢島浩三

本　社　東京都中央区銀座七丁目11－3　電話 東京 (572) 代1436
大阪支店　大阪市南区北炭屋町八番地　電話 大阪 (271) 代5837
取締役副社長
支店長　仁平信也
支店・営業所　仙台・福岡・蒲郡・和歌山

株式會社 米田工務店

取締役会長　米田治郎兵衛
代表取締役　米田良男

本　社　大阪市天王寺区逢坂上ノ町7　TEL 大阪(06) 771－7771代表

暑中お見舞申し上げます 昭和47年盛夏

建材・設備・工事業者有志

青盛建材株式会社

取締役社長　青盛繁男

本　社　広島市鉄砲町5－16　TEL 21－2281
営業所　福岡・岡山・松江・下関

日本電気硝子㈱代理店　**営業品目**　鉛硝子・ガラスブロック・光り壁
㈱各務クリスタル製作所代理店　ゲージグラス・レンズ・サンストップ

株式会社 伊勢谷特殊硝子製作所

代表取締役　伊勢谷圭作

本　社　大阪市西区靱本町4丁目83　電話　大阪 (541)9161代
支　店　名古屋市北区駒止町1丁目64　電話　名古屋 (912)3962代
　　(981)5650
支　店　東京都港区高輪1丁目3番20号　電話　東京 (443)1376

タイル・瓦工事

井上窯業株式会社

代表取締役　井上秋次

大阪市天王寺区生玉町40番地　電話 771－2825(代)
営業所　豊中・奈良・寝屋川

株式会社 梅彦

代表取締役　松永彦太郎

本　社　大阪市北区舟場町20番地　電話 06 (371) 4036代
営業所　大阪市北区道本町40番地　電話 06 (312) 6171代
茨木工場　茨木市字清水246番地　電話0726 (43) 6149代
寝屋川工場　寝屋川市河北一番地　電話0720 (21) 4338代

大島応用化学工業株式会社

代表取締役社長　田中政二

東大阪市新庄114番地　06 (782) 4171～3・6734～8
東京・横浜・名古屋・四日市・広島
宇部・大牟田・高松・新居浜

陶磁タイル・オリエンタルモザイコ
（陶磁・ガラスを主材とする壁画構成・立体構成）

関西タイル商会

大阪市西区江戸堀北通1ノ19（オカダビル） 電話 （443） 9131（代表）

冷暖房・空気調整機器製作

木村工機株式会社

代表取締役 木村悦也

本 社 540 大阪市東区上町13番地 電話 (06)761－6921番
営業所 東 京・名古屋・福岡 工 場・八 尾

電気・計装・空調・土木

近畿電氣工事株式會社

取締役社長 今元康彦

本 店 大阪市北区南扇町11 電話 312－1281（大代）

製品名
アスファルトルーフィング
アスファルトフェルト
特殊ルーフィング
A絶縁用ルーフィング
Bベース用ルーフィング
Cミネラルルーフィング
Dエフロンルーフィング

ライオン印

株式会社 工盛社

大阪市城東区西鴫野6丁目43
電話 大阪 (961)4460
(962)1288

年限仕様によるアスファルト防水工事

大阪アスファルト事業協同組合

大阪市城東区西鴫野6丁目43（工盛社内）
電話 大阪 (961)4460 (962)1288

アルミサッシ・ドア、住宅用サッシ、ストア・フロント
アルミ流し台、フレクサラム、スパンドレル

三協アルミニウム工業株式会社大阪支店

取締役支店長 川中正道

本社・工場 富山県高岡市早川70 電話0766－22－5030
大阪支店 大阪市西区靱1-123（近畿富山会館） 電話 443－9601～7

建築・金物総合メーカー

SHIBUTANI

渋谷金属産業株式会社

取締役社長 渋谷幸雄

本 社 大阪市南区鍛冶屋町52 電話 大阪 (211)－7333㈹
支 店 東京都渋谷区千駄ヶ谷5－16 電話 東京 (356)－7671㈹
営業所 札幌・名古屋／出張所 高岡・広島・福岡

株式会社　シエル石油大阪発売所

フリントコート施工販売部

部長　栗山和三

本　社　大阪市北区堂島浜通り１－２５　電話 大阪(343) 0441大代表
分　室　大阪市東淀川区西中島町2－76　電話 大阪(303) 7131 代表
事務所　東京・名古屋・広島・福岡

神東塗料株式会社

会長　山口由美
社長　川崎政夫

本　社　尼崎市南塚口町６－１０－７３　電話 429－6261(大代)
東京支店　東京都中央区八重洲3－3(八重洲口会館)　電話 272－4011(大代)

新日本空調株式会社大阪支店

支店長　堀田雅邦

大阪支店　大阪市北区堂島浜通１－２５－１(新大ビル)　電話大阪 (344) 6031(代)
本　社　東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第2別館)　電話東京(279)5671(大代)

住宅タイムス

株式会社　日本住宅タイムス社

代表取締役　植田泰弘

大阪市東区北浜２丁目８４　電話 06 (231) １４４１～３

須賀工業株式会社

取締役社長　須賀孝

本店　大阪市西区土佐堀通１丁目　電話 (06) 441－５１７１
支店　東京・大阪・名古屋・京都・神戸・福岡・千葉・横浜・広島・高松

精研冷機株式会社

取締役社長　木内清三
専務取締役　和田正八郎

本　社　大阪市南区瓦屋町3番丁68番地(オートセンタービル)　電話768-5031(代)
東京営業所　東京都千代田区九段南２丁目２番５号（九段ビル）電話262-3241(代)

建築用接着剤・各種コーキング材製造，責任施工・販売

セメダイン株式会社

大阪支店長　大山昭典

大阪市南区大宝寺町東之丁41　06－(251)3555（大代表）
本社　東京都品川区東五反田4－5－9　03－(445)1311（大代表）

西日本アスファルト事業協同組合
西日本床工事事業協同組合

株式会社 タテバヤシ商店

代表取締役　舘林彦四郎

京都市南区西九条大国町37　電話（075）681－7221（代）

大阪ガス風呂ショップ

タナカ風呂

代表者　田中照雄

大阪市浪速区元町1丁目747　（但し国鉄湊町駅南へ50メーター西側）
電話（649）3726代（ミナフロ）・8128

工場　守口市大宮通り4丁目25　電話（997）0171代

田島応用化工株式会社 大阪営業所

大阪営業所　大阪市西区京町堀1－74　電話　06（441）－5951代
東京営業所　東京都千代田区岩本町3－11　電話　03（866）－6101代

鉄骨・鉄塔
橋梁・製缶　鉄構造物設計施工

株式会社 大成鉄工所

代表取締役　高杉善久

本社工場　枚方市出口383　電話(0720)31－7001～8
広島営業所　広島市横川町新町8-19(ライトビル)　電話(0822)32－8859

株式会社 大佛

取締役社長　佐藤四郎

京都市東山区今熊野大佛池田町九番地ノ九　電代 075（541）3344
東京営業所：東京都渋谷区上原1丁目29　電 03（467）1641

空気調和装置　設計・施工

高砂熱学工業株式会社

本　　社　東京都千代田区神田駿河台４－２　電話 255－8211(代)
大阪支店　大阪市北区芝田町55　北阪急ビル　電話 372－2511 (代)

株式会社 高村電機製作所

取締役社長　副　島　栄　八

本　　社　大阪市北区河内町２－２８　電話06(358) 6351(代表)
工　　場　大阪府八尾市佐堂町３－３－12　電話0729(99)0151(代表)

中央建材工業株式会社

取締役社長　木　下　好　郎

防水工事

本　社　名古屋市千種区若水町３－２６　電話 052 (761)6181(代)
営業所　東京都中央区銀座７丁目10－５　電話 03 (571)5229(代)
大阪市西区靱本町3-48(三和ビル)　電話 06 (443) 6 6 6 5

東亜工業株式会社

取締役社長　新　田　泰　次

本　社　大阪府八尾市南太子堂６丁目４番27号　電話0729－23－3921
営業所　東　京・名古屋
工　場　大　阪・東　京・和歌山

東邦パーライトコンクリートPC－D工法，東邦パーライトモルタルPM－C工法，ネオパールスキン吹付工事

東邦パーライト株式会社

取締役社長　橘　泰　治

本　社　大阪市東区森之宮西の町５９４　電話(941)9243～７(代)
営業所　東京、広島、高松、岡山、　工事部　八尾市太田2294
TEL0729(49)0182

友田工業株式會社

取締役社長　友　田　俊　夫

本社　〒534　大阪市都島区都島中通３丁目３番６号　大阪電話 06 (921) 0331～6

NABCO

自動ドアーはこのマーク

ナブコドアーエンジン株式会社

取締役社長　竹　下　義　雄

本　社　〒550　大阪市西区阿波堀通2－7　TEL（代）532－5841

営業所　名古屋・広島・高松・金沢・京都・神戸/和歌山・岐阜・津・富山
主要都市に代理店あり

中川式ダイヤラス・鉄筋ラス・親子ラス・リブラス・ラスシート・溶接金網・各種金網

中川ラス製作所

代表取締役　中　川　楢　栄

本社　大阪市南区鰻谷中之町31　電話 大阪06(252)8861～3・(271)5228～9　〒542-91

工場　東大阪市菱江420　電話　0729（62）3636～8　〒578

特許 強力ギルソイド・アスタイト防水

西日本アスファルト事業協同組合

東　京・千代田区岩本町3の11の13　田島応用内　TEL代表(866) 6101

大　阪・大阪市西区京町堀1の74　TEL代表(441) 5951

名古屋・TEL(571) 6361　広島・TEL(21)0266　福岡・TEL(28)2807

株式会社 西原衛生工業所大阪店

取締役社長　伴　一　郎

大阪市大淀区中津南通4丁目11番地　電話大阪（458）代3531番

大阪で唯一の

PRESS

株式会社 日刊建設新聞社

取締役社長　中　山　豊　雄

大阪本社　大阪市東区高麗橋1丁目3（東洋ビル）　電話 202－6861(代表)

日刊建設産業新聞・日刊建産速報

PRESS

株式会社 日刊建設産業新聞社

取締役社長 花村茂彦　　取締役支社長 山邊敏郎

大阪支社　大阪市東区淡路町1丁目14(八千代ビル)　電話06(231)8171(代)
本　社　東京都板橋区板橋町1丁目48－8　電話03(961)1691(代)
神戸支局　神戸市葺合区八幡通5丁目6－1　電話078(291)0541－2
京都支局　京都市右京区鳴滝本町11－4　電話075(463)0683

株式会社 日刊建設通信関西支社

代表取締役会長　田　中　　一

取締役支社長　森　　三　郎

大阪市西区京町堀1－6－8　電話（444）4451代表

本　社・東京都港区西新橋2－11－4　電話（502）8581代表

マルエス 日新

日新建工株式会社　大阪出張所

所長　新　沼　雄　哉

出張所　大阪市西区新町北通1－18　電話 06－541－1607(代)

本　社　東京都荒川区南千住6丁目48－19　電話 03－803－2411(代)

日本アスファルト年限保証防水（日本アス協組員）

ニトルーフシート防水
NPシート2号防水
} 冷工法　ナショナルポリプルーフ防水

ウレタン、N.S塗膜防水工法（冷工法）

日新工材株式会社

代表取締役　井　場　　績

大阪市西区新町北通1－17　電話（541）3785～6・2721

建設省東計
第240号認可

日本アスファルト防水工業
協同組合　関西支部

大阪市東淀川区瑞光通り4-30-2 日新工業株式会社大阪支店内

電話（329）7737～40

エレベータ・リフト・カーリフト
設計・製作・据付・修理

日本エレベータ工業K. K.

代表取締役 長尾正大

本　　社　大阪市大淀区天神橋筋六丁目　天六阪急ビル　電話 06（351）4927代
東京営業所　東京都北区田端町311　東京建築興業ビル　電話 03（822）0995代
工　　場　大阪市東淀川区小松中通5丁目6番地　電話 06（328）0363代

社団法人 日本サッシ協会関西支部

関西支部長　福　田　好　雄

大阪市浪速区敷津町3の20(建団連会館)　TEL 06（641）5859
本部　東京都港区南青山5の11の2共同ビル(南青山)　TEL 03（409）1308

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備

設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20－1　電話 681－5101～5
大阪支店　大阪市北区天満橋筋1－37　電話 352－3501～3
四日市支店　四日市市浜田西末広町　電話 53－7431～3
大津出張所　大津市打出浜13－15　電話 22－9738
津営業所　津市栄町2－111　電話 8－3610

日本建鉄株式会社

取締役社長　橋本幸雄

本社・東京支店　東京都千代田区大手町2－6－2(日本ビル)　電話 東京270－6511(大代表)
大阪支店　大阪市北区梅田町47番地(新阪神ビル)　電話 大阪341－4331(代表)

考える会社

日本熱学工業株式会社

取締役社長　牛田正郎

大阪本社　大阪市北区万才町50番地　TEL大代表(312)8671
東京本社　東京都港区芝西久保桜川町2 第17森ビル　TEL大代表(501)7631

原田今商事株式会社

取締役社長　原田守蔵

本社　電話06－541－7455(代)
水分営業所　電話06－541－3843～4

電気設備工事　計装工事

富士電業株式会社

取締役社長　田中実

本社　大阪市西区北堀江上通1丁目65　電話(541)0564代表
営業所　東京・名古屋・広島・福岡

室谷商事株式会社

取締役社長　室谷山水

本社　神戸市生田区北長狭通4丁目　電話078－331－0881
支店　大阪市北区絹笠町50(堂ビル)　電話06－364－2031

製造 研 発売元

明研化学工業株式会社

代表取締役　村田よ志子

外内装材　特許　エマルリシン　プレハタイル　内装材　エマジュラク　エマソフト
エマレックスリシン　明研リシン　エマトップ　エマトップデラックス
エマルスキン　目地用エマル　エマーロール　防火レックス

本社　明石市中谷町888番地　電話 078（913）3456代
第二工場　神戸市垂水区岩岡町野中字福吉564　電話 078（967）0318
大阪営業所　大阪市東区北久宝寺町2丁目6（三京ビル）　電話 06（271）3967代
東京営業所　東京都墨田区両国4丁目37 13（坂井ビル）　電話 03（634）1756代
名古屋営業所　名古屋市西区枇杷島通4丁目47　電話 052（521）6373代
広島営業所　広島市天満町11－23（内藤ビル）　電話 0822（91）5927代
福岡営業所　福岡市博多区博多駅南2－2－6（泉ビル）　電話 092（41）4426代

アルミ押出形材より…アルミ建材製品まで…

引戸用レール各種
階段スベリ止各種
アルミ窓格子、手すり
アルミ脚立、椅子
アルミスパンドレル

安田株式会社

取締役会長　安田誠一

本社　大阪市南区末吉橋通1－17　TEL06（251）7091㈹
東京営業所　東京都中央区日本橋本町4-3-6 ニンジンビル　TEL03（242）1741㈹

アルミ押出工場　**安田金属工業株式会社**　大阪市東住吉区加美絹木町4－97　TEL06（791）3936㈹

四ツ葉 カモイ
耐火建材・金属建材

株式会社 山本建材社

代表取締役　山本武雄

本社　大阪市西区西長堀南通1－1　電話 541－1861～7
東店　東大阪市金物町3号1番　電話 723－2277～8

山本窯業化工株式会社

取締役社長　山本泰通

本社・工場　大阪府摂津市東別府1-3-6　電話(06) 381－9131～5
営業所　東京・名古屋・大阪・広島・福岡・仙台

銘木と建材

株式会社 吉川商店

本社　和歌山市西布経町1の1　電話 0734－23－5257(代)
営業所　田辺市新庄町491　電話 0739－22－0259・6350
出張所　和歌山県海草郡下津町下222　電話 07349－2－1423(代)

ラバシール
ウレタン・エポキシ系
合成ゴム塗膜防水剤
――責任施工――

O.K コン
モルタルで埋めない
省力化した
コンクリート型枠締付
金具

ラバレヂン工業株式会社

取締役社長　原淳

本社　大阪市浪速区桜川5丁目2番地の8田坂ビル　電話 06（561）6601(代)
出張所　名古屋市北区清水町6の4　電話 052（911）6801

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事 専業大店

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地　電話　大阪364・代表 0206～9

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市生田区北長狭通4－1　(英和ビル)
電話　神戸(331) 0881～3
支店　大阪市北区絹笠町50(堂ビル5階 502号室)
電話　大阪(364) 2031～4
倉庫　神戸市葺合区八幡通1－5　(電話221 2923)

OKUYAMA KAKOGYO WATER・PROOF OAM

陸屋根防水には 奥山式 特許 絶縁工法 を

カッパー防水帯

コーパータイト

新工法！
プレノテクト吹付工法

8対2の防水(冷工法)　デラタイト

特許　奥山式熱工法・冷工法綜合防水層

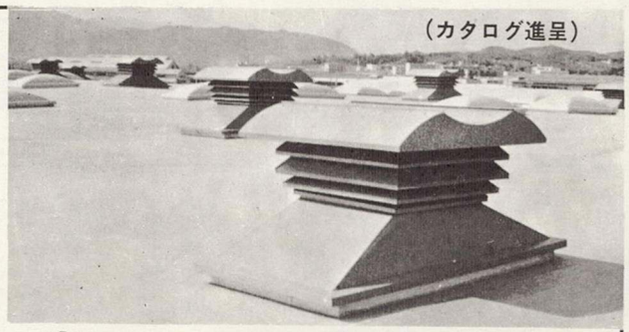
奥山化工業株式會社

本　社	東京都中央区銀座8－4－11	電話・03(571)2703～4・2370・4064・0264
大阪出張所	大阪市都島区都島中通り2-3-1	電話　06(921)2497・(922)7280
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話 052(811)3660・3104
札幌出張所	札幌市中央区北三条東四丁目	電話 011(231) 7　5　1　1

特許　岩元式ベンチレーター
(電動式並固定型各種)

岩元式ベンチレーター　A型・B型・固定型
岩元式連塔換気装置（コンチニヤス・ベンチレーター）
新型　換気塔 NSライン　（強　制　換　気　扇　付）
新型　換気塔 SFスーパー　(特殊装置による風量増幅 換気扇の能力を倍増する)
最新型　採光排気塔(風光)スーパーライン特殊増幅装置付
スカイライト工事・通風ルーパー
スチール及アルミサッシュドアー・各種シャッター製作施工
其の他　曲加工一式

(カタログ進呈)



岩元工業株式会社

大阪市東成区大今里2丁目5番22号
電　話　(981)　0615～0618

電気設備工事設計施工

浅海電気株式会社

取締役社長　浅海正雄

本　社　大阪市北区老松町1丁目22
電話大阪(362)8701
東京支社　東京都新宿区戸塚1－95－7
電話(200)5911代表
支　店　名古屋・札幌・福岡
営業所　旭川・浜松・姫路・広島・高松

各種電気工事設計施工・制御盤製作

野里電気工業株式会社

取締役社長　池内文夫

本　社　大阪市西淀川区柏里町1丁目110番地
電話　大阪(472)代表　1101～7
支　店　東京都品川区西五反田6丁目25番11号(福島ビル)
電話　東京(491)1746(492)0182・0350
営業所　北九州市小倉区鋳物師町23番地
電話　小倉(56)5665・5818
出張所　群馬・千葉・和歌山・名古屋

電気工事・計装工事
設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長　栗原信英

大阪市北区高垣町16番地(東阪急ビル)
電話　大阪(313)1101(大代)
支店　東京・名古屋・舞鶴・大阪南・神戸・広島・九州

電気工事設計施工

富士電業株式会社

取締役社長　田中実

本　社　大阪市西区北堀江上通1丁目65
電話大阪(541)0564～7・7148～9
営業所　東京・名古屋・広島・福岡

電気工事設計施工

株式会社　三興社

代表取締役　林　敏夫

本　社　大阪市北区絹笠町50(堂ビル7階)
電話㊫3671(代)
支　店　東京都中央区日本橋箱崎町3丁目2番地
電話㊫1478(代)
出張所　川崎・相模原・堺・福山

各種電気工事設計施工

株式会社　ヤマト電気商会

取締役社長　山本永造

本　社　大阪市北区西堀川町15番地
電話大阪(364)代3056
東京支店　東京都港区新橋5－34－6　相馬ビル5階
電話　東京(434)3848・(431)8435
出張所　大阪南・札幌・名古屋・四日市・松山・徳山

電気・暖冷房・空調工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長　嘉納伝三

本　社　大阪市北区絹笠町五〇(堂ビル三階)
電話(364)1471(代)
支　社　東京都中央区明石町6－23(辻孝ビル)
電話(542)5641
営業所　名古屋市北区城見通二丁目二〇番地
電話(991)5131～3
出張所　神戸市・堺市・高槻市・姫路市

空気調和・冷暖房設備
給排水・衛生設備　設計・施工

株式会社朝日工業社

本　社　東京都港区芝浜松町1-2-7　電話(434)6171(大代)
大阪支社　大阪市東淀川区加島町357　電話(302)2271(代)
支　店　北海道・仙台・名古屋・広島・福岡
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

電気工事設計施工

太陽工藤工事株式会社

取締役会長　西村庄市
取締役社長　小林四郎
本　社　大阪市福島区上福島北1－2
TEL(06)452－1151(代)
電力工事本部　大阪市此花区恩貴南之町73
TEL(06)462－1301(代)

電気・空調・給排水衛生設備
設計施工

大阪電気暖房株式会社

取締役社長　菅谷健児

本　社　大阪市西区江戸堀1－60　電話(441)8231代表
支　店　東京・名古屋・大阪・福岡
営業所　札幌・新潟・仙台・金沢・岡山・広島・高松・熊本
出張所　盛岡・横浜・富山・豊田・福井・京都・神戸・鹿児島

電気設備 ℇ 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役　山本博三

本　社　大阪市北区中之島3の3　朝日ビルディング
TEL　代表(385)1361
本社営業所　吹田市垂水町3－34－6
TEL　代表(385)1361
京都営業所　京都市右京区西京極葛野町21番地
TEL　代表(311)1185

給排水・衛生
暖冷房・換気　設計施工

株式会社　大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区高垣町一　電話　大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル　電話　京都561局4944(代)
神戸市生田区下山手通六ノ一　電話　神戸341局5892

営業種目●空気調和設備●給排水衛生設備●塗装設備
●蒸気噴射式冷凍機／設計・製作・施工

空気調和の ケンザイ 株式会社 建材社

本社・東京支店＝東京都中央区銀座6－6－7 ㊫(572)7411 代
大阪支店＝大阪市北区中之島2－22 ㊫(203)3721 代
名古屋支店＝名古屋市中区錦2－2－13 ㊫(211)1535 代
出張所＝札幌・仙台・豊田・金沢・神戸
広島・松山・福岡・バンコック

SNK 新日本空調株式会社

大阪支店 大阪市北区堂島浜通1－25（新大ビル）
電話 (06) 344－6031（代）
本社・東京支店 東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第二別館)
電話 (03) 279－5671（大代）
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

水道・衛生・暖冷房・其他管工事
設計並施工
（旧斎藤久孝事務所）

斎久工業株式会社大阪支店

大阪市北区常安町11番地
電話 大阪（443）5041～5番

東京本社 東京都千代田区大手町2の8番地(日本ビル)
電話 東京（270）7411番（代表）

札幌営業所 札幌市南大通西4丁目1札幌道銀ビル 電話 札幌 22)5756
金沢営業所 金沢市高岡町2番16号 電話 金沢 21)2074
福井出張所 福井市御幸2の1 電話 福井 24)2436
高松出張所 高松市2番丁9 電話 高松 21)5195
岡山出張所 岡山市大供380の1 電話 岡山 24)5486

須賀工業株式会社

空気調和 衛生設備

大阪市西区土佐堀通1丁目14 電話 441－5171
支店－東京・大阪・名古屋・京都・神戸・福岡
営業所－千葉・横浜・広島 出張所－高松・北九州

創業 大正二年
暖冷房・換気・温湿度空気調和 設計
病院諸設備・給排水衛生・水族館設備 施工

株式会社 斎藤省三商店

本店 東京都千代田区丸の内2の4の1 丸ビル676号 電話 212代3751
大阪支店 大阪市西区土佐堀通1の1 大同ビル 616号 電話 443代3361
京都支店 京都市南区西九条春日町48 電話 681代1781
支店 札幌・名古屋・福岡・千葉
営業所 宇都宮・横浜・熊本

空気調和 地盤凍結 冷凍冷蔵

精研冷機株式会社

本社 大阪市南区瓦屋町3番丁68番地
（オートセンタービル2階） 郵便番号542
電話 大阪（06）761(代)1141～8番(直通)
東京営業所 東京都千代田区九段南2丁目2番5号
（九段ビル8階） 郵便番号102
電話 東京(03) 262－3241～4番

冷暖房 給排水、衛生水道 電気 厨房
各種サッシ 環境衛生施設 荷役運搬機械 化学鉱山機械

三機工業 株式会社 大阪支店

取締役社長 各務節
取締役支店長 濱川幸十郎
大阪市東区北浜2丁目22番地 電話 大阪（202）代表3071
本店 東京・日比谷・三信ビル
支店 名古屋、福岡、札幌、広島、仙台、富山
出張所 横浜、金沢、静岡、高松

温湿度調整装置、暖房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町30 電話（364）6661(代)
本社 東京都千代田区丸ノ内3-3-1(新東京ビル)
電話（211）8511・8561(代)
仙台支店 仙台市新伝馬町60
電話（21）449 1
名古屋支店 名古屋市東区東門前町3－6
電話（971）3621

空気調和設備 衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店 大阪市北区紅梅町65番地 電話（352）1131（代）
本社 東京都中央区日本橋蠣殻町2－22 電話（667）3431(大代)
支社 名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

髙砂熱学

大阪支店 大阪市北区芝田町55番地(北阪急ビル9階)
電話 大阪（372）2511（代表）
本社 東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

空気調和・衛生設備

株式会社 三晃空調

本社・本店 大阪市北区富田町16番地 電話 06－363－1371
支店 東京都千代田区神田小川町2丁目1番地 電話 03－292－7751
名古屋市中村区広小路西通3丁目9番地 電話 052－581－8571
広島市紙屋町1丁目2番22号 電話 0822－47－4535
福岡市大名1丁目8番12号 電話 092－76－3795
出張所 富山・福井・京都・神戸・松江

MODAIR

空気調和設備 換気・除塵設備 設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区京町堀4丁目 TEL(443) 8071
本社 東京都中央区京橋2丁目9 TEL(562) 1351
支店 名古屋・福岡

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工

日本管工業株式会社

代表取締役 市川繁雄

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満橋筋1－37(天満橋北詰)
電話 (352) 3501～3
四日市支店　四日市市浜田西末広町　電話㊲7431～3
大津営業所　大津市打出浜13－15　電話 0775 ㉒9738
津営業所　津市栄町2－111　電話⑧3610

冷暖房・温湿度調整・水道
衛生・環境衛生施設
設計施工

山田工業株式会社

本社　大阪市西区京町堀1丁目62　電話(443) 8161(大代表)
支店　名古屋市中村区水主町1の12　電話(541)0966(551)1655
出張所　東京都港区赤坂2丁目3～12
赤坂ピークビル5階　電話 (583) 1467
神戸市生田区北長狭通7丁目1の1　電話 (341) 1778・4386

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通4丁目11　電話大阪(458)3531番
出張所＝京都・福岡

社寺数奇屋用瓦……大仏瓦
床・壁内外装用瓦……大仏敷・貼瓦
内外装用窯変美術タイル……大仏タイル
新発売……古代土器調高温〆タイル……大仏古代タイル

株式会社 大仏

本社　京都市東山区今熊野大仏池田町9の9　075(541)3344(代)
東京営業所　東京都渋谷区上原1丁目29の4　03 (467)1641
工場　京都清水・山城・瀬戸

平山工業株式会社

衛生・空気調和設備・設計・施工

TEL (441)㈹ 1994.(443) ㈹0331　大阪市西区江戸堀通2の2

株式会社 矢橋大理石商店

大阪支店

大阪市東区高麗橋二丁目九　野村ビル五階
電話 大阪 (202) 4905

空気調和・恒温恒湿・冷凍・冷蔵
給排水衛生設備　設計施工

不二熱學工業株式會社

本店　大阪市南区順慶町2－50　電話 261－2436㈹
東京支店　東京都大田区西馬込1－2－1　電話 773－1231㈹
営業所　銀座・浜松・京都・神戸・福岡

耐酸ツボ各種
陶器、ガラス製品卸問屋
セトモノのデパート
源八橋セトモノ百貨店をご利用下さい。



株式会社 吉田芳雄商店

本店　大阪市北区旅篭町18 電話(361)3450・(364)2345
源八橋店　大阪市北区天満橋筋4—78 電話(358)1790・1838

奉仕感謝の店

タイル工事施工

特許申請中・完全滑止タイル
SSS（サンエス）タイル新発売
（カタログ進呈）

株式会社 川岸窯業商店

本社　大阪市西区靱本町2丁目98番地(靱本町バス停前)
電話　大阪 06 (532) ㈹0461
姫路営業所　姫路市北条口126番地（住友生命保険ビル3階）
電話　姫路0972 (82) 0999

青写真とマイクロフィルム
株式会社
内外写真
製図・トレース・複写写真

本社　大阪市北区堂島北町16　TEL (345)9055(代表)
本町営業所　大阪市東区本町4-27御堂ビル　TEL (252) 3906
横堀営業所　大阪市東区横堀2－36　TEL (202) 5260

営業品目
● カネボウゴーレックス防水
●化粧壁材ソリジットスタイン吹付
●樹脂砂壁エバーサンド吹付
●樹脂蛭石エバテックス吹付

合同特許建材工業株式会社

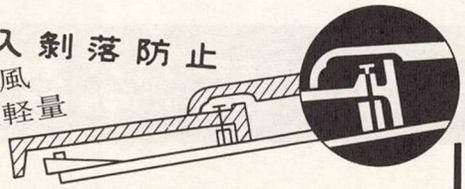
本社営業所・大阪市東住吉区駒川町３－54　電話(702)代7814～6
特約代理店・東京・名古屋・金沢・広島・今治・福岡

FUTABAYA DECORATORS, LTD.
建築物船舶等造作工事
家具建具・室内装備工事　設計施工
内外装飾織物・窓掛敷物壁紙類一式
イズのコトブキ 協力工場 シンプソンドアー 取扱施工店
(創業大正７年)

二葉屋装備工業 株式会社

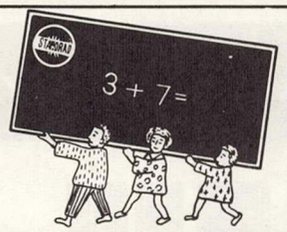
取締役社長　若林繁吉
大阪府知事建設登録
(ろ)第16216号
大阪市大淀区本庄川崎町２の６
電話・大阪(371) 3321～3・3630

雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量



ナニワ緩勾配瓦
３寸緩勾最適軽量水止付(空葺)瓦

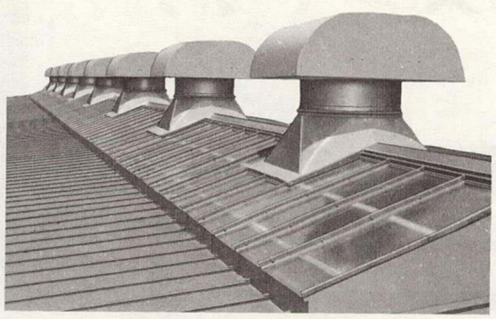
ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区元町二丁目四〇番地 電話(641)五六五五番

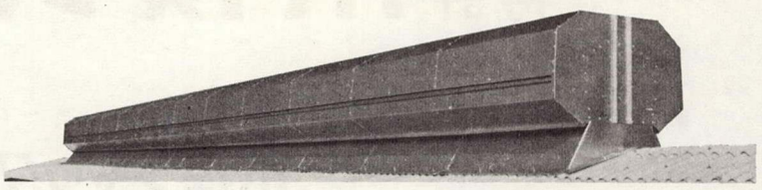


Standard Board&Slate
フタバ黒板
大阪市東住吉区加美末次町８－92　TEL 大阪06（792）代5858

腐らない・燃えない・軽い
ケミカラーオーシマメタル
屋根材・壁　材・谷樋練包水切に
スタンダードメタルの 大島応用化学　東大阪市新庄（782）4171代

特許　内外式電動ベンチレーター　特許　内外式コンチニアスベンチレーター
（大量自然換気方式）





内外建材株式会社
本　社　大阪市西区江戸堀北通１－25(相生ビル)
TEL(441)3983～5・4396
大阪工場　大阪市城東区天王田町１－１４１
TEL（962）１１４９
京都工場　京都市東山区山科東野井上町
TEL075（581）０１２６

Taniyama
送風機
株式会社 谷山鐵工所



営業品目
●ＬＡＦ形　リミットロード送風機
●ＶＡＦ形　可変式軸流送風機
●ＳＡＦ形　ストリームライン送風機
●ＣＡＦ形　遠心式静音軸流送風機
（特　許）

本社工場/大阪市城東区野江東之町二丁目一番地
電話　大阪（931）代７８０３～９
東京出張所/東京都文京区湯島四丁目六番十七号
東京(814) ６６５１～３

発明賞に輝く各種特許235件所有

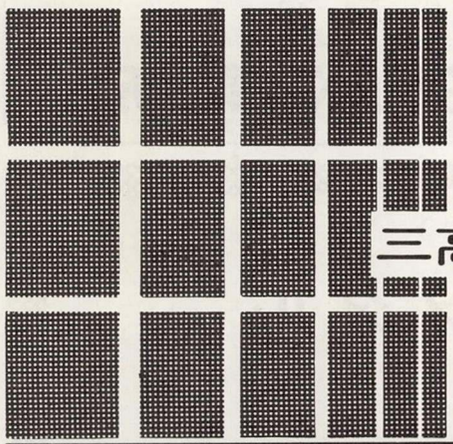
特許 鈴木シャッター

65年の歴史最高の技術最大の生産

防煙火・防災・防盗

鈴木式防煙火シャッター・リンググリル®シャッター・
ステンレスシャッター・アルミニュームシャッター・
40・ピーアップ®シャッター・汎用シャッター
その他特殊シャッターの製造
アフターサービスの完璧

KJK 株式会社 鈴木シヤタア商会
大阪市北区茶屋町33番地 電話大阪(06市外局番)371代表4151～6
北陸営業所 金沢市長田町119番地 電話金沢(0762市外局番)21－2287



スチール
アルミ
ステンレス
サッシ・ドアー
カーテンウオール
シヤッター
三高式オペレーター・ドアーハンガー

TRADE MARK
M.T.K.S

株式会社 三高製作所
本社・工場 尼崎市神崎五反田280番地
電話 大阪(499) 8151 代表

近代建築の要求する

＊特許 小俣式 ステンレス・アルミニウム 防火シャッター

設計
製作
施工

小俣シャッター工業株式会社大阪支店
大阪支店 大阪市北区若松町30 電話大阪(364)9004・9016・4825
本社工場 東京都北区田端町1138 電話東京(893)5211～5

シヤッターの総合メーカー

豊かな経験と
最新の技術…

東洋シヤッター

東洋シヤッター株式会社
本社 大阪市東区谷町5－30 新野村ビル TEL(762)5861代
本社 東京(543)2281・名古屋(331)6171・大阪(352)4571
営業所 横浜・滋賀・京都・神戸・福岡・他全国主要都市

全国で好評の……新興の内装壁材を！

新しい時代の新らしい壁
ヒル石基材の燃えぬ壁材

ダイシンコート

（特長）

塗吹付・保温・防音・耐水・耐アルカリ・耐火



革新塗料現る

①ソフトな感覚、優雅な味
②ペイント塗料に優る
③塗りかえ自由
④安価で塗りよい
⑤吹付施工も自由
⑥洗いも下地も自由

繊維塗料の

シンコソール

全国有名建材店又は当社へ

新

繊維壁材（通称）わたかべ

耐水、耐アルカリ性時代来る

（特長）
水に強く
塗面が強く
下地良く
セメントモルタル
ドロマイドプラスター
漆喰差支なし
落ちない

すゝき・すゞか・新いすゞ・四季宝・七福錦・王座紋

●カタログお送りします



（株）新興建材工業所
大阪市西区南堀江通６丁目39番地　TEL 大阪(538)2951～5・(541)5757
営業所　東京・高槻・明石・姫路・四国・中国

発売元

新興壁材工業（株）
大阪市住吉区粉浜本町４丁目２６番地　TEL 大阪（672）１６６１～３

（株）九州新興建材工業所
福岡市上牟田八田町２６の１　TEL 福岡（41）５２２５～６

特許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

燃えない
われない
腐らない

長尺物・色彩自由・責任施工

品種
オリエンタルメタル（O.P.M）
オリエンタルスーパーメタル（S.P.M）
オリエンタルカラードメタル（C.P.M）
カラースーパーオリエンタルメタル（C.S.P.M）

波板規格　S小波　S大波　V波　ボックス波　Wジャンボ波

用途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
通風器・排気ダクト・モニター

カタログ御請求下さい。

オリエンタルメタル製造株式会社

本社	兵庫県尼崎市昭和南通り3－26松本ビル	電話	大阪（412）5131代表
東京支社及工場	埼玉県蕨市塚越５丁目６番３２号	電話	蕨　（42）3115～８
大阪支社及工場	兵庫県尼崎市長洲稲川新田４４	電話	大阪（488）1081代表
九州支店及工場	福岡県遠賀郡水巻町頃末	電話	八幡（69）2831～４
名古屋支店及工場	名古屋市中村区泥江町1の24第2中経ビル	電話	名古屋(581)2781～4

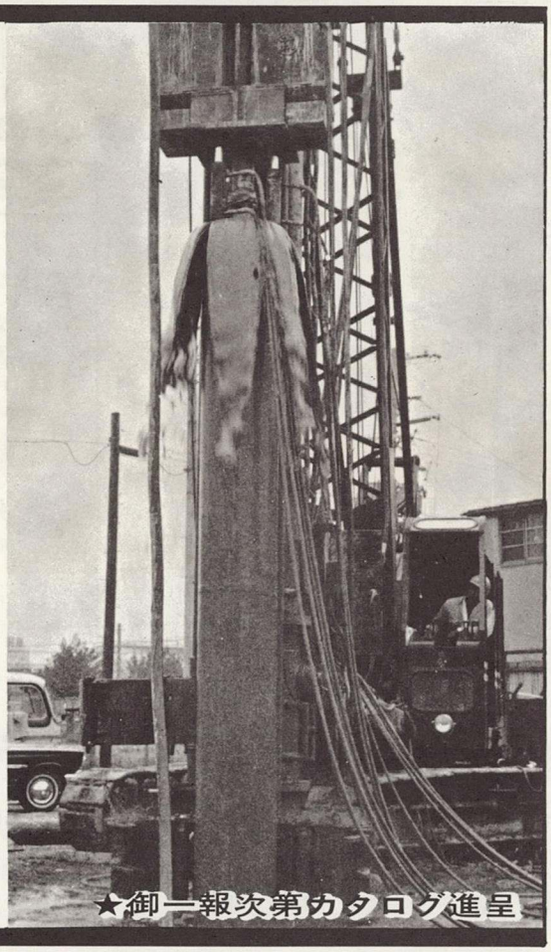
タイプ

TAIP工法

にはハンマー不要です

〈完全無音無振動既製杭工法〉

従来の既製杭を利用して杭打施工時の
振動・騒音を完全に追放しました!!



★御一報次第カタログ進呈

■主な特長

1. ネジ込力を杭押込力に変えるので完全無振動無騒音です。
2. 根入長さが長く安定した支持杭が施工出来ます。
3. スライムの沈積はありません。
4. 完全に支持層に岩着させるので大きな支持力が期待出来ます。
5. 何米でもヤトイ杭で納められ地下室のある建築に最適です。

TAKECHI 株式会社 武智工務所

■本　　社　大阪市東区高麗橋2の20(高麗新ビル) TEL大阪(202)3233(代)
■名古屋支店　名古屋市中区錦1－3－2(殖産ビル)
■福岡支店　福岡市赤坂1－15－33(第二菊陽ビル)
■営業所　東京・静岡・富山・広島・熊本・鹿児島　■工場　大阪・名古屋・鹿児島

モルタル・コンクリート用

マノール 防水剤



ご一報次第
カタログ進呈します

＊マノール防水剤はセメントの加水分解生成物である水酸化石灰と化学的に結合し、硬化機構を妨げることなくセメント粒子に撥水性を与えて毛細管の表面張力を低下させ、吸水性を減少させます。

＊AE効果により適量の空気を連行し、気孔を閉塞することなくセメント・プラスター及び砂の粒子に対し分散性を与えワーカビリティーを向上させます。また特有な粘着性によって材料分離、レイタンスの発生を防止します。

＊セメントと結合した生成物は永久不変質の物質で、水や空気中の塩類、酸類も作用せず、セメントの中性化を防ぎ、鋼材、木材等の腐蝕・腐朽を防止して構造物の耐久性を高め、その防水・防湿効力は恒久的です。

その他マノール製品

急結剤・接着剤・剥離剤・早強剤・防凍剤

エスコート(セメント起泡剤)・**エアコール**(場所打ち杭工法添加剤)

セメント混和剤・助材綜合メーカー

株式会社 油脂化工社

東京都品川区大井1－15－1　☎ 東京 (774)4111代表

関東営業所	茨城県土浦市大町1213	☎ 土浦 (21)5189
東北営業所	福島県福島市下野寺字遠原	☎ 福島 (34)7111
盛岡営業所	岩手県盛岡市南大通3－12－50	☎ 盛岡 (24)0213
大阪営業所	大阪市東成区東中本2－17－26	☎ 大阪 (971)4765



1950年代はアスファルトタイル、
1960年代はプラスタイルの時代、そして

'70年代の床は

三星タイル
ピサロン

全く新しい床タイルです

三星ピサロンは、従来のビニールタイルとは製法原料配合が全く違います。塩ビの他に最近開発された新しい共重合体の特殊樹脂を用いた画期的な新製品です。軟質プレスタイプの床タイルに比べ仕上り安定性がよく、カレンダー方式の流れ模様とは対照的な静止した現代模様。ピサロンの持つエラスチックで高級な質感、すぐれた歩行感は、床タイルの新しい世界を開きました。

協同組合員が責任をもって施工いたします

三星ピサロンは、材料だけの販売はいたしません。責任施工の出来る協組員が入念な仕上げをします。

これからはピサロンの時代です

三星ピサロンの新しい色調、パターンは、現代のインテリアデザインに要求される個性的な床造りには欠かせません。東京浜松町の超高層世界貿易センタービルの4F以上の各階通路、エレベーターホールにも、使用されております。〝三星ピサロン〟はその模様がフランスの画家ピサロのタッチに似ていることから、名付けられたものです。

東日本床工事事業協同組合
西日本床工事事業協同組合
〈専用品〉

三星タイル
ピサロン

製造元＝田島応用化工株式会社

東京／東京都千代田区岩本町3の11
電話 (866) 6101
大阪／大阪市西区京町堀1の74
電話 (441) 5951

★規格＝333.3 ×333.3 ×2㍉ 9枚／㎡
333.3 ×333.3 ×3㍉ 9枚／㎡
★色数＝22色
★価格＝2㍉厚品 1,200円／㎡(300㎡以上)
3㍉厚品 1,800円／㎡(300㎡以上)
小部屋割増・階段40％高

建築と社会 "ARCHITECTURE AND SOCIETY" 第53輯第7・8号
■昭和47年7月25日発行(毎月1回25日発行)・昭和24年3月19日第3種郵便物認可

金属建材におけるアイディア性と機能性と合理性についての考察。

今回は"アルミ建材トリオ"の紹介です。







その昔、建築金物からスタートしたマンテンがいま建材メーカーとしても脚光を浴びています。たぶん、アイディアを大切にする合理性の徹底的追求の成果が、認められたからでしょう。

作業効率まで考えぬいたアルミ建材トリオ

一見なんでもないようで、やはり違うのです。キメ細かな技術とアイディアを背景にした品質の確かさや施工の省力化・スピード化まで計算。「仕事が早い」「あとあとまで安心」…と好評です。

間仕切壁でも 天井下地でも 床下地でも…

すでに、素材・工法ともに独特のノウハウを確立。51件のパテントに支えられ、霞ガ関ビルをはじめ京王プラザホテル・帝国ホテル新本館など、名だたる高層ビルにも次つぎに採用され役立っています。さらには、トンネル・地下街ボーリング場…などの内装工事でも、です。
このような数多くの対応経験と、住環境だけでなく施工時の合理性まで大切にした、マンテンの金属建材。アルミ建材も、その一環なのです。

豊富な部材による組立式で　45種類の標準タイプを実現。
取付施工も簡単な　マンテン独自のアイディアが好評です。

窓をいろどる《組立式アルミカーテンボックス》**エクボ**

特殊かけ金具で内枠の取り付け・取りはずし自由の設計。
機能性と美観を一歩おしすすめたアイディアが好評です。

斬新な着脱自由式《天井点検口》**テンケンハッチ**

20種類の標準型材から生まれる　豊富なバリエーション。
現場施工の合理化をはかる　取付部品も準備しています。

強度も万全な安全設計《アルミ製》**SK手すり**

＊カタログは、本社・建装部KS係までハガキでご請求ください。

明日の生活環境づくりに
アイディアでとりくむ——

マンテン

株式会社マンテン
名古屋出張所　〒451 名古屋市中川区百船町1-3-4 ☎(052)353—3177代
本社　〒542 大阪市南区日本橋筋3-2 ☎(06)632-1151代
福岡出張所　〒812 福岡市博多区博多駅東1-12-26(岩瀬ビル) ☎(092)43-4356代
東京支店　〒136 東京都江東区亀戸2-3-17 ☎(03)682-3241代
札幌出張所　〒060 札幌市東区北8条東19-22 ☎(011)741—8439代

■ご入会のお申込は・社団法人　日本建築協会　〒541　大阪市東区北浜3—37　電話大阪(06)231-9648・9649・9640　振替口座大阪39975番
定価 400円(送料共)